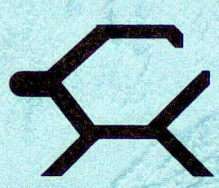
トルコ語文献の研究

A Study in the Turkic Philology



平成11年3月
March 1999

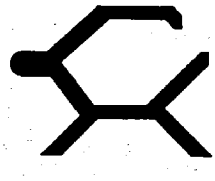
池　田　哲　郎
京都産業大学　教授
Professor Tetsuro IKEDA
Kyoto Sangyo University Kyoto Japan


B—II—3899
Ikeda

PPN 653790198
Sprachkürzel ergänzen!
Ex.-Satz!

トルコ語文献の研究

A Study in the Turkic Philology



Uni Göttingen 7
226 962 504

平成11年3月

March 1999



池　田　哲　郎
京都産業大学　教授
Professor Tetsuro IKEDA
Kyoto Sangyo University Kyoto Japan

目　　次
Contents

はじめに
Introduction　5

第一章　突厥トルコ語
Chapter One　The Orkhon Turkic　7

1　古代トルコ語の問題点
Some Problems of the Ancient Turkic　7

2　突厥文字
The Orkhon Turkic Scripts　8

3　突厥トルコ語の従来までの研究
Themes on the Ancient Turkic　11

4　トニュクククク（トニョククク）碑文
The Tonyuquq Inscriptions　15

5　オルホン碑文
The Orkhon Inscriptions　35

6　突厥トルコ語テキスト
Some Problems of the Orkhon Turkic　83

第二章　古代ウイグル（回骨鳥）トルコ語
Chapter Two　The Uighur Turkic　107
107

1　古代ウイグル（回鶻）佛典テキスト
The Buddhistic Literature　107

2　マニ教テキスト
The Manichaean Literature　129

3　占い天文テキスト
Astrological Texts　134

第三章　アラビア文字トルコ語　141
Chapter Three　Turkic in the Arabic Scripts

1　中期トルコ語　141
The Middle Turkic

2　イスラム教とコーラン　153
The Islam and Kur'ân

3　チャガタイ・トルコ語　157
The Chaghatay Turkic

4　キプチャク・トルコ語　163
The Kipchak Turkic

5　オスマン文語テキスト　167
The Osman Turkic

6　近代トルコ語　176
The Modern Turkish

7　ヨーロッパのトルコ学　184
The European Turkology

はじめに
Introduction

万里の長城より北或いは西の言語・地域を考えて行く場合、北ユーラシアに係わる諸言語・地域全体を把握してから、個別的に取り掛かるのも一つの方法である。先に昭和６３年１９８９の末に『ハンガリー語初期文献の研究』を少数部作成した。北方ユーラシア諸民族の言語研究のＩということであった。今回の平成８年度から平成１０年度に、文部省科学研究費補助金の一部を使用して、残りの部分をすべて作成した。これについては、池田哲郎。（１９９９）。『情報伝達な流れから見た１９世紀北方ユーラシアの言語改革』。京都・京都産大学８４５号池田研究室発行（文部省科学研究費補助金の一部を使用して印刷）を参照されたい。この『トルコ語文献の研究』は１８世紀から２０世紀初頭にかけての資料問題とブルガール問題とが欠けていないわけではないが、トルコ語の研究史から一定の接近をしている。もう一点、アルタイ言語学の概説を東京から出す予定であるが、そういう訳で、このトルコ語文献の研究をもって、個人的にはアルタイ学およびウラル言語学の基礎研究を完了したことになる。

さて、このモノグラフは従来あまりにも個別的であったトルコ語の文献処理を基礎的なレベルで再整理することに重点を置いた。アルタイ民族の資料として突厥資料は最も古く整った基礎資料である。この確実な問題点の把握によりそれ以降の一部アラビア文字資料をも含む古代ウイグル（回鶻、回紇）トルコ的なもの（一部アラビア文字資料をも含む）を確実に把握出来、さらに、それらと仏教資料及び遊牧その他の資料との文化的な係わりから満蒙関係資料の把握が可能なのではないかと考え、ここでは全くゼロから出発してみた。実際に取り掛かったのはかなり前のことである。突厥資料の実物は見ていないが、従来発表されている写真・模写・研究等を眺めると問題が多い。この種の基礎的な処理すら疎かになっている。そして、中期トルコ語を含む古代トルコ語の純トルコ語の研究自体がトルコ共和国における文字改革・言語改革と関わりがあるということからみても、科学研究費の課題の趣旨に適うものであると言える。

平成１１年３月８日（月）
池田哲郎、記す。

第一章 突厥トルコ語
Chapter One
The Orkhon Turkic

１．古代トルコ語の問題点
１．Some Problems of the Ancient Turkic

まず、トルコ語の基本的な問題点をあげておきたい。

問題１　シャーマニズム資料としての突厥資料

バルカン半島からサハ（ヤクート）地域まで広大な範囲に居住するトルコ族は凡そ二つに分けられる、Z系トルコ族とR系である。R系につながるものはキプチャクであり、これはウラルとの接触関係がしばしば問題ともなっているようにR系とともに特異な側面を持つ。さて、匈奴とかフンとか言われる民族が中国史や西洋史に於いてはしばしば登場する。この民族がトルコかモンゴルであるのか不明で、古い中国の資料に見える語彙にしてもどちらとも言えないものが多い。私見では匈奴・鮮卑はトルコではなく、むしろR系トルコ乃至はそれと係わる東アルタイ的なモンゴルかツングース的な感じがしないわけではないが（主力はモンゴルに近いとも言える）、たとえどのように論を駆使しようとも所詮は文例ではなく語彙例だけであるので問題とするには足りないと考えている。私の考えでは、アルタイの区分けとしては、まず遊牧（・農耕）のトルコと狩猟・漁労のツングースとがはじめにあり、今一つのモンゴルは遊牧化したツングースであると言えるのではないかと思っている。

その意味で東のアルタイ（ツングースとモンゴル）と西のトルコが違うことになるが、両者がシャーマニズムで結ばれているのは突厥碑文資料・元朝秘史資料・清実録の例や各言語のそれ以降の資料或いは民俗的・方言等の結果でも明らかである。このことは同時にウラルや極北系との係わりも考える必要があるわけであって、北ユーラシアの星空に関する資料或いは民俗的資料等の結果でもはっきりしている。

問題２　突厥資料で難しい個所はどこか？

匈奴・鮮卑の問題と並行して、ユーラシア地域には多くの岩に刻まれた文字ともつかぬものや烙印（タムガ）等がある。ここでも問題であるのは、形と意味とが明確ではないと言う点である。そこで、本題に入るが、突厥の問題も単に確実な資料であると言うばかりではなく、何を意味するか自体が明確ではないと言う点にある。これも結局はその文字に見える遺伝子とも言える欠陥が原因である。アルタイ諸語へ翻訳された仏典類は出典が分かれば、我々の使用する辞典類がそこまで詳しい語彙を載せていないと言う点はあるにしても、さほどの問題は生じない。仏典の場合は、私は従来の研究が流入経路主体であることに不満である。むしろ、数種類の訳を持つものに対照研究としての重要性があるものと考えており、この点で幾つかの満蒙資料のテキストを作成しつつある。では、その文字の問題とは何であろう。

参考資料

オクラドニコフ（OKLADNIKOV, A. P.） & マルティノフ（MARTYNOV, A. I.）

1972 Sokrovishcha tomskix pisanic. Naskal'nye pisuniki epoxi neolita i bronzy. M.

1983 Szibériai sziklarajzok. A bevezető tanulmányt Hoppál Mihély írta. Bp.

解説 上記の翻訳。これははエニセイより西のオビ河上流の支流トム河の壁画に就いての論考であるが、突厥文字文化圏とは文字の「有無」により異なることが分かる。

ベンツィング（BENZING, Johannes）

Das Hunnische, Donaubolgarische und Wolgabulgarische. PhTF. I : 685 - 95.

スフバータル（SÜXBAATAR, G.）

1969 Xünnü, sjan'bijn xoorondyn ugsaa garlyn xolbogdol 「匈奴・鮮卑間の民族起源の関係」. Studia Historica. VIII. 1 - 12. UB. : 45 - 66.

1974 Xünnü naryn ugsaa garlyn tuxaj xamaadlyn tuxaj asuudlaas「匈奴族の民族起源関係に関する問題に就いて」. Tüüxijn Sudlal. Studia Historica. X. 1 - 12. UB. : 145 - 95.

ダムディンスレン（DAMDINSÜREN, A.）

1972 Arxeologijn shinzhilgeegeer oldson xünnügijn bichgijn durgal. 「考古学の研究により見出された匈奴の文字の資料」. Mongolyn ertnij tüüx - sojolyn zarim asuudal. V. 3 - 13. UB. : 97 - 111.

解説 突厥文字と匈奴との関係の研究。

デルファー（DOERFER, G. ）

1973 Zur Sprache der Hunnen. CAJ. XVII : 1- 50

リゲティ（LIGETI, Lajos）

1970 Le Tabghatch, Un dialecte de la langue Sien-Pi. Mongolian Studies. Bp. : 265 - 308.

ペルレー（PERLEE, X.）

1976. Mongolyn tömnij garlyg tamgaar xajzh sudlax n'. Tüüx - ugsaatny zүjn turshits sudalgaa 『モンゴルのタムガの起源をタムガより調査・研究。歴史・人類学を通しての研究』. UB.

解説 動物の烙印の関係からのユーラシア諸民族研究。

方壮猷「匈奴語言考」『國學季刊』. 國立北京大學. 2 － 4. 1930.

長田夏樹. 「匈奴の照合単于について. 上古漢語音韻とその訳音表記」. 出典不詳: 31 - 9.

２．突厥文字

２．The Orkhon Turkic Scripts

トルコ語のまとまった資料として最初に現れるものは二つある。

6 － 8 世紀の突厥トルコ語（Z系. 突厥. 680 頃 - 744. 後の回紇期のものもある）

13－4 世紀のヴォルガ・ブルガールの墓碑銘（R系）

ZとかRとかの区別は、前者でのｙａｚ－「書く」が後者ではｓｉｒ－のように、ZとRで対応していることに拠る。R系はモンゴルやツングースに近いとも言われる、例えばモンゴルではｊｉｒｕ－「書く」。

トルコ族の使用する文字には宗教・文化との係わりで次の如きものがある。

青きトルコの突厥文字：シャーマニズム　　粟特・回紇・ブラーフミー文字：仏教
シリア・エストランゲロ・回鶻文字：景教　　摩尼・回鶻文字：摩尼教
アラビア文字、回鶻文字：イスラム　　ヘブライ文字：ユダヤ教（カライム族）
ラテン文字：トルコ共和国～中央アジア～新疆　　キリル文字　―　旧ソ連
その他、アルメニア文字、ギリシア文字、チベット文字、漢字の使用。
参考　Ｔｅｋｉｎ，Ｔａｌâｔ．（１９９７）．Ｔａｒｉｈ ｂｏｙｕｎｃａ Ｔüｒｋçｅｎｉｎ ｙａｚｉｍｉ．Ｓｉｍｏｕｒｇ，Ａｎｋａｒａ．

さて、我々の知るZ系トルコ語の古い資料としては、突厥（Gök Türk. 540 - 744）、回紇（回鶻. Uygur. 745 - 840）、及びカルルク朝の言語によって代表される古代トルコ語がある。これらの総称たる「古代」と言う名称は純トルコ的と言う意味を含んでいる。なお、私は「チュルク」を全トルコにし、「トルコ」をトルコ共和国トルコ語に限定して使うことは学問的には無意味だと思う。

そういう点よりも難しい問題が残っている。

例１　イザフェット問題にしても何種類パターンがあるのか気になっている。
例２　この他、終止形語尾の－ｄＶと－ｍＶｓ／ｓとはやはりキチンと区別して訳す必要がある。もつともこれらを「過去」時制と単純に決めつけるわけには行かないが。
例３　このテキストでは文法的な問題は訳及び註の個所に指摘しておくことにする。
要するに、これらに就いてはテキストの整備が必要である。

さて、モンゴル高原の突厥を中心とした地域の言語資料がここでのテーマである。その文字に就いての古い中国側の情報は次のようである。

『周書』突厥伝　　：「其書字類胡」
『北斉書』斛律羌挙伝：「代（塞北を指す）人劉世清．．．通四夷語、為当時第一。后主命世清作突厥語翻涅槃経以遺突厥可汗」
参考　耿世民（1984）。「古代突厥文」『中国民族古文字研究』。北京。

次なる問題はその文字の理解である。そこで、この点を明確にするために、まず、いくつかの提案をしたい。

１．実際の資料の写真やローマナイズ・テキストでは、判読しづらい。そこで、教授及び研究するに際して初心者にもわかるように、文字の右上に点をつけ前舌系であることを、棒で後舌系の文字であることを区別した。こうすると、ローマナイズ・テキストをみてイラツクことはなくなった。まず、文字相互間に著し

い類似性があり、例えば、𐰀と𐰃の如く、或いは𐰉𐰍をMと、誤読の可能性が多い文字があることに注意しておきたい。そして、破損の状態によっては読み方がまったく分からない場合もあるその意味では、１００年前に比べて資料や研究が多いだけにやっかいな問題を背負い込んでしまった可能性があるわけである。では、その文字の実体を見よう。

母音　𐰀（エニセイに𐰋・𐰍・𐰆〔e〕も）　　A（a／ä）
　　𐰉（エニセイに𐰇・𐰍も）　　I（ï／i）
　　𐰃　　U（u／o）　注　oとuの識別は不可。
　　𐰴　　U（ü／ö）　注　öとüの識別は不可。

注　母音が表記されていない場合には、子音の前に母音が省略されており子音がその音価を含むか、或いは、後にある場合もある。従って、省略されている根拠が明確ではない。表記されている場合であるが、現代諸方言やMKなどの資料から見て母音表記は長さを示すと考えた方が合理的だと思う。これは元朝秘史の場合も子音単独である場合はハッキリしている。長母音も特定子音の前にしか来ない。

子音		単独系	前舌系		後舌系
b	Ab	———	𐰆 𐰆 𐰇		𐰇 𐰆
d	Ad	———	𐰋 （エニ. 𐰋）		𐰚
g	Ag	———	𐰑	γ	𐰲 𐰲
p	Ap	𐰍	———		———
t	At	———	𐰓		𐰴 𐰽
k	Uk kU	———	𐰔（äk）	q	𐰽 𐰾 𐰺 𐰽
			𐰘 𐰓（ük）		𐰼（q ïq qï）
l	Al	———	𐰖		𐰾
n	An	———	𐰺 𐰼 𐰺 𐰻		𐰃
ń	Ań	𐰏	———		———
ŋ	Aŋ	𐰍 𐰉 （エニ. 𐰀・𐰄）			———
m	Am	𐰆 𐰅	———		———
r	Ar	———	𐰛		𐰻
s	As	———	𐰠		𐰾（𐰽）
y	Ay	———	𐰜		𐰇
ɛ	Aɛ	𐰀	———		———
	iɛ	𐰉	———		———
š	Aš	𐰽 𐰉 □ （エニ. 𐰩）			（𐰠）
z	Az	𐰯 𐰻 （エニ. 𐰆・𐰣）			

注　調和（Synharmonism）が子音に見える。𐰏は硬口蓋化音と見たい。左右か上下に逆の記号もあって、区別はむずかしい場合がある、例. 𐰺〔n〕と𐰯〔z〕。

複合形　lt（alt）：M　　nɛ（Anɛ）：𐰸　　nt（Ant）：𐰴 𐰀 𐰅 𐰴 𐰇

注　単一子音表記であって二重子音乃至は類似音の連続を表記している場合がある。例. tt，kk，qq，dd，gg，γγ，ll，nn，ss，ɛɛ等。仮に二重子音を単一の表記で使用しているとすれば、トルコ語全体やウラルの使役などの文法問題とも絡んでおり、重要である。

その他　𐰣 𐰢　不明（コノノフ. rt，テキン. bas）　　：語（語の集合）

３．突厥トルコ語の従来までの研究
３．Themes on the Orkhon Turkic

最後に、基本的なものを中心にデータを出しておこう。

A アールト(AALTO, P.)
解説 思いがけなく、本人も気付かなかった文字解読のミスがあるのを見つけた。
1958 Materialien zu den alttürkischen Inschriften der Mongolei. JSFOu. 60. 7 : 1 - 91.
解説 アールトには1958年のJean Deny 記念論集（アンカラ）や1946年のFUF. 29 に論文がある。
1992 Old Turkic Epigraphic Materials Gathered by J. G. Granö. JSFOu. 83 : 7 - 78.

A アイダロフ (AJDAROV, G.)
解説 多くの研究の内、以下が代表的であるがやや物足りない。
1971 Jazyk orxonskix pamjatnikov drevnetjurkskoj pis'mennosti VIII veka. Alma-Ata.

A アスム (ASIM, Nacib)
解説 トルコ共和国に於ける最初の研究。
1340(=1924) Orhon abideleri. Istanbul. (未見)

B バザン(BAZIN, Louis)
解説 総論、再構の問題、地理的分布、内容、参考文献と紹介。かなり良い。別にある暦の研究もかなり良いものだと言える。
1964 La littérature épigraphique turque ancienne. PhTF. II. Wienbaden : 192 - 211 .

B 大トルコ古典叢書（ＢＴＫと略）
解説 古典テキスト集。1989年までに10巻本となっている。私としてはかなり重要なものである。
1985 - Büyük Türk Klâsikleri. Tarih Antoloji. Ansiklopesi. Ⅰ・Ⅱ. Istanbul.

C ジャルオウル（CAFEROĞLU, Ahmet）
1984 Türk dili tarihi. Enderun, Istanbul.

C クーロゾン (CLAUSON, Sir Gerard)
1972 An Etymological Dictionary of Pre-Thirteenth-Century Turkish. Oxford.

D 古代トルコ語辞典
解説 1960年代までの資料を網羅している。ただ、多人数の著作なのに全ての例がなく、雑である。
1969 NADELJAEV, V. M., NASILOv, D. M., TENISHEV, E. R., Shcherbak, A. M. eds.
Drevnetjurkskoj slovar'. L. 1969.

G ガベン（ガバイン, GABAIN, A. von.)

1950 / 1974 Altürkische Grammatik. Leipzig / Wiesbaden.
1988年に Mehmet Akalinが Eski Türkçenin grameri. TDK. 332. Ankaraとして翻訳している。

H ヘイケル (HEIKEL, A. O.)
1890 Inscriptions de l'Orkhon, recueillies par l'Expedition finnoise publiées par la Société Finno-Ougrienne. Helsingsfors.

I イナン (I N A N, A b d ü l k a d i r)
1968 M a k a l e l e r v e i n c e l e m e l e r. T T K : Ⅶ－51. A n k a r a.

K カクック (KAKUK, Zsuzsa)
解説 個別資料の項目を参照。

K クリャシトルニュイ (KLASHTORNYJ, S. G.)
解説 個別資料の項目を参照。

K クズラソフ (KYZYLASOV, L. R.)
1966 O znachenii termina balbab drevnetjurkskix nadpisej. TS. 1966 : 206 - 8.

K ケーペシ(KőPES, Géza)
解説 ハンガリーの詩人。現地のカラー写真には好感が持てる。
1973 Az orkuni feliratok.「オルホン碑文」. Fordított világ『翻訳された世界』. Bp. : 87 - 125.
1982 Kőve vésett eposzok. Az Orkon és Tola folyók mentén. A magyar őstörténet nyomai『石に刻まれたエポス. オルホンとトラ川にて。ハンガリー古代史の痕跡』. Bp.

K コンドラティエフ (KONDTAT'EV, V. G.)
解説 氏の文法が最も良いと思う。
1970 Ocherk grammatiki drevnetjurkskogo jazyka. L.
1981 Grammaticheskoj stroj jazyka pamjatnikov drevnetjurkskoj pis'mennosti VIII - XI vv. L.

K コノノフ (KONONOV, A. N.)
1980 Andrej Nikolaevich KONONOV. M.
1973 Iz nabljudenij nad sintaksisom nadpisi tjun'kuka (VIII v.). Philologica. Issledovanija po jazyku i literature. L. (t i －, a j －等の「言う」を意味する動詞の用法の研究。)
1974 Bibliograficheskij slovar' otechestvennyx tjurkologov /Dooktjabr'skij period/. M.
1976 Turcologica. K semidesjatiletiju akademika A. N. Kononov. L.
1980 Grammatika jazyka tjurkskix runicheskix pamjatnikov <<VII - IX vv.>>. L.
解説 この人にしてはかなり杜撰な文法記述だと言える。
1982 Istorii izychenija tjurkskix jazykov v possii. L.

M マーロフ (MALOV, Sergej Jefimolovich. 1880 - 1957)
解説 人のことは言えないが、ややミスが見受られる。
1951 Pamjatniki drevnetjurkskoj pis'mennosti. M / L.

1952 Jenisejskaja pis'mennosti tjurkov, Teksty i perevod. M / L.
1959 Pamjatniki drevnetjurkskoj pis'mennosti mongolii i kirrgizii. M / L.

M 護雅夫 (MORI, Masao)
1967 『古代トルコ民族史研究 I』. 東京。 〈非常にレベルが高く、慎重な歴史学的研究である。〉
1976 『古代遊牧帝国』。中公新書437 。東京。

N ナシロフ (NASILOV, V. M. 1893 - 1970)
解説 折角の著作も良い文法とは言えない。
1960 Iazyk orxono-jenisejskix pamjatnikov. M.
1963 Drevnetjurksoj jazyk. M.

N ノヴォゴロドヴァ (NOVOGORODOVA, E. A.)
1981 Pamjatniki izobrazitel'nogo iskustva drevnetjurkskogo vremeni na territorii MNR. Tjurkologicheskij Sborrnik 1977 : 203 - 18.
解説 P.210 ではKT碑文のある霊廟を再構して見せている。

O オルクン (ORKUN, Hüseyin Namık. 1902 - 1956。歴史学者、言語学者)
解説 四巻あり、まとまっている。これが最良か。１９８７年にＴＤＫ：２５９として複刊さる。
1936 / 1938 / 1940 / 1941. Eski Türk yazıtları. I - IV. İstanbul.

R ラヘヴィルツ (Rachewiltz, Igor de)
1989 The Title Činggis Qan/Qaγan re-exemined. Gedanke und Wirkung. Festschrift zum 90. Geburtstag von Nikolas Poppe. Altaische Forschungen. 108. Wiesbaden : 280 - 98.

R ラドロフ (RADLOV, V. 1837 - 1918)
1892, 93, 96, 99 Atlas drevnosti mongolii. Trudy orxonskoj eksipedicii. I - IV. St. Ptb.
1894, 94, 95, 97, 99 Die alttürkischen Inschriften der Mongolei. 1, 2, 3, Neue Folge, Zweite Folge. St.Ptb.

R ラムステット (RAMSTEDT, G.J.)
1913 Zwei uigurische Runeninschriften in der Nord-Mongolei. JSFOu. 3 : 1 - 63, 67 (1958).

R リンチェン (RINCHEN)
解説 写真のみでの紹介には好感がもてる。写真が鮮明ではないことが最大の欠点。
1968 Les dessignes pictographique et les inscriptions sur les roches et sur steles en mongolie. UB.

S シュリーゲル (SCHLEGEL, G.)
1892 La stèle funéraire du Teghin Giogh et ses copistes et traducteurs chinois, russes et

allemands. Helsingissä.

S ステプレヴァ (STEVLEVA, I. V.)
1965 Poezija tjurkov VI - VIII vekov. M.
1970 Drevnetjurkskaja Kniga Gadanii kak proizvedenie poezii. Istorija, kul'tura, jazykov narodov Vostoka. M.

S シチェルバク (SHCHERBAK, A. M.)
解説 個別資料を参照。

T テキン (TEKIN, Talât)
1968 A Grammar of Orkhon Turkic. UAS. 69. The Hague
1988 Orhon yazıtları. Ankara. (下のもとは異なる。)
1995 Orhon yazıtları. Simurg, İstanbul.

T トムセン (Thomsen, V.)
1896 Déchiffrement des inscriptions de l'Orkhon et de l'Iénnissé. Notice préliminaire. Bulletin de l'Académie Royale de Denmark : 285 - 99 (未見)
1896 Inscription de l'Orkhon. MSFOu. V. Helsingfors.
1910 Ein Blatt in türkischer "Runen"schrift aus Turfan. Ergebnisse. I : 605 - 15 ; id. Zwei sogdische Exkurse zu VILHELM THOMSENs : Ein Blatt in türkischer "Runen"schrift aus Turfan von ANDREAS, F. C. Ergebnisse. I : 616 - 23.
1912 Dr. M. A. Stein's Manuscripts in Turkish 'Runic' Script from Miran and Tun-huang. JRAS : 181 - 227.
1916 Turcica. Études concernant l'interpretation des inscriptions turques de la mongolie et de la sibérie. MSFOu. XXXVII.
1913 Une lettre méconnue des inscriptions de l'Iénisséi. JSFOu. XX.

V ヴァーンヴェーリィ (VAMBERY, H.)
1898 Noten zu den alttürkischen Inschriften der Mongolei und sibiriens. MSFOu. XII.

V ヴァシリエフ (VASIL'EV, D. D.)
1983 Graficheskij fond pamjatnikov tjurkskoj runicheskoj pis'mennosti aziatskogo areala (Opit sistematizacii). M.

耿世民。(1984)。「古代突厥文」。『中国民族古文字研究』。北京：87 - 96.
克由木霍 et al eds. (1994)。『古代維吾尔文献選』。烏・新疆人民出版社。
薛宗正。(1992)。『突厥史』。北京・中国社会科学院出版社。

４．トニュクク（トニョクク碑文
４．Ｔｏｎｙｕｑｕｑ Ｉｎｓｃｒｉｐｔｉｏｎｓ

７１６年頃に宰相トニュククかトニョクク（阿史・徳・元珍．暾欲谷）の自らの碑文。ＴｏńｕｑｕｑかＴｏńｏｑｕｑかについては議論しない。問題は、なぜ、最高位ではない人間が、最初に碑文を記したかである。これは部族の連合体であったためトニュクク自身も地域的な首長にあったからであろう。この碑文は７１６年（唐の開元４年）かその死の７２６年頃までの間に立てられたようである。

バイン・ツォクト（トラ河の上流．KT・BQ碑文より東300 キロ）で発見されている、北緯47° 30分、東経107 ° 30分の地点。1897年にクレメンツ（Je. N. KLEMENC. KLEMENC, D. A.の妻．1848 - 1914)により発見されている。

書き方は行は上から下へとなっている。

資料　ラドロフ（1899）

資料　オルクン．Ｉ：100 - 24；マーロフ：56 - 73

資料　テキン（1968）

資料　アイダロフ：319 - 34

資料　アイダロフのカザフ語訳、VIIDKJa. 5. 1968 : 64 - 108

資料　AALTO, P. GRANÖ, J. G., RAMSTEDT, G. J. (1958). Materialien zu den alttürkischen Inschriften der Mongolei. JSFOu : 1 - 94中の 1 - 61

資料　GIRAUD, R. (1961). L'inscription de Baïn Tsokto. Paris

資料　CLAUSON, Sir Gerard (1971). Some Notes on the Inscription of Toñuquq. Studia Turcica. Bp. : 125 - 32。

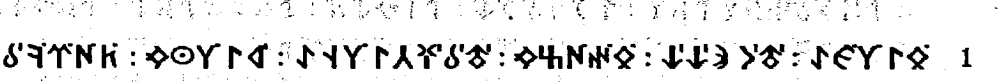
解説　非常にセンスの良いまとめ方をしているが、解釈に想像が多い。語順の指摘はその是非は別にして興味あるものである。

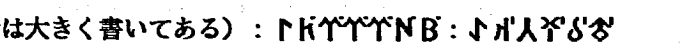
資料　リンチェン写真（45 - 52）

翻訳　KAKUK 編：31 - 4

テキスト　第一碑文（南碑文）西面（冒頭部分．７行．マーロフ：１－７行、リンチェン：45）

Ｔ　Ｉ　Ｗ　1

：  　1

（この第一行は大きく書いてある）： 

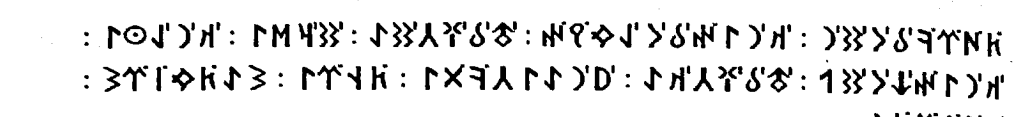
ｂｉｌｇä　ｔｏń（ｕ）ｑ（ｕｑ）　ｂ（ä）ｎ－ö ｚ（ü）ｍ

ｔ（ａ）ｂɣ（ａ）ɕ－ｉｌ（ｉ）ŋä　ｑïｌ（ï）ｎｔ（ï）ｍ．　ｔürｋ－ｂｏｄ（ｕ）ｎ

ｔ（ａ）ｂɣ（ａ）ɕｑａ　　ｋör（ü）ｒ－（ä）ｒｔｉ．

賢なる　トニュクク　我自ら　タブガチ（漢）の国に　我生まれたり。トルコの民ぞ　タブガチに　従ふありたり。

T I W 2

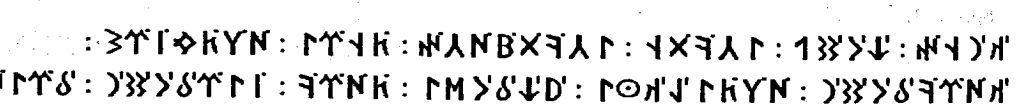


t ü r k − b o d (u) n q (a) n ï n − b u l m (a) y (u) n
t (a) b γ (a) ɛ q a (a) d (ï) r (ï) l t ï, q (a) n l (a) n t ï.
q (a) n ï n − q o d (u) p t (a) b γ (a) ɛ − q a
y (a) n a − i ɛ (i) k d i. (a) n ɛ − t (ä) − m (i) s − (ä) r (i) n ɛ
q (a) n − b (ä) r t (i) m,

トルコの民ぞ その汗（q a n）を見出せず タブガチに向かひて 離れたり、宮仕へしたり。
その汗を捨て タブガチに 再び従ひたり。 かく言ひけるとぞ。
汗を我与へたり、

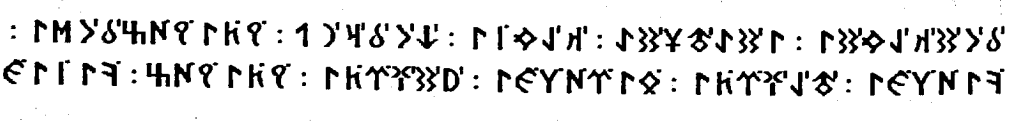
注1 q a n「汗（カン・ハン）」はq a γ a n「可汗（カガン・ハガン）」の略体であるが、恐らく類似の音をもつq a ŋ「父」とだぶらせて使用されている。Q a γ a n＞q a nの音変化はトルコ語に於ける頻繁な使用に起因している。
注2 4から6にかけては、K T E 9－10及びB Q E 9とオーヴァーラップする。

T I W 3



汝の可汗をば 捨てて 汝従ひたり。 従ひし故に 天ぞ 殺しけりあらむ。
トルコの民ぞ 死にたり・滅びたり なくなりたり。 トルコの シルの民の 地にて

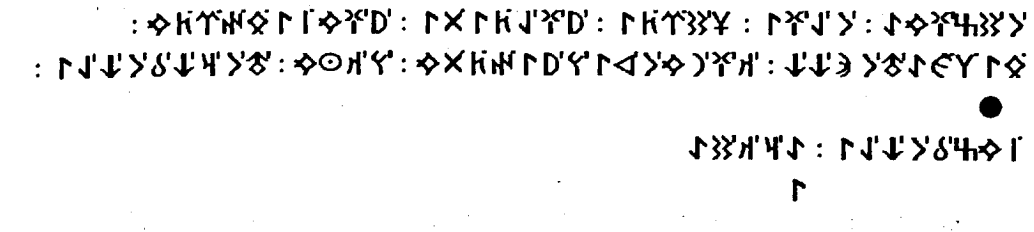
T I W 4



部族ぞ（b o d）残らざりき。 森にて（ï「木」＋d a）・荒野にて（t a s「石」＋d a）
その残りし者ぞ 集まりて 七百となりたり。
二群ぞ 馬持ちなりき。 一群ぞ 徒歩なりき。 七百 人をば

注 4から6にかけては、K T E 10－14及びB Q E 10－12とオーヴァーラップする所である。

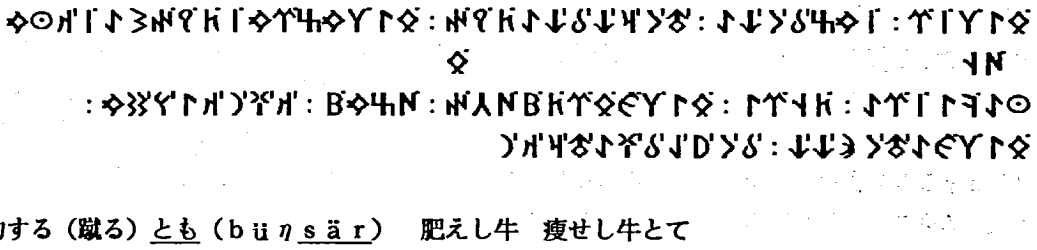
T I W 5



導く（u d u z u ɣ m a） 長ぞ シャドなりき。 汝加はれよ（y a ɣ 〔ɣ〕 ï l）
と言ひたり。 その加はりし者ぞ我なりけり。
賢きトニュククぞ 可汗や（q a ɣ a n m u）・
我つくらむや（q ï s a y ï n）と我言ひたるなり。 我思ひたり
痩せし（t o r u q）牛（b u q a）と
肥えし（s ä m i z）牛と 遠くにて（ï r a q d a）

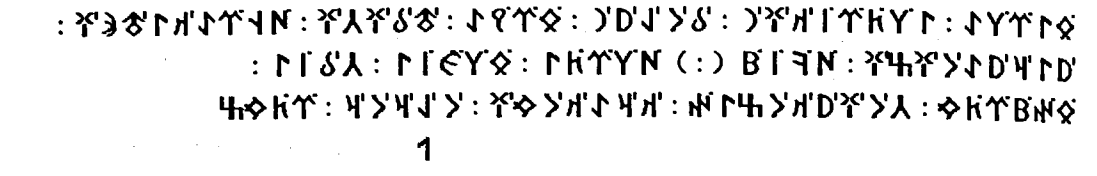
注 下線部分b ä nに注意。この形式は他にKČ・KČ・エニセイにある。全般的に有声化と言うか弱化現象がエニセイには認められる。

T I W 6



角力する（蹴る）ともb ü ŋ s ä r） 肥えし牛 痩せし牛とて
知らぬありけりとてかく我思ひたり
それより後 天ぞ 知恵与へし故に 我自らぞ 可汗と我したり。
賢きトニュクク ボイラ・ブガ・タルカン

T I W 7



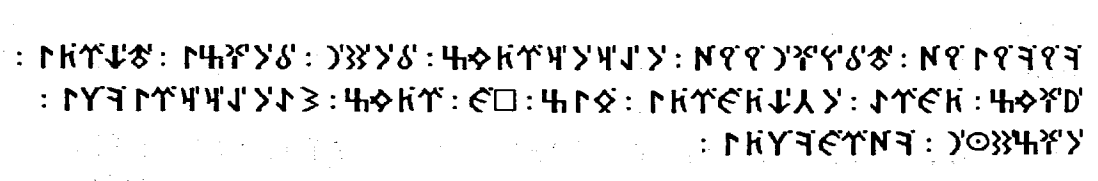
1

と共に イル・テリス可汗と なりて 南へ タプガチをば 東（前）へ キタニィをば
西へオグズをば 多くぞ（－）殺したり。 その知恵ぞ その参謀（ɛ a b ï s）ぞ
我ぞ（b ä n － ö k）ありたり。 チュガイの北面をば カラ・クム（q a r a q u m）をば
居るなり 我等ありたり。

注1 7－11にかけては、KT E 14－15及びBQ E 12－13と重複する。
注2 下線の部分BLGSI ČBSIのsを〔ä s〕「仲間」と見るか否かやや疑問である。
なお、この語は私見ではハンガリー語のc s ö s z（öは長母音）やc s a u sと関係している。

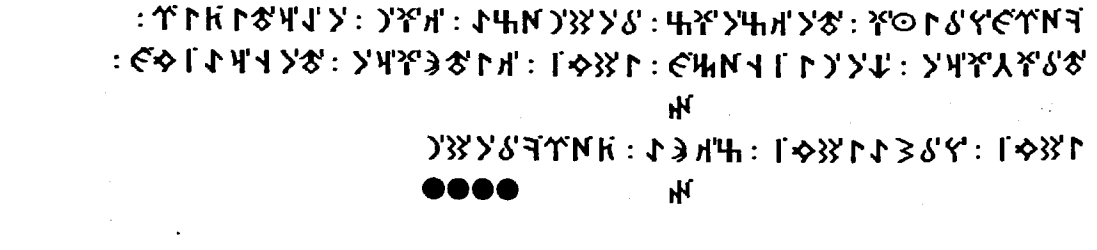
第一碑文（南碑文）南面（10行. マーロフ：8－17行、リンチェン：46）

T I S 1（8）



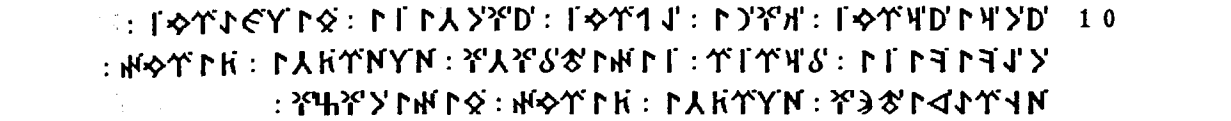
野獣（k ä y ä k）食べ 兎を食べ あるなり我等ありたり。 民の 喉ぞ 満足なりき。
我等が敵 の回りに 飛び回る者 の如く ありき。 かく在る時に
オグズより（o ɣ u z d a n t a n） 物見ぞ来たり。

T I S 2（9）



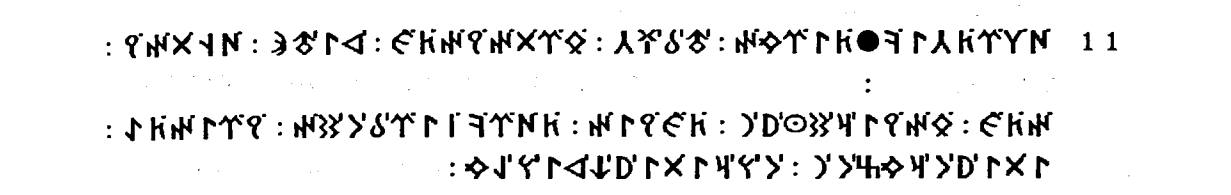
物見の言葉ぞかくの如し トクズ・オグズなる 民上にぞ 可汗 ありしとぞ。
タプガチに向け クニ（q u n ï. BQS8－9を参照のこと）将軍をば 送りけり
キタニィに向け トングラ・エシムをば
送りけり。 言葉ぞかく送りけり。 僅かなる（a z q ï ń a） トルコの民ぞ

T I S 3 (10)



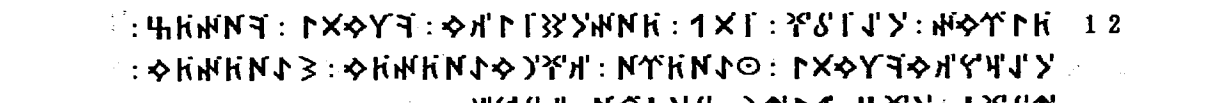
行きありけり。 その可汗ぞ 猛くなりとぞ。 軍師（ayγucïsï）ぞ 賢くなりとぞ。
かの二人ぞ ありしなら 汝を（sini）をブガチをば 殺さむ と言ふなり我。
東へキタニィをば 殺さむ と言ふなり我。 我を（bini） オグズをば

T I S 4 (11)



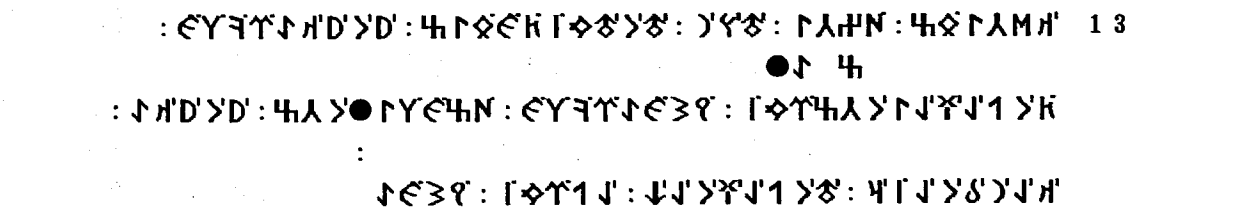
かの者ども殺さむと言ふなり我。 タブガチよ 南より向かひて（𐰃𐰏）到れ キタニぞ
東より 向かひて（𐰃𐰏） 我西より向かひて（𐰚𐰉） 到らむ。 トルコのシルの民の地にて
主ぞあらせまい。 出来るならば主行かせまい。

T I S 5 (12)



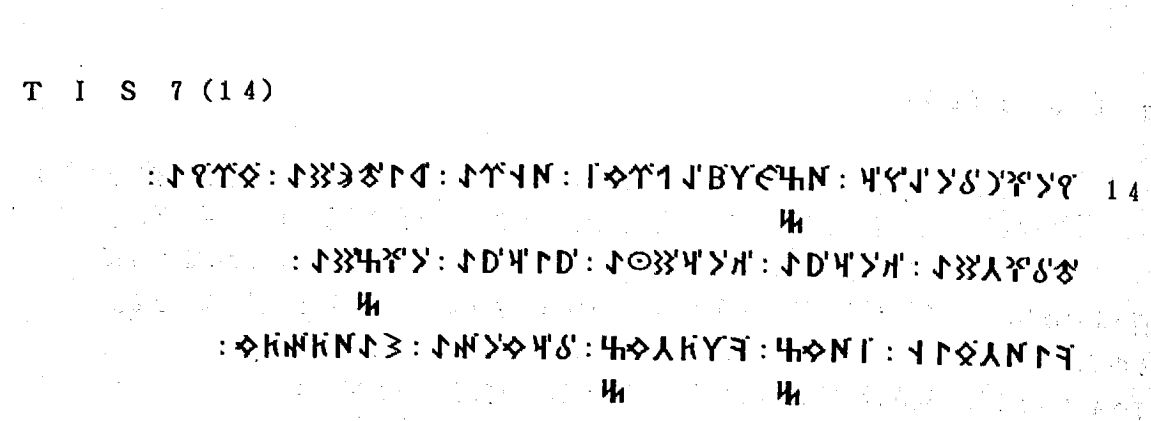
言ふなり我。 その言葉をば 聞きて 夜我眠らむとすること 来たらざりけり。 昼ぞ
我居らむとすることぞ来たらざりけり。 それより後 我が可汗に問ひたり。 かく問ひたり。
タブガチ オグズ キタニィ この三者とも 組まば

T I S 6 (13)



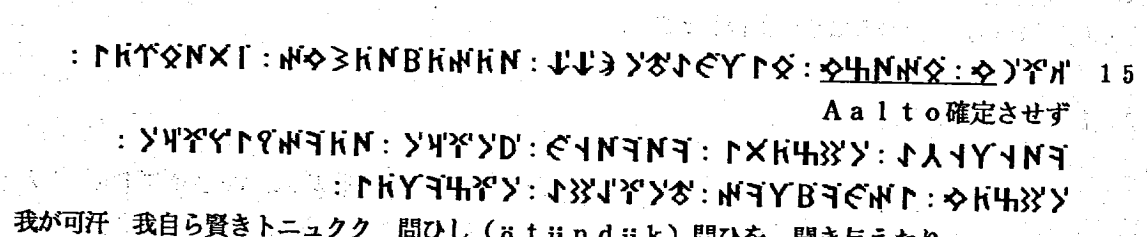
残らむや我等。 自ら 外をば 保ちたるが如し我等。 細くある時に（yuyqa－ärkli）
曲ぐるは手易きなり。 薄くある時に（yinɛgä－ärkliγ）
切るに（üz－gäli） 手易きなり。
細きもの 太く（qalïn）なりなば 曲ぐるは 勇者 なり。 薄きもの

T I S 7 (14)



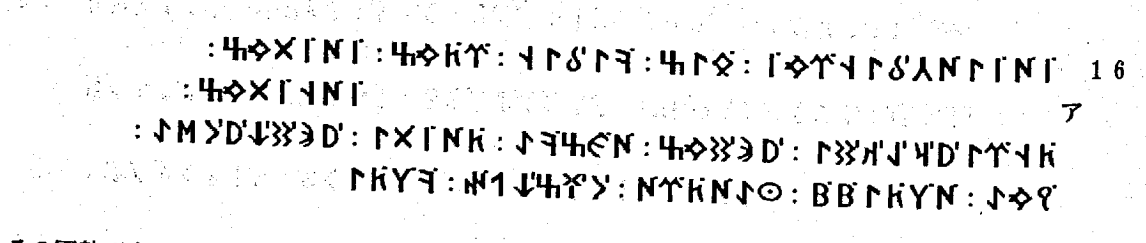
厚くなりなば 切ること（üz－gülük）ぞ勇者なり。 東へ キタニィより 南へ
タブガチより 西へ コータン（Qordan）より
北へ オグズより
二三萬なり（?）。 我等の軍勢ぞ 我等来たらむ あるや何としたり かく我問ひたり。
注1 下線の部分は問題の個所である。Qurïdanta「西の者より」とも訳せる。
注2 第二の下線部分の人をテキンは人〔ɛi〕とするが写真からはそうは思えない。

T I S 8 (15)



我が可汗 我自ら賢きトニュクク 問ひし（ötündük）問ひを 聞き与えたり。
汝の心にて 導け（uduz）と言ひたり。 Kök öŋä（オンギン河に）
渡りて（yoɣuru） オトュケンの森へ向かひて
我導きたり 牛（ingäk）なる荷（kölük）にて「牛に軍事物資を乗せ」。
トグラ（Toɣla．地名?）より オグズ来れり。
注 15－17はKT E 14－16，BQ E 12－13にあり。

T I S 9 (16)



その軍勢ぞ六千なりき。 我等 二千 我等ありけり。 我等戦ひたり。
天ぞ天命を与へたり。 我等散開したり。 河に 落ちたり（tüs－〔tüs－〕．ハン．dől－）
散開したる道にて
又 我等殺したるぞ（kök）。 それより後 オクズことごとく 来たり。

T I S 10（17）

：𐰴𐰋𐰍𐰍𐰴：𐰃𐰖𐰘𐰚𐰍𐰖𐰑𐰋：𐰘𐰓𐰾𐰓𐰇𐰖𐰘𐰍𐰋：（?. 𐰆𐰴𐰑𐰘𐰍𐰽𐰖） 17
Aalto→. . . . . 𐰍𐰑
：𐰃𐰖𐰚𐰘𐰴：𐰇𐰼𐰉：𐰍𐰚𐰑𐰉𐰴𐰓𐰓𐰽：𐰾𐰘𐰚𐰍𐰖𐰑𐰋：𐰽𐰽𐰾𐰓𐰇：𐰃𐰾𐰃
：𐰃𐰑𐰽𐰖𐰓𐰾𐰓𐰇：𐰃𐰖𐰘𐰇𐰋：𐰃𐰺𐰃𐰇𐰃𐰚：𐰃𐰺𐰃𐰇𐰓𐰽：𐰓𐰾𐰓𐰇

. . . トルコの民をば オトュケンの地へ。 我自ら
賢きトニュククぞ オトュケンの地をば 宿営しけりと 聞きて 南なる
民 西なる 北なる 東なる 民来たり。

第一碑文（南碑文）東面（7行. マーロフ：18－24行、リンチェン：47）

T I E 1（18）

：𐰃𐰽𐰘𐰇𐰽：𐰓𐰾𐰓𐰇𐰖𐰘𐰍𐰑：𐰃𐰆𐰓𐰇𐰋𐰃：𐰃𐰖𐰓𐰇𐰃𐰴：𐰇𐰴𐰑𐰘𐰇𐰃𐰴：𐰇𐰃𐰖 18
𐰍𐰺 . . . . . ←Aalto
：𐰾𐰖𐰇𐰴𐰋𐰍𐰃𐰓𐰽𐰘：𐰾𐰀𐰽𐰇𐰇𐰓𐰾𐰚（:）𐰃𐰽𐰘𐰇𐰽：𐰓𐰘𐰇𐰖𐰘𐰍𐰑
𐰴𐰼𐰑𐰽𐰍𐰃：𐰇𐰍𐰑𐰍：𐰾𐰴𐰓𐰘𐰇：𐰃𐰴𐰘𐰇𐰓𐰘𐰃𐰴𐰋

二萬我等なりき。 我等二軍となりたり トルコの民ぞ ulrγlï（あるべく）／qzrγlï
トルコの可汗ぞ あるべく シャントゥンなる町に 海河に
到りたるは・なくありけり。 我が可汗に 請ひて 軍勢我連れたり。

T I E 2（19）

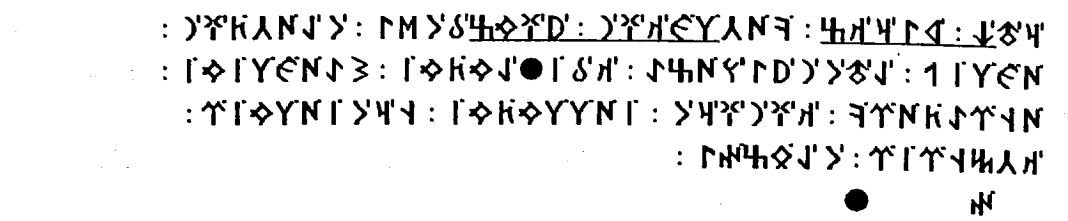
：𐰃𐰾𐰃：𐰀𐰽𐰇𐰇𐰚𐰓𐰸𐰍：𐰴𐰑𐰘𐰍𐰋𐰑：𐰾𐰖𐰢𐰋𐰍𐰃𐰽𐰘：𐰾𐰀𐰽𐰇𐰓𐰾𐰚𐰘 19
𐰢 𐰍𐰃
：𐰓𐰘𐰇𐰸𐰴𐰇𐰘：𐰃𐰑𐰴𐰖𐰓𐰽𐰽𐰇𐰓𐰘𐰃：𐰾𐰾𐰘𐰖𐰓𐰴：𐰓𐰘⊙𐰓𐰇𐰓𐰃𐰓
：𐰃𐰑𐰴𐰇𐰴𐰃：𐰃𐰓𐰴𐰇𐰽𐰓：𐰃𐰑𐰴𐰇𐰴𐰃

シャントゥンの町へ／平原へ 海河へ 我到りたり。 3・30（23）の町
折りたり（破壊したり）。
その眠りをば 浅くして（buntatu） 陣営にて（yurtda）
横になり留まりたるなり（yatu qalur ärti）。 タブガチの可汗ぞ
我等が敵なりき。
オン・オク可汗ぞ 我等が敵なりき。

注1 クローゾンは "Wu Hsin-pên(?), the *ta-tu*, was left lying (dead) in his ruined camp" とする。ただ、青きトルコの軍勢と夜襲をかけたと思われるから、従来の訳し方が悪いわけではない。ただ、なるほどMKでは「廃墟」的な意味である。

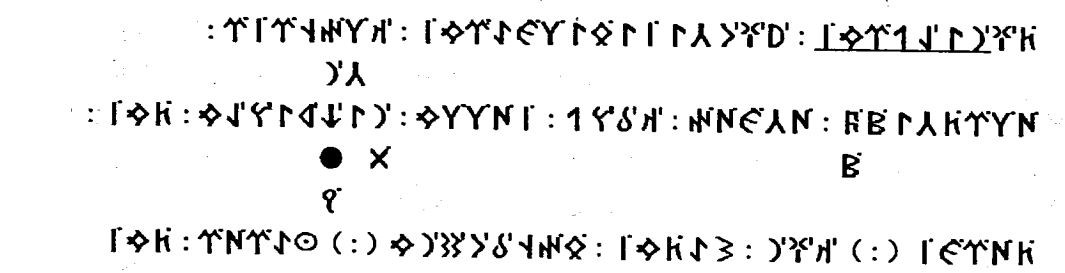
注2．19－29はKT E 35－36，BQ E 26－27にある。

T I E 3 (20)



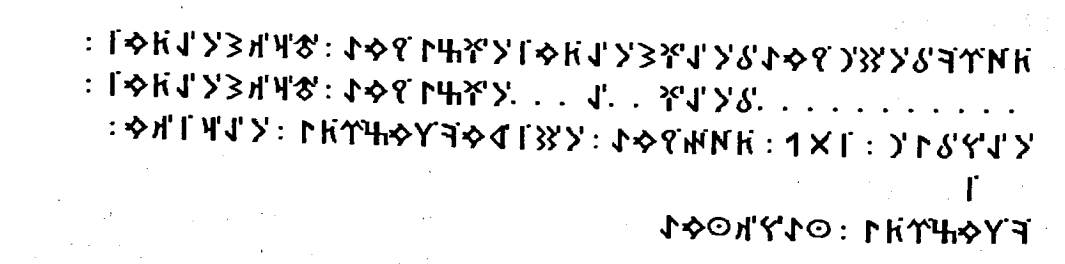
更に クルクズの 勢力持ちの可汗ぞ 我等が敵となりたり。 その三可汗ぞ
話し合ひて 黄金の森の上にて 我等落ち合はむ (q a b ï s − a l ï m) とぞ。
かく話し合ひたり。
東へトルコの 可汗に向かひて 我等進軍せむと言ひたり。 そこへ向かひて進軍せねば
如何に何としてあるとも (q a ɛ n ä ŋ ä r s ä r. 参考. 29) かの者ぞ我等をば

T I E 4 (21)



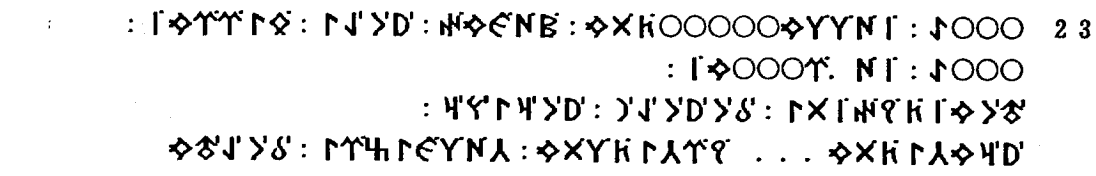
その可汗ぞ勇者なりけり。 その宰相ぞ賢くありけり。 如何に何としてあるとも
殺さむぞ。 三人して (ü ɛ ä g ün) 話し合ひて 我等進軍せむ。
主 (i d i) なく我等せむ と言ひけり。
トュルギス可汗ぞ かく言ひけり。 我の民ぞそこに居るなり と言ひけり。

T I E 5 (22)



トルコの民ぞも乱れる (b u l ɣ a n ɛ) ぞその者と言ひけり・オグズも
不興なる (t a r q ï n ɛ) ぞその者と言ひけり。
その言葉をば聞きて 夜も 我眠らむとすること 到らざるありけり。 我居らむとすること
到らざるありけり。 そこにて我思ひたり。

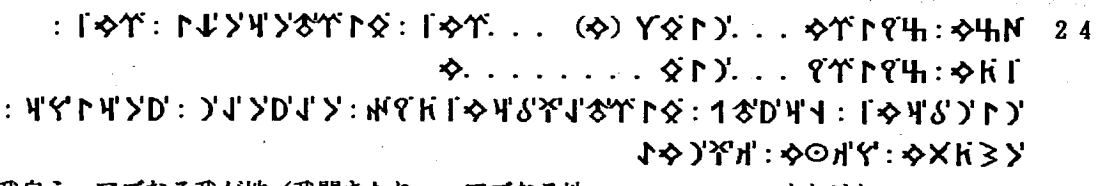
T I E 6 (23)



上記無

. . . a 我等戦はむ (s ü l ä l i m) . . . と我言ひたり。 コョグメンなる 道ぞ
一つありけり。
塞ぎけり (雪のため?) と聞きて この道をば 行かば
適はず (y a r a − m a − ɛ ï . − ɛ i は − t a ɛ ï の − ɛ ï に同じ) と我言ひたり。
土地の者我欲したり。 チュル「平原?」なる (ɛ ü l − g i) アズの者を 我見出したり。

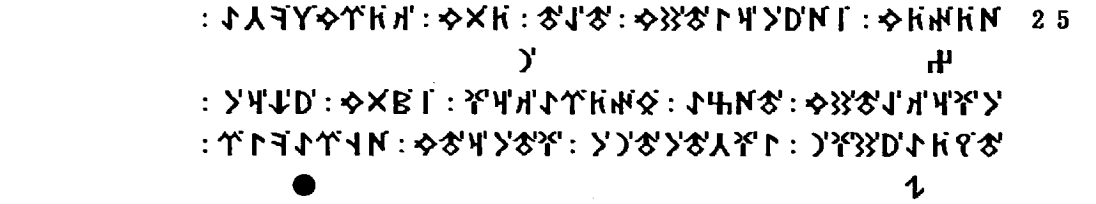
T I E 7 (24)



我自ら アズなる我が地/我聞きたり。 アズなる地 . . . . . ありけり。
一つの馬道ぞ (b i r a t o r u q ï) ありけり。
それを (a n ï n) 行きけり/アヌ (河) ?を 行きけり。 それへ/を 申して
一騎 (b i r a t l ï γ) 行きけりとて その道をば 行かば
可なり (u − n ɛ) と我言ひたり。 我思ひたり。 我が可汗に

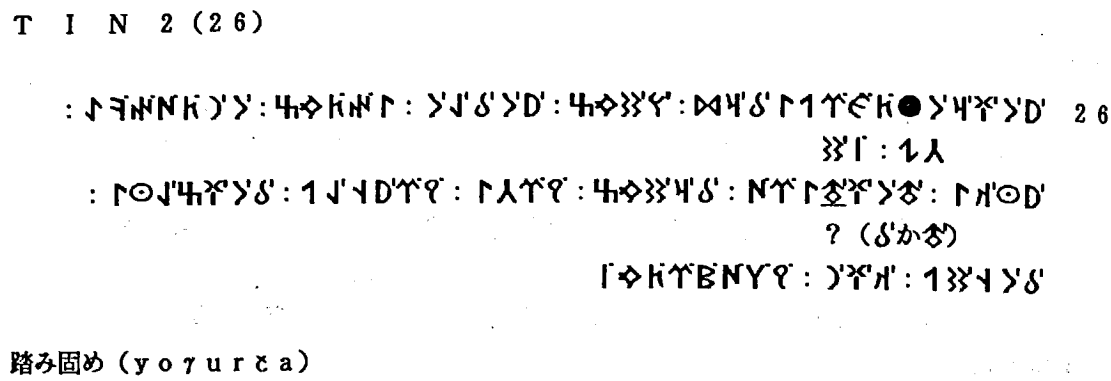
第一碑文 (南碑文) 北面 (11行. マーロフ: 25−35行、リンチェン: 48)

T I N 1 (25)



請ひたり。 軍勢我行かせたり。 t l t/t l t n (t a l a t ï n? 突進させよ 馬を)
我言ひたり。 白きテルメル (を) 越え
我目的地を目指したり (u γ r a q l a t −)。 馬の上にて 乗せ雪をば 我掻き分けたり。
上へ (y o q a r u)
馬繋ぎ (a t y ä t − ä) 徒歩にて (y a d a γ ï n) 木結び (ï γ a ɛ t u t u n u)
我登らせたり (a γ t u r t ï m)。 前なる者 (ö η r ä k i ä r)

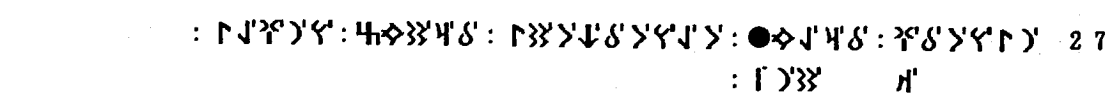
T I N 2 (26)



26

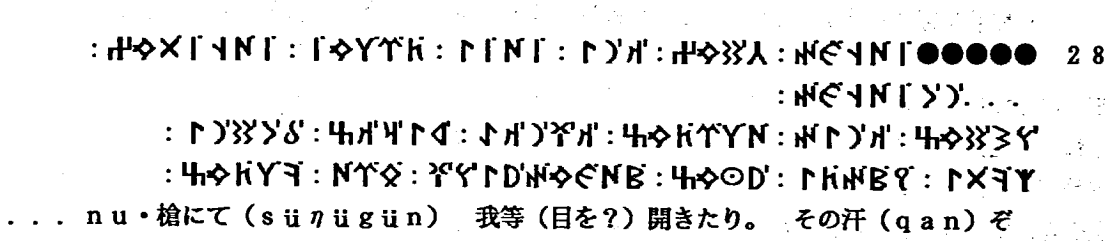
踏み固め (yoγurca)
到らせ (tägürüp) ?・「木ある頂き (ïbrM〔bas〕)」
我等登りたり (asdïmïz)。 回りて (yubul−u)
我等下りたり (in−ti−miz)。 10の夜に
脇 (山裾) なる (yan−taqï) 邪魔 (tuγ) を回りて (äbir−ü)
我等行きたり。 土地の者 道失なひて (yär yaηïl−ïp)
殺されたり (boγuzlan−tï)。
害され (buηad−ï) 可汗ぞ 急ぎて見よ (yälü kör) と言ひたり。

T I N 3 (27)



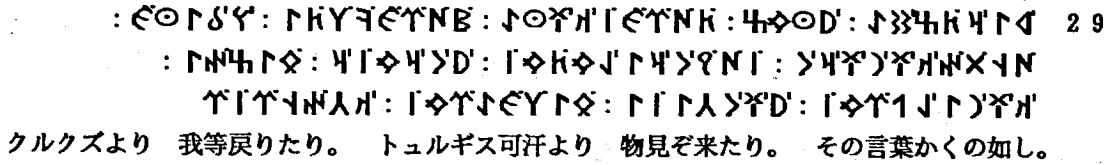
それの水（河）／アヌの水（河） 我等？行きたり。 その水下りて（q o d ï）
我等行きたり。 料理すべく（a s ï n − ɣ a l ï「掛けるべく」）
我等下りさせたり（t ü s ü r − t i − m i z）。 馬を 木に
繋ぐ（b a y u r）我等ありけり。 昼も 夜も
急ぎて 我等行きたり。 クルクズをば 眠りに（u q a）我等襲ひたり。
注1 アヌをクローゾンはミヌシンスク盆地の南部だと言う。 注2 y ä m ä の反復に注意。

T I N 4 (28)



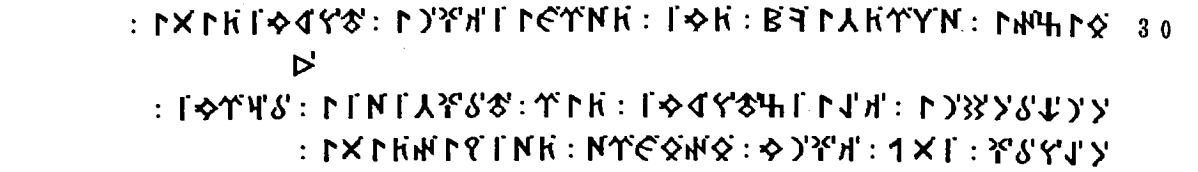
. . . n u・槍にて（s ü ŋ ü g ü n） 我等（目を？）開きたり。 その汗（q a n）ぞ
その軍勢ぞ集まりたり。 我等戦ひたり。
我等刺したり（s a nʗ d ï m ï z）。 その汗を（q a n ï ɣ） 我等殺したり。
可汗に クルクズの 民ぞ
従ひたり（i ʗ i k d i）。 （頭を）下げたり。 我等戻りたり。 コョグメンの森をば
まわりて（ä b i r ü） 我等戻りたり。

T I N 5 (29)



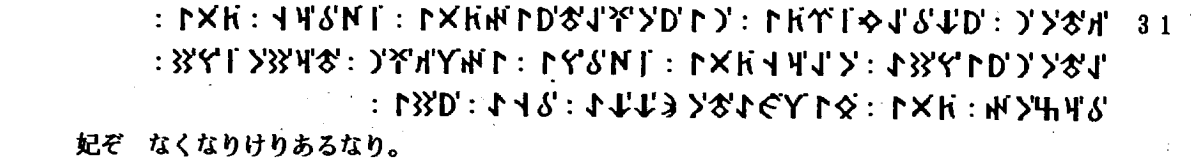
クルクズより 我等戻りたり。 トュルギス可汗より 物見ぞ来たり。 その言葉かくの如し。
東なる可汗に向かひて 軍勢ぞ我等進めむと言ひけり。 行かずば 我等を
その可汗ぞ勇者なりけり。 その宰相ぞ 賢くありけり。 如何に何としてあるとも
注 29－43は大体KT E 36－38，BQ E 27－28に相当する。

T I N 6 (30)



我等を 殺さむぞ と言ひけり。 トュルギス可汗ぞ
出立しけり（t a s ï q − m ï s）と言ひたり。
オン・オクの民ぞ 残りなく 出立しけり と言ふなり。 タプガチの軍勢ぞ 行くありけり。
その言葉をば 聞きて 我が可汗ぞ 我・陣へ向かひて
我下りなむ（t ü s − ä y i n）と言ひたり。

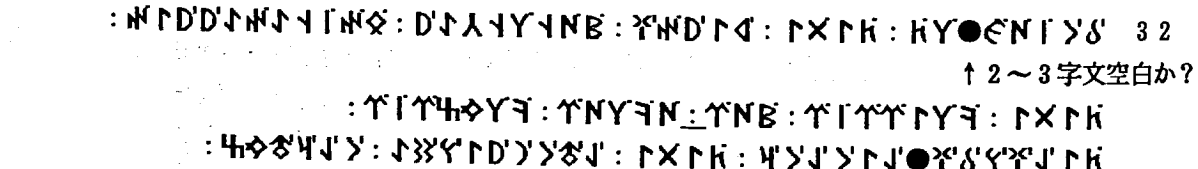
T I N 7 (31)



妃ぞ なくなりけりあるなり。
それを我埋葬せむ（a n ï y o ɣ l a t − a y i n）と言ひたり。
軍勢ぞ汝等行け（s ü b a r − ï ŋ） と言ひたり。
黄金の森にて 汝等居れと言ひたり。 軍勢の頭ぞ イネル可汗（なり．カパ／プガン可汗の子）。
タルドス・サド（シャド）を
行かせよ（b a r − z u n） と言ひたり。 賢きトニュククに 我に 言ひたり。

注 「妃」は小アジアでq a d ı n、モンゴルでq a t u n。

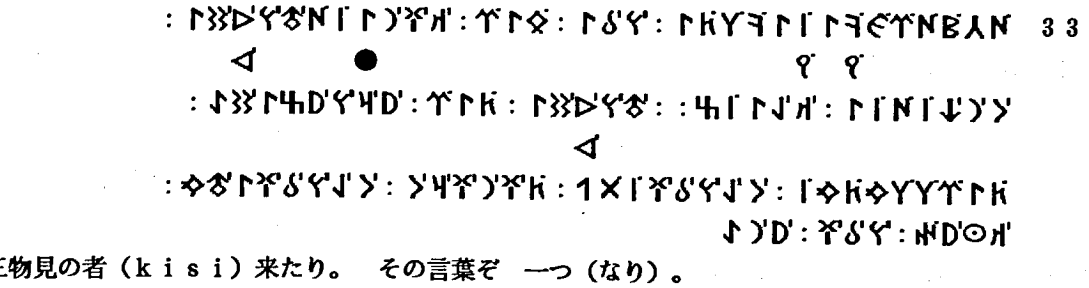
T I N 8 (32)



↑2～3字文空白か？

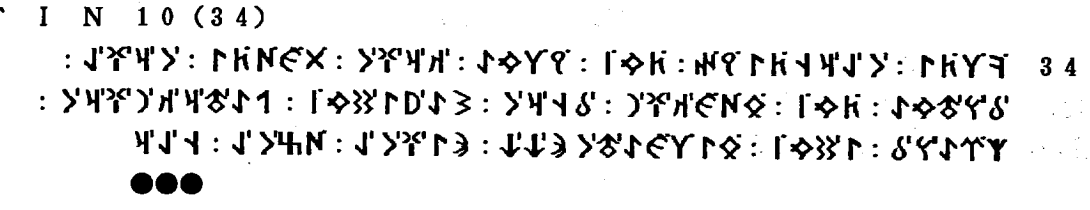
この軍勢をば率いよ と言ひたり。 （賞）罰を（q ï y ï n − ï ɣ） 汝の心より言へ。
我汝に（s ä ŋ ä）何を申さむ（a y − a y ï n）
と言ひたり。 来るあらば k ü r ö k l ü r「計略をば練ることぞ」
／k ö r ü k ä l ü r「見て連れることぞ」。 来ずあらば
言葉をば（t ï l ï ɣ s a b ï ɣ）とりてあることぞ（a l ï r o l u r）
と言ひたり。 黄金の森にて 我等居りたり。

T I N 9 (33)



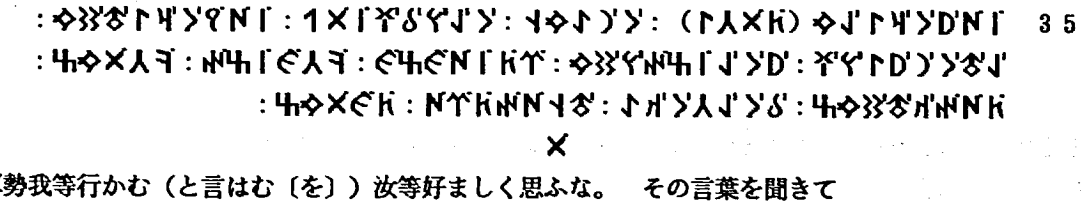
三物見の者（k i s i）来たり。 その言葉ぞ 一つ（なり）。
その可汗ぞ軍勢出立したり（s ü t a s ï q d ï） と言ふなり。
オン・オクの軍勢ぞ 残らず 出立したり。 と言ふなり。 ヤルス平原にて
我等集まらむと言ひたり。 その言葉を聞きて 可汗（q a ɣ a n）に向かひて
その言葉を我送りたり（ï − t ï − m）。
汗より傍に（q a n − t a − y a n. Y a nは後置詞的である） 言葉を 又

T I N 10 (34)



来たり。 汝等居れとて言ひけり。 先鋒（y ä l m ä ← y ä l −「速く行く」）
見張り（q a r ɣ u） 良く 汝据えよ（u r − ɣ ï l）。
襲わせるな（b a s − ï t − m a） と言ひけり。 ボョグュ可汗 我に（b a ŋ a r u）
かく送りけり（y ï d − m i s）。 アバ・タルカンに向かひて
内なる（i ɕ r ä）言葉 送りけり。 賢きトニュククぞ 悪きぞかの者。
奸計あるぞかの者／巧みなるぞかの者（ö z ? ／u z o l）。 ŋ l r（A a l t oナシ）
注 B ö g üはモンゴルでb ö g e「シャーマン」、ハンガリーへの借用ではb ü（üは長母音）或いは
b ö l c s ö（第二音節のöは長い）「賢者」として現れている。

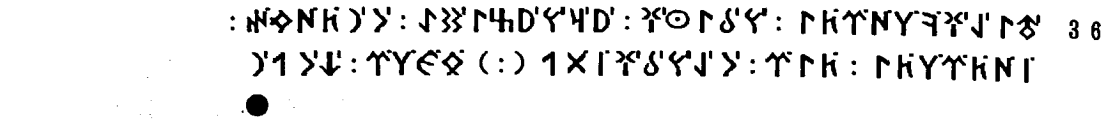
T I N 11 (35)



軍勢我等行かむ（と言はむ〔を〕）汝等好ましく思ふな。 その言葉を聞きて
軍勢我出立させたり。
黄金の森をば 道なきを（y o l s ï z ï n）我過ぎたり（a s d ï m）。 イルティス河を
浅瀬なしに（k ä ɕ i g s i z） 我等過ぎたり（k ä ɕ d i m i z）。
夜我等夜襲をかけたり（流す. a q ï t d ï m ï z）。 ボルチュに
夜が明けて（t a ŋ ü n t ü r −） 我等到りたり。

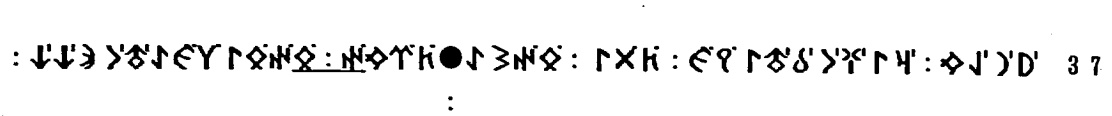
第二碑文（北碑文）西面（9行. マーロフ：３６－４４行、リンチェン：４９）

T Ⅱ W 1（36）



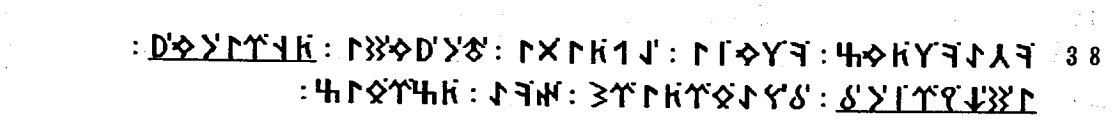
言葉をば到らせたり。その言葉ぞかくの如し。ヤルス平原にて　１０萬なる
軍勢ぞ集まりたり　と。その言葉をば聞きて　ベグたち　皆

T Ⅱ W 2（37）



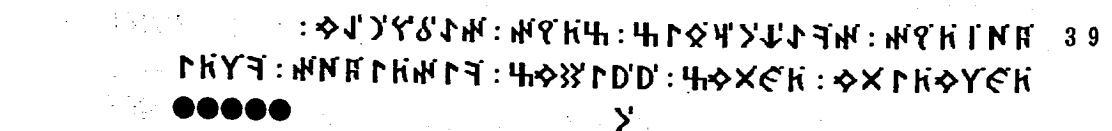
我等戻らむ。　潔き（arï ɣ）慎み（ubut：小. ud／t）ぞ　より良きなり。
我かく我言はむ。　我賢きトニュクク
黄金の森（アルタイ山脈？）をば　越え我等戻りたり。　イルティス河をば

T Ⅱ W 3（38）



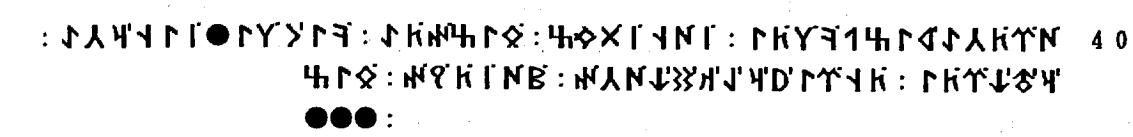
渡り（käč－ä）我等戻りたり。　戻りたるは　勇者なりと言ひしぞ。　天・女神ぞ
聖なる地水（をば）　襲ひ与えたりあらむ。　何に　急ぐや我等（täzär biz）。

T Ⅱ W 4（39）



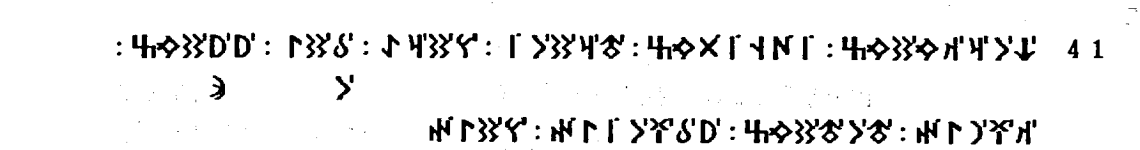
多しとて　何に恐るるや我等（näkä qorqur biz）。　少なしとて
何に我等勝利するや。
我等到らむと我言ひたり。　我等到りたり。　我等凉奪したり（yulï－dï－mïz）。
第二の日に　到りたり。

T Ⅱ W 5（40）



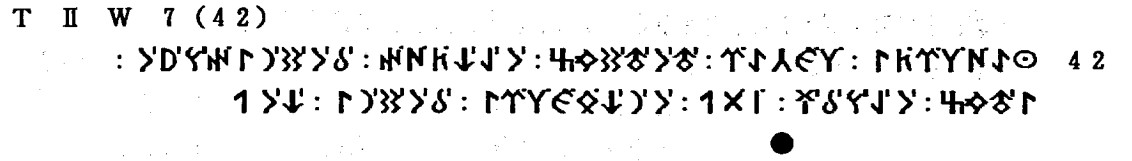
炎の如く（ö r t－ɛ ä）怒りて（q ï z－ï p）来たれり。 我等戦ひたり。
我等より（b i z i n t ä）
その両翼（i k i u ɛ－i）ぞ片翼の如く（s i ŋ a r－ɛ a）
余分（a r t u q）なりき。 天ぞ天命を与へし故に 多しとて 我等

T Ⅱ W 6（41）



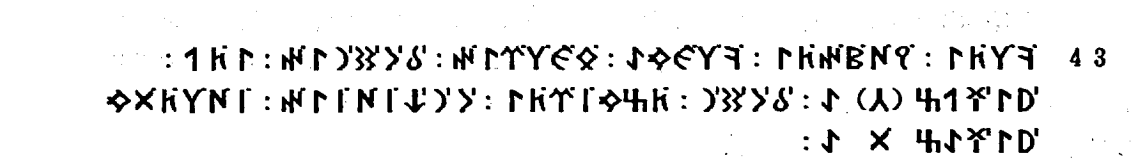
我等恐れざりき（q o r q m a d ï m ï z）。 我等戦ひたり。 タルドス サドに向かひて
追い（u d－ï）我等打ち破りたり（y a ń d ï m ï z）。
その可汗をば 我等捕へたり。 そのヤブグを そのサドを

T Ⅱ W 7（42）



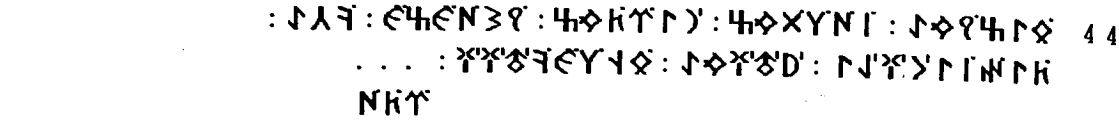
そこにて我等殺したり。 五十程の（ä l i g ɛ ä）者 我等捕らえたり。 それなるぞ晩に
その民毎に
我等送りたり（ï t－t ï－m ï z）。 その言葉を 聞きて オン・オクのベグ達
民ぞ 皆

T Ⅱ W 8（43）



来たり。 従ひたり（y ü k ü n t i）。 来る者に（k ä l i g m ä） そのベグ達を
その民を つくりて
集まりて（y ï ɣ－ï p／y ï ɣ－a）少なく 民ぞ 逃げたる（t ä z－m i s）ありき。
オン・オクの軍勢をば 我進軍させたり。
注 クローゾンは43—47は一つの章だと言う。

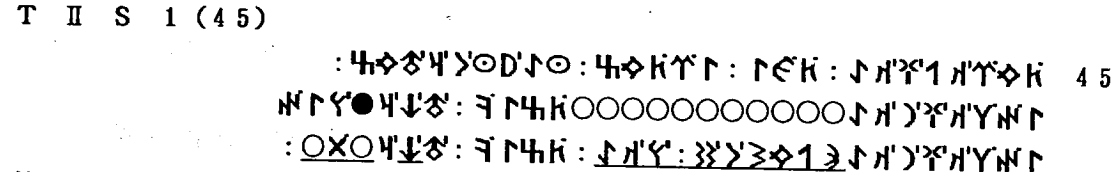
T Ⅱ W 9（44）



我等また　我等進軍したり。　アヌ（を）／それを我等到らせたり。　真珠河をば　渡りて
ティンシ・オグル（ｔｉｎｓｉ　ｏγｌï「天子の子」）　と言ふなる（ａｙｔï γｍａ）
聖なる（ｂäηｉ／ｕ̈ｌｉｇ）山をば　到りて？
注　「天子の子」は「天子」を更に意味解釈したものである。

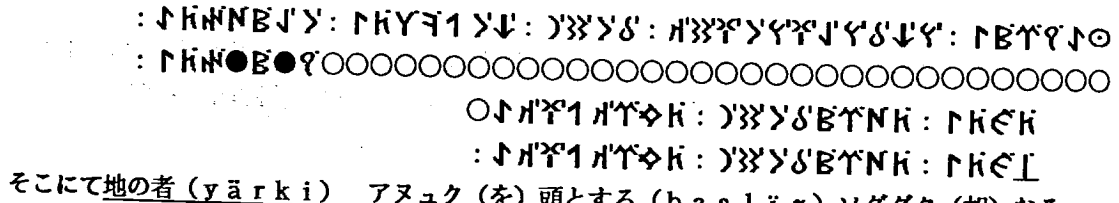
第二碑文（北碑文）南面（6行．マーロフ：４５－５０行、リンチェン：５０）

T Ⅱ S 1（45）



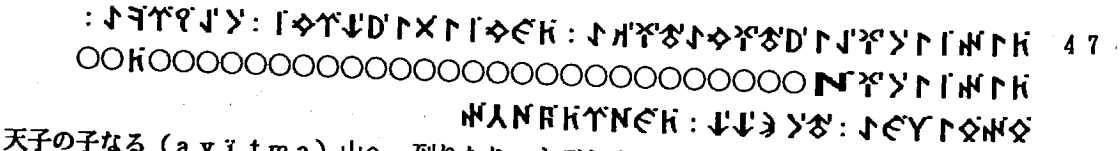
鉄門に　まで　我等到りしなり。　そこにて／そこより　我等戻らせたり。
イネル可汗に　．．．（下線の𐰺は左右逆．「恐れ（ａńïｐ）　マンチュド」）
サカ（族）　テジク（タジク族）　トカル（トカラ族）●ＳＩＮ

T Ⅱ S 2（46）



そこにて地の者（ｙäｒｋｉ）　アヌュク（を）頭とする（ｂａｓｌï γ）ソグダク（胡）なる
民ぞ　皆見たり（従った）　従ひたり（ｙüｋüｎｔｉ）。
到りたり（ｔäｇｄｉ）／罵りたり（ｓögｔｉ？）。　トルコの民ぞ　鉄門に
注　下線の部分、マーロフ．ｙäｒüｋｉ（？）、アールトはäがü。

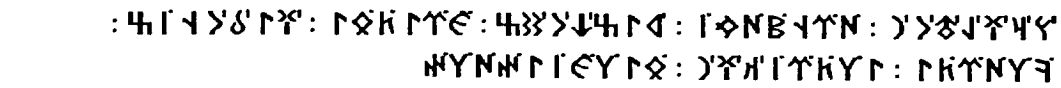
T Ⅱ S 3（47）



天子の子なる（ａｙï ｔｍａ）山へ　到りたり。主ぞなくありけり。　その地へ
我賢き　トニュククぞ　到りたるが故に

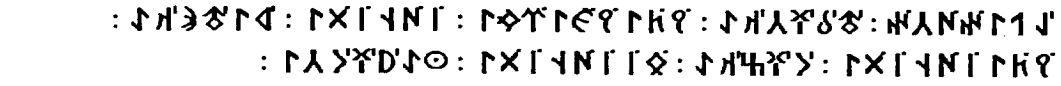
注　Ａａｌｔｏの𐰴は𐰚𐰉の見誤りである。

T Ⅱ S 4（48）



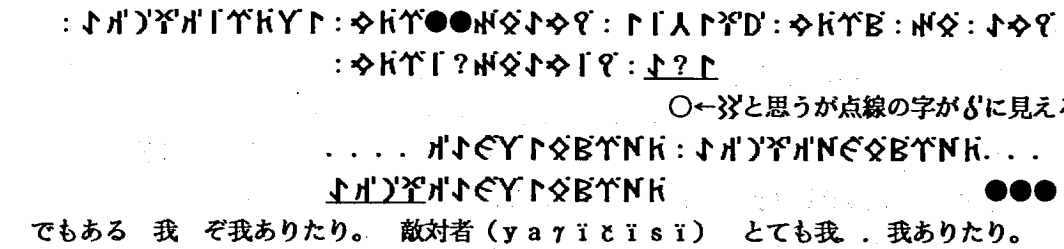
黄色き（s a r ï ɣ）黄金　白き（ü r ü ŋ）銀（k ü m ü s）　娘（q ï z）女（q o d u z）
曲がりし（ä g r i）駱駝（t ä b i）　財宝（a ɣ ï）ぞ害なく／限りなく
到らせたり。　イルテリス可汗ぞ　賢きが故に（b i l g ä s i n　ü č ü n）
注　クローゾンは大体ここからが最終章だとする。

T Ⅱ S 5（49）



勇者なるが故に　タプガチへ　7・20（17度）　戦したり。　キタニィへ
7度戦したり。　オグズへ　五度戦したり。　そこにて軍師

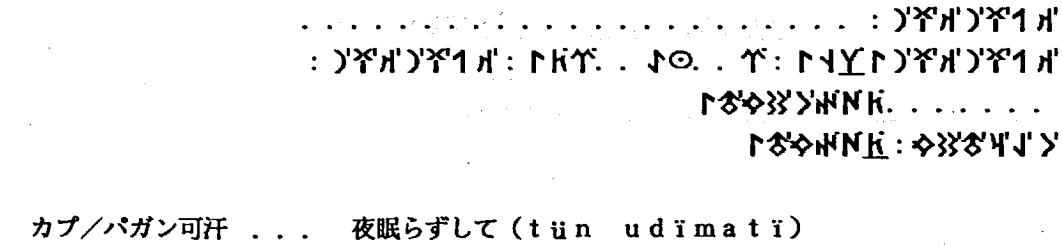
T Ⅱ S 6（50）



でもある　我　ぞ我ありたり。　敵対者（y a ɣ ï č ï s ï）　とても我．我ありたり。
．．．トルコのボグュ可汗へ　トルコの賢き可汗へ

第二碑文（北碑文）東面（8行．マーロフ：51－58行、リンチェン：51）

T Ⅱ E 1（51）

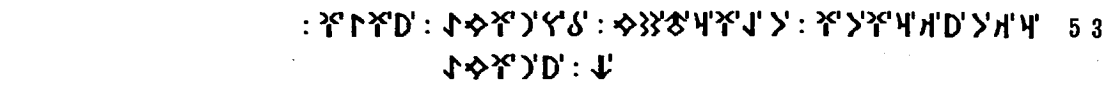


カプ／パガン可汗　．．．　夜眠らずして（t ü n　u d ï m a t ï）
注　ここで、点線の部分で私のテキストの二行目にアールト等のものではo l u r t d u m「我あらせたり」とあるからここでカプ／パガンが可汗となっていることになる。

T Ⅱ E 2 (52)

昼 居らずして 赤き我が血ぞ 注がせ（t ö k ü t −） 黒き我が汗 ぁせ （t ä r i m）を
上らせ
事を力をば我与へたるぞ。 長征を（u z u n y ä l m ä g） 又 我なしたるぞ。

T Ⅱ E 3 (53)



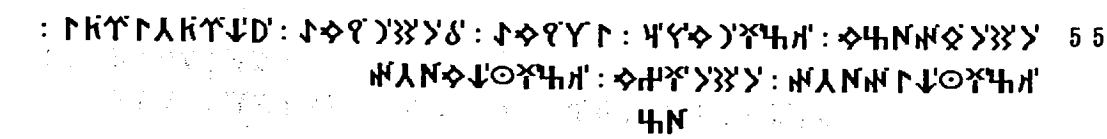
固き砦を 我築きたるぞ（o l ɣ u r t −）／我大にしたるぞ（u l ɣ a r t −）。
鎮圧せる（b a s − ï n − ï ɣ m a か y a n ï ɣ m a） 敵をば
連れる我ありたり。我が可汗なる 軍勢我等導きたり。 天ぞ天命を与へよ

T Ⅱ E 4 (54)



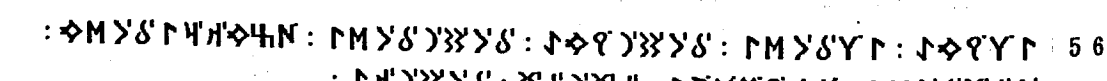
このトルコの民の間に 武装せし（y a r ï q l ï ɣ）敵をば 我急襲させざりき。
烙印せし（t ö g ü n l ü g）我等が馬をば我流れさせざりき。 イルテリス可汗ぞ
勝たざれば

T Ⅱ E 5 (55)



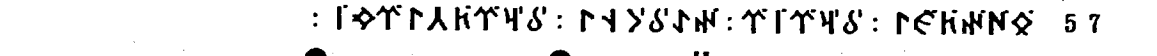
従ひて我自ら 勝たざれば 国も 民も なくあらむありけり。
勝ちしが故に 従ひてぞ我自ら 我勝ちし故に

T Ⅱ E 6 (56)



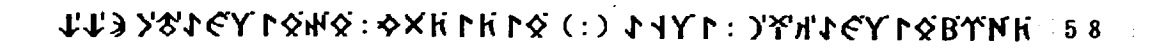
国も 国となりたり。 民も 民となりたり。 我自ら年老ひたり。
大となりたり。 如何なる地なる 可汗もちの 民に。

T II E 7 (57)



かくの如きもの (büntägi)　ありおるなら　何ぞ害　ありあらむ　なりしか

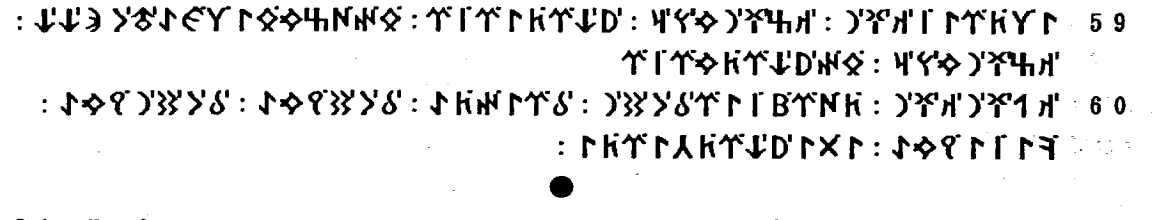
T II E 8 (58)



トルコの賢き可汗なる　国にて (−) 我書きたり。　我賢きトニュクク

第二碑文 (北碑文) 北面 (4行. マーロフ：59−62行、リンチェン：52. 補助動詞に注意)

T II N 1 (59) − T II N 2 (60)



Iltäris qaγan qazγan−ma−sar, yok ärti
イルテリス　汗　勝た−ざれ−ば　無く　ありし
Elteriş hakan kazanmasa zahmet çekmiş (?)

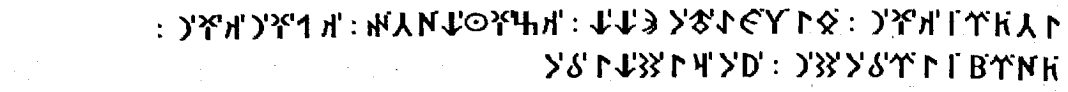
Ilteriş Kağan kazanmasaydı,
ärsär, bän özüm, bilgä Toñuquq qazγan−ma−
ならば、　不肖我 自ら　賢なる　トニュクク　勝た−ざれ−

olsa idi: Ben kendim bilge Tonyukuk da kazanma−
−sar, bän yoq ärtim ärsär, /Qapaγan qaγan
−ば　不肖我 無く　ありし　なら、　カパガン　汗の
−sa yok olsaydım, Kapagan hakan (ve)

lürk Sir bodun yirintä bod yämä,
トルコの シルの　民の　地にて　民　も、
türk müttehit(?) milletinin yerinde hem cemaat,

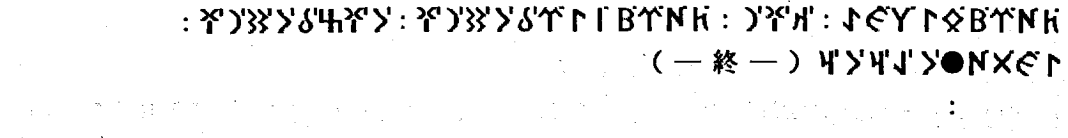
kisi yämä idi yoq ärtäči ärti.
人　も、　主　無く　あらむ如くに　ありたり。
hem millet, hem insanlar sahipsiz kalacak idi.

T II N 3 (61)



イルテリス汗ぞ　賢なるトニュククぞ　得しが故に　カパガン汗なる
トルコのシルの民ぞ　行きしは　これ（なり？　或いは次に係る？）

T II N 4 (62)



トルコの賢なる　汗ぞ　トルコのシルの民をして　オグズの民をして
養ひてあるなり。

５．オルホン碑文
５．The Orkhon Turkic

キュル・ティギン碑文
資料　リンチェン：53－9
資料　マーロフ：19－55
資料　オルクン．Ⅰ：22－55（漢文：80－4）
資料　アイダロフ：277－303

ビルゲ可汗碑文（上記よりやや南）
資料　リンチェン：60－9．70－1
資料　マーロフ（1959）：11－25
　　(Pamjatnik xany mogiljanu)
資料　オルクン．Ⅰ：55－73
資料　アイダロフ：303－18．

当該碑文の位置と特徴

ウランバータル（庫倫）よりウリヤスタイ街道を西に進む。すると東より西流するトラ河を越え、更にハルハ河を越え、その次がホラ河で南からコクチン・オルホン河とかタミル河等とが一つになっている河で、そのコクチン・オルホン河沿い東にチャイダム湖があり、この北（北緯47° 30分、東経103°）と南に問題の碑文はある。５００キロ西にある。キュル・ティギン（キュル皇子）はビルゲ可汗（683－716－734/5）の弟である。KT碑文（3.75m高、東西の幅は上が1.22m、下が1.32m）は兄であるビルゲ可汗が苦労を共にしたキュル・ティギンのために建てられた、大唐開元22年732 年。類似の内容のものが735 年にビルゲ可汗碑文（かなり破損。3.45m ×1.74m ×0.72m.西面に漢文）として建てられている。両者の存在のおかげで双方に欠けている個所を復元出来る。いづれにせよ当時のユーラシア情勢が手に取るように判る貴重な資料である。

文字の書き方

突厥文字は基本的には右から左へ一行をつくり、更に下に書き足してゆく。当該碑文類では、行が下から上の行へと進んでいる。これは立てる状態を考えると（右から左の行へ）、同時に彫られている西面の『故闕特勤碑』とのバランスをとったからだし、漢人の技術者を使っているからでもある。従って正常な状態ではアラビア文字と同じ行の進め方を９０度左に回転させたもので、これらより先に立てられた後述するトニュクク碑文の書き方が基本であろう。

韻律的特徴

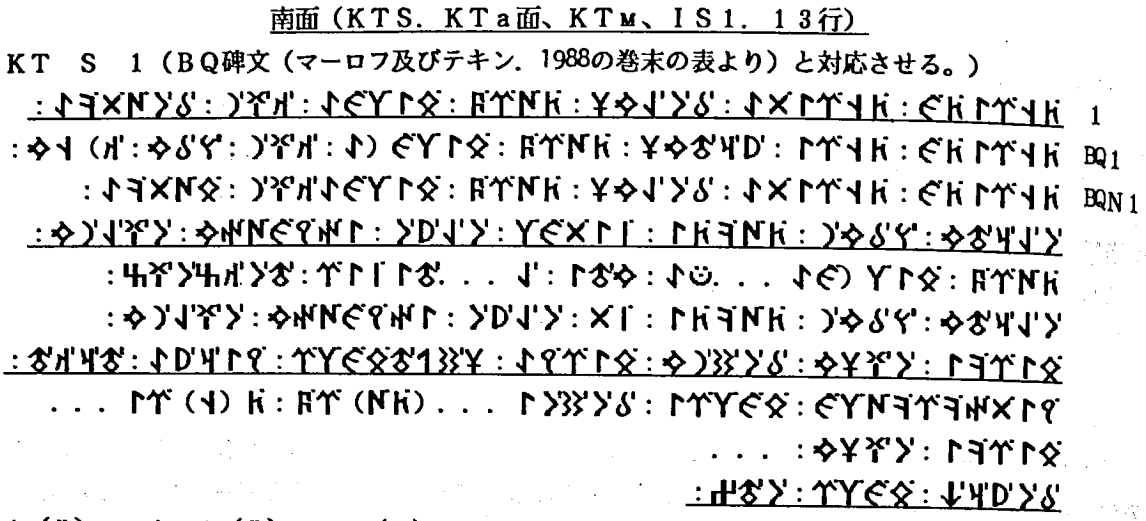
この資料を韻文だとする考えがある。それは格調が高く、文学的にもみるべき点があるからである、KT N 10－1を参照。では、これは韻文の体裁を整えているか。北ユーラシア地域の韻文の特徴は、音節（七音節等の奇数）及びパラレリズム（各行が文法・意味・音声的に対応）であり、ここでもそう言って差し支えない。韻律的特徴と言えば、長短の問題や頭韻・脚韻の問題もある。前者は、古代トルコ語を概観した限りではそうであったとしても複雑であり過ぎるし、後者では類義語の列挙（意味的・音的連続）とも絡んで同一頭韻の連続はあるが、基本はパラレリズムに拠っているものと言ってよい。

テキスト作成上の注意

筆者は村山七郎先生とカクック女史とに突厥資料を教えていただいた。本稿では日本語訳は直訳にし、特定部分では現代トルコ共和国語訳としてオルクン・BTK. Ⅰ（ERGIN, M. のもの）・テキンを並べた（オ・B・テと略）。また、ハンガリー語の訳を二つ加え、例．ケーペシ（詩人は一応訳した後で原文を何度も音読して感じを摑むと言う）、カクック女史のハンガリー語訳（カクック訳：34－43）もつけ（ケ・カと略）。

南面（KTS. KTa面、KTM、IS1. 13行）

KT S 1（BQ碑文（マーロフ及びテキン. 1988の巻末の表より）と対応させる。）



1
BQ1
BQN1

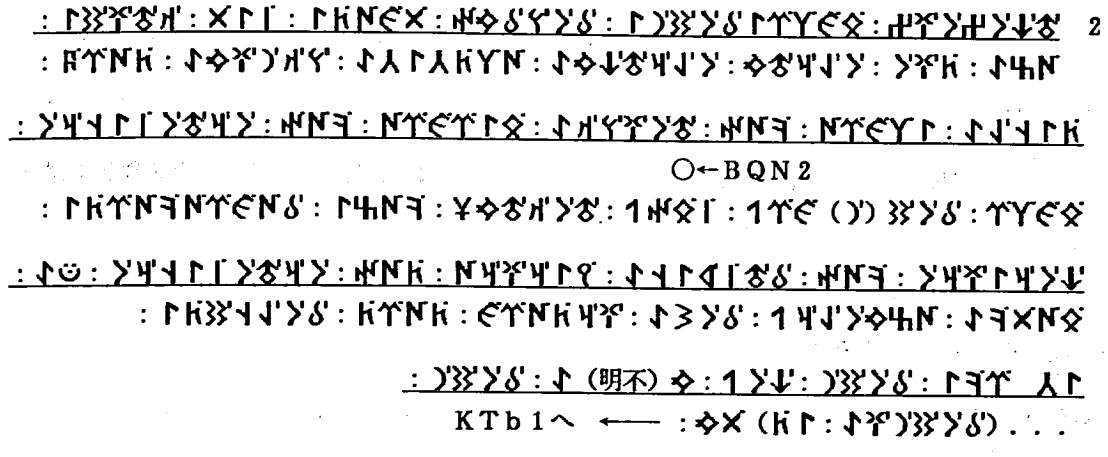
t (ä) ŋ r i t (ä) g t (ä) ŋ r i d ä b o l m (ï) s t ü r k b i l g ä
q (a) ɣ (a) n b u − ö d k ä
o l (u) r t (u) m s (a) b (ï) m (ï) n t ü k (ä) t i (ä) s i d g (i) l
u l (a) y u i n (i) − y (ä) g ü n (ü) m o ɣ l (a) n (ï) m
b i r (i) k i o ɣ (u) s (u) m b o d (u) n (u) m b i r (i) y ä
s (a) d (a) p ï t b (ä) g l (ä) r y i r (ï) y a t (a) r q (a) t
b u y r (u) q b (ä) g l (ä) r o t (u) z

天の 如く 天 にて／より なりし トルコの 賢なる 王者 (可汗)
この時に (b u ö d k ä) ／玉座に (b ö k d k ä)
我あるなり。 我が言葉を 最後まで 汝聞け。 さて／続きて 我が弟 (たち) よ 我が子たち
かつ／連合せる 我が部族よ 我が民よ 右手へ／南へ シャダプトなる ベグ (高官) たちよ
左手へ／北へ タルカンたちよ
ブイラクなる ベグたちよ。 オトゥズ「三十」

B Tanrı gibi gökte olmuş Türk Bilge Kağan Bilge Hakan bu devirde
tahta oturdum. Sözümü sonuna kadar dinle! Önce kardeşlerim, çocuklarım!
Sonra, bütün soyum, milletim! Güneydeki şadlar, apalar; kuzeydeki tarkanlar, buyruk
begler! Otuz Tatar...
テ (Ben), Tanrı gibi (ve) Tanrı' dan olmuş Türk Bilge Hakan, bu devirde
(tahta) oturdum. Sözlerimi baştan sona işitin, önce (siz) erkek kardeşlerim, (ve) oğullarım,
birleşik boyum (ve) halkım, sağdaki Şadapıt beyler, soldaki Tarkan' lar (ve)
kumandan beyler, Otuz (tatar ...)

注 tarqatはtarqatの複数か。-tは一般的にはモンゴルの複数表示の語尾と言われる。

KT S 2



toquz oγ (u) z b (ä) gl (ä) ri bod (u) nī bu
s (a) b (ï) m (ī) n (ä) dgüti (ä) sid q (a) t (ī) γdī
tiŋla ilg (ä) rü kün toγs (ī) q (a) bir (i) g (ä) rü
kün ortusīŋ (a) ru
qurīγ (a) ru kün b (a) ts (ï) qïŋa yīr (ī) γ (a) ru tün
ortusïŋ (a) ru anta
ičr (ä) ki bod (u) n qop m (a [ŋa körür (a)]) a bodun

トクズ オグズなる ベグたちよ その民よ この 我が言葉を
良く 聞け 固く 聞け。 東へ
陽の 昇る方へ 南へ 陽の 真ん中へ 西へ 陽の 沈む方へ 北へ 夜の 真ん中へ
そこにて／より
内なる 民ぞ 皆 m. . . a (我に／を 見る かくの如く／これ程の) 民ぞ

B Dokuz Oğuz beğleri, milletim! Bu sözümü
iyice işit, iyice dinle! Doğuda gün
doğusuna, günerde gün ortasına kadar; batıda
gün batısına, kuzeyde gece ortasına kadar. . .
Bu alan içindeki millet hep bana bağlıdır.
Bunca milleti

テ Dokuz Oğuz beyleri (ve) halkı, bu sözlerimi
(ve) sıkıca dinleyin: İleri (de), gün doğusuna,
güneyde gün ortasına kadar, geride gün batısına
(ve kuzeyde gece ortasına kadar,
bu (sınırlar) içindeki (bütün) halklar hep bana
tabidir. Bunca halkı

KT S 3



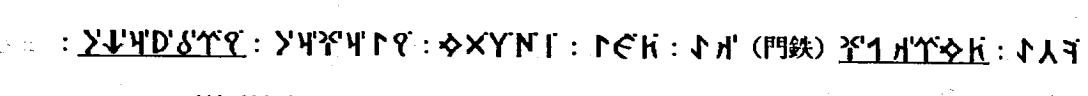
○←BQ北面3



皆 我つくれり。 それぞ+今は 悪く+なし。 トルコの 王者（可汗）ぞ オトゥケンなる 森ぞ
あるなら 民／国に 害+なし。 東の方 山東なる 平原に+まで 我軍を進めたり。
大海に 少し／わずか 至らぬなり。 南の方 トグゥズなる エルセンに まで
我軍を進めたり。 トョポョト（西蔵）に わずか 至らぬなり。 西の方 真珠河（シル・ダリア）..

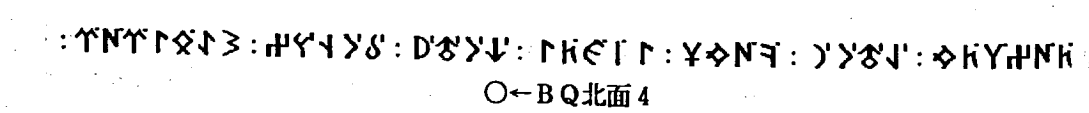
注 E17には「緑なす河」の表現が「山東なる平原」の前にある。

KT S 4

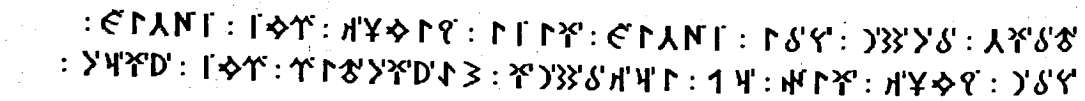


越え 鉄門に まで 我軍を進めたり。 北へ ユル・バイルクの
地に まで 行軍せり。 この程の 地に まで 行かせたり（yo（r）tdm）。
オトュケンの 森より より良き 主ぞなく ありけり。 国を保つ 地ぞ オトュケンの
森なりけり。 この地に 居り て 漢の 民 と

KT S 5

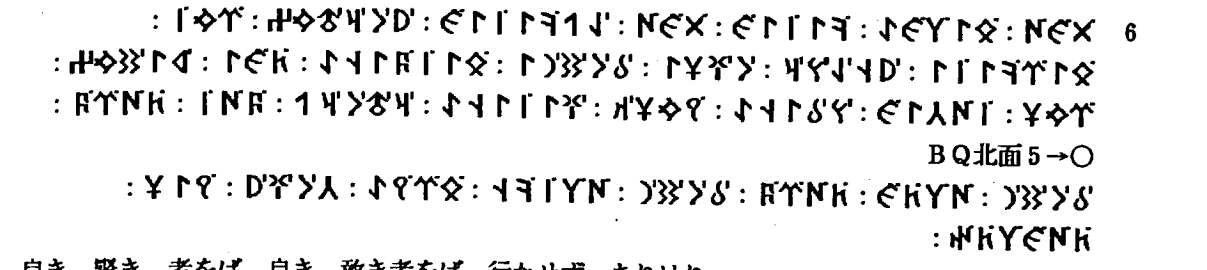


○←BQ北面4



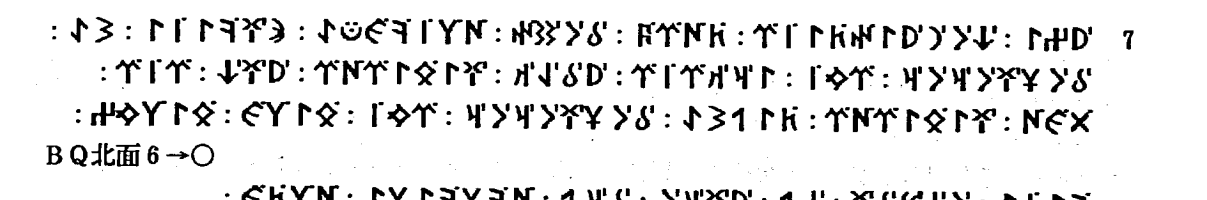
我共存したり。 金 銀 絹織物（is〔i〕gäti qutay）をば 害なく／限りなく
かく与ふる
漢の 民の 言葉ぞ 甘く その贈り物ぞ 柔らかく ありけり。 甘き
甘き 言葉を 柔らかき 贈り物をば 尽くして 遠くの民をば かく近づける ありけり。 近くに
宿営せしより 後 悪き 心を そこにて 思ふ ありけり。

KT S 6



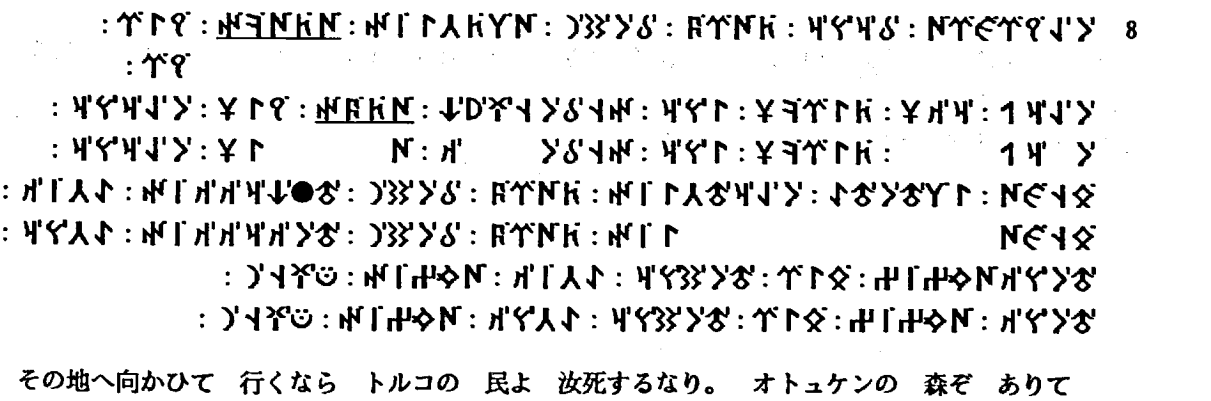
良き 賢き 者をば 良き 敢き者をば 行かせず ありけり。
ある者をば 惑わすなら その一部族 その民 その親族に まで 隠さず／住処を与えざる
ありけり 甘き 言葉に 柔らかき 贈り物に 惑わされ 多くの トルコの
民よ 汝死にたるなり（ö l t ü g）。 トルコの 民よ 汝死するなり（ö l s i k i ŋ）。 南へ
チュガイの 森
トョグュルトュンなる

KT S 7



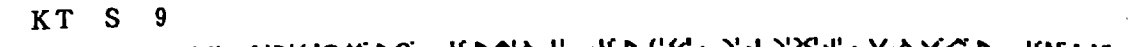
平原に 留まらむ とするなら トルコの 民よ 汝死するなり・そこにて 悪しきぞ かくの如く
唆す（教える） ありけり。 遠くならば 悪き 贈り物をば与えむ。 近く ならば
良き 贈り物をば 与えむ とてかく 唆す ありけり。 知恵 知らぬ
者ぞ その言葉をば とりて 近づきて ゆきて 多くのものぞ 汝死にたり（ö l t ü g）。
注 a l ī p だが、－ī p a n に就いてはE 1の注を参照のこと。

KT S 8

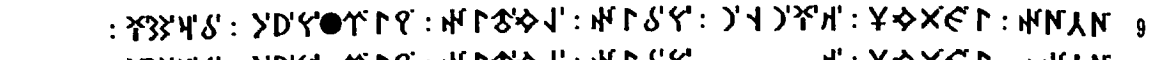


その地へ向かひて 行くなら トルコの 民よ 汝死するなり。 オトュケンの 森ぞ ありて
隊商 送らば 如何なる汝の害ぞなし。 オトュケンの 森ぞ あらば
永遠なる 国を持ちて 汝あらむぞ。 トルコの 民よ 満足なり汝。 飢え
満腹を思はざるなり汝、一度 満足せば 飢えをば 思はざり汝。 汝のかくの如きことの

KT S 9



BQ北面7→○

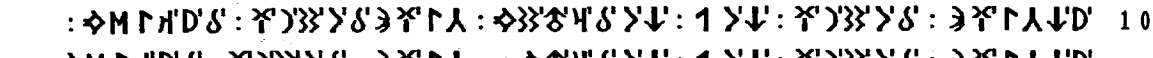


故に 養ひし 汝の可汗の 言葉をば 採らず 場所 毎に 皆汝ぞ行きたり。
皆そこにて 汝衰えしなり 汝尽きさせられしなり。 そこにて留まりし者ぞ 場所 毎に皆 衰え
死に 行く汝ありたり。 天ぞ 命じし の 故に 我自ら 我が幸ぞ
あるが故に 可汗と 我あるなり。 可汗と なりて

KT S 10

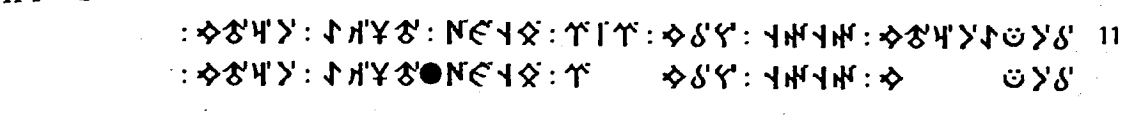


BQ北面8→○

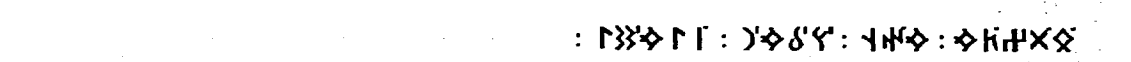


無く貧しき 民をば 皆 集めたり。 貧しき民をば 豊かに我なしたり。
僅かの民をば 多くと 我なしたり。 はたして・この我が言葉に 偽りぞある・や。 トルコの
ベグたちよ 民よ
これをば 汝聞け。 トルコの . . . ip (テキン. bodun tirip 「民をば集めて」)
国を汝保たんことを
ここにてぞ 我刻みたり、誤りて 汝死すことを又

KT S 11

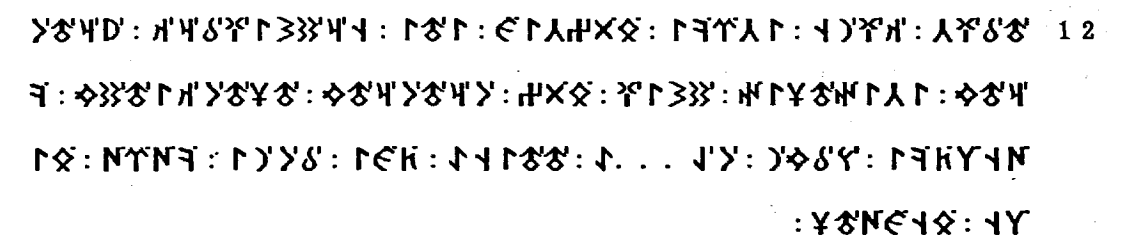


BQ北8面終り→○



ここに刻みたり。如何なる 如何なる 我が言葉ぞ あるなら 永遠なる 石に 我刻みたり。
その方をば見て 汝知れ。 トルコの 今の／忠実なる 民よ ベグたちよ 玉座に
まみゆる（k ö r ü g m ä）
ベグたちよはたして（g ü） 迷はむか汝。 我 b. . . č（テキン. b ä ŋ g ü t a š. . .
t a b γ a č「永遠なる 石. . . 漢なる」） 可汗の所より 細工師（b ä d i z č i）を
我連れて来るなり。
我飾りたり／我飾らせたり。 我の 我が言葉を 折らざりたり。

KT S 12

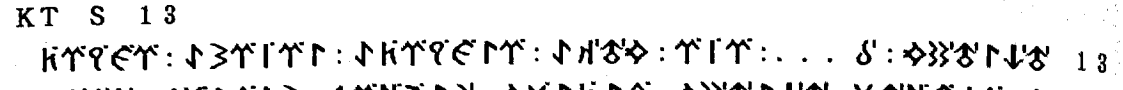


漢の 可汗の 内なる 細工師（飾り師）を送りたり。 それに 壮麗なる 墓を 作らせたり。
内外なる
壮麗なる 飾り 刻ませたり。 石（を） 我打たせたり。 心なる 我が言葉をば u l. . . a
（テキン. u〔r t u r t u m, ... o n o q o γ l ī ŋ〕a「我刻ませたり. . . オン・
オクの子に」） タト（t a t. ソグド?）に まで これをば 見て 汝知れ 永遠なる石

注1 t a tはMKに見える如く「ペルシア人」だから、「胡・ソグド」或いは「余所者」を指すと言える。

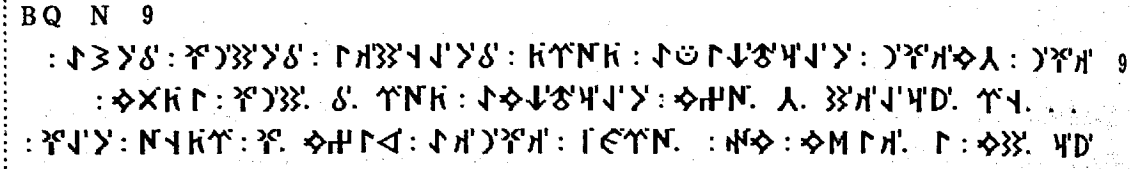
注2 q a γ a n ï ŋ ～ b ä d i z č iはコンドラティエフではIzafet IV に相当する。コノノフ(1980)：220では修飾語＋被修飾語の関係はモンゴルのものに対比されると指摘している。

KT S 13



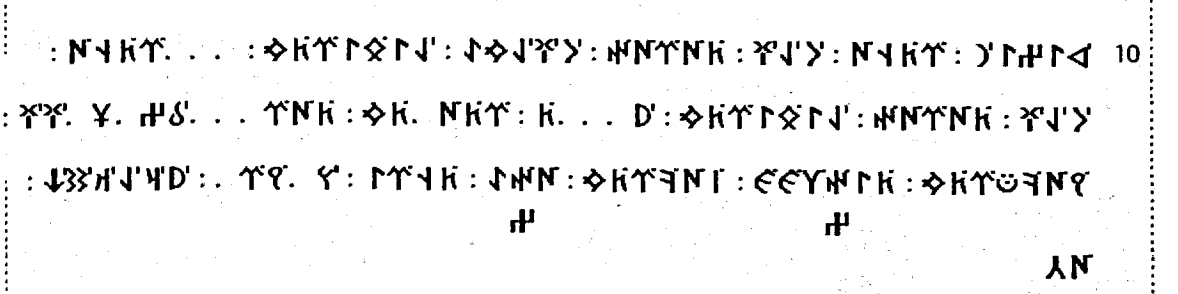
我打たせたり。 b. . . (マーロフ. b u ä r i g) あるなら 今に 在る地に
あるならかくの如き 在る地に 永遠なる石 我打たせたり 我書きたり。 それを見て
かくの如く汝知れ。 かの 石. . . d i m. この文字(を) 書く者なる 名は
ヨルグ・テ(Y o l γ t)

BQ N 9



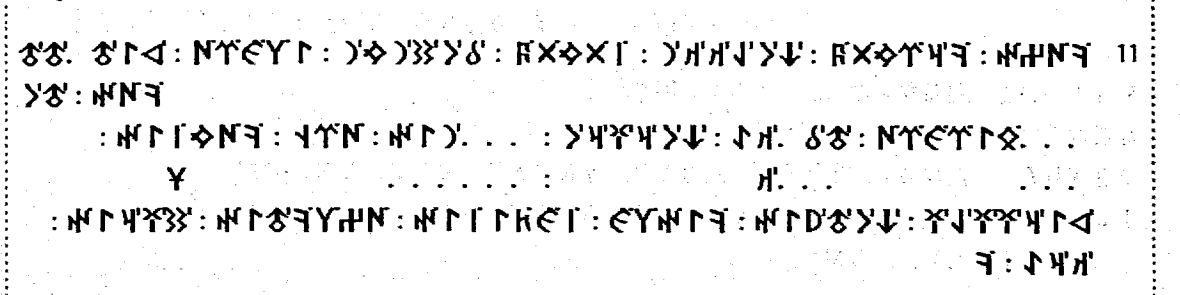
(我が父なる)可汗、我が叔父なる可汗ぞ ありしに 四 至なる 民をば かくの如く
. . . η r. y r l q d. ɕ. ü z m 我ぞありしに t ü r. b. d n γ 我つくりたり
我組織したり。i. q ī l t m 我 . ü r g s 可汗に 我が娘をば いと 大なる
政をば 取りて我与えたり。 t ü r. . .

BQ N 10



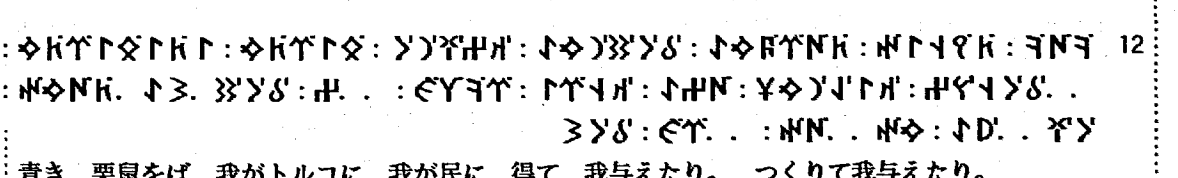
娘をば いと 大なる 政をば 我が息子に 取りて我与えたり。 . . . いと
大なる 政をば 取りて我与えたり。 Y. . . T RTU, TM TUR. . . BZ. S. ГГ
我従えたり。膝持ちをば 我屈させたり。 上に 天ぞ S. YR. 天命を与えし
üč

BQ N 11



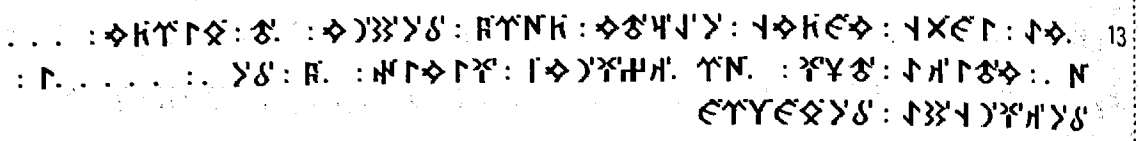
目にて 見ざりし 耳にて 聞かざりし 我が民をば 東へ KIY. TT (キタニィ・タタブへ)
. . . 南へ TB. QA (タブガチへ) 西へ . . . NIN 白き 銀をば
縁取りをせし 絹をば (qïrγaγlïγ qutayïn)
香りのする 絹織物をば (kinlig äsgitisin/äsgitisin)
愛用馬/悍馬をば (özlük atïn) 種馬をば
黒き (貂をば)

BQ N 12



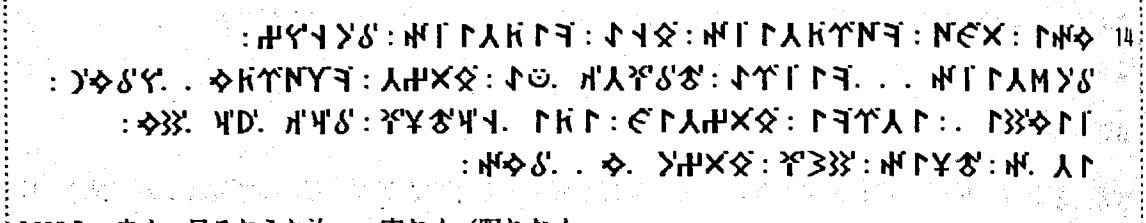
青き 栗鼠をば 我がトルコに 我が民に 得て 我与えたり。 つくりて我与えたり。
. . 害なく/限りなく つくりける 上なる 天ぞ 強く. . . Z BUD. NČA TUMN
OГ. . YA MN. . UN , , RG BUNČ

BQ N 13



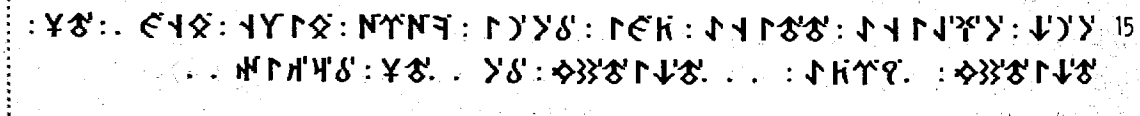
. MA 汝養へ 汝煩わすなかれ。 我あるなり。 トルコの 我が民 . T 我与えたり。. . .
U. MTIQA TsΓ . UR. QZΓNMS ΓIMIN . K BU. . . . I
この可汗に このベグ達をば

BQ N 14



MNI 良く 見るならむ汝。 害なく／限りなく
なるならむ汝. . . 後に タプガチ. nta 細工師 我到らせたり. . 我が言葉を
壊さざりき. 内なる 細工師をば 送りたり. ηRTsΓ BRQ. YR. DM
Iɕ. N (内なる) TsIN (外なる) すばらしき (adïnɕïγ) 飾り＋我彫らせたり
(BDZU. M) . . BMN

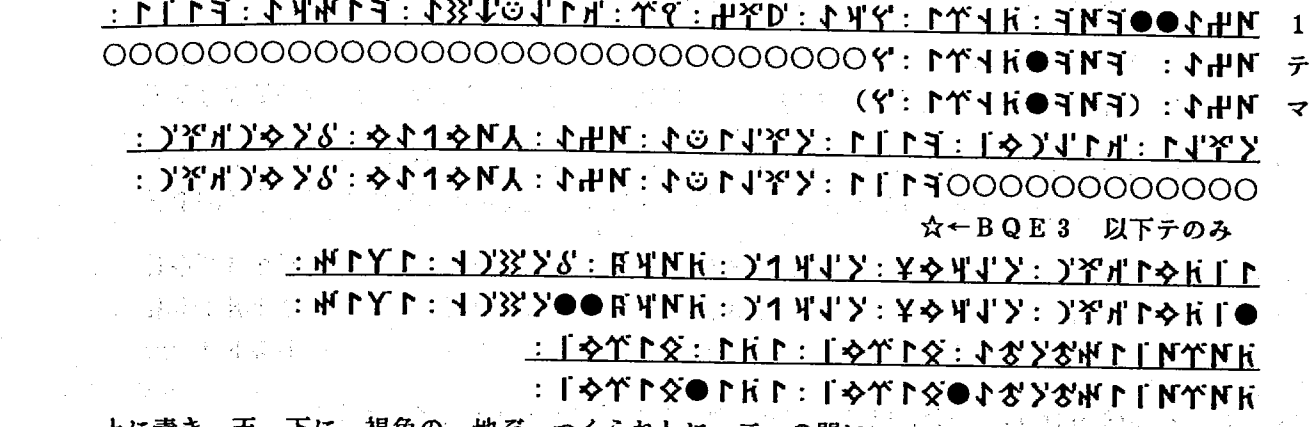
BQ N 15



オン・オクの 息子に タタブに まで これをば 見て 汝知れ。 bηg (永遠なる) 石
我彫らせたり。 . YRKā . . 我彫らせたり。 この. . 石 BRQIN. .

KT E（東面. Doğu Cephesi. KTb或KT6. 40行ある）
（＝BQE2途中：テキンのラドロフ引用及びマーロフ）

KT E 1



上に青き 天 下に 褐色の 地ぞ つくられしに 二つの間に
子 造られけり。 人の 子より上に 我が祖先たる ブムン可汗
イシテミ可汗ぞ ありけり。 ありて トルコの 民の 国を
政を保ちて 与へけり（完了の補助動詞的） 造り 与へけり。

üzä－kök t（ä）ηri （a）sra y（ā）γ（ī）z y（ā）r
qïl（ï）nt（ī）qda （ā）kin－（a）ra kisi
oγlï qïl（ï）nm（ī）s. kisi oγlīnta üzä
（ä）čüm－（a）p（a）m bum（ī）n－q（a）γ（a）n
ist（ä）mi－q（a）γ（a） ol（u）rm（ī）s. ol（u）r（ï）p（a）n
türk bod（u）n（ï）η ilin
törüsin tuta birm（i）s iti birm（i）s.

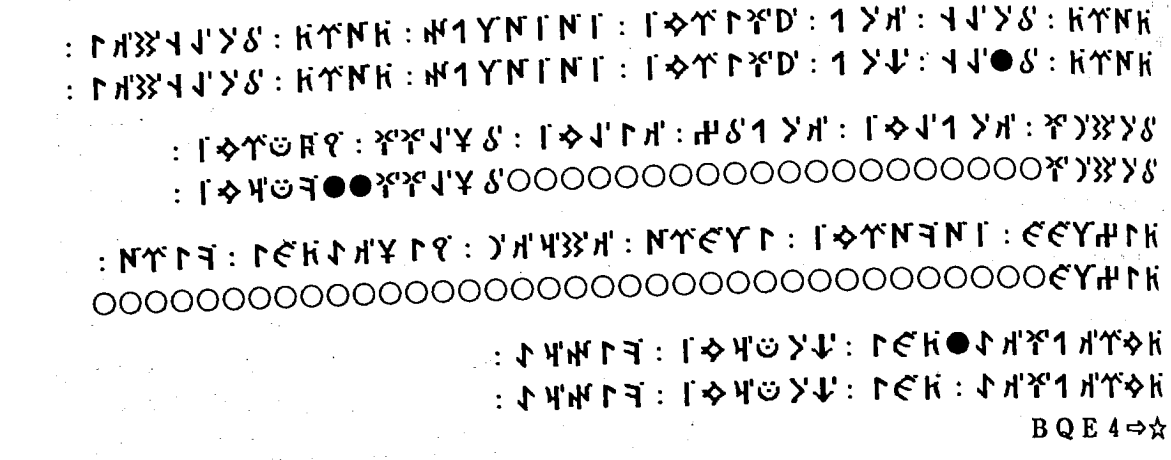
テ. Üstte mavi gök (yüzü) altta (da) yağız yer
yaratıldığında, ikisinin arasında insan
oğulları yaratılmış. İnsan oğullarının üzerine
(de) atalarım dedelerim Bumın Hakan (ve)
İştemi Hakan (hükümdar olarak) tahta oturmuş.
Tahta oturarak, Türk halkının devletini (ve)
yasalarını yönetivermiş, düzenleyivermişler.

注1 トルコ共和国トルコ語での残存形を示す。

üzä：üzerinde・üzere
kök：gök「空、天；青い」
（：モ. köke；ハ. kék）
y（ä）r：yer
qïl（ï）nt（ī）qda：
kılın－DVG－DA（：モ. ki－）
（ä）kin：iki
kisi：kişi
（a）sra：asra～ısra
y（a）γ（ī）z：yağız「黒（馬）、浅黒い（男）、（複合語に「褐色の」の意味あり）」
（：モ. dayir）
qïl（ï）nm（ï）s：
kılın－mV ş
（a）ra：ara
oγlï：oğlu（oğul－u）

注2 －（ï）p（a）nは後の古い文書にあらわれ、モンゴル高原やその西北では－（ï）pが多い。

KT E 2



四 方 皆 敵なりけり。 軍勢（を） 進め 四 方なる（b u l u ŋ d a q ï）

民をば 皆取りけり。 皆 従へ（b a z q ī l－）けり。 頭持ちを 下げさせたり、

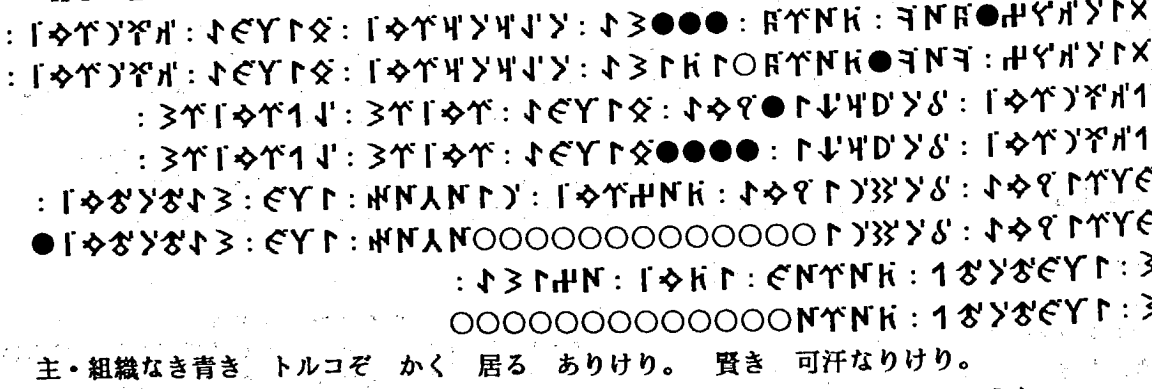
膝持ちを 屈せしめけり。 東へ カドゥルカンの 森（興安嶺？）にまで 逆に（k i r ü）

鉄門にまで（B Q E 4） 宿営させけり。 二つの間にて

注1 二行目の（a l m ï s）は一説にはハンガリー族の首長の名前であると言うことである。ただ、異論もあり、母親が夢を見たので「夢の（á l o m＋s）」ともとれる。

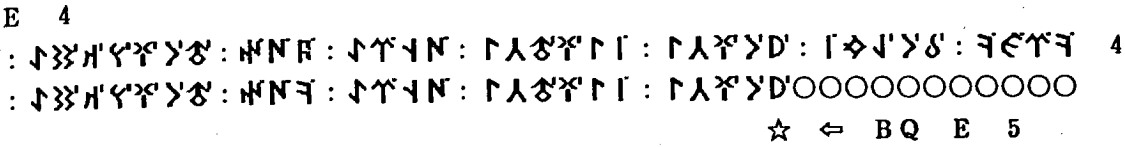
注2 「頭持ちを 下げさせたり、膝持ちを 屈せしめけり」はオルクンの訳ではb a ş b a ş e ğ d i r m i ş及びd i z ç ö k t ü r m ü ş であり、ある意味では目的語(Object)と動作主(Causer)が動詞に含まれている例としてこの表現を見ることができる。

KT E 3

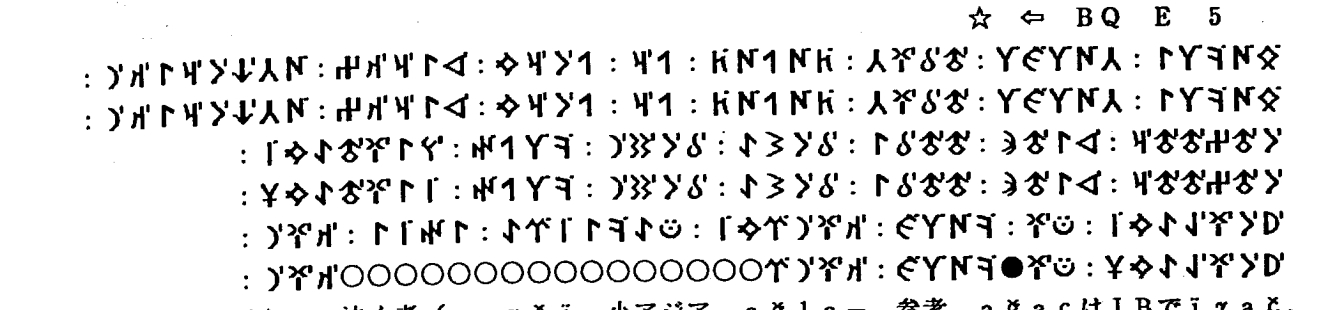


主・組織なき青き トルコぞ かく 居る ありけり。 賢き 可汗なりけり。
猛き可汗なりけり。 その役人も 賢く ありけり＋あらむ 猛くありけり＋あらむ。
そのベクたちも その民も 等しくありけり。 それが故に 国を かく保ちけり
あらむ。 国を保ち 政をば つくりけり。 自ら かく

KT E 4

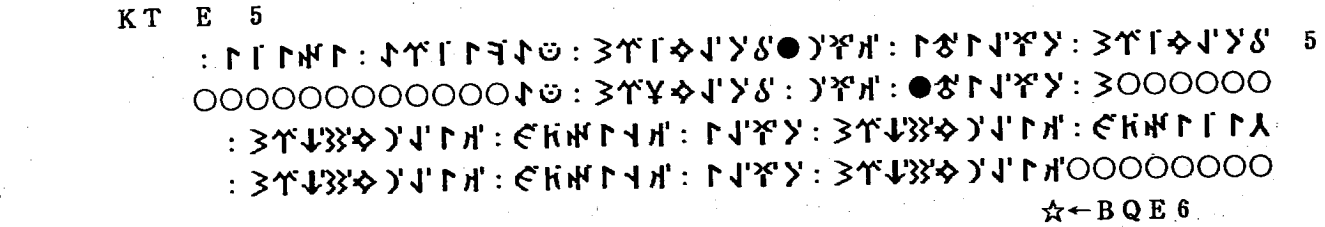


☆ ⇦ BQ E 5

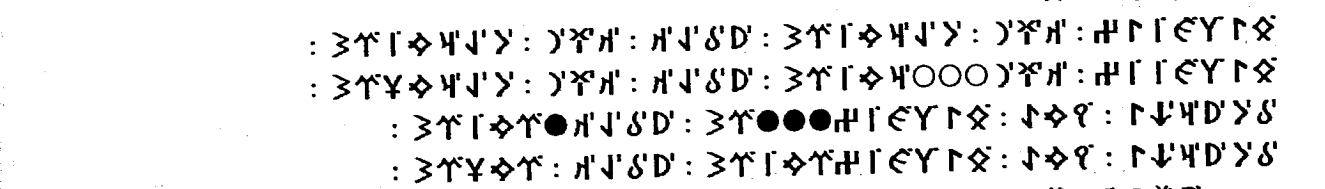


亡く なりけり。 泣く者（ｙｏɣčï．小アジア．ａｇｌａ－．参考．ａğａçはＩＢでïɣａč、
ＭＫでｙïɣａč）ぞ 哀しむ者（ｓｉɣïｔčｉ．＊ｙｏɣ－と同一か）ぞ 東に（前に）
陽の 上がりに
ブクリ（渤海か高句麗か。Ｂöｋ＋ｌｉで、「Ｂöｋの、出身の人）
平原なる／沙漠の民（čöｌ＋（ｌ）ｉｇ ａｌ） タブガチ トョポュト アパル（アヴァール）
ブルム（東ローマ？） クルクズ ウチ・タルゥカン
オトゥズ・タタル キタニィ タタブゥ これ程の 民ぞ 来て（ｋａｌｉｐａｎ） 哀しみけり
泣きけり。それ程 名声持ち（ｋüｌ（ｌ）üｇ） 可汗ぞ ありけり。その後 その弟（ｉｎｉ）ぞ
可汗と
注 「渤」に近い漢字「勃」は上古音は ＊－ｔ終わりである。

KT E 5

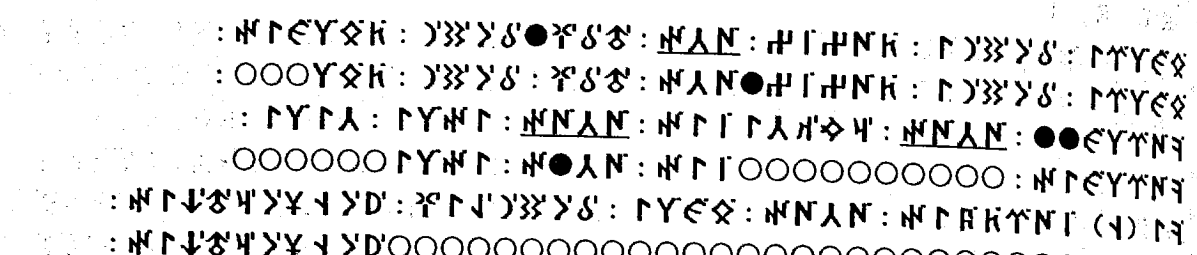


☆←ＢＱＥ６

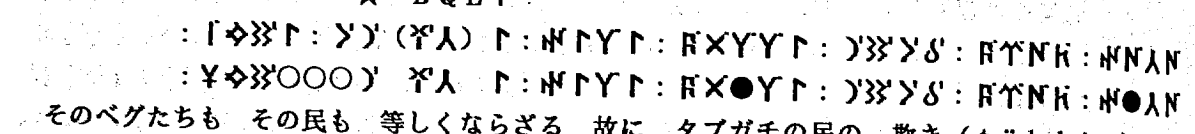


なりけり。 その子等（ｏɣｌïｔ ）も 可汗 ありけり あらむ。 その後 その弟ぞ
その叔父の如く 作らざりけりあらむ。 その子も その父の如く 作らざりけりあらむ。
知恵なき 可汗 居りけりあらむ。 悪しき 可汗 居りけりあらむ。
そのブイルク も 知恵なくあらむ。 悪くありけりあらむ。
注 Privative の＋ＳＩＺに注意。

KT E 6

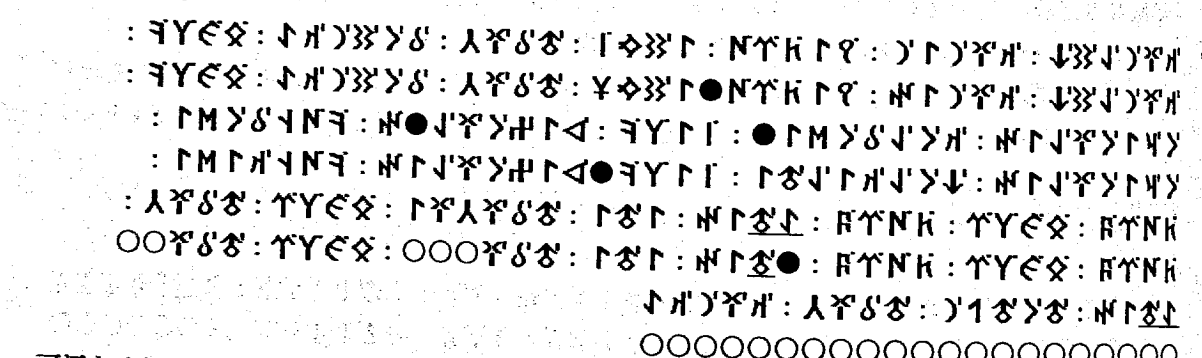


☆←BQE7



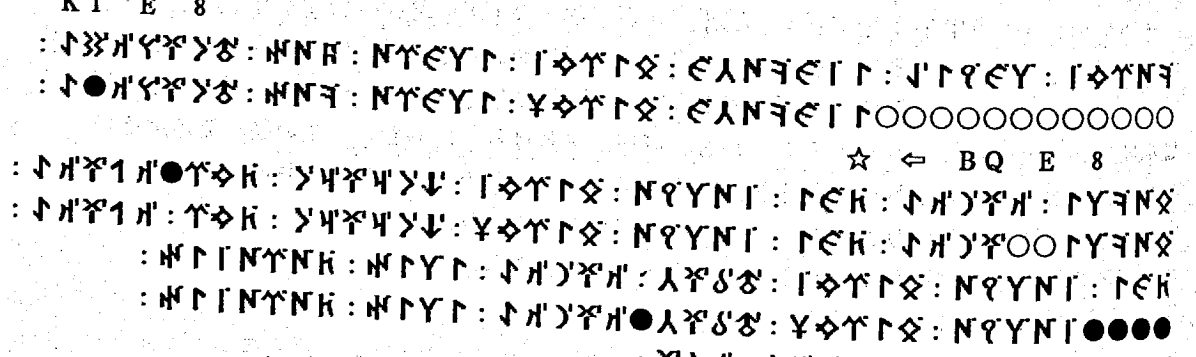
そのベグたちも その民も 等しくならざる 故に タプガチの民の 欺き（täbliğ）の
狡さ（kürlüg）の 故に、 策士（armaqči）の 故に、 弟と（inili） 叔父と（äči li）
不和にさせし（kiŋ/*gsür-） 故に、ベグと（bägli）
民とを（bodunlïγ） 悪口を言いあわせし（yoŋsur-）
故に、 トルコの 民ぞ 国としたる 国をば 失ひて（ï（č）γ（ï）nu） 捨てけり

KT E 7



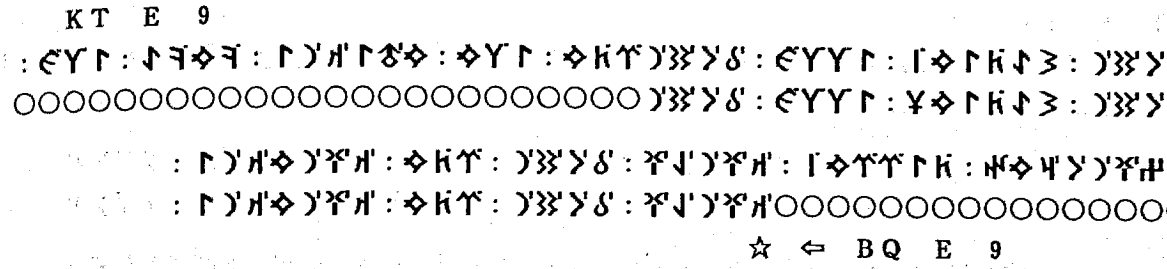
可汗とせし 可汗をば 失ひて（yitür-→ハ. gyötör-） 捨てけた。 タプガチの 民に ベグたる
子息ぞ（urï oγlin） 奴となりけり、婦人たる 息女ぞ 婢となりけり。
トルコの ベグたちぞ トルコの 名（ad）をば 捨てたり（ït（t）ï）。
タプガチなる（-γï） ベグたちぞ タプガチの
名をば 取りて タプガチの 可汗に向かひて

KT E 8



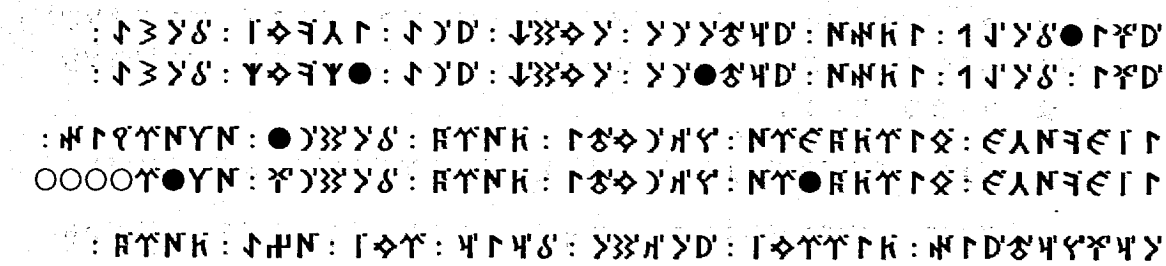
見けり。 五十（älig>小. elli） 年（yïl） 事を力を 与へけり。 東へ 陽の
ブクリ 可汗に まで 進軍し 与へけり。 西へ 鉄門に 昇るところにて
まで 進軍し 与へけり。 タプガチの 可汗に その国を その政を
取りて与へけり。 トルコの 黒き 全ての（注 「黒き」は「強き、俗な」の意味がある。）

KT E 9



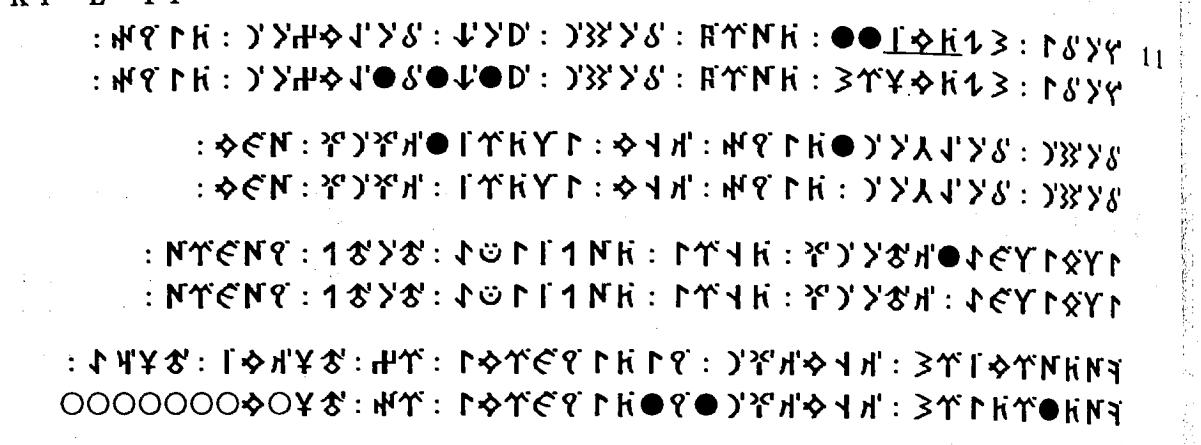
民ぞ かく言ひけり。 国もちの 民なりけり。 祖国ぞ 今 どこぞ（ilim amtï qanï）、 誰に 国を
得るや我-（kämkä ilig qazγanur män）、
と 言ひけり。 可汗持ちの 民ぞ ありけり 我が可汗ぞいづこぞ（qaγanïm qanï）。
何可汗に 事を力を 与ふるや我（nä qaγanqa isig küčüg birür män）、 とてありけり。 かく言ひて タプガチの
可汗に 敵 となりけり。

KT E 10



敵となりて 自らつくりて 自ら組織し 叶はざりき、 又 従ひけり。 かく
事を力を 与ふるに 思はず（saqïnmatï） トルコの 民をば 我殺すならむ、
我子孫を絶やさむ とて ありたり。絶やし 行く ありけり。 上へ トルコの
天ぞ トルコの聖なる地をば／地ぞ
注 Saqïnmatïの－matïは－matïnか？

KT E 11



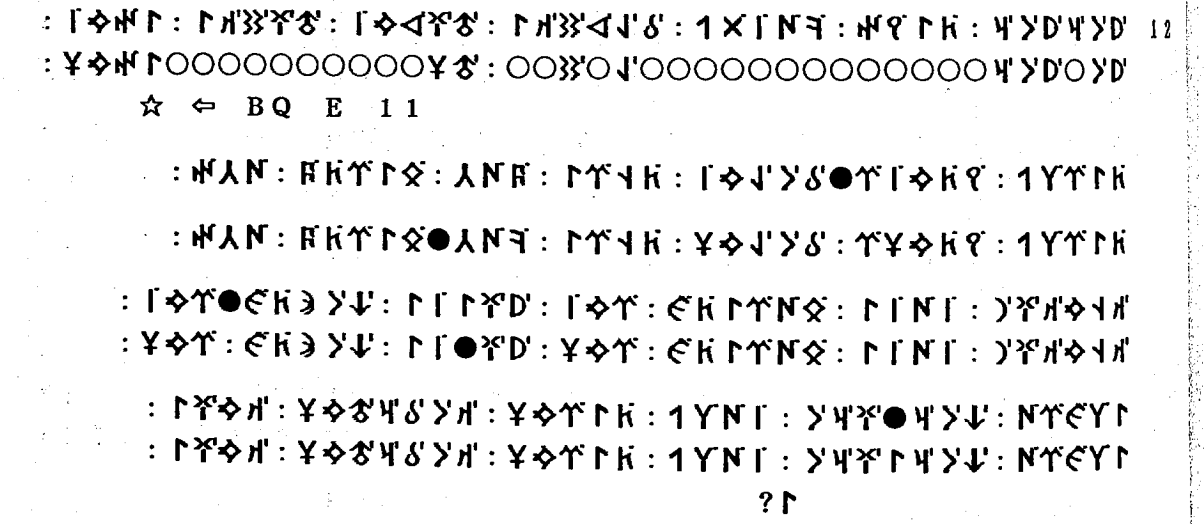
水をば／水ぞ　かく作りけり／かく言ひけり　トルコの　民ぞ　なく　あらせまい　とて（tiyin）

民ぞ　成らせむとて　我が父　イル・テリス可汗（骨咄禄可汗．682 - 91在位）をして　我が母

イル・ビルゲ　妃をして　天　上にて　採りて

上に　引き上げき　あらむ。　我が父たる　可汗ぞ　17（7・20）　人にて　出で立ちけり。　外に

KT E 12



☆ ⇦ BQ E 11

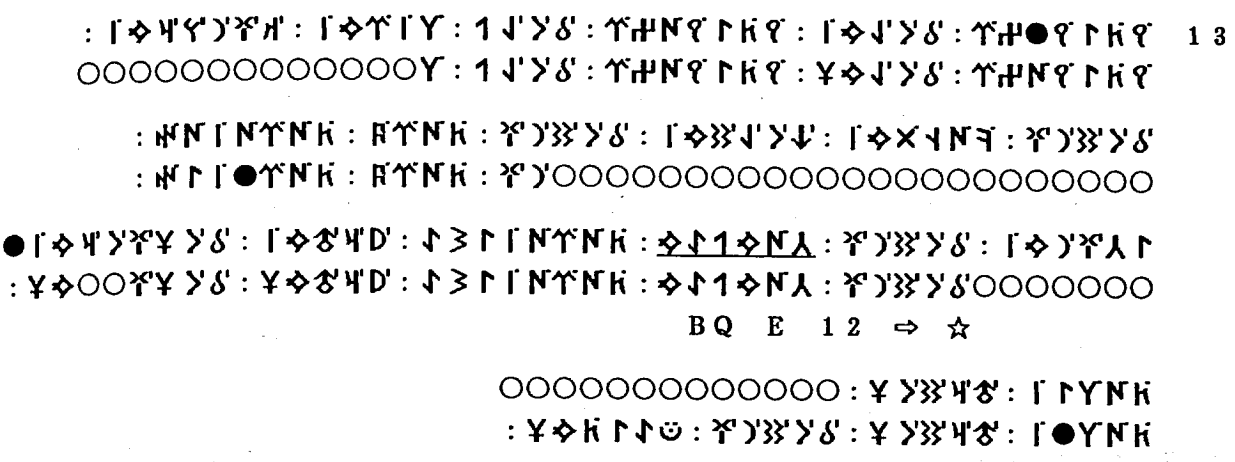
行く　とて（言ひて）　噂を聞きて　町に居る者　山に登りたり。　山に居る者ぞ　下りけり。

集まりて　70の人（男・勇士）となりけり。　天ぞ　力　与えし　故に

我が父可汗なる　軍勢ぞ　狼の如く　ありけり。　その敵ぞ　羊の如く　ありけり。

東へ　西へ　進軍し　まとめしとぞ　集めしとぞ。　その皆で

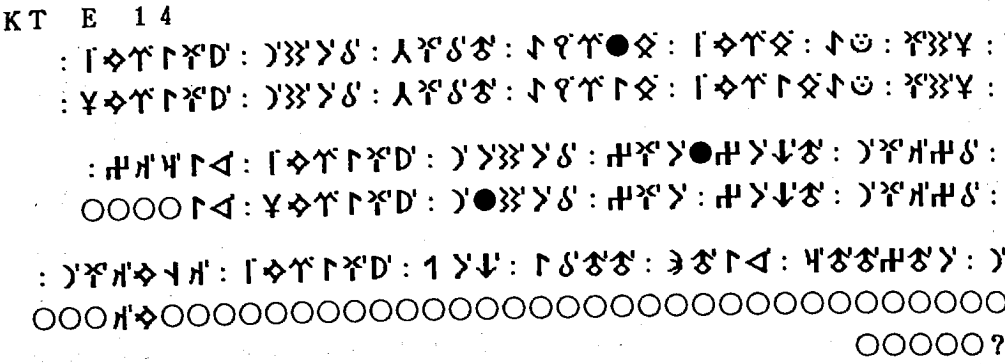
KT E 13



BQ E 12 ⇨ ☆

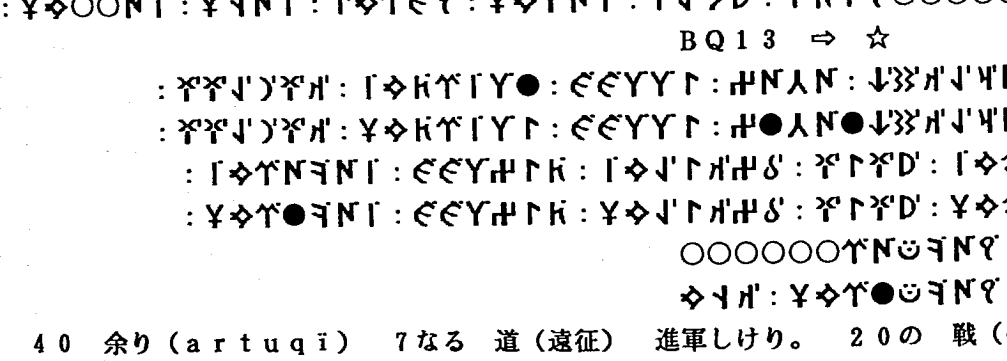
七百人と なりけり。 七百人と なりて 国失ひし 可汗失ひし
民を 婢となりし 奴となりし 民を、トルコの 政を
失ひし 民を 我が祖先（äčüm－apam）なる 政のまま 作りき、組織したるとぞ。
トョリス・タルドゥシュなる （民をば そこにてつくりけり。）
注 先のPrivative に対比されるz～rの形式に＋SR－がある。

KT E 14



ヤブグ（葉護. 官位）をば シャド（設. 官位）をば そこにて 与へけり。 南へ タプガチの 民ぞ
敵 なりけり。 北に バズ可汗、トクズ・オグズの 民ぞ 敵 なりけり。 クルクズ クルカン
オトゥズ・タタル 契丹 タタブゥぞ 皆 敵なりけり。 我が父たる可汗 かく （民をば）
注 ヤブグはエフタル的な表現。可汗の次の位で、西突厥の首長でもある。

KT E 15



40 余り（artuqï） 7なる 道（遠征） 進軍しけり。 20の 戦（を） 戦いけり。天
ぞ
天命を与へし 故に 国持ちを 国失はせけり、 可汗持ちを
可汗失はせけり。 敵をば 平定しけり。 膝持ちを 屈せしめけり（sükünтür (mis)
頭持ちを 下げさせけり。 我が父ぞ

KT E 16

: 𐰚𐰃𐰚𐰃𐰠𐰇 : 𐰃𐰇𐰃𐰍𐰇 : 𐰴𐰃 𐰃𐰚𐰃 : 𐰆𐰴𐰃 : 𐰉𐰆𐰘𐰇 : 𐰇𐰏𐰃 : 𐰴 𐰃𐰚𐰃𐰠𐰃 : 𐰋𐰍𐰚𐰍𐰑 16
: 𐰚𐰃𐰚𐰃𐰠𐰇 : 𐰃𐰇𐰃𐰍𐰇○○○○○○○○𐰆𐰴𐰃○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
: 𐰚𐰃𐰚𐰃𐰠𐰇 : 𐰃𐰇𐰃𐰍𐰇 : 𐰃𐰚𐰃𐰆𐰉𐰇 : 𐰇𐰠𐰍 : 𐰇𐰏𐰍𐰚𐰍𐰑𐰃𐰍 : 𐰉𐰆𐰑𐰍 : 𐰃𐰇𐰃𐰇
: 𐰃𐰚𐰃𐰆𐰉𐰇 : 𐰉𐰇𐰘𐰃𐰍 : 𐰃𐰚𐰃𐰆𐰉𐰇 : 𐰇𐰠𐰍 : 𐰇𐰏𐰍𐰚●𐰇 : 𐰃𐰇𐰃𐰍𐰇○𐰃𐰍 ○○𐰑𐰉𐰑 : 𐰃𐰇𐰃𐰇
: 𐰚𐰃𐰚𐰃𐰠𐰇 : 𐰉𐰇𐰘𐰃𐰍 : 𐰚𐰃𐰚𐰃𐰆𐰉𐰇 : 𐰇𐰠𐰍 : 𐰇𐰏𐰍𐰚●𐰇 : 𐰃𐰇𐰃𐰍𐰇○𐰃𐰍 ○○𐰑𐰉𐰑 : 𐰃𐰇𐰃𐰇

BQE14⇨☆

: 𐰚𐰋𐰚𐰉𐰇 : 𐰉𐰑𐰋𐰉●●●●● : 𐰉𐰆𐰑𐰉 : 𐰇𐰇𐰉𐰏 : 𐰚𐰃𐰠𐰃𐰇 : 𐰇𐰍𐰃𐰍𐰑 : 𐰋𐰍𐰚𐰍𐰑 : 𐰃𐰇 𐰘𐰃𐰍
: 𐰚𐰋𐰚𐰉𐰇 : 𐰉𐰑𐰋𐰉 : 𐰇𐰇𐰉𐰏 : 𐰉𐰆𐰑𐰉 : 𐰇𐰇𐰉𐰏 : 𐰚𐰃𐰠𐰃𐰇 : 𐰇𐰍𐰃𐰍𐰑 : 𐰋𐰍𐰚𐰍𐰑 : 𐰃𐰇 𐰘𐰃𐰍

☆⇦マーロフここまで。下のものはオルクン及びテキン

○○○○○○○○○○○○○○○ : 𐰉𐰍○𐰉𐰃 : 𐰥𐰑𐰍 : 𐰚𐰠 : 𐰉𐰍○𐰉𐰃 : 𐰇𐰃𐰇
: 𐰇𐰯𐰚𐰘𐰃𐰍 : 𐰃𐰚𐰃𐰆𐰉𐰇 : 𐰉𐰍●𐰉𐰋 : 𐰥𐰑𐰍●𐰚𐰠 : 𐰉𐰍●𐰉𐰃●𐰇𐰃𐰇
○○○
𐰴𐰚 : 𐰉𐰆𐰚 : 𐰉𐰴𐰃𐰍𐰘𐰇 : 𐰉𐰚𐰋𐰉𐰑○○○○○○○○𐰋𐰉○○𐰑𐰚 : 𐰠𐰋𐰉𐰑 : 𐰆𐰠𐰍

政をば 得て 飛び 立ちけり（「飛んで行く」＝「死ぬ」）。 我が父たる 可汗（のため）に
はじめて バズ可汗をば
バルバル「殺した敵をかたどった像」ぞ 建てけり。 その政にて 上に 我が叔父ぞ 可汗
なりき／あるなり。 我が叔父たる可汗
注 下線部分．☆であるが、BQのE14は次のようになっていくる。
：𐰇×●𐰚𐰍○𐰘𐰍 : 𐰆𐰯𐰘𐰃 : 𐰇𐰴𐰇𐰇𐰃𐰇 : 𐰆𐰠𐰍 : 𐰇𐰴𐰇𐰴𐰇𐰃𐰍 : 𐰚𐰚𐰃
ありて トルコの 民をば 新たに つくりたり 養ひたり。 貧しきをば
豊かに したり 少なきを 多く したり。（我が叔父たる可汗ぞ ありしに）
（我自身 ティギン．．．天 命ありたり ありけり あらむ。）

KT E 17

: 𐰆𐰋𐰚●𐰴𐰥 : 𐰇𐰠𐰍 : 𐰚𐰴𐰇𐰍 : 𐰥 𐰍𐰴𐰇𐰑𐰯● : 𐰇𐰴𐰇𐰇𐰯𐰯●● : 𐰇𐰴𐰇𐰇𐰯𐰯𐰘𐰇𐰃𐰍 : 𐰚𐰚𐰃𐰆𐰉𐰇 17
: 𐰆𐰯𐰘𐰇𐰃𐰍 : 𐰴𐰥 : 𐰇𐰠𐰍 : 𐰚𐰴𐰇𐰍 : 𐰥 𐰍𐰴𐰇𐰑𐰯 : 𐰇𐰃𐰆𐰥 𐰇 : 𐰇𐰆𐰚𐰚𐰋 : 𐰋𐰍𐰚𐰍𐰑

BQE15⇨☆

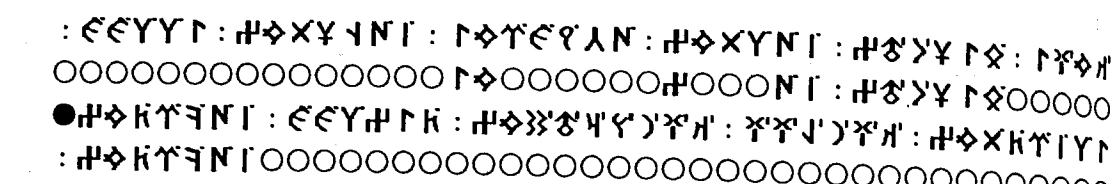
: 𐰇𐰚𐰋●𐰇𐰃𐰇𐰠𐰇 : 𐰉𐰍☺𐰥 : 𐰠𐰚𐰍𐰇𐰃 : 𐰍𐰆𐰚𐰆𐰇 : 𐰇𐰆𐰆𐰇𐰆 : 𐰚𐰚𐰃𐰆𐰇
: 𐰇𐰚𐰋 : 𐰇𐰃𐰇𐰠𐰇 : 𐰉𐰍☺𐰥 : 𐰠𐰚𐰍𐰇𐰃 : 𐰍𐰆𐰚𐰆𐰇 : 𐰇𐰆𐰆𐰇𐰆 : 𐰚𐰚𐰃𐰆𐰇
: 𐰇𐰚𐰋 : 𐰇𐰃𐰇𐰠𐰇 : 𐰉𐰍☺𐰥 : 𐰠𐰚𐰍𐰇𐰃 : 𐰍𐰆𐰚𐰆𐰇 : 𐰇𐰆𐰆𐰇𐰆 : 𐰚𐰚𐰃𐰆𐰇
: 𐰇𐰥○𐰠𐰆𐰚𐰍𐰋 : 𐰠𐰆×𐰇𐰍𐰇 : 𐰇𐰚𐰋 : 𐰇𐰃𐰚𐰉𐰃𐰇𐰃𐰆𐰋 : 𐰉𐰚𐰚𐰉𐰍𐰇 : 𐰠𐰆×𐰇𐰍𐰇

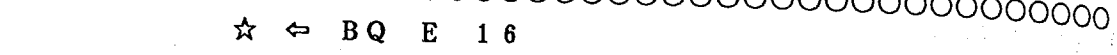
𐰠 (マーロフ)

: 𐰇𐰥●𐰠𐰆𐰚𐰍𐰋 : 𐰠𐰆×𐰇𐰍𐰇 : 𐰇𐰚𐰋 : 𐰇𐰃𐰚𐰉𐰃𐰇𐰃𐰆𐰋 : 𐰉𐰚𐰚𐰉𐰍𐰇 : 𐰠𐰆×𐰇𐰍𐰇
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○𐰇𐰃
○○○○𐰍𐰇 : 𐰇𐰚𐰋 : 𐰇𐰉𐰚𐰇𐰏 : 𐰠𐰃𐰉𐰇𐰇𐰃

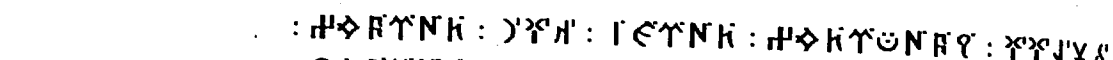
我が叔父可汗ぞ ありしに 我が身 タルドシュの 民の 上にて シャド（官位） 我あるなり。
我が叔父 と 東へ 緑なす河（yasïl ögüz．黄河？） 山東なる
平原（santuŋ yazï）にまで
我等進軍したり。 西へ 鉄門に まで 我等進軍したり。 コョグメン（を） 越え
ク（ルクズ の地にまで我等進軍したり）
注 コョグメンはサヤン山脈か？

KT E 18





☆ ⇦ BQ E 16

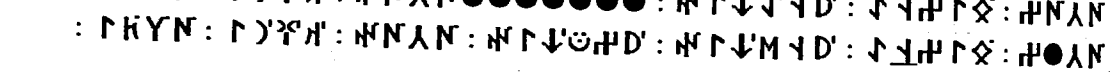


全てで 5・30 (25) 度 我等進軍したり。 3・20 (13) 度 我等戦ひけり。 国持ちを
我等国失はせたり。 可汗持ちを 我等可汗失はしたり。 膝持ちを 我等屈せしめたり。
頭持ちを 我等頭下げさしたり。 トュルギス 可汗ぞ 我等トルコ
我が民 なりき。 我知らざりしの

KT E 19

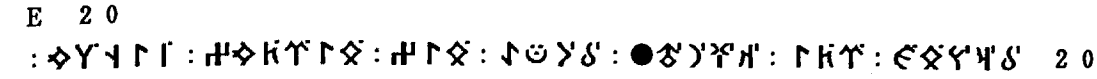


不明瞭

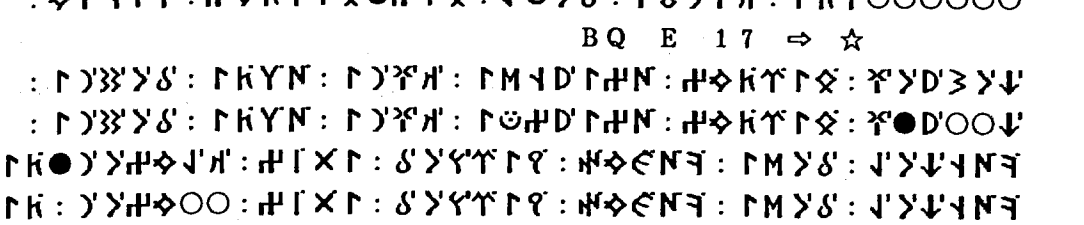


故に 我等に 誤りし (二語) 故に その可汗ぞ 死にたり。
そのブイルク そのベグ等も 又 死にたり。 オン・オクの 民ぞ 苦しみぞ 見たり。
我等が祖先等ぞ (二語) 保ちし 地水ぞ 主なく あらせまい とて
少なき民をば 作り 組織し (yaratïpか)
注 下線部分で領土を示す。

KT E 20

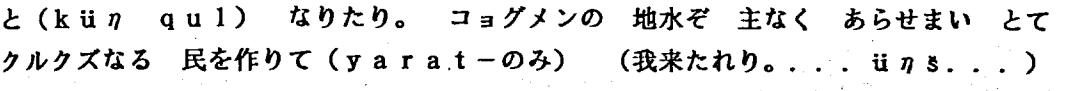


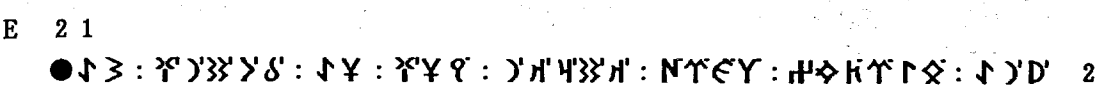
BQ E 17 ⇨ ☆



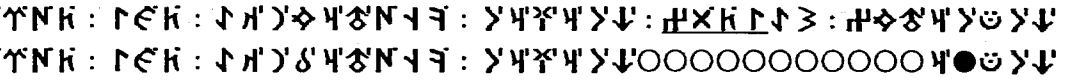
虎（ｂａｒｓ）の ベグ ありき。可汗たる 名（𐰴. ここでは𐰴𐰺ではない）をば ここにて 我等
我等与へたり。 我が妹（ｓｉηｉｌ）たる
公主（ｑｕｎčｕｙ）をば 我等与へけり。 かの者自ら 誤りたり。 その可汗ぞ
死にたり。 その民ぞ
婢・奴と（ｋüη ｑｕｌ） なりたり。 コョグメンの 地水ぞ 主なく あらせまい とて
アズ・クルクズなる 民を作りて（ｙａｒａｔ－のみ） （我来たれり。．．．üηｓ．．．）

KT E 21



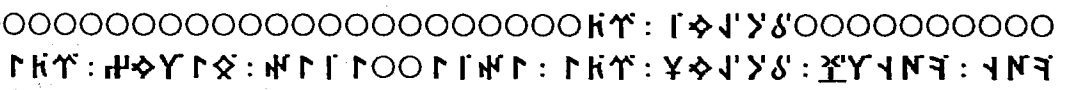


☆ ⇦ BQ E 18



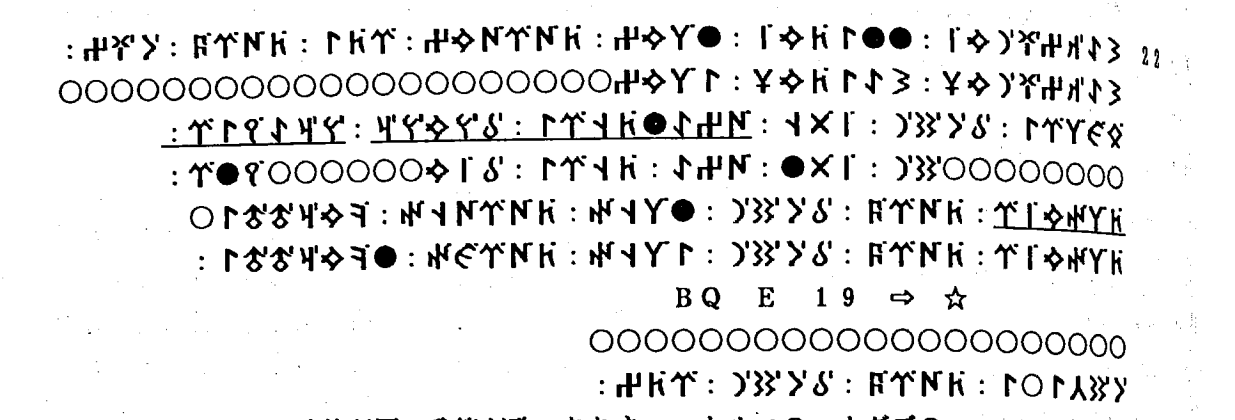


人： 𐰴が妥当か



再び 我等与へたり。 東へ カドゥルカンなる 森をば 越えて 民を かく
我等宿営させたり。 かく我等組織したり。 西へ ケングュ・タルバンへ まで トルコの
民を かく我等宿営させたり。 かく組織したり。 その時に 奴ぞ 奴持ちと
婢ぞ 婢持ちと なりけり ありき。 その弟ぞ その兄を 知らず ありき。
その子ぞ その父を 知らず ありき。

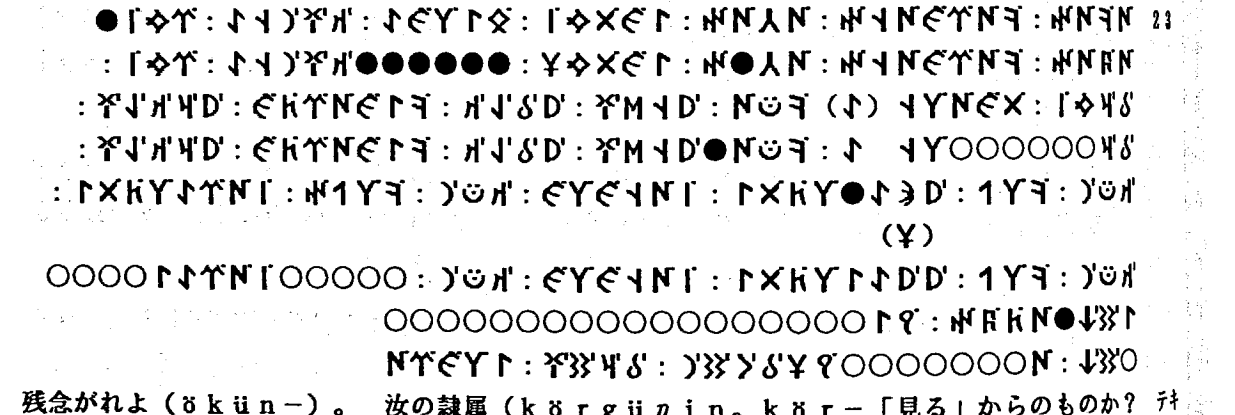
KT E 22



BQ E 19 ⇨ ☆

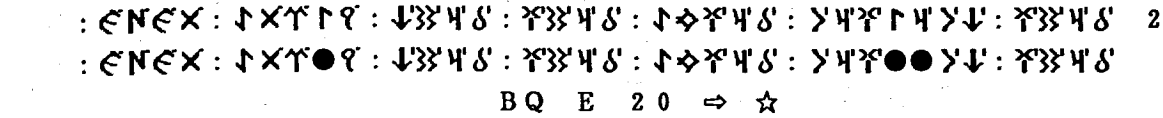
かく得けり 作りけり 我等が国 我等が政 なりき。 トルコの オグズの
ベグたちよ 民よ 汝聞け。 上に天 襲はずば（üzä tηri basmasar）
下に地ぞ 裂けずば（asra yir
tälinmäsär） トルコの 民よ 汝の国を 汝の政を 誰ぞ
滅ぼし（artatï. artattïだと「滅ぼしたり」）. . . （. . . の部分はマーロフは
udačï ärti türk budunを括弧で示し、テキンは更にtürk bodun
ärtinと続ける）

KT E 23

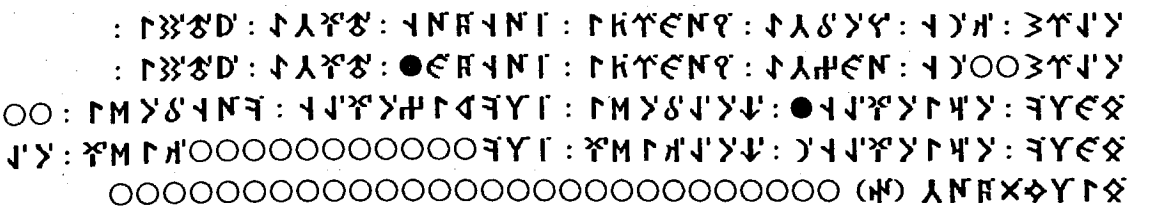


残念がれよ（ökün－）。 汝の隷属（körgüηin。kör－「見る」からのものか？ テキンはkürägüηinとしküre－ "kač－" をとり "unruliness" とする）故に 養ひける
賢き 汝の可汗に ありける
行きける 良き汝の国に 自ら 汝誤りたり 悪く 汝許したり。
武装せし者（yaraqlïγ）ぞ
？何処より（qantïn） 来て 再び 連れたるや？ 槍持ち（süηüglüg）ぞ
？ 何処より 来たりて
聖なるオトュケンの 森 YI. . . （森の 民ぞ 何時行きたり。 東へ）

KT E 24

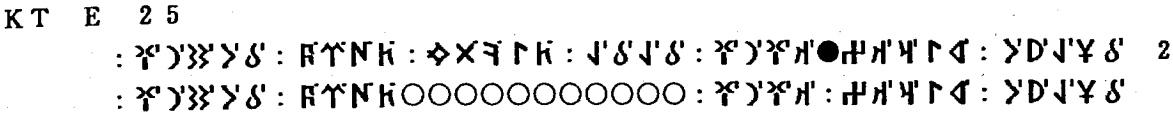


BQ E 20 ⇨ ☆

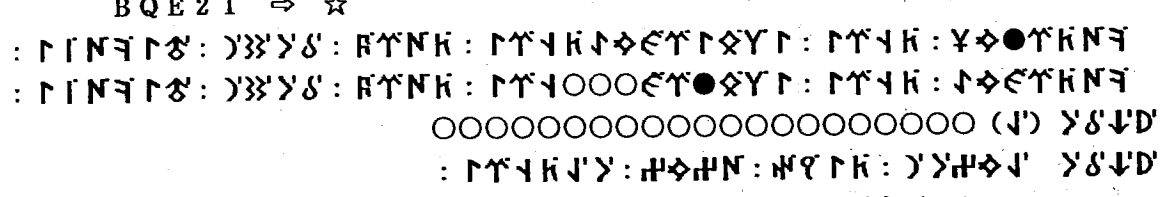


汝行きしなり 西へ 行く者ぞ 汝行くしなり。 行きし 地にて 汝の良き者ぞ
かくあらむ。 汝の血ぞ 水(sub)の如く 流れたり。 汝の骨ぞ (sü ŋ ük) 山の如く 置かれたり。
ベグたる 子息ぞ 奴となりたり。 婦人たる息女ぞ 婢となりたり。
知らざりし 故に. . . (マーロフ. yablaq ï ŋ ï n ü č ü n ä č i m qa ɣ an u č a bardï)

KT E 25

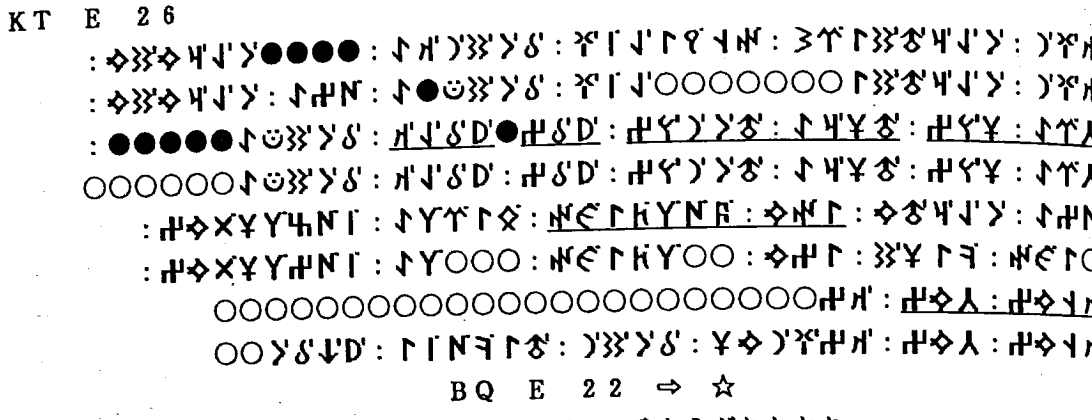


BQE21 ⇨ ☆



はじめに クルクズなる可汗を バルバルと 我したり。 トルコの 民を／の？
その名その名声ぞ なくあらすまい とて 我が父たる可汗を 我が母たる王妃をば
引き上げける 天ぞ 国与へし天ぞ トルコの 民なる 名ぞ名声ぞ
なくなら(せまいとて 我をば かの天ぞ)

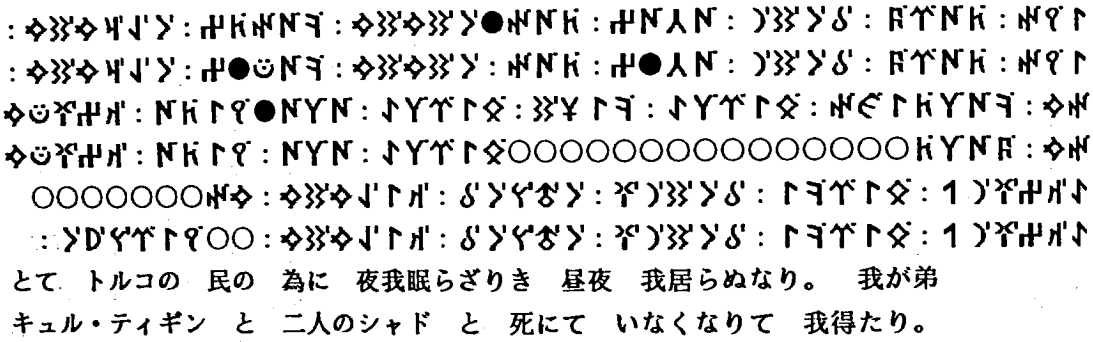
KT E 26



BQ E 22 ⇨ ☆

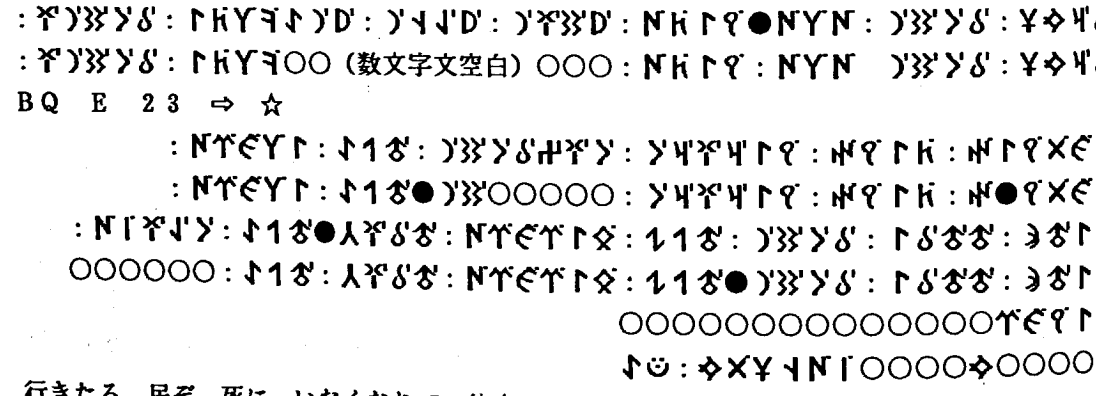
可汗と あらせたりあらむ。 如何程ぞ豊かな 民に 我あらざりしなり。
内に 食料なく 外に 衣服なく (taš ra tonsïz) いと悪き 悪き (yabïz yablaq) 民に
上に 我居りたり。 我が弟 キュル・ティギン と 我等語り合ひたり。
我が祖先ぞ 得 (q a z ɣ a n m i s . . .)

KT E 27



とて トルコの 民の 為に 夜我眠らざりき 昼夜 我居らぬなり。 我が弟
キュル・ティギン と 二人のシャド と 死にて いなくなりて 我得たり。
かく得て 且つ (b i r ā k i) 民をば 火・水 (o t s u b) と なさざりたり。
我 (b ā n) . . . 土地 毎に (s a y u)

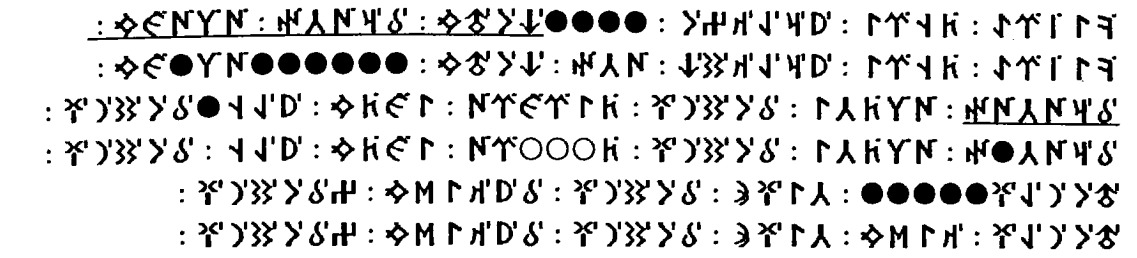
KT E 28



BQ E 23 ⇨ ☆

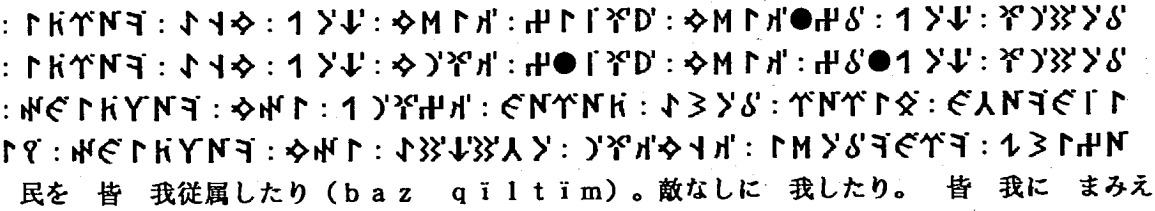
行きたる 民ぞ 死に いなくなりて 徒歩にて (y a d a ɣ ī n)
何もなしにて (y a l ī ŋ ī n) 戻りて 来たり。 民を
養ふ 為に とて 北へ オグズの民 に向かひて 東へ
キタニィ タタブ (奚) の 民 に向かひて 南へ タブガチ に向かひて 大 軍
2・20 (12) 度 (ā k i y ä g i r) . . . 我戦ひたり。 そこにて (「それより」が妥当か)

KT E 29



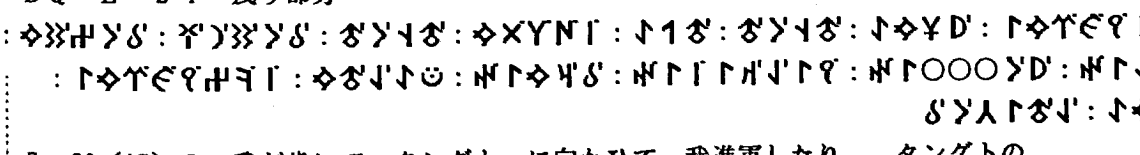
後に 天ぞ 天命を与へよ（tηri yarlïqazu）／BQ. 天命を与えし 故に 我が幸あるが故に
我が運 ある故に（qutïm bar üčün ülügüm bar üčün）
死すべき 民を 生き延びさせ 養せたり。 何もなき民をば
衣服持ちに 我なしたり。貧しき 民を 我豊かに（bay）したり。少なき民を
我多くしたり。気高き国持ちより. . .
注 bayはモンゴルのbayanと同じか。
チュワシュのpujanは一説にはモンゴルと言う。

KT E 30



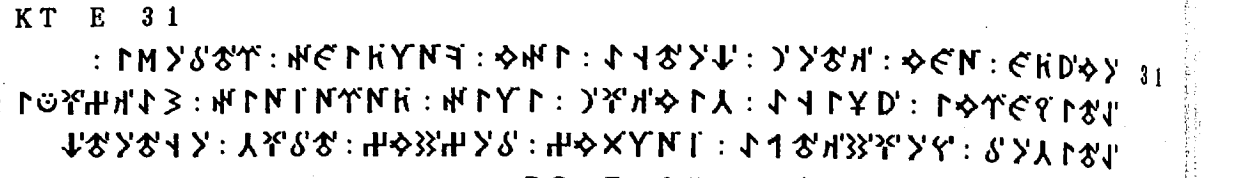
民を 皆 我従属したり（baz qïltïm）。敵なしに 我したり。 皆 我に まみえたり。
（BQは以下、下の点線の部分へ））
事を力を 与ふるなり。 かく 政を 得て 我が弟 キュル・ティギンぞ
自らかく（özi ančaköziničä） 死にたり。 我が父たる可汗ぞ 飛びし（死にし）に
我が弟 キュルティギン YI

BQ E 24 残り部分



7・20 (17) の 我が歳にて タングト に向かひて 我進軍したり。 タングトの
民を 我賦散らしたり。 その子を その妻女を（yotuzïn）
その馬群を（yïlqïsïn. yïlqïはyïlよりだとすると若い動物を指す？）
その物を そこにて我取りたり。8・20 (18) なる
我が歳に 六・州（胡. soγdaγ）

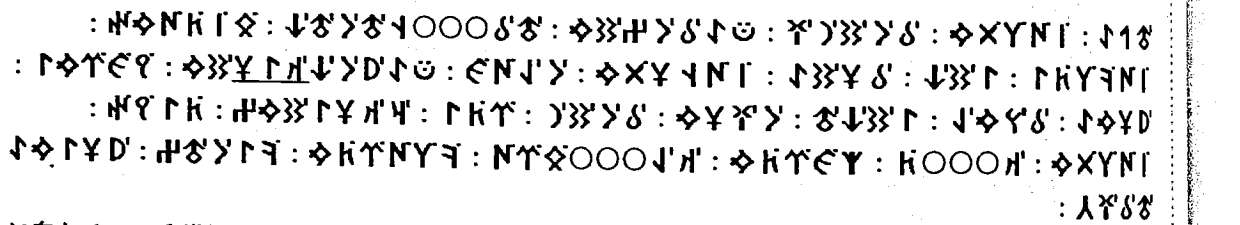
KT E 31



BQ E 25 ⇨ ☆

女神の如く（umay「*子宮」. 可能動詞u－よりの派生語か） 我が母たる 王妃の 幸運にて
我が弟 キュル・ティギンぞ 男たる名（är at）となりたり。
6・20（16）の 歳に 我が叔父たる可汗 その国をば その政をば かく得たり。
六州胡（altï čub soγdaγ）に に向かひて 戦を我等したり。タプガチの
オング都督（oη「王?」＋tutuq）
bist（bäs tümän「五萬」. . . か?）

BQ E 25



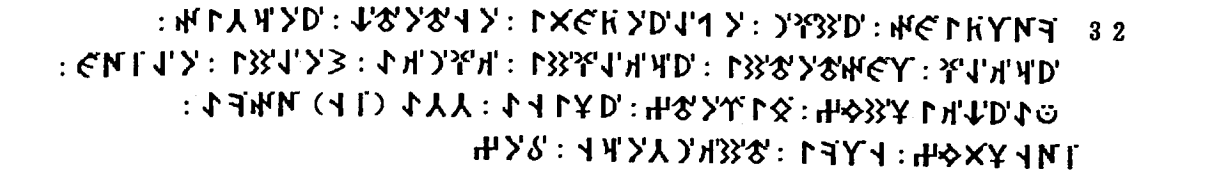
に向かひて 我進軍したり。 民を そこにて我蹴散らしたり。 タプ. . . η都督なる 五萬の
軍勢ぞ来たり。 ウドク・バシュ（īduq bas）にて 我戦ひたり。 その軍勢を
そこにてなきものにしたり（qīs－＝qīl－）。 20なる

我の歳に バスムル・ ウドク・クトぞ 我が部族の 民（oγusum bodun?）なりき。
隊商送らず とて

我進軍したり。 Q. . . T 我従へたり（ičgärtim）。残りしものを（qal（iη））
巡らして（äbrü） 持て来させたり。 2・30（23）なる 我の歳に

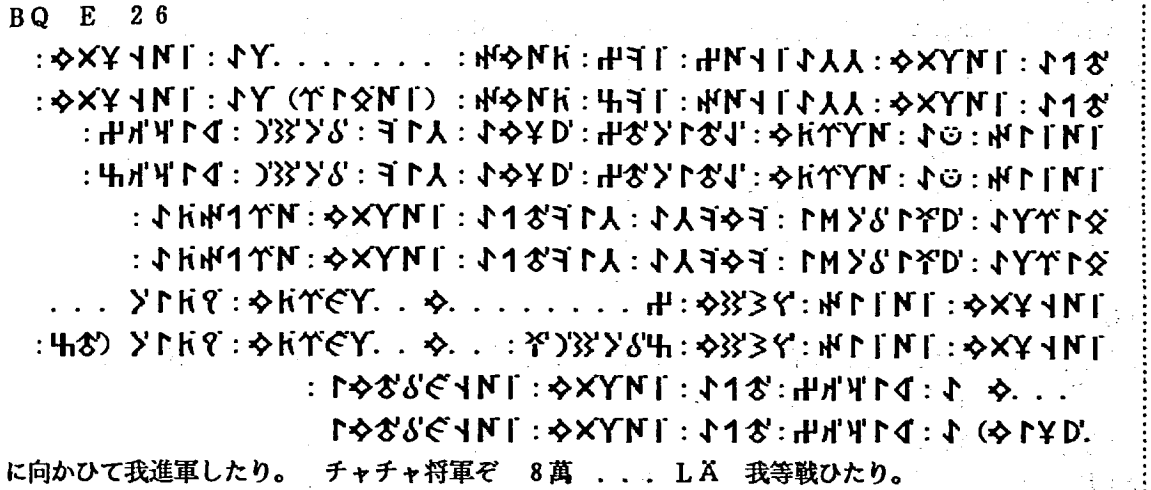
タプガチ

KT E 32



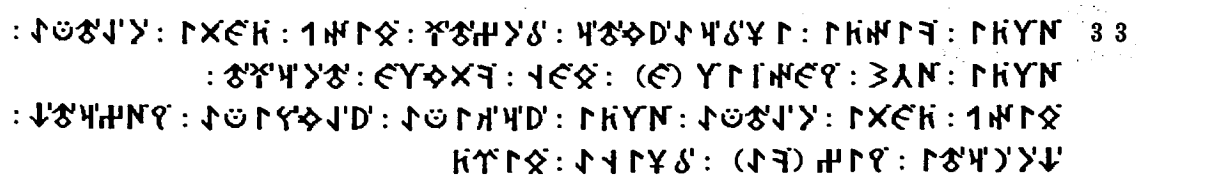
キュル・ティギンぞ 徒歩にて 急襲し到りしなり。 オング都督の 義理の兄弟（ｙｕｒč）を
武器持ちのまま（ｙａｒïｑｌïγ） その手にて捕らえたり（ä ｌ ｉ ｇ ｉ ｎ ｔ ｕ ｔ ｄ ï）。
武器持ちのまま（ｙａｒïｑｌïγｄï） 可汗に 差し出したり。 その軍を
そこにてなく我等したり（ｋ ï ｓ －＝ｋ ï ｌ －） 1・30 (21) の 歳に
チャチャ・セングュン「将軍」に（ここからBQ26）
我等戦ひたり。まず(aη ilki) タドゥクなるチョルの（ｔａｄïｑï η čorï η）灰色 (boz)なる. . .
注 Säηünの複数としてテルヒ（ン）碑文にｓ ä η ü ｔとある。

BQ E 26



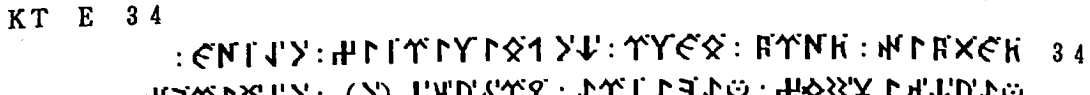
に向かひて我進軍したり。 チャチャ将軍ぞ 8萬 . . . LÄ 我等戦ひたり。
その軍勢を そこにて 我殺したり。 6・30 (26) 我が歳へ チクの 民ぞ クルクズ
とともに 敵となりたり。 ケム（エニセイ？）（を）越え チクに向かひて
我進軍したり。 オョルペンにて
我戦ひたり。 その軍勢をば 我刺したり。 アズ. . . M. . . L・我従へたり。 7・30 (27) . .
我が（歳）に クルクズ 向かひて 我進軍したり。

KT E 33



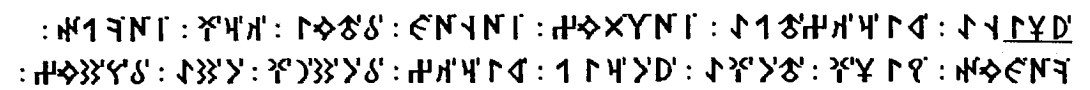
死にたり。 第二に イシュバラ・ヤムタルたる 灰色の馬（𐰴）をば 乗りて 到りたり。
その馬ぞそこにて
死にたり。 第三に イェゲン・シリグ・ベグなる 装り立てし（kädimlig） 栗毛（ｔｏｒïγ）馬
乗りて到りたり。その馬ぞそこにて死ぬなり。その武装にてその長衣（yalma)）にて 百越ゆる（artuq）
矢をば打ち込みたり。 その顔に（ｙ ｉ ｚ〔ｋ ä〕） その頭に ＢＩＲ Ｔ. . .

KT E 34



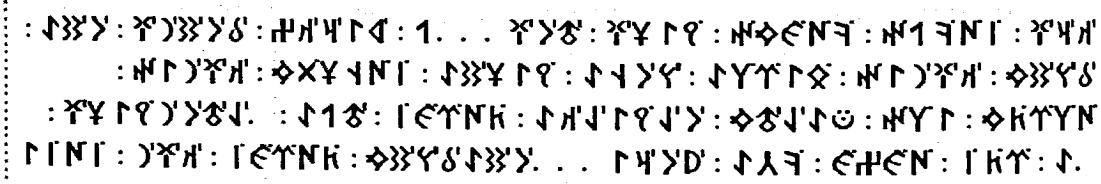
汝到りしなり。 トルコの ベグたちよ 皆知るなり汝ら。 その戦をば
そこにて我等なくしたり。 それより後 イル・バユルク（地方・部族）なる
大イルキン（俟斤 ilkin. 恐らくはベグよりは上の部族の長）ぞ
敵となりたり。 それをば 却りて トュルギ・ヤルグン 湖にて 我等打ち砕きたり。
大イルキンぞ 少なき（azqīńa）
者にて 逃れ 行きたり。 キュル・ティギン. . .

KT E 35



歳に（下線不明確） クルクズに向かひて 我等進軍せり。 槍（süηüg）ぞ 沈みし
雪（qarī）をば（BQ E 27） 掻き分け
コョグメンなる 森を 越え 行きて クルクズの 民をば 追ひて 我等攻撃したり。
その可汗 とともに ソンガの森にて 我等戦キュル・ティギンぞ バユルクン. . .

BQ E 27



雪を 掻き分け コョグメンの 森を 越え. . . p クルクズの 民を 追ひて
我攻撃したり。 その可汗 と ソンガの 森にて 我戦ひたり。 その可汗を
我殺したり その国を そこにて我取りたり。 その年に トュルギス に向かひて
黄金の森を（ɲ'の前の. は無関係か. アルタイ山脈？）
. A イルテス 河を 過ぎ 行（yorī. . .）追ひて我攻撃したり。 トュルギス 可汗の
軍勢ぞ
火の如く 嵐の如く 来たり。

KT E 36

: 𐰴𐰑𐰺𐰃𐰴 : 𐰍𐰚𐰇𐰖 : 𐰇𐰃𐰑𐰴𐰴𐰯 : 𐰍𐰚 : 𐰚𐰇𐰃 : 𐰇𐰋𐰍𐰕 : 𐰴𐰘𐰇𐰑𐰴 : 𐰑𐰋𐰇𐰃 36

: 𐰴𐰘𐰇𐰇 : 𐰋𐰇𐰋𐰑𐰃𐰴 : 𐰚𐰑𐰚𐰃𐰋 : 𐰑𐰋𐰴𐰯𐰑𐰘𐰃 : 𐰃𐰋𐰋𐰇𐰍𐰘𐰴 : 𐰇𐰃𐰃𐰉

𐰋𐰕 : 𐰃𐰋𐰑𐰇𐰚𐰑𐰴 : 𐰋𐰃𐰑𐰃 : 𐰋𐰃𐰴𐰇 : 𐰋𐰃𐰕𐰚𐰋 : 𐰋𐰇𐰴𐰚𐰚𐰋𐰕 : 𐰇𐰋𐰃𐰴𐰚𐰑 : 𐰇𐰃𐰑𐰴

乗りて 攻撃し 到りたり。 一 人を矢にて打ちたり。 二人を 厚く 越えて 突き刺したり。

かの者到りしに バユルクなる 白き雄馬（adγïr. 小アジアではaγɛ ɪr、モンゴルでは

aduγu、aγta）の 腰骨をば（udlïqïn） 折りて（siyu） 打ちたり。

クルクズの 可汗をば 我等殺したり。 その国をば 我等取りたり。 その年に TU

KT E 37

: 𐰚𐰴𐰃𐰑𐰴𐰃 : 𐰇𐰍𐰚𐰋𐰕 : 𐰋𐰋𐰃𐰇𐰘𐰴𐰴𐰇 : 𐰃𐰇𐰖 : 𐰍𐰋𐰍𐰋𐰇𐰕𐰚 : 𐰃𐰚𐰴𐰃 37

: 𐰃𐰇𐰘𐰴𐰃 : 𐰃𐰇𐰃𐰴 : 𐰃𐰃𐰴𐰇𐰇𐰴𐰃 : 𐰇𐰇𐰋 : 𐰴𐰚𐰘 : 𐰇𐰚𐰋𐰕 : 𐰃𐰋𐰃𐰃𐰚𐰃𐰃𐰴

: 𐰇𐰍𐰍𐰘𐰋𐰚𐰇 : 𐰃𐰋𐰴𐰃𐰴𐰚𐰃 : 𐰋𐰍𐰇𐰘𐰋𐰕 : 𐰋𐰋𐰍𐰕 : 𐰇𐰘𐰇

𐰖 : 𐰋𐰴𐰃𐰴𐰚𐰃

登りて エルテシ河を 渡りて 我等行きたり。 トュルギスの 民を

追ひて我等攻撃したり。 トュルギスの 可汗の 軍勢ぞ ボルチュにて (BQ28)

火の如く（otča） 嵐の如く（borča）

来たり。 我等戦したり。 キュル・ティギンぞ バシュグたる 灰色の馬 乗りて到りたり。

バシュグ・ボズ k. . .

BQ E 28

: 𐰋𐰘𐰚𐰕𐰋𐰃☺ : 𐰋𐰇𐰃𐰃𐰕 : 𐰋. . . 𐰃𐰇 : 𐰋𐰇𐰴𐰚𐰋 : 𐰋𐰋𐰍𐰕 : 𐰃𐰃𐰇𐰴𐰃𐰇𐰴𐰃

: 𐰇𐰇𐰴𐰇𐰚𐰑𐰇 : 𐰋𐰍𐰕𐰇 : 𐰃𐰇𐰚 : 𐰇𐰇𐰃𐰇𐰘 : 𐰃𐰋𐰕𐰇 : 𐰋𐰚𐰃 : 𐰋𐰚𐰇𐰃☺ : 𐰋𐰕𐰇

: 𐰋𐰇𐰘𐰇𐰕𐰖 : 𐰃𐰋𐰇𐰖𐰘𐰃𐰇 : 𐰇. . : 𐰋𐰘𐰕 𐰋 : 𐰇𐰴𐰇 : 𐰋𐰇𐰇𐰋. . : 𐰋𐰍𐰕𐰇

: 𐰇𐰇𐰃𐰇𐰘 : 𐰇𐰘𐰕𐰖 : 𐰇𐰇𐰚𐰋𐰴 : 𐰃𐰇, 𐰃𐰃. 𐰃 : 𐰇𐰘𐰇 𐰇𐰃 : 𐰋 𐰋𐰃𐰇 : 𐰋. . . . .

: 𐰇𐰃𐰚𐰕 : 𐰃𐰚𐰇 : 𐰇𐰃𐰃𐰃𐰴 : 𐰋𐰘𐰇𐰋𐰇

ボルチュにて 我等戦ひたり。 その可汗を そのヤブグを（yb. . . n） シャドを

そこにて我殺したり。

その国を そこにて我取りたり。 30の 我が歳へ ベシ・バルク に向かひて

我進軍したり。 六度

我戦ひたり。 . . . （s?）üsin「その軍勢をば」 皆 ö. rtm「我殺したり」

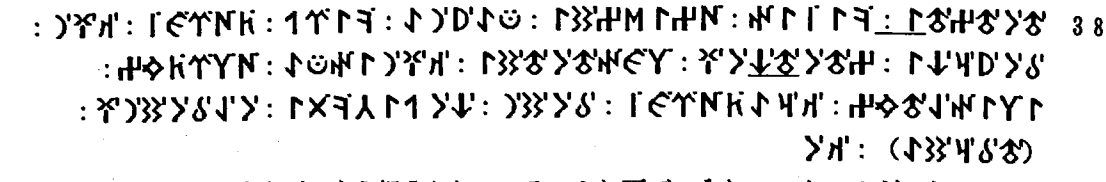
. . . q 内なる何たる 者より（kisi－tin）

. . . k yqü. n 者 b. d. ŋa 呼ぶべく（oqīγalī） 到りたり。

ベス・バルクぞ

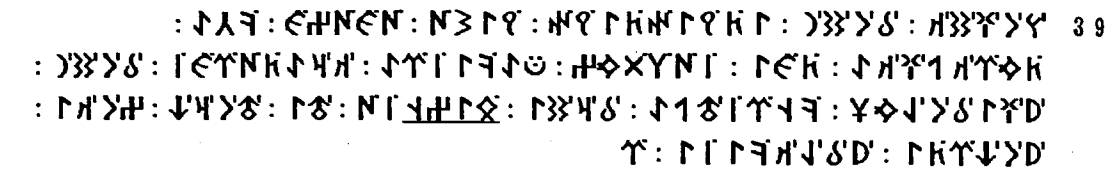
それが故に 逃れたり（ozdï）。 30 余り

KT E 38



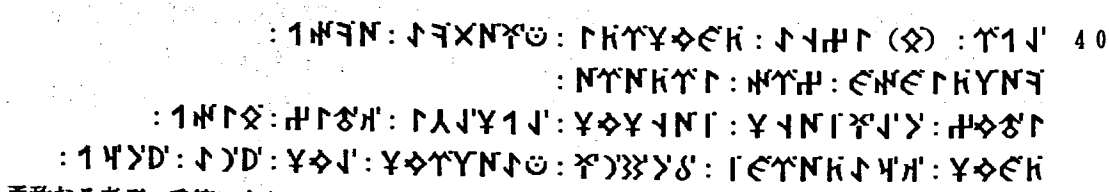
委ねたり. . . その二人をば 自ら捉えたり。 そこより再び 入りて トュルギスなる 可汗の
ブイルク（高官）たる アズ都督を その手にて捉えたり。 その可汗をばそこにて 我等殺したり。
その国を我等取りたり。 カラ・トュルギスの 民ぞ 皆 従ひたり。 その民をば
タバル（tabar?）にて 我等宿営させたり（qo. . .）

KT E 39



ソグダク（ソグディアナ） の 民ぞ 作らむとて 真珠 河をば 越え
鉄門に まで 我等進軍したり。 それより後 カラ・トュルギスの 民ぞ
敵となりけり。 ケンゲリス（康居. ペチェニェグの地域）を 越えて 行きたり。 我等が軍なる
馬ぞ 痩せ（toruq） 食料（azuq）ぞ
なくありけり。 悪き 者 R. . .

KT E 40



勇敢なる者ぞ 我等に向かひて （戦うべく）到りけるありたり。 かくの如き（antaγ）
時に 悔しがりて（ökün－üp）
キュル・ティギンを 少なき者を 到らせ（irtür－）
我等送りたり。 大なる戦をば 戦したり。 勇敢なるシャルチュ（salčï）なる 白き馬にて
乗りて
到りたるなり。 一般のトュルギスの 民をば そこにて我等殺しけり 取りけり。 再び 行きて

北面（ＫＴｂ乃至はＫＴ６41（１）として行数を表記。13行ある）

ＫＴ　Ｎ　１（４１）

[illegible] ４１

[illegible]

[illegible]

[illegible]

．．．と　ホシュ統督　と　我等戦ひたり。　男をば皆

我等殺しけり。　家を　富を　皆　持ち出したり（BQ29）。　キュル・ティギンぞ

７・30（27）の　歳に　カルルク　の　民ぞ

在り行く（往来する？）　時に（ärür　barur　ärigli）

敵となりたり。　タマク・ウドュク（霊泉の泉）

バシュ（シャーマニズムと関係する地名との説あるも不明）にて　我等戦ひたり。

注　原文下線部分．トムセンは〔．．．〕ｉｎ、ラドロフは[illegible]（○○○○）でｔｅｇｉ－ｐｅｎ、フィン図版ではK[1] L[1] ＩS[2] Z、マーロフ・テキストではｋ（ａ）ｌｉｓ（ｉ）ｚ。

ＢＱ　Ｅ　２９

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

１（ＢＱ２８よりして３１）の　我の歳に　カルルクの　民ぞ　害なく．ür　行く　時に

敵となりたり。　タマグ・イドゥク　バシュにて　我戦ひたり。　カルルクの　民を

我殺したり。　そこにて我取りたり．．．DM　．．ML　．．．DUD．．カルルクの　民

ＴＩＲ．．．我刺したり。　U．．TU．．Z　我が　我が民なりき。

天ぞ　地ぞ　混沌なるが（ｂｕｌγａｑïｎ）　故に　時の（？）

ＫＴ　Ｎ　２（４２）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

．．．ティギンぞ　その戦にて　３０歳生き永らえるありたり。　勇士シャルチなる

白きをば　乗りて

攻撃し到りたり。　二　人をば　厚く（太股を）　越えて（ｕｄ　ａšｒｕ）

刺したり　カルルクをば　我等殺したり

我等取りたり。　アズの民ぞ　敵となりたり。　カラ湖にて　我等戦したり。

キュル・ティギンぞ　１・40（31）　生き永らえる　ありたり。　勇士シャルチたる　白きを

KT N 3 (43)

43

乗りて攻撃したり。 アズのイルテベルをば 捉えたり。 アズの民ぞ そこにてなくなりたり。
我が父たる可汗なる 国ぞ 衰え (qamsaγ) なりしに 民ぞ
国ぞ二つのもの (ikägi)
なりしに イズギルの 民 と 我等戦ひたり。 キュル・ティギンぞ
勇士シャルチなる 白きを 乗りて

KT N 4 (44)

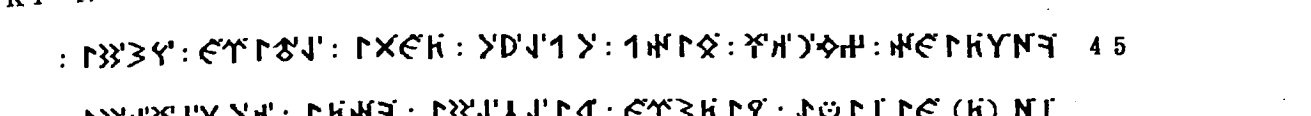
44

(OPL. . . DI〔oplayu tägdi「攻撃し到りたり」)。
かの馬そこにて tüs. . . izgil「倒れ. . . イズギル. . . 」 死にたり。
トクズ・オグズ (九姓鉄勒) なる 民ぞ 自ら (käntü) 我が民 なりき。 天ぞ 地ぞ
混沌 (bulγaq) なるが 故に 敵となりたり (BQ30. 大体)。 一年に 五道 (度)
我等戦ひたり。 まず (aη ilk) トグ・バルク (toγu balïq) にて 我等戦したり。

BQ E 30

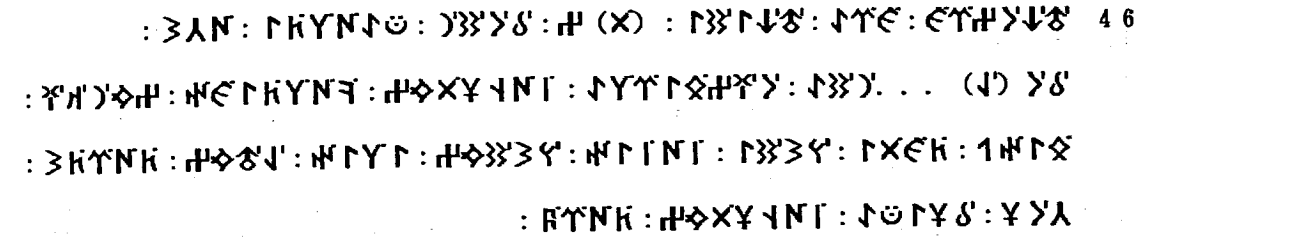
KU? (N) I「拓み」 到りし 故に 敵となりたり。 一年に 四
度 (道) 我戦ひたり。 まず トグ バルクにて 我戦ひたり。 トグラ 河を
泳きたり (yüzti)。 過ぎて SU. . . 次に (ikinti) アントルグにて
我戦ひたり。 その軍勢をば
我刺したり。 . . . üčünčü「三度目に」. . . ηsDM トルコの 民ぞ
足ぞ震えたり (adaq qamsat (t) ï)。 悪く

KT N 5 (45)



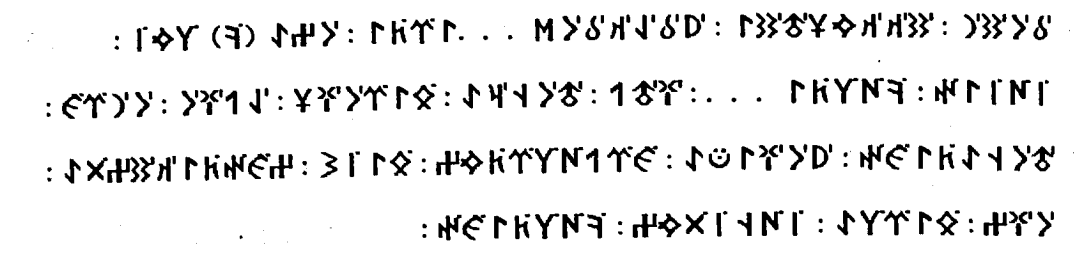
キュル・ティギンぞ アズマンなる白きを 乗りて 攻撃し到りたり。 六人をば 刺したり。 戦闘 (s ü t ä g i s) にて 七番目なる者をば 刀にて切りたり。 次に クシュホアルガクにて エディズと 我等戦ひたり。 キュル・ティギンぞ アズの民のヤグズ (栗毛) を 乗りて 攻撃し 到りて 一人を 刺したり。

KT N 6 (46)



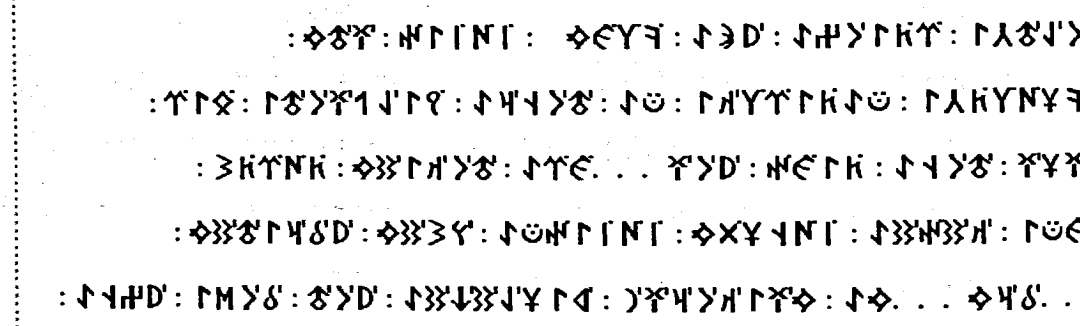
九人を 追ひて (ä g i r ä) 打ちたり。 エデズの 民ぞ そこにて死にたり。 三度目に BOL. . NDA オグズと 我等戦ひたり。 キュルティギンぞ アズマンなる白きを 乗りて 到りたり。 刺したり。 その軍勢をば 我等刺したり。 その国を 我等取りたり。 四度目に チュス・バシュにて 我等戦ひたり。 トルコの

KT N 7 (47)



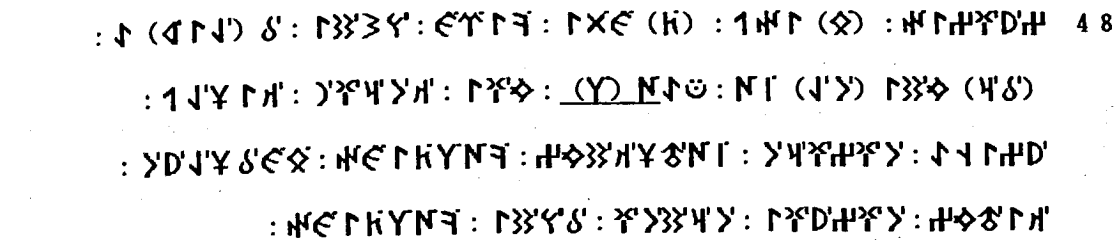
民ぞ 足衰えたり。 悪くなり (BQ31)... I・ありたり。 逃げ (oza) 来りし
軍勢をば キュルティ... 立ち上がらせ トングラ 一族なる 勇者たち 十人をば
トンガ・ティギンの 葬式 (廟? yoγ) にて 追ひて
我等殺したり (ägirip öltürtimiz)。 五度目は エズギンティ・カドゥズにて
オグズ と 我等戦かひたり。 キュル・ティギンぞ

BQ31



(悪く) ならむ ありき・逃げ 再び 来る その軍勢をば我登らせたり (aγït〔t〕im)。
多く死ぬ者ぞ そこにて集まりたり。 そこにて トングラ イルバグトなる 一
族を トンガ ティギンの 葬式 (廟?)... GRÄ 我打ちたり (toqïdïm)。 四度目に
エズグンティ カドゥズにて 我戦ひたり。 その軍勢をばそこにて 我刺したり 我滅ぼしたり。
... BRM... MA アムグ・クルガン (にて) 冬営したるに 飢え (yut)
ありたり。 その夏に (yazïŋa)

KT N 8 (48)



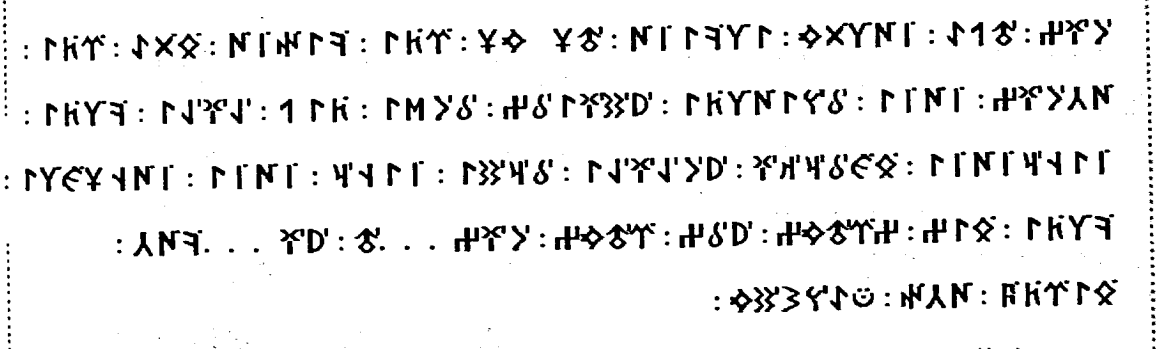
アズ・ヤグズを 乗りて 到りたり。 二人をば 刺したり。 バルク「町? 沼地」にて

刺したり (basïqdï)。 その軍勢ぞ そこにてδl (ti?)「死にたり」。 アムグ
クルガン (にて) 冬営し (qïslap)

夏 (yaz「qïsに対する春夏」) に オグズに向かひて (BQ32) 軍勢ぞ 我等出立したり。
キュル・ティギン ベクをはじめとして

我等送りたり。 オグズなる敵の 陣をば 襲ひたり。 キュル・ティギンぞ

BQ32



オグズ に向け 我進軍したり。 第一なる軍勢ぞ 出立しけり ありき。 第二の軍勢ぞ

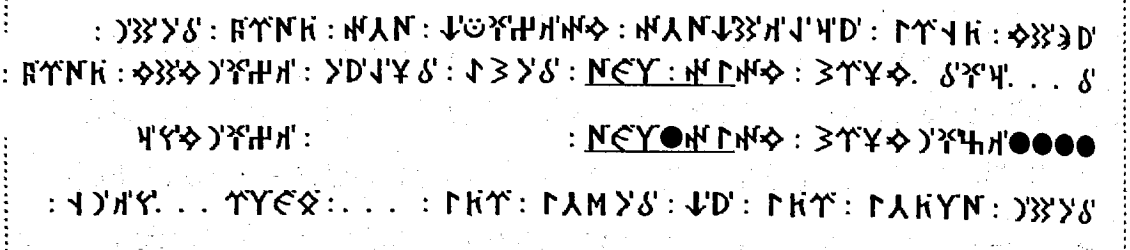
陣営にて ありき。 三のオグズ/ウチ・オグズの 軍勢ぞ 攻撃し (bas-ï) 死にたり。
徒歩にては (yadaγ-ï) 腫れ物 (bäz) なりたり

とて 取るべく 来たり。 片翼の軍勢ぞ 陣営を äbig) 物を (barqïγ)
奪ふべく (yulïγalï) 行きたり。

(もう) 片方の 軍勢ぞ 戦ふべく 来たり。 我等 少なく我等ありたり。 悪く
我等ありたり。

せんズ. . . T YΓ. . . 力 与へし 故に そこにて我刺したり。

BQ33

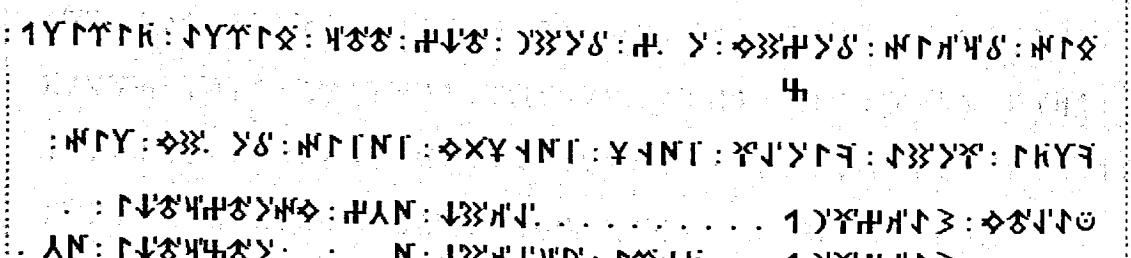


我戻りたり。 天ぞ 天命を与へし故に 我勝ちし故に トルコの 民ぞ
b. r ɣ b. m s r n č／勝ちけり・あらむ。 我・弟と（i n i－l i g ü. 共同格的?）

かくの如く 頭として 勝たざれば トルコの

民ぞ 死なむ ありしぞ。 なく ならむ ありしぞ。 . . . ベグ達 . . . 汝等思へ
かく汝等知れ オグズ b u. . . d. . 我送らぬように とて 我進軍したり。

BQ34



その陣営を その物を 我砕きたり。 オ（グ）ズの 民ぞ トクズ・ タタル と 集まりて
来たり。 アグにて 二つの大なる 戦ひ 我戦ひたり。 その軍勢をば 我砕きたり。 その国を
そこにて我取りたり。 かく勝ちて. . . 天命を 与へし 故に 我自ら U. . . 30余り 3.
Qありき。 UDSG UTULG KUC

BQ35

: ᠯᠣᠰᠤᠯ : ᠴᠢᠨᠠ. . . ᠣᠰᠤᠭᠤᠭ : ᠤᠷᠬᠤ : ᠯᠠᠭᠤᠨ ᠬᠠᠨ ᠯᠠᠭᠤᠨ. . . ᠨᠠ : ᠥᠮᠦᠭᠡᠯ
: ᠯᠣᠰᠤᠯ : ᠴᠢᠨᠠ. . . ᠣᠰᠤᠭᠤᠭ : ᠤᠷᠬᠤ : ᠯᠠᠭᠤᠨ. . . . . ᠥᠮᠦᠭᠡᠯ

: ᠤᠷᠬᠤ : ᠮᠣᠯᠣᠰᠤᠭᠤ : ᠮᠠᠭᠤ : ᠴᠢᠷᠬᠤᠰ : ᠬᠠᠨ : ᠬᠤᠯᠤᠭᠠ : ᠪᠠᠶᠢᠵᠤ ᠤᠯᠤᠰ ᠤᠭ
: ᠤᠷᠬᠤ : ᠮᠣᠯᠣᠰᠤᠭᠤ : ᠮᠠᠭᠤ : ᠴᠢᠷᠬᠤᠰ : ᠬᠠᠨ : ᠬᠤᠯᠤᠭᠠ : ᠪᠠᠶᠢᠵᠤ (ᠤᠯᠤᠰ) ᠤᠭ

: ᠮᠠᠭᠤᠮᠡᠯ : ᠯᠠᠭᠠᠭᠠ : ᠤᠪᠤᠭᠤ. . . : ᠴᠢᠷᠬᠤᠰ : . . . ᠠᠶᠣᠰᠲᠠ : ᠯᠣᠰᠤᠯ : ᠬᠠᠭᠠᠨᠠᠶᠣᠰᠲᠠ
: ᠮᠠᠭᠤᠮᠡᠯ : ᠯᠠᠭᠠᠭᠠ : ᠤᠭᠤᠭᠤ. . . : ᠴᠢᠷᠬᠤᠰ : . . . ᠠᠶᠣᠰᠲᠠ : ᠯᠣᠰᠤᠯ : ᠬᠠᠭᠠᠨᠠᠶᠣᠰᠲᠠ

. . . ᠪᠣᠯᠵᠤᠭᠤ. . . ᠣ
. . . . ᠴᠢᠷᠬᠤᠰ : ᠮᠠᠭᠤ ᠯᠠᠭ

養ひけり。 q. . . sηltisüzä「上に」 天ぞ 聖なる 地水. . . 可汗 幸運

是とせず（Taplamadï） トクズ オグズの 民の 地を 水を 送りて

タプガチへ向かひて 行きたり。 タプガチ. . . 民 . . . yrnčä 来たり。 我養はむ

とて 民を

BQ36

: ᠤᠨᠤ : ᠤᠭᠲᠠᠭ ᠴᠢᠨ : ᠯᠮᠴᠢᠨᠤᠯᠤᠭ : ᠯᠢᠨᠭᠯᠠᠭᠠᠨ : ᠤᠭᠤᠯᠠᠭᠠᠨ : ᠤᠭᠲᠠ. . . ᠪᠤᠨᠤᠭᠰᠠᠭ
: ᠤᠨᠤ : ᠤᠭᠲᠠᠭ ᠴᠢᠨ : ᠯᠮᠴᠢᠨᠤᠯᠤᠭ : ᠯᠢᠨᠭᠯᠠᠭᠠᠨ : ᠤᠭᠤᠯᠠᠭᠠᠨ : ᠤᠭᠲᠠᠯᠤᠭ. ᠪᠤᠨᠤᠭᠬᠠᠭ

. . . ᠪᠣᠯᠵᠤᠭᠤ : ᠬᠦᠨᠬᠠ : ᠮᠠᠯᠠᠨ : ᠤᠨᠳᠤᠭᠬᠠᠨ᠂ : ᠴᠢᠨᠠ : ᠤᠮᠠᠨ : ᠮᠣ : ᠯᠮᠴᠢᠨᠤ : ᠬᠴᠠᠭ
. . . . ᠴᠢᠷᠬᠤᠰ : ᠬᠦᠨᠬᠠ : ᠮᠠᠯᠠᠨ : ᠤᠨᠳᠤᠭᠬᠠᠨ᠂ : ᠴᠢᠨᠠ : ᠤᠭᠠᠨ : ᠮᠣ : ᠯᠮᠴᠢᠨᠤ : ᠬᠴᠠᠭ

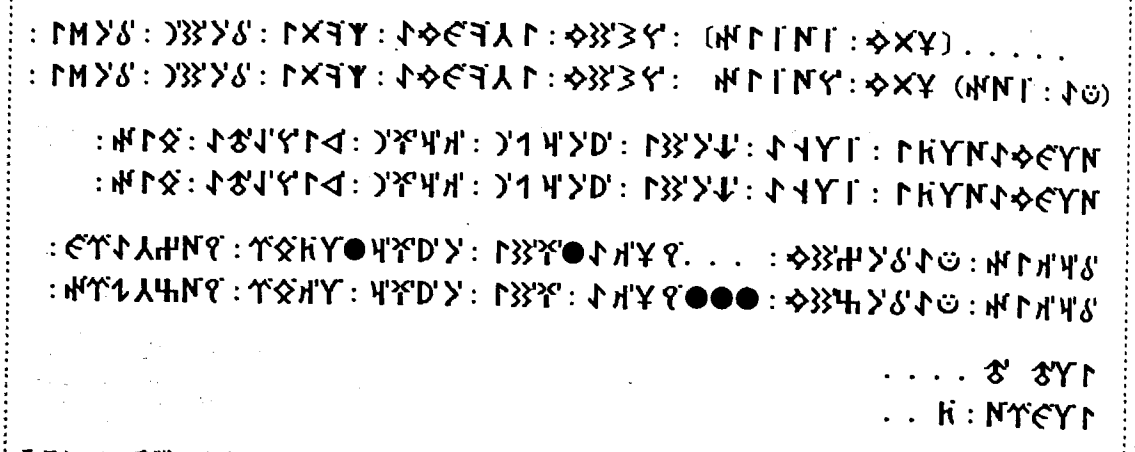
ᠲ : ᠯᠤᠲᠤᠯᠠ. . . . . ᠤᠴᠦᠭᠡᠭ : ᠤᠨ. ᠲ : . . . . . ᠤᠴᠦᠭ. . . . . ᠨ
ᠲ : ᠯᠤᠲᠤᠯᠠ. . . ᠴᠢᠷ : ᠤᠴᠦᠭᠠᠭ● ᠯᠣᠭᠣᠲᠤ : ᠪᠣᠨᠲᠣᠨᠠᠪᠤᠯ ᠯᠤᠤᠴᠤᠨ᠂ ᠯᠠᠭ : ᠯᠤᠲ. . . ᠨ

迷ふ（yazuqlat. . .）南へ タプガチにて その名ぞ（atï）その名声ぞ（küsi）
なくありたり。 この地にて 我に

奴 となりたり。 我 我自ら 可汗 と我居りしが 故に トルコの 民を

ü. . . ri 我造らざりき。国を政を より良く 我得たり。 ID. . . 集まりて y.

BQ37



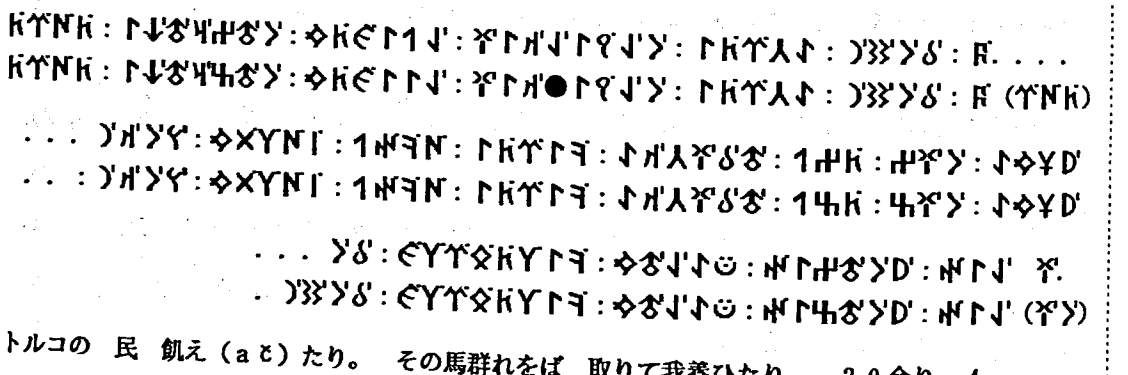
そこにて　我戦ひたり。　その軍勢を　我刺したり。　従ふは　従ひたり。　民と　なりたり。

死ぬは死にたり。　セレンゲ　下り　行きて　q r ɣ n　q ī s l t a「カルガンの谷にて」
その陣営を

その財産を　そこにて我砕きたり。　. . . 森に　登りたり。　ウイグルの　エルテベルぞ
百程の者にて

西へ　t

BQ38

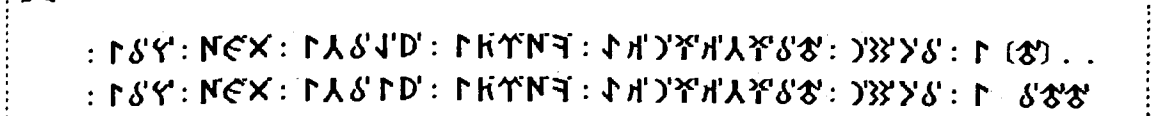
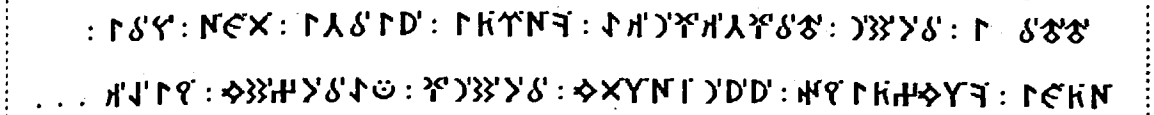


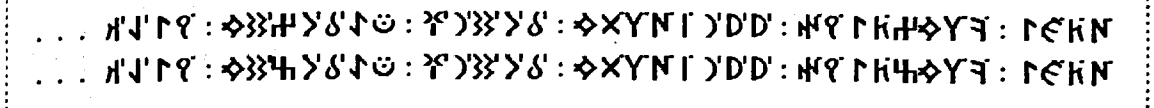
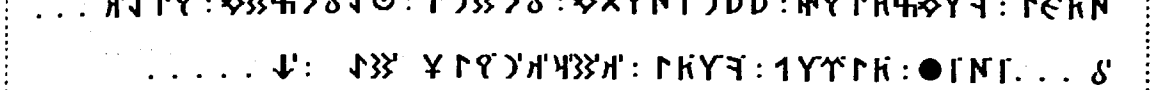
トルコの　民　飢え（a ţ）たり。　その馬群れをば　取りて我養ひたり。　３０余り　4

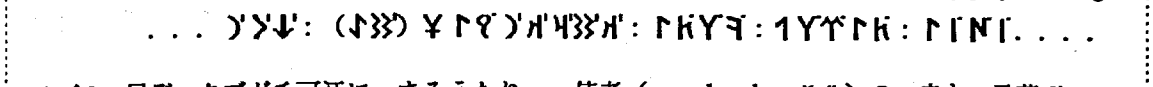
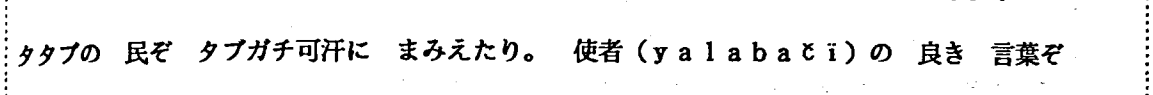
我の歳に　オグズぞ　逃げて　タブガチへ　従ひたり。　悔しがりて　我進軍したり。　s u q n. .

その子を　その妻を（占い文書にも類似の表現が見える）そこにて我取りたり。
二つのエル・テベル持つ　民. .

BQ E 39

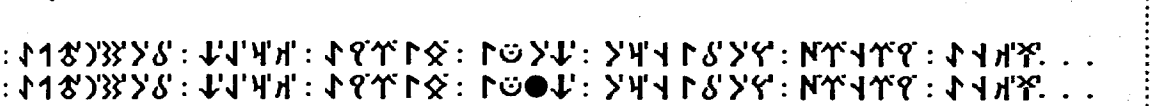



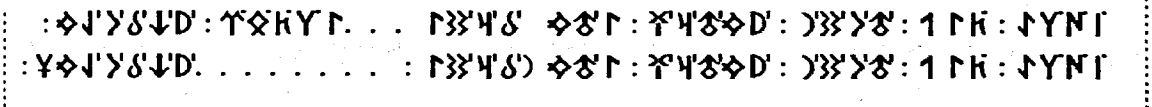
タタブの 民ぞ タブガチ可汗に まみえたり。 使者（ｙａｌａｂａčｉ）の 良き 言葉ぞ

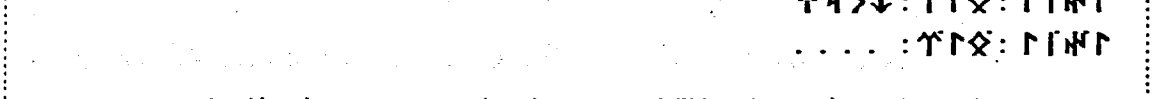
貢物（ǒｔüｇ）ぞ 来たらずとて 初夏（春）我等進軍したり。 民をば そこにて砕きたり。

b. . . 軍勢ぞ 集まりて 来たり。 カドゥルカンの森にて ｑｕｎ. . .

BQ E 40





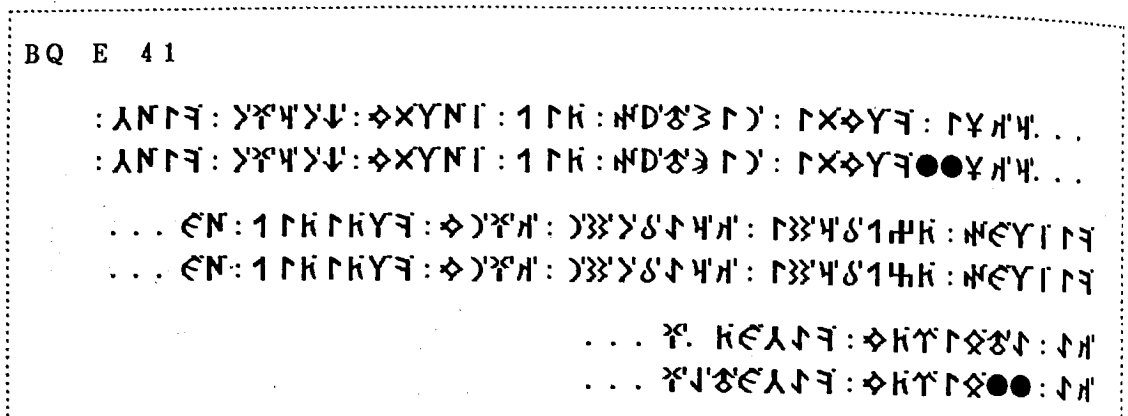


. . . ɣｑɳａ その地に向かひて その水に向かひて 宿営したり。 南へ カルルクの民に向かひて

進軍せよ とて トュドュン（吐屯） ヤムタルをば 我送りたり 行きたり. . . イルテベルぞ なくなりけり

その弟ぞ 或る（—） ｑｕｒɣ

BQ E 41

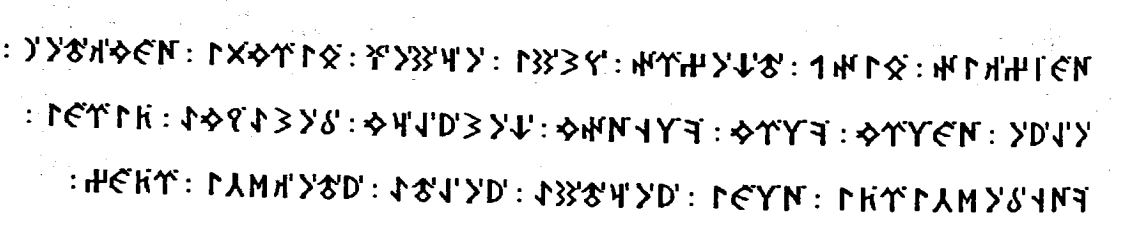


. . . その隊商ぞ 急がざりたり（yälmädi.「遅れた」）。
それを我言わせむ（anï ayïtayïn）／我恐れむ とて
我進軍したり。 qurγu 二三なる

者と（共同格的） 逃げて行きたり。 一般の民なる我が可汗ぞ 来たりとて 讃え（ög. . .）

QA 名我与えたり。 小さき名持ちを. . .

KT N 9 (49)



母なしなる 白を 乗りて 九人をば 刺したり。 陣をば 与へざきり。 我が母たる王妃

続きて 我が義理の母達（ögälärim） 我が姉達（äkälärim）
我が嫁達（kälinηinim） 我が公主達（qunčuylarïm）
かくの如く又 生き残る者（tirig）ぞ

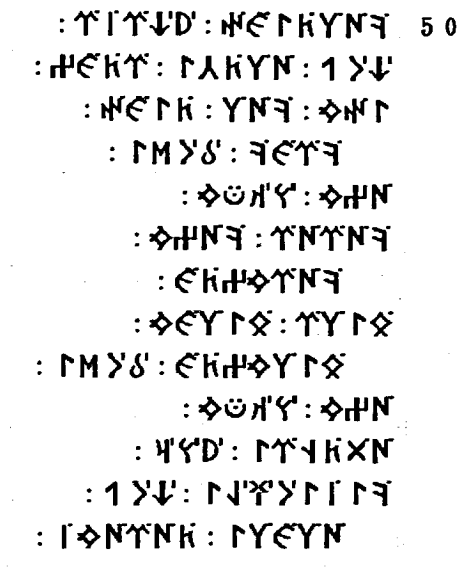
婢とならむありたり。 その死せる者（ölüg）ぞ 天幕に 道に 横たわり 残らむ
汝らありしぞ。

KT N 10－11（KT b 50－51）

次の部分は最も格調の高い部分である。

KT N 10（50）

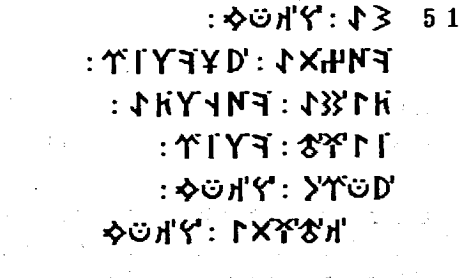
Kül－tig（i）n y（o）q－（ä）rs（ä）r
qop ötl（ä）či （ä）rt（i）g（i）z
in（i）m kül tig（i）n
k（ä）rg（ä）k boltï.
öz（ü）m s（a）q（ï）nt（ï）m
körür köz（ü）m
körm（ä）z－t（ä）g
bil（i）r bilig（i）m
bilm（ä）z－t（ä）g
özüm s（a）q（ï）nt（ï）m.
öd－tηri y（a）s（a）r
kisi－oγlï qop
ölg（ä）li törüm（i）s.



50

KT N 11（51）

ančа s（a）qnt（ï）m.
közdä y（a）ş k（ä）ls（ä）r
（ä）ti－da köη（ü）ltä
siγ（ï）t k（ä）ls（ä）r
y（a）ntru s（a）qïnt（ï）m
q（a）t（ï）γ－di s（a）qïnt（ī）m



51

キュル・ティギン なく ありせば
皆 死ぬべく 汝等ありしぞ。
我が弟 キュル ティギン 死にたり。
我自ら 思ひき
見る 我が眼 見ぬものの＋如く
知る 我が知恵 知らぬものの＋如く なりたり。
我自ら 思ひき。（右上へ）

時を 天は 治むるなり（。）
人の子 皆 死すべく 生まれけり。

かく 我思ひき
眼より涙溢るる（流るる）に
大いに（？）心より
悲しみの叫び こみあぐるに
逆に我思いき しかと我思いき

現代トルコ語訳
現代ハンガリー語訳

ORKUN　オ Kül tigin yok olsa idi;
BTK I　B Köl tigin olmasaydı,
T. TEKIN テ Kül Tigin yok olsa (idi)
KÉPES　ケ Kül tegin ha nincs ott,
KAKUK　カ Kül tegin ha nem lett volna,

オ hep ölecek idiniz. (?) 〔テも同じ〕
B hepiniz ölecektiniz.
ケ mind egy szálig ott pusztultok!
カ Én öcsém, Kül tegin,

オ Küçük kardeşim vefat etti.
B Kardeşim Köl tigin vefat etti.
テ Kardeşim Kül Tigin vefat etti.
ケ De öcsém kül tegin / nincs már köztünk
カ Én öcsém, Kül tegin, nincs már többé!

オ Ben yaslandım.
B ———
テ Kendim yas tuttum.
ケ Én Bilge kagán/gyászba borulva/sírok, kesergek.
カ Csak szomorkodom,

オ Görür gözüm görmez gibi;
B görür gözüm görmez gibi,
テ Gören gözlerim görmez gibi,
ケ Szemem szemlél szemetlen
カ látó szemem mintha nem látna,

オ bilir bilgim bilmez gibi oldu.
B bilir aklım bilmez gibi oldı.
テ eren aklım ermez gibi oldu.
ケ értő értelmem értetlen ámul,
カ értő elmém mint ha nem értene.

オ Ben yaslandım.
B Düşündüm.
テ Kendim düşünceye daldım.
ケ ímígy kesergek.
カ Bánat borult reám.

オ Zamanı Tanrı takdir eder;
B Ebedî olarak Tanrı yasar,
テ Zaman Tanrısı buyurunca

ケ Ég rendel üdőt,
カ De az ember fia mind arra teremtett, Ég
rendelte idő, mikor elérkezik,

オ kişi oğlu hep ölmek için türemiş.
B kişi oğlu hep ölmek için yaratılmış.
テ insan oğlu hep ölümlü yaratılmış.

ケ ember fiát mind halálnak teremté——
カ meg kell halnia.

オ Böyle yaslandım.
B diye düşündüm.　　ケ kínban kesergek.
テ öyle düşündüm.　　カ Így szomorkodtam

オ Gözden yaş gelerek,
B Gözden yaş gelse
テ Gözlerimden yaş gelse engel olarak,

ケ Szemen könny marja,
カ Míg szememből könny ömlött,

オ etten (?), gönülden
B önleyerek, gönülden
テ gönülden

ケ zsigerem sóhaj té
カ szívemből zokogás szakadt,

オ feryat gelerek
B çığlık gelse　　ケ (上を参照)
テ feryat gelse　　カ újra csak búslakodtam,

オ yanıp yakıldım. Çok fazla yaslandım.
B geri çevirerek düşündüm. İyice düşündüm.
テ geri çevirerek yas tuttum. Çok yas tuttum.

ケ mindétig kesergek, küszködve kesergek.
カ mélyen szomorkodtam.

KT N 11 (続き)

:𐰴𐰚𐰃:𐰴𐰍𐰏𐰣:𐰴𐰚𐰇𐰜:𐰴𐰋𐰘𐰣 (𐰍𐰋) 𐰃:𐰚𐰃𐰇𐰚:𐰖𐰽𐰇 (き続)
:𐰃𐰉𐰍𐰃𐰆:𐰃𐰉𐰜𐰚𐰃:𐰴𐰺𐰇𐰽:𐰇𐰃𐰆𐰃𐰉𐰘𐰚:𐰇𐰇𐰃𐰍𐰃:𐰃𐰽𐰇𐰋𐰘𐰇
:𐰚𐰃𐰇𐰽𐰍:𐰚𐰖𐰚:𐰴𐰉𐰍𐰍:𐰇𐰃𐰋𐰇

二人のシャド 続きて 我が弟たち (iniyigünüm) 我が息子たち
我がベグたち 我が民なる
目ぞ・眉ぞ 悪くならむとて 我思ひたり。 泣く者 (yoγčï) 哀しむ者 (siγïtčï) ぞ
キタニィ タタブゥの 民 を頭に

KT N 12 (52)

:𐰃𐰆𐰽𐰇:𐰇𐰇𐰃𐰚:𐰃𐰋𐰆𐰃:𐰾𐰺𐰋𐰇𐰉𐰋𐰍:𐰃𐰆𐰽𐰇:𐰘𐰘𐰆𐰇:𐰘𐰘𐰆𐰇𐰖𐰖𐰚 52
:𐰾𐰺𐰋𐰇:𐰆𐰘𐰇𐰘𐰆:𐰃𐰆𐰏𐰘𐰽𐰇:𐰇𐰆𐰇𐰋𐰽𐰇:𐰥𐰴𐰘𐰇𐰚𐰚𐰍:𐰃𐰋𐰘𐰴𐰋𐰏𐰃𐰋
:𐰏 (𐰇) 𐰇𐰋𐰴:𐰖𐰋𐰚𐰽:𐰃𐰇𐰖𐰇𐰏𐰋𐰍:𐰘𐰘𐰇:𐰾𐰃𐰇𐰚𐰇:𐰃𐰆𐰽𐰇:𐰘𐰽𐰘𐰴
:𐰃𐰆𐰽𐰇:𐰚𐰇𐰇𐰋𐰍𐰋𐰚:𐰘𐰘𐰍𐰆𐰍𐰘:𐰾𐰺𐰖𐰚𐰍:𐰆𐰍𐰚𐰇𐰇𐰇𐰚𐰍

ウダル将軍ぞ 来たるなり。 漢の可汗より isyi likiηぞ 来たるなり。
一萬の贈り物をば 金銀をば 欠くることなく (kärgäksiz) 持て来たるなり。
トョポョットの 可汗より
大臣 (bölün) ぞ 来たるなり。 西へ 陽の 沈む所なる ソグドの
BRČ (K) Rぞ (Bärčäk är「ペルシア?の者」、bir čik är等?)
ブカラク (ブハラ) の町 (ulus) の 民より ネング/エネン将軍ぞ オグル・タルカンぞ
来るなり。

KT N 13 (53)

:𐰾𐰴𐰃𐰆𐰇𐰚:𐰃𐰇𐰴𐰋𐰍:𐰇𐰇𐰇𐰋:𐰾𐰺𐰋𐰇:𐰆𐰴𐰾𐰘𐰍:𐰋𐰃𐰘𐰋:𐰇𐰃𐰚:𐰖𐰍𐰚 53
:𐰇𐰇𐰍:𐰃𐰆𐰽𐰇:𐰇𐰚𐰇𐰖𐰍𐰃:𐰥𐰚𐰖𐰇𐰍:𐰾𐰺𐰋𐰇:𐰘𐰇𐰇𐰇𐰃𐰆:𐰃𐰆𐰽𐰇:𐰃𐰇𐰴𐰍
:𐰇𐰋𐰍𐰍:𐰃𐰇𐰘𐰴𐰆𐰃:𐰥𐰍𐰴𐰆𐰃𐰋:𐰾𐰋𐰋𐰍𐰇𐰇𐰇:𐰘𐰓𐰋:𐰃𐰇𐰘𐰴𐰆𐰃
:𐰃𐰆𐰽𐰇:𐰘𐰘𐰇𐰆𐰇𐰇:𐰃𐰚𐰇𐰃𐰇:𐰚𐰇𐰇𐰋

オン・オクたる 我が子たる トュルギス 可汗の所より マカラチ (マハラジャより?) なる
タムガチ (印璽宰相) ぞ オグズなる賢き
タムガチぞ 来たるなり。 クルクズ 可汗の所より タルドュシなる イナンチ・チュル (称号)
来るなり。 廟 造る者ぞ (barq
itgüči) 飾り 造る者ぞ (bädiz yaratïγma) ぞ 文字石
造る者ぞ (itgüči) ぞ タブガチ
可汗なる 甥なる チャング将軍ぞ 来たるなり。

KT NE（北東面. マーロフのＫＴ６では別枠で記す。年号に注意）

キュル・ティギンぞ 羊の 年に（７３１年） １７（７ ２０）にて 行き（飛び）たり。
九番目の 月 ２７（７ ３０）に 埋葬（葬儀） 我等せしなり。 廟の 葬式をば
文字 石（をば） 猿の 年に（７３２年） 七番目の月 ７・３０に 皆我終らせたり。
キュル・ティギン ü. . . ４０ 余り. . . itiysη 雲 ts. . . かくの如く
細工師をば トゥクグルをば エルテベルをば 到らせたり。

KT SE（南東面. ここでは原作者の名前に注意しよう）

かくの如く 文字 書く者ぞ キュル・ティギンなる 甥 ヨルグ・ティギンぞ 我書きたり。
20 日 なりて この石に この 壁（大画面）に 皆 ヨルグ・ティギンぞ 我書きたり。
最愛なる 汝の子等より 若駒等より より良く 養ふ 汝ありたり。 飛び汝行きたり。
tηri tirigdäkiči（－čiが良くわからない）

KT SW（南西面. ＢＴＫ. Ⅰにはここまで。ラドロフのものをテキンが復元したものを使用）
資料. テキン. 1988：付録１（ラドロフよりの活字？使用によるテキスト作成. 但し一行を４行にした。

キュル・ティギンの 金の 銀の 財産の 家畜の・tür. . .

qrsin yγma tuyγï bu. . .

bgm tgin yükrü tη

石（ts） 我書きたり ヨルルグ・ティギン（yollγ tigin）. . .

KT E（西面. テキンの作成したラドロフよりの図版II K c. 部分）

図版の右部分

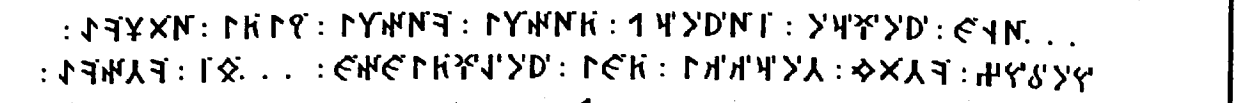
. . . 我が弟キュルティギン itrü γundruq

賢き可汗 トルコ 事を力をば 与へし故に 事を力をば

我居（り）見守り が弟キュルティギンを

馬をば tarqan yarγan apa inäᛦü

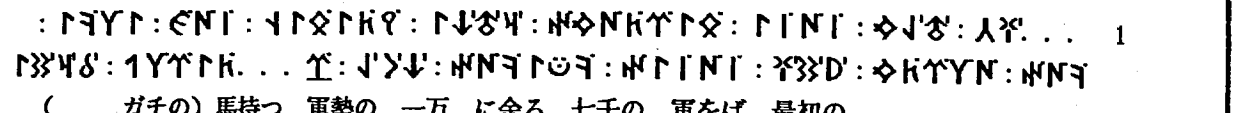
BQ SE（南東面）



. . . ŏη（河） の上手へ 軍ぞ行きて 夜も 昼も 七 度
水なく 我来たり。ČORQQI まで（至りて） ヨルグ・ティギンをば . . . BS KČNKÄ
まで

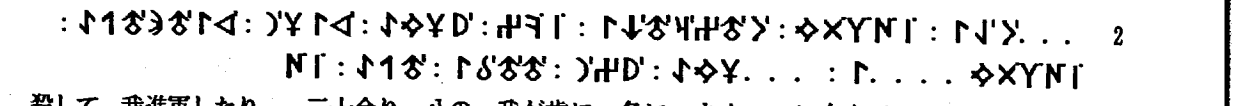
BQ S（南面）

BQ S 1



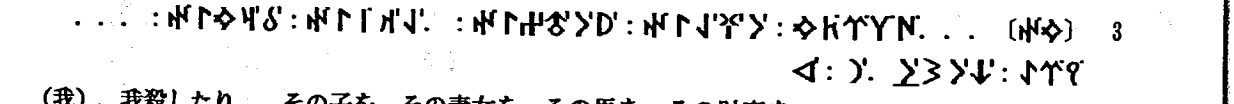
（. . . ガチの）馬持つ 軍勢の 一万 に余る 七千の 軍をば 最初の
日に 我殺したり。 敵の 軍勢をば 次の日 皆 R. . . TIRILP 行きたり。

BQ S 2



殺して 我進軍したり。 三十余り 八の 我が歳に 冬に キタニィに向かひて
我進軍したり。 . . . I. . . SMA 夏に タプガチ に向かひて SU

BQ S 3



（我） 我殺したり。 その子を その妻女を その馬を その財産を
YRÄ QUNČU. N Q

BQ S 4



民 . . TZZIN なく我したり。

BQ S 5



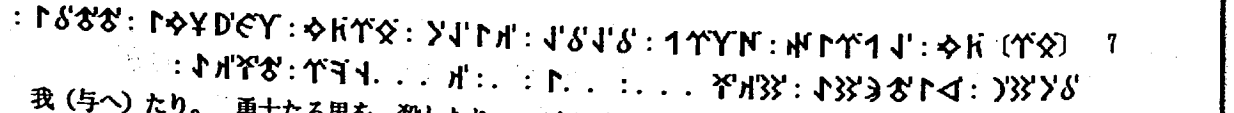
YOR. . . RM

BQ S 6



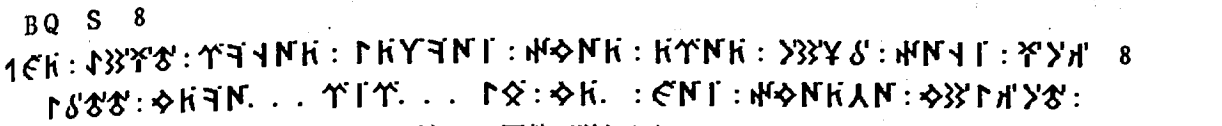
SUη. . . UČN

BQ S 7



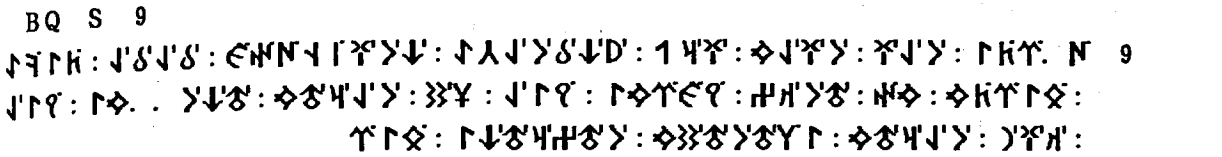
我（与へ）たり。 勇士たる男を 殺したり。 バルバル つくりて 我与へたり。 五十の我が歳に
タタプ
なる民ぞ キタニィ<u>より</u> DQΓ. . . . . I. Q. . . ηKR 山に

BQ S 8



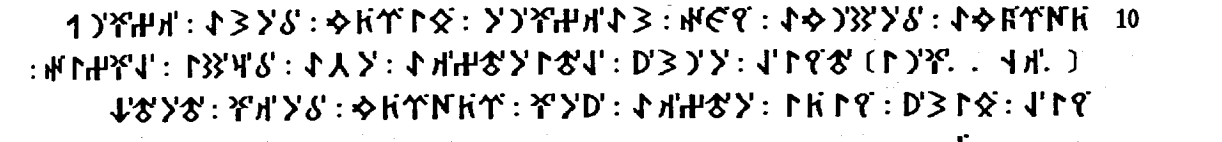
Quγ (郭) 将軍ぞ 率いて 4 万なる 軍勢ぞ送りたり。 Tθηkär 山にて 到りて
我撃ちたり。 三万なる 軍勢を . TM BI, , , RSR. . . UKTM タタブ

BQ S 9



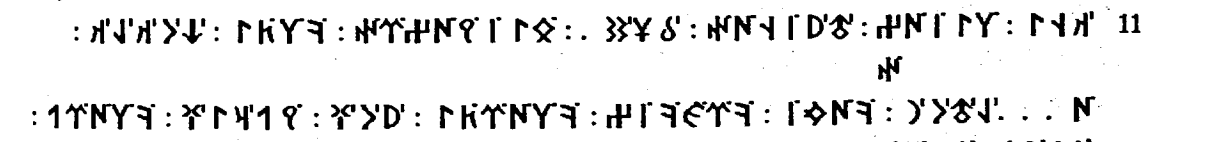
殺したり。 大なる 我が子ぞ 病みて なくなるに (yok bolča) Quγ将軍をば
バルバル 立てて
我与へたり。 我 9 20 年 シャド 我しりたり。 9・20 年
可汗 我ありたり。 国を我執りたり。 30余り 1

BQ S 10



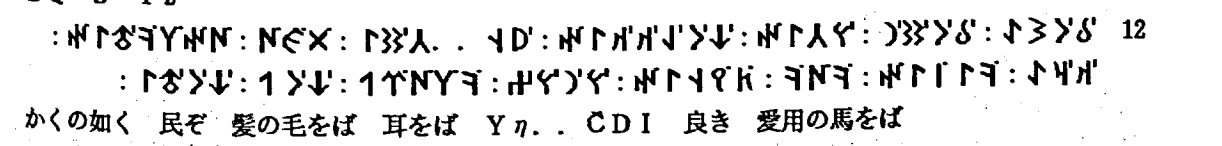
我がトルコに 我が民に イェギン より良きをば 我与へたり。 かくの如く 得て
. Qη. . ΓN・I) T・yïl (犬の年) 十番目の月 6・30に 飛びて 行きたり。
豚 (猪) の
年 7 30に 葬式 我あらせたり。 悪霊 (buq) をば 捉える (tutq)

BQ S 11



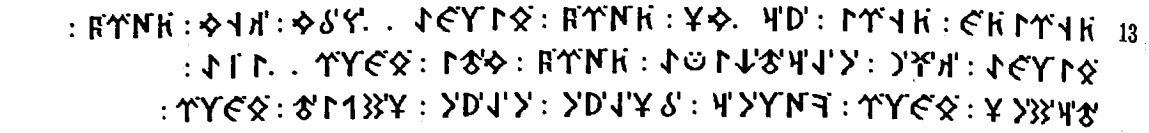
その父 Lisün (李全. 「全」はニンベン) tay (大) 将軍 率いたり 5百人にて
到りたり。 qoqlïq (麝香)
U. . . 金ぞ 銀ぞ 欠くることなく 到りたり。 葬式の 香りぞ 到りたり。
立てて 与へたり。白檀 (čïntan) の 木 到りたり。 UZ・YRS

BQ S 12



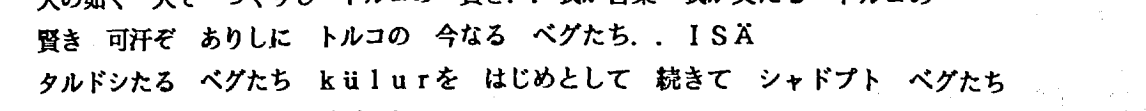
かくの如く 民ぞ 髪の毛をば 耳をば Yη. . ČDI 良き 愛用の馬をば
黒き 人をば 青き 栗鼠をば 数なく (sansïz) 来らせたり. 皆 宿宿したり。

BQ S 13



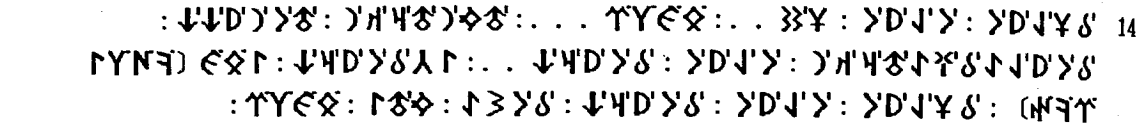
天の如く 天ぞ つくりし トルコの 賢き. . 我が言葉 我が父たる トルコの
賢き 可汗ぞ ありしに トルコの 今なる ベグたち. . ISÄ
タルドシたる ベグたち külurを はじめとして 続きて シャドプト ベグたち
東(前)へ トョリスの ベグたち PATRQ

BQ S 14



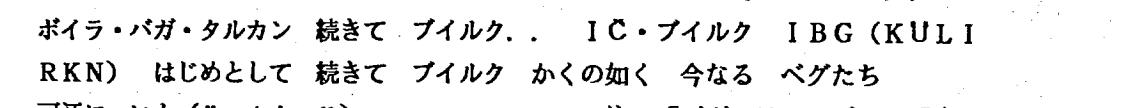
はじめとして 続きて シャド. . ベクたち. . . TMNTRQN トニュクク
ボイラ・バガ・タルカン 続きて ブイルク. . IC・ブイルク IBG(KULI
RKN) はじめとして 続きて ブイルク かくの如く 今なる ベグたち
可汗に いと(ärtiŋü) 注 「バガ」はモンゴルの「小さい」か?

BQ S 15



いと TIMΓ I. . RK ベグたちをば 民をば いと TIMΓ つくりたり。
UGD(. 我が父)可汗. . (CI ΓIR TSIN) YOΓN. S トルコの ベグたちぞ
民ぞ つくりて YR. . IRTI 我自ら かくの如く

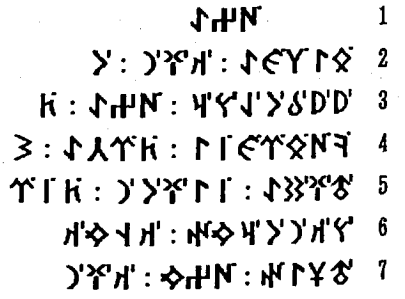
BQ SW (BQ 南西面)



. . (可汗) B. . ヨルルグ・ティギン 我書きたり。 かくの如く 廟をば 飾りをば
装飾をば(uz−uγ). . . (γn 名をば ヨルルグ)・ティギンぞ 我 月・余り 4日
. . RP(なりて) 我書きたり。 Y

BQ W (BQ 西面)

. . . 上にて. . .
賢き 可汗 U
初夏なるならば 上に T(天)
橋 ätärčä anč
山にて 鹿 TSR
思うなり我。 我が父Q
TSIN 我自ら 可汗



6．突厥トルコ語テキスト
6．The Orkhon Literature

6．1．モンゴリア
6．1．Mongolia

以上の三つのテキストを示したが、オルホン河流域を中心にモンゴル高原に於いて見つかっているからオルホン碑文と言うわけだが、実際はユーラシア全体を横断する形で西「に向かって」広がっている。理解するためにはまず全体像の理解が必要である。その全体像は1983年に二冊も意欲的な著作を出版したヴァシリエフの Graficheskij fondに詳しいわけだが、別の観点から一応のまとめをすると同時に、最近話題になった点についてはいくつかデータを示した。ただ、いくつかの不明の点がある。

アル・ハナ碑文
モン Bulgan ajmgijn Xishig-öndör sum Ar xanany övölzhöönij türeg bichees
モン Ar xanangijn türeg bichees
トル Aru-Han
資料 リンチェン：37
資料 TRYJARSKY, E. (1965). L'inscription turque runiforme d'Arkhanen en Mongolie. UAJb. 36. 1965 : 423 - 8.

アルツ・ボグド碑文
モン Arc-Bogd
解説 セブレイ（南ゴビ）の北の地域。一行。
資料 VasIL'ev (1983) : 34。ここにリンチェン : 43 に見えると指摘している。

アルハンガイ
モン Arxangaj, Xashaat sum, Doloon modny türeg bichees
解説 タリアト碑文の発見された場所より南西の場所。
資料 Mongol Ard Ulsyn ugsaatny sudlal, xelnij shinzhlelijn atlas. UB. 1979 : 73
資料 MAJDAR, D. (1981). Pamjatniki istorii i kul'tury mongolii. VIII. M. : 52(露語訳あり)

イフ（・ハヌィン）・ヌール碑文（楕円形）
トル Ihe-Nûr
解説 北緯48° 30分、東経107 ° のハヌィーン・ゴル (Xanyn gol)の近くの湖で発見。730 年頃か。
資料 オルクンII：101 - 3
資料 KLJASHTORNYJ (1978). TS. 1974 : 238 - 55

イフ・アスヘテ或アルトゥン・タムガン・タルカン碑文

トル Ihe-Aşete (Altun Tamgan Tarkan) bengü taşı

解説 724年。北緯47° 30分、東経103°、即ちホシォ・ツァイダムの近く。

資料 ラドロフ図版：XV, XXV

資料 マーロフ (1959)：44 - 6

資料 オルクンII：119 - 27 (125 から写真)

テキスト 第一碑文 前面

t (ä) k (ä) s kül tud (u) n
in (i) si
y (ü) k (ü) nür k (ü) n
b (ä) d (i) zm (i) s
(a) zγ (a) n (a) z- (ä) r (a) γ (ī) r
b (ä) d (i) zm (i) s

テケシぞ キュル・トゥドゥンの 弟なり
礼拝する 日(に) 装飾したり
アズガナズなる 男ぞ 重く(良く) 装飾したり
オ Kül Tudun' un küçük kardeşi Tekeş
ibadet gününde yapmış
Azganaz er agar (?) yapmış.

第一碑文 後面：

第二碑文

イフ・フショト（Ix xôshôôt）、キュル・イチ・チョル、キュリ・チョル碑文

モン Tôv, Ônzhüül sum, Kul'-chürijn türeg bichees

トル Ihe-Huşotu（Kʊl iç Çor） bengü taş

解説 723 - 5 年頃或いはそれより前。コトヴィチが1912年に北緯47°、東経104 ° 30分の地点で発見。中央アイマクの南でウランバータルの南西。高さ1.9 m、幅61ｃm、奥行16ｃm。損傷がひどいためにテキストとしては使用するのは妥当とは言えないと思う。西面12行と東面13行（アイダロフは一つにまとめている）及び南面４行ある。写真がないので、行の進め方は未確認。

資料 KOTWICZ, W., SAMOILOWICH, A. (1928). Le monument turc d'Ikhe-khuchotu en Mongolie centrale. RO. IV : 60 - 107.

資料 オルクンⅠ：133 - 151.

資料 マーロフ（1959）：25 - 30.

資料 テキン（1968）：293 - 295.

資料 アイダロフ：334 - 8

W 1

. . . 𐰴𐰺𐰚：𐰚𐰃𐰣：𐱅𐱅𐰆 𐰸𐰃𐰸𐰓𐰣𐰇 1

čïq (a) n-toñ (u) q (u) q at (? l ī) γ b (ä) r m (i) s

チュカン・トニゥクク なる名？を 与えたり. . .

W 2

. . . :𐰴𐰺𐰸𐰃𐰽𐰸𐰇 𐰣𐰺𐰘𐰆𐰸𐰓𐰣𐰇𐰣𐰃𐰇：𐰴𐰺𐰘𐰘𐰆𐰺：𐰣𐰋𐱅𐰋𐰃. . . 2

. . . (?) 𐱅𐱅𐰆 𐰸𐰃 (?) 𐰓𐰸𐰇 (?) 𐰣𐰺𐰘𐰆

. . . td (u) qda yʊgtürmis īsb (a) ra-čīq (a) n-

-küli-čur-bolm (ï) s. . . küli-čur-toñ (u) q (u) q. . .

ウブル・ドロルジ

モン Xovd ajmgijn tôvôôs uragsh orshix Ôvôr-dôrôlzhijn xudgijn ard bajgaa chuluuny türeg bichees

モン Ôvôrdôrvôlzhingijn türeg bichees

解説 モンゴル国では北のウラーンゴムにあるものとともに最も西にある。

資料 リンチェン：43

ウブル・ハンガイ（テグシ山）

モン Ôvôrxangaj, Xovd sumyn Tegshijn ulaany türeg bichees

解説 セブレイ碑文の北。

資料 Mongol Ard Ulsyn ugsaatny sudlal, xelnij shinzhlelijn atlas. UB. 1979 : 73

資料 リンチェン：43（Tevshとある）

ウラーンゴム墓石

モン Uvs ajmgijn Ulaangomijn xirgisijn türeg bichees

モン Doloodojn bulshny türeg bichees (Odoo Ulaagomd buj)

トル Ｕｌａｎｋｕｍ

解説 モンゴル国の最も西にある資料の一つ。二字及び四行。

資料 リンチェン：41

ウラーン・バートル付近、ナライハ

モン Nalajxa

モン ? Ulaanbaatar, Ulsyn nijtijn nomyn san buj barintagny oosryn chuluun teegnij türeg bichees

トル Ｎａｌａｙｈａ

解説 1934年に東経107°、北緯47° 30分の地点で発見される。730 年頃と言われている。

資料 疑問符合は Mongol Ard Ulsyn ugsaatny sudlal, xelnij shinzhlelijn atlas. UB. : 73 より。これはリンチェン：43 の右下にⅠ・Ⅱとあるもののようである。
Mongol Ard Ulsyn ugsaatny sudlal, xelnij shinzhlelijn atlas. UB. : 73 より。

資料 オルクンⅡ：161 - 2

オンギン (Ongin)、イシバラ・タムガン・タルカン碑文

トル Ｏｎｇｉｎ（ｉşｂａｒａ Ｔａｍｇａｎ Ｔａｒｋａｎ） ŝｂｉｄｅｓｉ

解説 碑文はBilgä Išbara Tamγan Tarqan により彼の父Il+etmis Yabγu のために建てられたもの。オンギン河付近で1891年にヤドリンツェフにより発見された。KT・BQ両碑文より160 キロ程南のオルホン河支流のオンギン河畔、北緯46°、東経102°。717 - 20年頃のものか或いはＫＴ碑文とと同時期かその少し後。行は下から上。正面の８行（各行の後半部分、即下部はかなり破損）の上部に汗のタムガが見える。右面に更に４行あり、この上に上から下に行が７行程あり、そしてもう一つバルバル（偶像）に次のようにある。

𐰃𐰇𐰴𐰇𐰴：𐰋𐰍𐰏𐰣𐰏

ïlblb:nqrtrbs “ïsbara-tarqan balbalï”

資料 ラドロフの図版 XXVI

資料 マーロフ (1959) : 7 - 11

資料 劉義堂 (1986)「維吾爾語文研究之再補充討論」『國立政治大学邊政研究所年報』第十七期. 臺北：129 - 155 中の 137 - 146、150 - 155

資料 オルクンⅠ：125 - 32

資料 テキン (1968) : 281 - 2

資料 リンチェン：44では、Övör-xangajj ajmgijn Arvajxeerijn muzejd bajgaa türeg bichees. Ene bicheestej chuluug muzejn darga Namxajdagva 1960 ond Ujanga sumyn Maan' tyn Bürdees olzhee. Ongijn türeg bichees ene bolov uu. なる写真が二枚あり、オンギン碑文の残りかもしれないと言う。

: 𐰴𐰺𐰞𐰃 : 𐰴𐰺𐰴𐰀 : 𐰺𐰓𐰇𐰍𐰣 : 𐰋𐰺𐰘𐰋 : 𐰍𐰺𐰍𐰍𐰋𐰞𐰺𐰚 : 𐰓𐰺𐰍𐰇 : 𐰓𐰺𐰘𐰃 1
: 𐰍𐰺𐰴𐰖 : 𐰍𐰾𐰇𐰾𐰍𐰇𐰍𐰀 : 𐰇𐰍𐰃𐰍 (写真ここまで) 𐰘𐰇𐰍 : 𐰴𐰺𐰴𐰀 : 𐰴𐰺𐰃𐰃
. . . : 𐰴𐰺𐰽𐰃𐰘 : 𐰴𐰺𐰍𐰺𐰃𐰃𐰞 : 𐰴𐰺𐰋𐰞𐰀𐰽

(ä) ċ u m (i) z (a) p a m (ï) z b (u) m i n − q (a) γ (a) n
t ʊ r t b u l (u) η (ï) γ q (ï) s m (i) s y ï γ m (ï) s
y (a) y m (ï) s b (a) s m (ï) s o l − q (a) n − y o q
b o l t (u) q d a k (ä) s r ä (ä) l − y i t m (i) s
b o l t (u) ï ċ γ (a) n m (ï) s q (a) ċ (ï) s m (i) s . . .

カラ・バルガスン、九姓回鶻碑文
モン Arxangaj, Xotont sum, Xarbalgasny türeg bichees
トル K a r a B a l g a s u n b e n g ü t a ş ı
解説 東経47° 30分、東経102 ° 30分の地点で発見されたもので、BQ碑文にコクチン・オルホン河を挟んだ西にある。ラドロフが1895年に公表。810 年か820 年以降か、821 年か。漢・粟特・突厥
資料 ラドロフの図版 XXXV 資料. オルクンⅠ : 85, 96.
資料 SCHLEGEL, Gustav (1896). Die chinesische Inschrift auf dem uigurischen Denkmal. MSFOu. IX. Helsingfors.

キュル・ティギン碑文 (既出)
トル B i r i n c i O r h u n (K ö l T i g i n)
資料 ラドロフの図版 XCVIII - XCIX, CII - CIV ; フィンの図版 2 - 12
資料 リンチェン : 53 - 9

グルバルジン (Bulgan ajmgijn Gurvan-bulag sumyn Gurvalzhin uulyn türeg bichees)
トル H u g u n u − h a n d a ğ ı n d a , G ü r v e l c i n b ö l g e s i n d e k i k a y a y a z ı t ı
解説 回鶻期のものか。三行。北緯47° 、東経103 ° 、アル・ハン碑文の南、ＫＴ碑文の北東。
資料 KJASHTORNYj, S. G. Naskal'nye runicheskie nadpisi mongolii. TS. 1975 : 155. 写真)
資料 リンチェン編 : 37 (二つの絵がある行を除いて上下逆に一行)
資料 オルクンⅡ : 163 (G ü r b e l ç i n k a y a y a z ı t ı とある)
t (ä) η r i − q u l ï b i t i d i m 𐰴𐰺𐰘𐰃 : 𐰃𐰍𐰽𐰘𐰃𐰺𐰓𐰇𐰘
天の 下僕たる 我書けり

ケンテイⅠ
モン Xentej ajmgijn Bat-shireet sumyn Binderijn rashaany xadan deerx türeg bichees
トル H e n t e y (2 t a n e)
解説 同Ⅱの北東。
資料 リンチェン : 43 ; KLJASHTORNYJ (1978) : 156 - 8.

ケンテイII

モン　Xentej ajmgijn Cenxer-mandlyn Burgastajn amny bichigt coxiony türeg bichees

モン　Burgaltajn amny türeg bichees

解説　トニュクク碑文の東。　　資料. リンチェン：43

コビ・アルタイのベゲル

モン　Gov'-Altaj, Biger sumyn türeg bichees　トル. Ｂｅｇｅｒ

資料　1969年と79年に発見。詳細不明。位置はアルタイ市の南。

スジ、ボイラ・クトゥルク・ヤラガン碑文

解説　回鶻期或いはキルギス期。ラムステットが1909年に北緯48° 30分、東経105 ° のスージ山(Suu-zhijn davaa)にて発見。ボイラ・クトルク・ヤラガン（Ｂｏｙｌａ　Ｋｕｔｌｕｇ　Ｙａｒａｇａｎ）のもの。

資料. RAMSTEDT, G. J. (1913). Zwei uigurische Runeninschriften in der Nord-Mongolei. JSFOu. XXX. 3：3 - 9

資料　マーロフ：76 - 7　　資料. オルクンＩ：153 - 9

資料　アイダロフ：353 - 4(11行)　　資料. BTK. I：77

資料　劉義堂（1986）「維吾爾語文研究之再補充討論」『國立政治大学邊政研究所年報』第十七期. 臺北：129 - 155 中の 132 - 137、148 - 149

資料　護雅夫（1975).「スージ碑文の一解釈 —— とくに最初の三行について ——— 」『榎博士還暦記念東洋史論叢』：445 - 63（私は先生の卓見にもかかわらず冒頭の個所はｋａｌｔｉｍから見て、よりヤグラカルより我来たるなり」とする方が自然であってａｔ－ａ「追ひて，殺して」は「回鶻の地よりヤグラカルより我来たるなり」とする方が自然であってａｔ－ａ「追ひて，殺して」はややり過ぎと思う。BTKI：779では Uygur yerinde Yaglakar Han zamanında dünyaya geldim. と訳しているがこれややり過ぎだと思う。なお、p. 4499でNominativ なる用語を使用しているが、これはIndefinitus と言うのが妥当である。

セブレイ

モン　Ömnögov', Sevrej sumyn türeg bichees

トル　Ｓｏｍｏｎ－Ｓｅｖｒｅｙ　ｙａｚıｔı

解説　南ゴビ州にて発見。七行。回鶻の牟羽汗か甘州回鶻汗か不明。763 年頃。セブレイ・ソムの真ん中にある。モンゴル国で発見されているものでは最も南にある。テグシ山碑文の南にある。

資料　リンチェン：42

資料　KLJASHTORNYJ., LIVSHIC (1971). Sevrejskij kamen'. ST. 1971. 3：106 - 12

資料　KLJASHTORNYJ., LIVSHIC (1971). Une inscription inédite turque sogdienne. La stèle de Sevrey (Gobi Méridionale). JA. 259：11 - 20.

参考　護(1973.『東洋学報』. 55. 4)

シネ・ウス／バヤン・チョル／モユン・チョル（磨延啜）碑文

モン. Mojunchur xaany türeg bichees

トル Şine-Usu (Tengride Bolmış il itmiş Bilge Kagan-Moyun Çor) bengü taşı

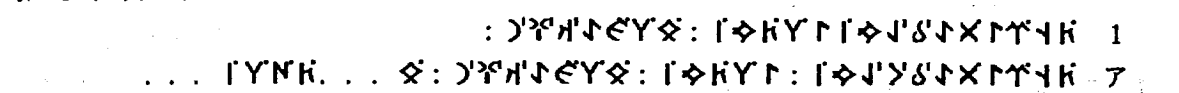
解説 1909年にラムステットが北緯48° 30分、東経102° の位置にて発見。アル・ハン碑文の北西に当たる。759 年頃, 760 年か。回鶻期。当該の汗は746 - 59の人。北碑文12行、東12行、南15行、西文10行、と49行あり、東碑文以外は損傷が激しい。

資料 RAMSTEDT, G. J. (1922 - 3). Zwei uigurische Runeninschriften in der Nord-Mongolei. JSFOu. 38 : 3 - 34

資料 マーロフ (1959) : 30 - 44　資料 オルクンI : 161 - 86　資料 アイダロフ : 339 - 52

資料 BTK. I : 75 - 9　翻訳 カクック編 : 45 - 6

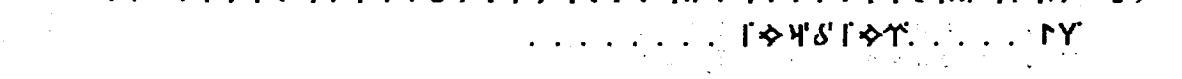
N 1 (北面1行目)



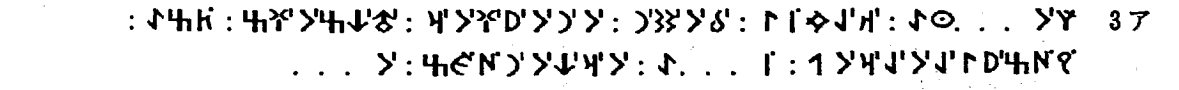
T (ä) ŋ r i - d ä - b o l m (ï) s i l + (ä) t m i (i) s

b (i) l g ä + q (a) ɣ (a) n b. . . t ʊ l (i) s. . .

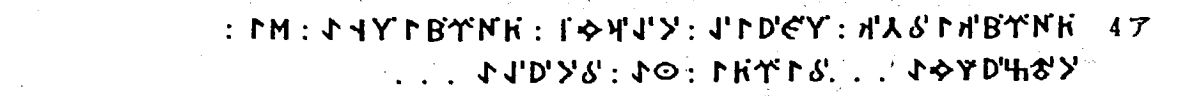
N 2



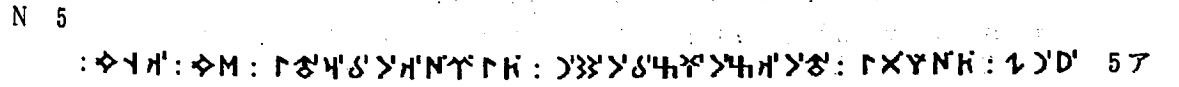
N 3



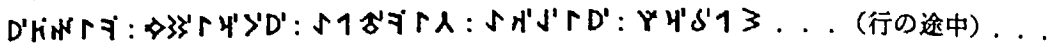
N 4



N 5

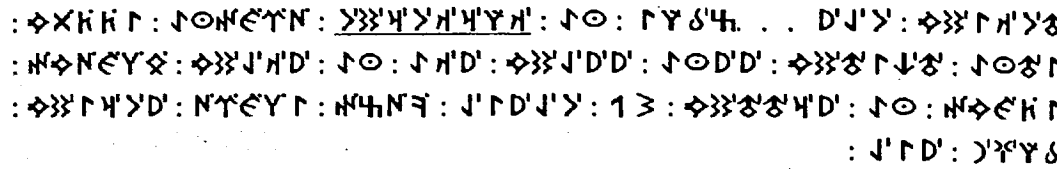


E 7 (19)



. . . (a) nč (ī) p+b a r s y ï l q a č i k+t a p a y o r ï d (ï) m.
ä k i n t (i) + (a) y
t ŏ r t y (ä) g (i) r m i k ä k (ä) m d ä
. . . かくして虎 年に (西暦744 か756 年) に チック に向かひて 進軍させたり。二番目の月
4 20 (=14) に ケム (=エニセイ) にて

E 8 (20)



t o q ī d (ī) m. o l+y. . . . . z+b (a) s ï (a) n t a
テルヒン碑文西面 1 ク t ä z − b a s ï n t a
ロ t e z b (a) s i a n t a
テズ碑文 19 ク . . . . . z i g
13 ロ (T e) z i g
我撃ちたり。 そのy (. . . . .) zの頭 (テズ河の源) そこにて

q s r q u r d u ŏ r g (i) n+a n t a i t (ä) t d (i) m
アイ. a q+s ï r a q o r d u
ロ . q a s a r q u r ï d ï n
テル. ク ŏ r g i n (ca. 14 signs are damaged) . . . . .
テル. ロ ŏ r g i n. . . . . .
テズ. ク q a s a r q o r u γ q o n t ï
テズ. ロ q a s a r q u r ï γ q o n t ï
QŠRQURDU 玉座をそこにて 我置きたり。

č (i) t+a n t a t (o) q ï t d ï m. y (a) y l (a) d (ï) m. y (a) q a
テズ. ク č ï t t i k d i ŏ r g i n y a r a t d ï y a y l a d (ï)
20. . . e l s ä r
テズ. ロ č i t t i k d i ŏ r g i n y a r a t d ï y a y l a d i m
14. . . e l s i r
棚をそこにて 我建てたり。夏はそこにて 我夏営したり。境を

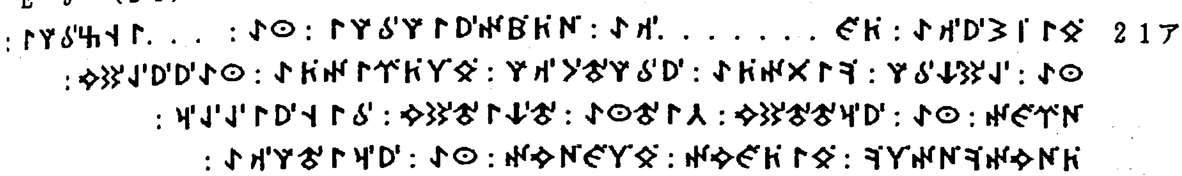
(a) n t a y (a) q (a) l (a) d (ï) m. b (ä) l g ü m (i) n
そこにて 我境としたり。 我が思い出を

b i t (i) g m (i) n a n t a y (a) r (a) t (ï) t d (ï) m. (a) nč (ï) p
b i t (i) g m (i) n a n t a y (a) r (a) t (ï) t d (ï) m. (a) nč (ï) p
テル. ク a n t a y a z a t ï t d ï m b a r s y ï l q a
テル. ロ a n t a y a r a t ï t d ï m b a r s y ï l q a
我が文字を そこにて 我つくらせたり。 かくして

o l+y ï l k ü z (ü) n i l g (ä) r u y o r ï d (ï) m b a r s y ï l q a
その 年の 秋に 東へ 我進みたり。 虎の 年に

t (a) b (ï) s γ (a) n yïl
テル. ク yïlan yïlqa eki yïl 2 yayladïm
テル. ロ yïlqa eki yïl 2 yayladïm
兎の 年（に） 二 年 我夏を過ごしたり。

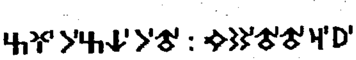
E 9 (21)



bis (i) nč+ (a) yqa tg. . . . . qa ŏt (ü) k (ä) n+yïs+b (a) sï
テル. ク yïlan ulu yïlqa Ŏtüken ortusïnta
テル. ロ ulu yïlqa Ŏtüken ortusïnta
(a) nta . . . . iηz+b (a) sï
テル. ク süηüz basqan
テル. ロ As ŏηüz bas Qan
anta ïd (u) q+b (a) s kid (i) ntä y (a) b (a) s+tuq (ï) s
テル. ク ïduq bas kedinintä
テル. ロ Iduq bas kedininte
b ( ) lt (i) rintä (a) nta+y (a) yl (a) d (ï) m
テル. ク yayladïm
テル. ロ yayladïm
ŏrg (i) n (a) nta y (a) r (a) t (ï) td (ï) m
čit+ (a) nta t (o) qïtd (ï) m. biη+yïll (ï) q
tüm (ä) n+künl (i) k bit (i) gm (i) n (a) nta
y (a) rï+t (a) sqa

第五番目の月に tg. . . qa オトゥケンの森の頂き そこにて . . . iηiz+頂き
そこにて 聖なる頂き の後ろ ヤバシ・トクシ（両河の） 合流に そこにて我夏宮したり。
玉座をば そこにて 我つくりたり。柵をそこにて 我建たり。 千の年を持つ
萬の昼を持つ 我が文字を 我が思い出を そこにて 平らな（yasï） 石に

E 10 (22)

. . . .  22ア

y (a) r (a) t (ï) td (ï) m. toq (u) z+oγ (u) z. . .
yaratdïm tulqu tasq toqïtdïm
我つくらせたり。トクズ・オトズ. . . . .

考察 RÓNA-TAS, András (1983). Újabb adatok a kazár történetéhez. NyK. 85. 1 : 126 - 33. に拠るとタルヤト碑文（テルヒン碑文）やテズ碑文と関係ししていると言う。又NyK. 84 : 349 - 80。

タルアト碑文、テルヒン碑文

モン　Arxangaj, Tariat sumyn türeg bichees

トル　Taryat bengü taşı

解説　ハンガイ山脈の北西部のテルヒン・ツァガーン湖近くのテルヒン河畔にて1957年にモンゴルの学者ドルヂスレン（Dorzhsüren, C.）が発見し、後に何人かの学者が調査している。クリャシトルヌイによるとタリアトでは他の集落の名称にもあり誤解され易いので河の名前を採ったのだと言う。三面29行。回鶻期752－3, 754－6年かに、更にその後、モユン・チョルが建立。著者はビルゲ・クトルク・タルカン・セングュン（Bilge Kutlyg Tarkan Seŋün）。シネ・ウス碑文を参照。

資料　ST. 1980. 3 : 82 - 95.

資料　KLJASHTORNYJ, S. G. (1982). The Terkhin Inscription. AOH. XXXVI. 1 - 3 : 335 - 66（又、雑誌 ST. 1980. 3 : 82 - 5.

資料　TEKIN, T. (1983). The Terkhin Inscription. AOH. XXXVII : 43 - 86.

資料　MAJDAR, D. (1981). Pamjatniki istorii i kul'tury mongolii. VIII. M. : 51(写真あり)

中央（?東）ゴビ州

モン　Dund-gov' ajmgijn oron nutgijg sudlax muzejn xürel xereglelijn dansny 267 dugaart bajgaa xüree tatsan, 26×26 cm dörvölzhin xürel deerx türeg bichees

モン　Garyn temdgijn türeg bichees

解説　当地の博物館の青銅に彫られた四角の印のようなもの。

資料　リンチェン：40

チョイルン／チョイレン碑文　　タムガの一つ 

モン　Dornogov', Zhanzhin Chojryn türeg bichees

トル　Çoyrın bengü tası

解説　1928頃、北緯46° 30分、東経109 °、ウラーンバータルの南東約200 kmの地点にて発見。687-92年のものと言われるので、極く初期のものか？　ウランバータルの中央博物館にある。

資料　オルクンII：164 - 8（Bir baba yazıtı）

資料　リンチェン：39 にある Zhanzhin chojroos erdemten Zh. Ceveen 1929 ond utasny xoroony Cend-sürengeer avchirüülsen chuluun xünij gedsen deerx türeg bicheesに相当か。

資料　KLJASHTORNYJ, S. G. (1971). Runicheskaja nadpis' iz vostochnoj Gobi. Studia Turcica. Bp. : 249 - 58

資料　KLJASHTORNYJ, S. G. (1980). Drevnetjurkskaja nadpis' na kamennom izvajanii iz Chojrena. Strany i narody vostoka. 22. M : 90 - 109

テス（古代トルコ風にはテズ碑文）

モン Zavxan ajmgijn Tes sumyn nutagt bajgaa türeg bichees

トル Tes bengü taşı

解説 フブスゴョル・アイマクのツァガーン・ウールのテズ河の源流域であるザブハン・アイマクのテス・ソムにて1976年に発見さる。西北のフブルゴョル湖と更に西のウブス湖の中間よりやや西寄り。757 年から762 年にかけてモヨン・チョルが建立。一行。回鶻期。75cm長、32×22cm。21行。シネ・ウス碑文の項目を参照されたい。

資料 KLJASHTORNYJ, S. G. (1985). The Tes Inscription of the Uighur Bögü qaghan. AOH. XXXIX. 1: 137 - 56（これを見ると妙に生々しい議論の展開が見える。ただ、これを見るとクリシャトルヌィはモンゴル語を読めないようである）

資料 XARZHAUBAJ, S. (1978 (1979)). Tesijn gerelt xöshöö. Xel Zoxiol Sudlal. XIII. UB. : 117 - 24（読み方が良くない。ただ、モンゴル文語やカザフ語の訳語をつけることは好ましいと思う）

資料 SHINEXÜÜ, M. (1980). Orxon-Selengijn runi bichgijn shine dursgal. Studia Archeologica VIII. 1. UB.（著者は1975年にもTariatyn Orxon bichigijn shine durdgalを発表）

テス

トル Somon-Tes yazıtı

解説 一行、参考. BTK. I : 61 。　　資料 リンチェン：40

トニュクク碑文

モン Nalajxyn Ton'jukukiijn ... xöshöö(既述)

トル Bayan Çokto (Tontukuk) bengü taşı

解説 ウランバータルの東。　資料 リンチェン：45 - 52　資料 ラドロフの図版 CVI - CXVI

バイシン・ウズール

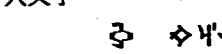
モン　Xovd ajmgijn Darvi sumyn Bajshin üzüürijn ix bichees, ～ baga bichees

解説　西のホブド・アイマクの東端にある。

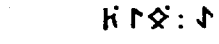
資料　リンチェン：38 - 9

資料　Shinexüü, M. (1972). Darivyn ertnij türeg bichees. Studia Archaeologica, V. UB. : 135 - 47（ロシア語の要旨をも含む）

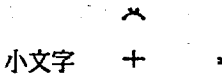
大文字　 

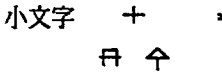
 　上下反転で　(a) y (a) č u r (a) b (ï) q ï m

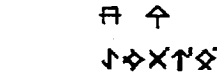
大文字　 

 　k ü l (l i) k (a) t (a) p a b i t

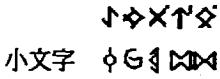
小文字　

 　(a) y č u r (a) b (ï) q (a) d (a) m a

小文字　  　ï b a s (a) q (a) n č (u) l (a) m

小文字　  　y (ä) g (i) r m i (ä) b i n

o n ö l (ü) m k (ä) n

 　k (ä) l (i) p ö g ü t o l (a) γ t o q ï d ï

バイバラグ

モン　Bajbalagijn xöshöönij türeg bichees, tamgyn züjl

解説　一行　資料. リンチェン：69

バヤン・ホンゴル

モン　Bajan-Xongor ajmgijn Xutagt-uul

解説　1966年に発見。

資料　HAMILTON, J.　JA. 1975 : 171 -82.

ハンギダイ山の壁画

モン Xangidajn xadny zurag

モン Bulgan, Dashinchilin sumyn Xangidajn xadny türeg bichees

トル Ｈａｎｇｉｄａｙ　ｙａｚｉｔｉ

解説 キュル・ティギン碑文の南東。

資料 KLJASHTORNYJ (TS. 1975 : 156) ; リンチェン編 : 37

資料 SHINEXÛÛ, M. (1978 (1979)). Xangidajn xadny türeg bicheesiig daxin njagtlasan n'. Xel Zoxiolyn Sudlal. XIII. UB. : 65 - 9.

データ

. . . . . : 𐰴𐰺𐰃𐰾𐰍𐰇𐰴𐰃𐰴𐰃𐰾𐰍𐰾𐰍𐰇𐰾𐰍𐰇𐰃𐰍𐰇𐰃
𐰇𐰆𐰍. . . . . .
. . . . . 𐰴𐰼𐰃𐰺𐰇𐰾𐰇𐰍𐰇𐰃𐰏𐰺. . . . . .

b (a) z－q (a) γ (a) n－oγlï－t (ä) ŋ r i－uɕm (ï) s. . . . . .
. . . . . q (o) t (u) z
. . . . . b (ä) g－ (ä) r－t (ä) ŋ r i k (ä) n－b i t i d i. . . . . .

ビルゲ・カガン碑文

トル ｉｋｉｎｃｉ　Ｏｒｈｕｎ（一般にこれを第二碑文の意味でⅡで示すことが多い）

解説 Bilgi Qaγan或いは Mogiljan-Qaγan碑文

資料 ラドロフの図版 XXI - XXV

資料 フィンの図版 20 - 35

資料 リンチェン : 60 - 9

ブグト、マハン・カガン碑文

トル Ｂｕｇｕｔ（Ｍａｈａｎ　Ｋａｇａｎ）　Ｙａｚｉｔｉ

解説 1956年にアル・ハンガイ・アイマクのブグトでモンゴルの考古学者ドルジスレン(DORZHSÛREN)が発見。ソグド語（仏教草書体）。580 年頃のものでマハン・ティギン (Makan Tigin)の碑文。現在はアルハンガイの中心都市である南のツェツェルレグにある。

資料 護雅夫. 1976. 『古代遊牧帝国』. 東京. 中公新書 : 208 - 41

資料 林梅村 (1994). .「布古特所出粟特文突厥可汗紀功碑考」『民族研究』1994年第２期 : 64 - 71.

資料 KLJASHTORNYJ, S., LIVSHIC, V. A. (1972). ogdijskaja nadpis' iz Buguta. Strany i narody Vostaka. X. M. : 121 - 46

資料 KLJASHTORNYJ, S., LIVSHIC, V. A. (1972). The Sogdian Inscription of Bugut Revised. AOH. XXVI. 1 : 69 - 102

ブルガン

モン Bulgan ajmgijn Mogod sumyn nutagt bajgaa türeg bichees

モン Mogod sumyn Xöl-algatajn türeg bichees

解説 モユンチュル碑文のオルホン河を挟んだ北西にある。

資料 リンチェン：41

ブルガン

モン Bulgan, Xutag sumyn Jaklagar xaany türeg bichees

解説 上記より北のセレンゲ河とエギーン河との間にある。

資料 Mongol Ard Ulsyn ugsaatny sudlal, xelnij shinzhlelijn atlas. UB. 1979 : 73

ホイト・タミル、タイヒル碑文

モン Arxangaj ajmgijn Ix Tamir sumyn nutagt bajgaa Tajxir chuluuny türeg bichees

トル Hoytu Tamir bölgesinde bulunmuş olan Köktürk yazılı metinler

解説 753 - 6 年 (756)頃のものと思われるテキストが10ある。アルハンガイ・アイマクのイフ・タミル（北緯47° 30分、東経101 °）にて1893年にクレメンツ (KLEMENTZ) が発見。

資料 RAMSTEDT, G. J., GRANÖ, J. G., AALTO, P. (1958). Materialien zu den alttürkischen Inschriften der Mongolei. JSFOu : 62 - 76 （なお、77 - 62 に Der Inschriften von Šiwēt-ulān の資料がある）

資料 VASIL'EV, D. D. (1975). Graficheskie osibennosti pamjatnikov xojto-tamira. Voprosy vostochnogo literaturovedenija i tekstologii. M : 100 - 9.

資料 リンチェン：34 - 6；マーロフ (1959) ：46 - 54 ；オルクンII：105 - 17

翻訳 カクック訳：44 - 5

ホル・アスハト碑文

Xöl Asgatyn xöshöönij türeg bichees. Ser-odzhavyn xuulbar

解説 リンチェン：42 。六行程の写真は上下逆である。

Xöl Asgatyn xöshöönij gurvan xün sijlberijn orojgoor bichsen türeg bichees

解説 同上：42(一行)

ヤマニ・ウス碑文

モン Jamany-Us

トル Yamanı-Us

資料 Tenishev, E. R., Novgorodova, E. A. (1974). Novye runicheskie nadpisi v gorax mongol'skogo altaja. Istorija i kul'tura central'noj Azii. M.

6．2．燉煌地域
6．2．Dun－huang Area

燉煌（東南）とミラン（西南）を△形の底辺であるとするとそれと頂点のトルファンの地域に十以上の資料がある。紙で書かれたものも幾つか残っている。

文献I　占い文書

解説　シュタイン(Sir Aurel Stein) が発見しトムセンが訳注を施した占い文書。書き方は上の行から下の行。字体はかなり明瞭、一部漢文が見える紙を使用している。この文書などを見ると地域性のため東西交渉と言う観点から重要な資料であることが分かる。T．テキン（T．Tekin）教授にも研究があるようだが、1997年1998年に二回お会いしたにもかかわらず、話しわすれていた。

資料　池田哲郎（IKEDA, Tetsuro).（1983）「古代トルコ語の占い文書（Irq bitig）に就いて」『京都産業大学国際言語科学研究所報告．第6巻第1号』：81－125.

資料　オルクンII：69－93

文献2　燉煌　12行
資料　THOMSEN.　JRAS. 1912
資料　?オルクンII：94－5

文献3　燉煌　12行
資料　THOMSEN.　JRAS. 1912
資料　オルクンII：96，100（下段写真）

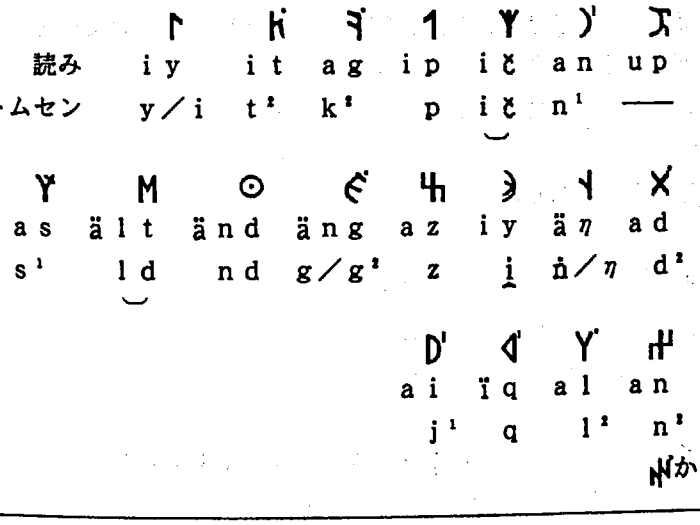
文献4　ミラン
資料　THOMSEN.　JRAS. 1912
資料　オルクンII：61－8

文献5　トルファン　これは突厥文字をマニ文字で示したもので貴重な資料である。

資料　Le COQ. Köktürkisches aus Turfan. (Manuskriptfragmente in Köktürkischen >>Runen<< aus Toyoq und Idiqut-Schähri [Uase von Turfan]).　Ergebnisse. I：532－46.

資料　オルクンII：24（写真）

TIIT20（裏面には何か漢字が書かれている）



文献6　トルファン
資料　Le COQ（上記のもの）
資料　オルクンⅡ：175 - 83.
TM326（Taf. XII. 各8行. 写真）　TM327（表13、裏10行. 写真あり）　TM330（各7行）
TM332（表裏各一行の断片、写真）　TM339a（各四行）　TM339b（各四行）
TM342（Taf. X und XI と二ページ文あり、それに裏がある各12行位）
TM340（断片、第一葉各12、第二葉各13行）

文献7　トルファン　31行　これは占い文書の字体に似ている
資料　THOMSEN. Ein Blatt in türkischer "Runen"schrift aus Turfan. SPAW. 1910. Ergebnisse I：605 - 15
資料　オルクンⅡ：55 - 9, 97（写真）

文献8　トルファン
資料　BANG, GABAIN & RAHMATI. SPAW. 1934　資料　オルクンⅡ：184

6．3．エニセイ河流域
6．3．The Enisey Basin

地点の紹介　古代トルコ語辞典では85点あるが、1983年のヴァシリエフではアバカンよりクズルまで（上流方向）の145 地点の紹介がある。7 - 8 世紀のもの或いはそれ以前と言うより新しいとされる。ここではBTK. 1を基準に（他意はない、あるとすればトルコ共和国側から見ていると言う点である）、オルクンと対照し、更にヴァシリエフのものを追加した。最後の著作に就いて若干紹介する。

VASIL'EV, D. D. (1983). Korpus tjurkskix runicheskix pamjatnikov Bassejna Eniseja. L.

この著作のおかげで非常にまとまった形で全145 地点のエニセイ流域のトルコ語資料を把握できるようになった。興味ある点としては次の点が挙げられる。文字はモンゴル地域のものよりも複雑である。全体としては突厥よりも後のものと判断しうる。黠戛斯（古キルギス）帝国（840 - 917)の資料と言える。ただ、意味を摑むことは容易ではない。ある意味ではハンガリーのものと同様に暗礁にのりあげていると言える。

参考となる地点とその番号を示しておく。

BTK（下線はヴァシリエフ）	オルクンⅢ
アバカン流域	
Açura (Ochury) E26	Açura yazıtları

Ak Us　　Ak-Yüs yazıtı
E38

Altın Köl（2個）　　Altın-Köl yazıtı
E28, E29
翻訳　　ク訳あり

Kara Us　　Kara-Yüs yazıtı
E39, E138

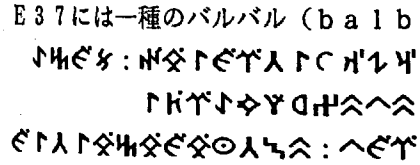
Minusinsk　　Minusinsk müzesindeki
(Baj-Bulun)　　bir yazıt（北緯54度、東経92度. カクック訳）
E42 (Pmjatnik Minusinskogo muzeja),
E49(Pervyj pamjatnik iz Tuvy)

Oznaçennaya　　Oznaçennaya yazıtı
E25, E104
資料 VASIL'EV, D. D. (1978). Drevnjetjurkskaja epigrafika juzhnoj sibiri. TS. 1975 : 92 -
翻訳 カクック訳あり　　101(Oznachennoe II. 写真3枚)

Taş Oba (Tasheva)　　Taşeba yazıtı
E40

Tuba（2個）　　Tuba yazıtları
E35-37

E37には一種のバルバル（balbal）がある。次のような文例が見える。


QRSQNIČRGIBN ZGNE
LTI／OTZJŠMARTI
BN ULTM TURGI／S
T／BNČNTBGBNBIČIG

カラカン 内なる 我 エズゲネ　　qara-qan ičrägi bän äzgänä
六・三十なる 我が年に ありき　　altï otuz yasïma ärti
我 死にたり トュルギなる　　bän öltim türgi (türgis)
名にて／我 内にて　　atïn／bän ičintä
ベグたる 我 文字　　bäg bän bičig

下線の／より後がヴァシリエフの読み方である。写真が良くなく、転字部分を図版を参照して考え直してみた。オルクンは三行目の例は随分異なり、Türgiş el ičind (ä) と読んでいる。分かり易いわけだが、強引と言うより p.172の写真がそうなっている。Qara-Qanなる表現には驚く。

Uybat（5個）　　Uybat yazıtları

E30－34, E83, E98, E132

Yenisey-Oya（Oja）　　Oya yazıtı

E27

Abakan

E48

Bajan-Kol

E100

Bajkalovo

E101

資料 VASIL'EV, D. D. (1978). Drevnje-tjurkskaja epigrafika juzhnoj sibiri. TS. 1975 : 92 - 101(図版で一行)

Bronzovyj nalichnik

E131

Chaptykovskij Kamen'

E139

Kamennye prjasla s tjurkskimi nadpisjami

E87, 88

Kres-Xaja

E137

Kuten'-Buluk

E75

Metallicheskie zerkala s tjurkskimi nadpisjami

E76, 76, 84, 85, 127 - 130

Monety s drevnetjurkskimi nadpisjami

E78, 79

一部、中国のものがある、E－77（写真）、E－78・79（図版）、E－130。これである年代以降のものであると判断できるわけである。即ち、E－79だが、手書きの図版には上から右回りに順天元寶とある。唐に天宝なる年号があるが（742 A.D. - 756 A. D.）、古銭に就いて考えてみると、これは五代十国のもののようである。裏に月があるから五角銭である。それに切り込みを入れているのが写真で分かる。E78は図版と写真に文字を記しているが、片方の面はかわらない。

Ovjurskie plity s runopodobnymi znakami

E89, 90

Podkuninskoe

E71

Sagly

E119

Tepsej

E111 - 7, 123 - 126

Tjurkskaja epigrafika iz okresrtnostej

E80－82, 133

E81とE82は立派な金の壺である。カラー写真でないのが惜しい。

Tugutjupskaja plita (Pamjatnik Krasnojarskogo Muzeja I)

E120

Pamjatnik Krasnojarskogo Muzeja II

E121

Turan	Ust' -Sos	Ust' -Kulog
E118	E134	E135

トヴァ地域

BTK　　オルクン

Barık（4個）　　Barlık yazıtıları
E5-8

Begire（Begre）　　Berge yazıtı（カクック訳あり）
E11

Ça Kӧl（11個）　　Çakul yazıtları
E13-23
資料 カクック訳あり

近年話題となったものが、E－16のものである（Chaa-Xol' IV）。ラフヴェルツ(Igor de RACHEWILTZ. 1989)は第二行（正面から向かって左横面）の冒頭が

ヴァシリエフに拠る原文字復元　　. . . :𐰴𐰏𐰃𐰚𐰋𐰍:𐰚𐰀:𐰀𐰉
やや読めず
/ヴァシリエフに拠る読み方　j² i s² :č i s² i z :q d¹ s¹ l¹ r¹ m:. . .

「新しい」読み方（文字に沿って）　　m r l s d q　z n t i č　n t i b
「新しい」解釈　　b i ŋ　č i ŋ i z　q (a) d (a) s l (a) r (i) m. . .

/オルクン（写真図版なし）　　. . . :𐰴𐰏𐰃𐰋:𐰏𐰚:𐰀𐰉:𐰀𐰉
同上読み　y ı ş　(e) ç i　(e) ş i m　k (a) d (a) ş l (a) r (ı) m〔a〕. . .
翻訳　　g e n ç (?)　b ü y ü k　k a r d e ş, e ş i m〔d e n〕. . .

網かけの部分がč i ŋ i zと読めると言うフランスの学者たち（バザンやハミルトン）の新解釈に意見に賛成している。だが、従来無理な読み方をしていたとしても、その音価の全体像が明確ではないことが最大の欠点として浮かび上がってくるのではないか。

Eleges（Elegest）　　Eleges yazıtı（BEDE, Anna訳あり）
E10, W52, E53, E70

Kezilig-Kobu　　Kjözeelig-Xovu（BEDE, Anna訳あり）
E45

Kemçik-Çırgakı E41	Kemçik, Cirgak yazıtı
Kemchik E95-97	Kemçik, Kaya Başı yazıtı
Kızıl Çıra (2個) (Kyzyl-Chiraa) E43, E44	Ulug-Kem yazıtı (E43に当たる)
Tele E46	
Tuva (3個) E50, 51, 55	
Ulug Kem-Kara Su E9	Ulu-Kem-Karasu yazıtı
Ulug Kem-Köl Kem (Aldyy-Bel') E12, 72	Ulu-Kem Kulikem yazıtı
Ulug Kem-Ottuk Taş (Ottuk-Dash) E4 E64 E54	Ulu-Kem Ottok taş yazıtı
Uyuk-Arhan (Uyuk-Arzhan) E2 E102 E103	Uyug-Arhan yazıtı

興味あることに北ユーラシアの星空になくてはならぬトナカイがE2の三面にそれぞれ上下にざっと見て三頭・六頭・七頭及び回りにも幾頭か芸術的に彫られており、E3にも幾頭か見える。

Uyuk-Tarlag (Uyuk-Tarlak) E1	Uyug-Tarlık yazıtı
Uyuk-Turan E3	Uyug-Turan yazıtı

Bedeligskij Valun E91	Cher-Charyk E69	Cherbi E106
Demir-Sug E92	Jime E73, E122	El'-Bazhy E68
Kanmyyldyg-Xovy E62	Kara-Bulun E65-67	Kezek-Xure E58
	Malinovka E56	Jur-Sajyr E93, 94
Mugur-Sargol(I-III) E136, 140, 145	Nakladki luka iz mogil'nika Ajmyrlyg E141, 142	
Novosjolovo E144	Ortaa-Tej E99	Ortaa-Xem E63
Plita iz Tuvinskoj Kollekcii E105	Sajgyn (Borbak-Aryg) E57	Samagaltaj E74
Sargal-Aksu E60	Suglug-Adyr-Aksy E61	Ujuk-Oorzak E108-110
Xadynnyg E107	Xaja-Uzhy E24	Xebis-Baary E59

資料1 DONNER, O. (1892). Wörterverzeichniss zu den Inscriptions de l'Iénisei. MSFOu. 4.

資料2 資料 マーロフ (1951) : 78 - 9 ; マーロフ (1952)

資料3 KORMUSHIN, I. V. (1986). Tekstologicheskie razyskanija v oblasti enisejskoj runiki. (K voprosu o zhenskix pominal'nyx nadpisjax). Turcologica. 1986. L. : 165 - 171.
VASIL'EV, D. D. (1986). Samaja severnaja runicheskaja nadpis' na jenisee. Turcologica. 1986. L. : 53 - 56.

６．４．山地アルタイ地域（オビ河上流）
６．４．The Moutaneous Altai Area

古代トルコ語辞典では８点、ヴァシリエフでは１６点ある。エニセイ流域と接し資料も似ている。
資料　テニシェフ（ＴＥＮИШＥＢ）に論文がある、TS. 1966：262 - 5.

解説　ベルンシュタム（BERNSHTAM, A. N.）やオクラドニコフ（OKLADNIKOV, A. P.）等の報告がある。1983年のヴァシリエフの解説が参考になる、22 - 3。地域としてはバイカル湖の西側の地域で、アンガラ河（バイカルより流れ出る唯一の河）流域のイルクーツク付近と、レナ河の上流地域。ヤクーツク付近にも一例ある。
資料　オルクンⅡ：158 - 9.

６．５．中央アジア
６．５．Ｃｅｎｔｒａｌ　Ａｓｉａ

まず、中国の蘭州から遙か西南に燉煌がある、北緯40度、東経95度のやや北西。この西、東経９０度の地点に「彷徨える湖」ロプ湖があり、その南にミランがあり、大体このミランの緯度で東経７５度より東の地点に新疆の西の都市喀什（カシュガル）がある。それから我々は人為的に引かれた国境を越え、遙か西、ほぼ同緯度で東経６６度よりやや手前にサマルカンドがあり、それより向こにブハラがある。ドシャンベ（タジク）はサマルカンドのやや東南で、そのドシャンベと同一経度で北にシル・ダリアの上流ナリム河を越えてタシケントがある、北緯４１度、東経６９度くらいである。その東北にチュ（Ｃｈｕ）河があり南にフルンゼ（キルギス. 北緯４３度、東経７５度）、その東南にウスック湖、ウスック湖の北にアルマ・アタ（カザフ. 北緯４３度、東経７７度）がある。さて、タラス（Ｔａｌａｓ）峡谷はフルンゼとタシケントの線よりやや上、緯度でゆくとフルンゼと同じ付近にある。カザフ共和国にギリギリで入る地域にジャムブル（Ｄｚｈａｍｂｕｌ＝Ｅｖｌｉｊａ－Ａｔａ）と言う町がある。この付近は北緯４３度、東経７１度３０分付近である。資料は７０以上あるが、一様に短い。資料　マーロフ（1959）：57 - 86 。

タラス峡谷碑文
1896 - 7年に発見、５片21行。古代トルコ語辞典では11点ある、Ｔ１－Ｔ11。重要な解読はネーメトによってなされている。ただ、実際のところは読みが難しいと考える方が妥当である。

Ｔ１－Ｔ５，Ｔ８－Ｔ11はAjrtam-Oj(Dmitriev近く）で発見。フルンゼとドシャンベの博物館蔵。
資料　NEMETH, J. (1926). Die Köktürkischen Grabinschriften aus dem Tale des Talas in Turkestan. KCsA. Ⅱ. 1 - 2：134 - 43（Ｔ１－５）
資料　マーロフ（1951）：74 - 5（Ｔ４）
資料　マーロフ（1959）：57 - 63（Ｔ１－３，Ｔ５，Ｔ７）
資料　オルクンⅡ：129 - 41

Ｔ６　Ｔｅｒｅｋ－Ｃａｎ近くで発見。

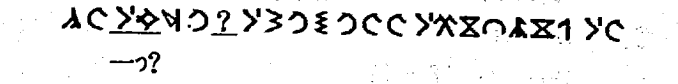
T7 Ацик－Тамにて発見、エルミタージ博物館にあり。杭文書風のもの。以下に写真より見た資料を示す。下線は文字自体の持つ音価であり、＋はマーロフの読みを明確に示したもの。

資料 オルクンⅢ：207 - 14

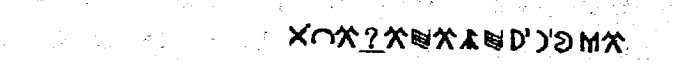
資料 マーロフ（1959）：63 - 8



マ aɣïp as+u bas altïm äb äsiɣ . . . am idis aču . . .

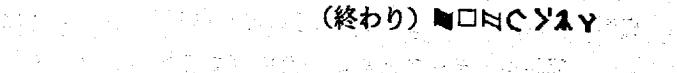


マ äg opa bas ačïsïp aɣ+u i+gip ïnčïp g+nč+u+p(?)
s+q+m+u+g+č(?)



マ aɣïltïm na jazï ič aɣïzïɣ asa . . . aɣïs äd . . .

（終わり）



マ ač+u ägiz asu az.

これを見て、ハンガリーの文字と形態が非常に良く似ている。かりにハンガリーに見られるものが突厥文字（モンゴル高原のものではなく、タラスやドン河等に見えるもの）と類似する音価をもっていたとしても私としては、それではたして妥当な読みが可能かどうかに就いては留保する。

コイ・サル（Коу－Сарı．カザフのウスック湖東端の町プルジェヴァルスク近くで発見）

資料 オルクンⅡ：160

Kyzyl-chiraa碑文 資料 マーロフ（1959）：68 - 70.

Elegest 碑文 資料 マーロフ（1959）：70 - 5.

資料 ムサバエフ＆マフムトフ＆アイダロフ MŪSABAEV, G., MAXMŪTOV, A., AJDAROV, G. (1971). Epigrafika kazaxstana, Vypusk. I. Alma-Ata

参考 ムサバエフ O pamjatnike Kjul'-Tegina : 109 - 56

6．6．コーカサス・ドネツ・ドン流域
6．6．Caucasus, Donets and Don Areas

さらなる、西の地域は二つに分かれる。前者はハンガリー族が今日の地に到来する直前まで居た地域（カザール汗国の故地）でもあると言う点で注目に値する。

資料 Shcherbak, A. M. (1954). Neskoliko slov o primerax chtenija runicheskix nadpisej, najdennyx na Donu. Sovetskaja Arxeologija. XIX. M. : 264 - 82.

資料 Shcherbak, A. M. (1971). O runicheskoj pis'mennosti v jugo-vostochnoj jevrope. ST. 1971. 4 : 76 - 82.

6．7．ドナウ中流域・ティサ上流域
6．7．The Dabube Basin

資料 NEMETH, J. (1932). Die Inschriften des Schatzes von Nagy-Szent-Miklós. Bp.

資料 LASZLO, Gyula., RACZ, István (1977). A nagyszentmiklósi kincs. Bp.

解説 カラーであり、良い写真であるかは別として画期的である。

資料 オルクン（既出）；オルクン. II：151 - 7, 185 - 207

資料 FISCHER, Károly Antal (1889, 1992). A hun-magyar írás és annak fennmaradt emlékei. Bp. 『フン・ハンガリーの文字とその残存せる資料』.

解説 発表時期に注目したい。ことの是非は別にして一応まとめだと言う意味で、そして、百年経って復刻されたためにやっとその内容が分かったと言う点で、筆者には十分である。

資料 VEKONY, Gábor (1987). Késő népvándorláskori rovásfeliratok a Kárpát-medencében. Bp. 『後期民族移動期の石刻碑文、カルパチア盆地に於いて』

6．8．まとめ
6．8．Conclusions

１９９２年にも、アールトはグラネのエニセイ資料を公表しているし、トルコ共和国では、ラドロフの資料まで復刻されている。また、T. テキン（T. Tekin）教授も元気である。そういう前提であるが、過去百年の突厥文字資料の解釈を通して、出来るだけ恣意的な読みを排除したつもりである。少なくとも筆者の考えでは改善の余地は大いにある。

もとの碑文から正確な文字パターンを割り出すの作業が不十分である。従って、本稿では突厥文字を作成した上、新たなテキストを作成した。このテキストにより、文字把握として文字を後舌と前舌に分ける場合に右上に記号を付けることにより単なるローマナイズ・テキストよりも把握が容易になり、さらに、誤読の可能性の高い文字に就いても幾つか明白に指摘出来る。現地調査して資料を採取しても結局は誤読する場合もあるから注意したい。

２０世紀のオスマン帝国からトルコ共和国への移行の時期にこれらの資料が研究されているもだから、どういうラテン文字表記をしているのかという点に興味がある。これは２１世紀への課題である。

第二章 古代ウイグル（回鶻）トルコ語
Chapter Two
The Uighur Turkic

1．古代ウイグル（回鶻）佛典テキスト
1．The Buddhistic Literature

突厥の後に内陸アジアに覇を唱えたのは古代ウイグル（回鶻）であった。古代ウイグル文字はソグド文字に由来している。文字はチンギスの頃にモンゴルへ伝わった（１２０４年）、といわれている。なお、ナイマンは、その後、王子が継ぐも１２１８年に滅亡。古代ウイグル資料は８－１０世紀の記録である。仏典は清代にまで及ぶ。塞北・西域は様々な文化・宗教のルツボであった。天山北路には小乗仏教が、南路は大乗が伝わり、回鶻では印欧系の言語や蔵漢などから翻訳され浄土系の阿彌陀仏信仰があった。長安までも占領した吐蕃（６－９世紀）も中国や西域の遊牧・商業民の信仰する仏教と接触していた。問題の所在を示す。

1 各資料をカラー写真で整理し収集すること。白黒写真では困る点がいくつかある。
2 トルコ語言語資料として突厥からカーシュガリーまでの範囲で回鶻資料を処理すべきと思う。
3 アルタイ語での各仏典を漢蔵梵などと対照すること。トカラ語（A．カラシャフル／アグニ、B．グニ、B．クチャ）、プラークリット（楼蘭から出土のカロシュティー文書）、サカ語（ブラーフミー文字．ホータン・トゥムシュク）、ソグド語（仏教・マニ教・景教等の宗教文献あり、突厥資料もある）、西夏語、西蔵語（吐蕃が敦煌にいた、７－８世紀）等々の資料との関わり。

（d）真贋の問題。毀誉褒貶の対象である資料収集や調査自体。追加や修正が習慣である感覚。

資料リスト

カクック編（KAKUK, Zsuzsa ed.）
1985 Örök kőbe vésve. A régi török népek iro-
『永遠なる石に刻みて．古代トルコ諸民族の文学小鏡』．Bp（カラー写真が四枚あるのがよいが、引用テキストが巻末にあるだけで明示されておらず翻訳とは言えマズイ）

シノール（SINOR, Dénes）
1939 A középázsiai török buddhizmusról「中央アジアのトルコ仏教に就いて」．*KCsA, I. Supplement* (1935-1939)．1939. Bp / Leipzig : 353-396.

ハザイ編（HAZAI, Georg ed.）
Sprachwissenschaftliche Ergebnisse der deutschen Turfan-Forschungen. I (1972), II (1972), III (1985). Leipzig （これは*Ergebnisse*と略。*Turkische Turfan Texte*に就いてはⅠ－Ⅶまで見える。Ⅷ（1954）- Ⅹ（1959）はない）

ハザイ＆ツィーメ *Ergebnisse. Band 4.*（写真集）．Leipzig 1983.

以下の配列は、あいうえお順。下記で不明な点は次の著作に詳しい点もある。

以下の配列は、あいうえお順。下記で不明な点は次の著作に詳しい点もある。
耿世民。（１９８３）。『維吾尔族古代文化和文献概論』。烏（『維』と略す）
張公瑾 et al. eds.。（１９９７）。『民族古文献概覧』。北京・民族出版社。

あ　（雑）阿含經 あごんぎょう（漢語より．小乗系である。維．Āｇａｍａｓ）
解説　漢語より．小乗系である。維．Āｇａｍａｓ。

お　大谷探検隊資料
解説　各種あり。　龍谷大学にかなり保管されているようである。

く　杭文書（突厥のものとは異なり、先端が円錐形に近い。）
（1）MULLER. Zwei Pfahlinschriften aus den Turfanfunden. 1. Die uigurische Inschrift auf dem Pfahle（注　ＩＢ４６７２），2. Die chinesische Pfahlinschrift. *Ergebnisse. III*：459－96.
（2）新疆維吾尔自治区博物館．１９７５．『新疆出土文物』．北京文物出版社（*Cultural Relics unearthed in Sinkiang.* Wenwu Press. Peking. 1975. No. 199）
回鶻文主心木．元（１９９．kᵊｄｉｍkᵢ　ｕｙɳｕｒ　ｙｅｄｉɳｉ　ｐüｔüｌｇᵊｎ　ｙａɳａｑ）　上記、ミューラーのものが活字体に近いのに対してこちらは草書体に近い。
１９５３にトルファンにて発見
参考．この著作には、杭文書ではない二つの写真が別に見える。
（a）ベゼクリク（Ｂｅｚᵊｋｌｉｋ．柏孜克里克）の千佛洞第九窟に回鶻文が一部表記された絵画（白黒写真．１９６）
（b）回鶻文定惠寶奴契（Ｄｉɳ　Ｈｕｙｎｉｎｇ　kᵤｌ　ｓｅｔｉｘ　tᵊｗｌｉｙｉｓｉ．元．２００）．１９５３年トルファン発見．資料．耿世民．１９８３．『維吾尔族古代文化和文献概論』．烏：１２７－８．

ぐ　倶舎論安慧（Ｓｔｈｉｒａｍａｔｉ）實義疏
解説　燉煌本は１９０７年にシュタインが発見。２３０葉４６０ページ。龍谷大学蔵に『ウイグル文アビダルマ（阿毘達磨）論書』（小乗論）では、一般の倶舎論が４６の心所法を説明しているのにここでは５２となっていると言う。
資料　テキン　TEKIN, S. 1970. Ａｂｉｄｈａｒｍａ－ｋｏśａ－ｂｈā||ｙａ－ṭīｋā　ｔａｔｔｖāｒｔｈａｎāｍａ．*The Uigur Translation of Sthiramati's Commentary on the* Vasubandhu's Ａｂｈｉｄｈａｒｍａｋｏśａśāｓｔｒａ：Ａｂｉｄｈａｒｉｍ　ｋｏṣａ－ｖａｒｄｉ　ṣａｓｔｒ．New York.
資料　羽田亨．「トルコ文華厳經の断筒」．『羽田博士史學論文輯．言語宗教篇』：１４８－８２．
資料　耿世民．１９８７．「回鶻文<<阿毘達磨倶舎論>>残巻研究」．『民族語文』．1987. 1：56-61.

け 華厳經

解説 モン 巻54－59。

維 Linhua qəqək üzəki itigi yaratïɳï atlïɳ sudur nom bitig

資料 羽田亨. 「トルコ文華厳經の断簡」. 『羽田博士史學論文輯. 言語宗教篇』：183－205 普賢行願品)

資料 耿世民. 1987. 「回鶻文〈〈八十華厳〉〉残巻研究」. 『民族語文』. 1986. 3：59－65.

賢愚經 (けんぐきょう)

解説 『譬喩の海』。両王子KalyāṇaṃkaraとPāpaṃkaraの故事。

トル Iyi düşünceli şehzade ve kötü düşünceli şehzade ve kötü (Edgü ögli tigin ile ayıg ögli tigin)

資料 オルクン ORKUN, Namık. 1940. Prens Kalyanamkara ve Papamkara Hikâyesi' nin Uyghurca. İstanbul (未見)

資料 BTK. I：102－6.

資料 ハミルトン HAMILTON, James Russel. 1971. *Manuscrits ouigours de Touen-Houang. Le conte bouddhique du Bon et du Mauvais prince en version ouigoure.* Paris(これはLa Bibliotheque Nationalede Parisの 1a cote Pelliot Chinois 3509 の回鶻文の研究。)

資料 KAKUK編：151－61 (KAKUK訳. 部分)

資料 西蔵. 大谷 1008－30品 大施抒海品●1008－33品 善事太子入海品

テキスト

ハミ	*T' ŠX' RW	'YLYNCWK'	*TL' NTWRDY
ハミ	tašγaru	ilinčükā	atlanturdï
邦訳	外へ	行楽に	馬に乗せる
B訳	dışarıda	dolaşmak için	ata binmiş－

'RTY	··P' LYX	T' ŠTYN	T' RYXCY	L' R' X
erti	··balïq	taštïn	tarïγčï－laraγ	
ありたり。	町の	外にて	農民どもを	
－ti.	Şehrin	dışında	çiftçilri	

KWYRWR	'RTY	QWRWX	YYRYK	SWβ' YW
körür	erti	quruγ	yerig	suβayu
見る	ありたり。	乾きし	大地を	水を撒き
görüyordu:		Kuru	yeri	sular,

'WYL	YYRYK	T'RYYW	XWŠ	QWZXWN
ög	yerig	tarïyu	quš	quzγun
乾いた	大地を	耕して	鳥ぞ	鳥ぞ
nemli	yeri	sürerlerken	kuşlar ve	kuzgunlar

SWQ'R*	YWRYYWR	S'NSYZ	TWYM'N
suqar	yorïyur	sansïz	tümän
gagalayıp	yürüyorlar,	sayısız	

'WYZLWK	'WYLWRWR•:	T'RYX	T'RYYW
özlüg	ölürür	tarïγ	tarïyu
canlıyı	öldürüyorlar.	Tarla	sürülürken

'M'RY	TYNLX L'RYX	XWŠCY	K'YYKC／
ämäri*	tïnlïγ-larïγ	quščï*	keyikči
kuşçular (kuş	avlayanlar),		geyikçiler,

P'LYXCY	*βCY	TWR (=Z)	CY	TWZ'XCY
balïqčï	aβčï	tor-čï*		tuzaqčï
balıkçılar,	avcılar,	ağcılar,		tuzakçılar

2 kötü işler yapıyorlar, pek çok canlıyı öldürüyorlar. Birçok insanlar ise çıkrık çeviriyor, yüneğiriyor, kendir eğiriyor, bezleri sıkıştırıp yünlü kumaş dokuyorlar. Bunlardan başka birçok...

げ　玄奘傳（Hüen-Tsang Biyografisi） 該当個所参照

訳者　Siŋku Säli（僧古薩里. 別失八里の人）都統（Tutuŋ）が10世紀の前半に翻訳（BTK. I：83）したとあり、『金光明經』の訳者と同じ人物である。

資料　馮家升.「回鶻文写本『菩薩大唐三蔵法師傳』研究報告. 1953（未見）

資料　トゥグシェヴァ ТУГУШЕВА, Л. Ю. 1980. Фрагменты уйгурской версии биографии Сюань-Цзана. M（資料は16葉32面あり、四行の次にある◎の右の行は殆ど読めない。 右端のものは字体が異なる。 なお、Письменные памятники востока. 1971は未見）

テキスト. G. 6 8　表面

資料. GABAIN, A. von. Die uigurische Hüen-Tsang Biographie (1935 - 1938). *Ergebnisse. I* : 313 - 89 (巻五は３１３－４４までで、Ｇ６８－７１及びＧ６０・Ｇ６１の６葉に就いて。巻七は３４５－３８９まででＹ１６裏面及びＹ１７－Ｙ２３の八葉に就いて)

namo but namo drm namo saŋ	南無 佛 南無 法 南無 僧
bodistw taito samtso ačarï	菩薩 大唐 三藏 法師
nïŋ yorïγ ïn uqïtmaq atlγ	の 巡礼 を 知らせること なる
tsi in čün tigmä kawi	慈 恩 傳 なる 詩 (妙なる)
nom bitig bisinč tägzinč.	經典・書物 第五なる 巻
ol ülüs tä nigranti bir	次の部分にて尼乾なる或る
körüm ◎ körkitmäk	占 (考え) を 示すこと
din basla yur.	より 始む る
ymä qan balïqï kitawata	且つ 帝城なる ？(漢訳. 西漕)
//// suw ïŋa tägmäk öz ä	////水 (河) に 至る 本論 にて
üz ülür.	終わるなり (切るなり)。
kumari ilig niŋ arqïsï	鳩摩羅 王なる 使いの者ぞ
samtso ačarï qa taqï tägmäz	三蔵 法師 に も 至らず
... yalïŋ ät' üz lüg	... 裸なる 肉体 の
wčir atlγ nigranti surt oq	金剛石 なる 尼乾ぞ (忽ち. sorïn)
samtso ačarï pryanïŋa kirip	三蔵 法師なる 修行場に 入りて
käldi. samtso ačari öŋrä	来るなり。 三蔵 法師ぞ 先に
äsidmisi bar ärdi bu nigranti	聞きしことあるなり。この尼乾なる
/// körümči ol tip ötrü	占師ぞ かくの如し とて その後
üskintä olγurtup siz inmis	その前に座しその (かねて)自ら問ひしことを
in ayïtdï inčä tip	尋ねしなり かく 言ひて、
mn huintso uluγ twγač lïγ	我 三蔵、大なる 中国 なる
toyïn munta bosγut qa	僧にして ここにて 教え に
kältim. yïl lar ai lar ärtgäli	来たり。 年々 月々ぞ 過ぎ
ür kič boltï amtï öz ulusum	長期に なりたり。 今 自ら 祖国
-qa yanturu barγuluq tapïm ol	に 再び 冒険せむとするは 我の望みなり
nämän ötgäi mu mn	何ぞ 到るなる や 我
	(今欲帰還知不達不. 以下漢文)

テキスト G. 6 8裏

. . mn. .	又去往二宣何最為吉
./i•bir körüm körü yrlïqaz-un	及寿命長短
... tidi• ötrü	願仁者占看
nigranti ◎ körä yin	尼乾乃索一白石
tip bir aq tas qoltï	畫地而筮
aq tas alïp yir ciz-ip. .	報法師曰

ïrq sačtï·ïrqïn körmistin kin　師住時最好
samtso ačarï-qa söz-lädi (·)　五印度　(及道俗無不敬重. . .)
ačarï munta tursar siz tisär (·)
ädgü köz-ünür·biš änätkäk

テキスト　Y16裏面

yai bisinč　夏の　第五なる
ay ïn ir tawïšqan kün kä　月なる　乙・卯　日に
-kä ortun änätkäk ilintä　中なる　インド　国なる
-ki mqa bodiram saŋram-da　maqā bodhi (摩訶菩提) 寺にて
olurdačï uluγ ärdäm-lig inan//　なる　大　知恵持ちの　Jiñāna
-prabha (智光)
prtyadiwi atlγ iki uluγ bilgä　Prajñādeva (慧天) なる
二人の大なる智恵者

-lärdn samtso ačarï-qa bitig　等より　三蔵　法師に　書
kälti·bitigdä-ki saw-ï bu　到るなり　書の　言葉ぞ　これ
ärür· ·　なり. . .
samtso ačarï yrutduŋuz uluγ　三蔵法師よ汝照らしたるなり大(mahā-)
kičig kü/ölüŋü-lirig (·) ulatï tas　小(hīna-)輪(yāna) 等を加え他の
bitig-lär-täki tört wid bis　書等なる　四　ヴェーダ (四韋陀)　五
bilgä bilig bilmäk atlïγ šastir　賢き智恵を知る (五明) なる教典
-lar·siziŋä ïdï bilmäyüki　等ぞ　汝に　送りて　知らぬこと
qalmadï·šilabadri atlγ uluγ　残らぬなり。　Šīlabhadraなる大
nomčï bilgä baqšï-nïŋ tïtsï　説教師　賢者なる　師の　邪魔-
-lar-ïnta qamaγ-ta basï siz·　等a
bis änätkäk ilintäki nomči-lar
-qa barča-γa bir yaŋlïγ
säwitmiš ayatmïš ärür siz〔·〕

資料　耿世民.「回鶻文 〈〈玄奘傳〉〉 第七巻研究」.『民族語文』. 1979. 4:249-62

解説　今までに378葉見つかっており、248葉は北京図書館（1951年の影印版あり）、23葉は仏ギメ図書館、7葉はレニングラードにあるとあるが、実際は更にあるようである。

テキスト. 四葉あり1aを示す。
(qïš onu) nč ayïn han laγki　冬十番なる月に帝、洛京 (長安?)
γa yrlïqadï. . . samtso ačari　に詔勅したり. . . 三蔵法師
ymä bardï. . . han öŋrä　も行きたり. . . 帝ぞまず
is basčï bäglärgä yrlïqamïš　事を　司る　ベグたちに　宣ひたり
. . . (以下省略) . . .

こ　金光明最勝王經（Altun yaruk. 該当個所参照）

(1) 全体説明

題名 Altun ӧŋlüg yruq yaltrïqlγ qopda kӧtrül-mis nom iligi atlγ nom

翻訳 漢語から1687年に玄奘傳と同一訳者。

資料 MÜLLER, F. W. K. Die Reste des buddhistischen "Goldglanz-Sutra". *Uigurica. I. Ergebnisse. I*：10－60（漢語と対訳及び原文字対照）

資料 MÜLLER & LENETZ, W. Sogdische Texte II（7. Suvarṇaprabhāsa (oben S. 539ff). *Ergebnisse. II*：372－7（回鶻文ローマナイズ・テキスト）

資料 РАДЛОВ, В. В. &МАЛОВ, С. Е.）. 1913 Suvarṇa-pra-bhāsa (Сутра золотого блеска). Текст, уйгурской редакции. BB. XVII. СПб（漢訳本より．17世紀末？）

資料 МАЛОВ, С. Е. 1930 Suvarṇa-prabhāsa *(Das Goldglanz-Sutra). Aus dem Uigurischen ins Deutsche übersetzt von Dr. W. Radloff, I－III. BB. XXVII.* Л.

目録 EHLERS, Gerhard. 1987. *Alttürkische Handschriften. Teil. 2.* Stuttgart（第一冊は未見。Goldglanzsūtraと Daśakarmapathāvadānamālā資料）

資料 KAKUK編：149－51（KAKUK訳. Az aranyszarvas legendája）

資料 KAYA, Ceval. (1994). Uygurca Altın Yaruk. TDK：607. Ankara.

散文及び韻文 資料 KAKUK編：121－2（KAKUK及びTANDORI訳. Singkuszeli tutung kolofonja〔X. század)）

蒙訳 甘殊尔13－4　176－8（大谷蔵訳. 174－6）

(2) 摩訶薩捶以身施虎（百縁經にもある）

蒙文 「摩訶薩捶以身施虎第二」：諸品經第三十一　巻下一百八十九～上一百九十三

西蔵 大谷本　174－26（捨身品）●175－26（捨身牝虎品）●176－18（捨身牝虎品）

ト Altun Yaruk' tan Şehzade ile Pars hikâyesi

資料 KAKUK編：137－49（KAKUK及びTANDORI訳. Az éhez tigris legendája〔Részlet az Aranyfény szutrá ból〕）

テキスト.

マ マーロフ：161－87	anta	ӧtrü	t(ä)ŋri
訳 邦訳	それより	後	天たちの
B BTK. I：106－9　ローマナイズ	Anta	ӧtrü	t(e)ngri
B BTK. I：106－9　共和国トルコ語訳	Ondan	sonra	Tanrılar
シ シュミット蒙古文法中のテキスト	tendeče		ilaγu tegüs
訳 シュミット・テキストの邦訳	それより		勝ちて　完全に

t (ä) ŋ r i s i　　b u r q a n　　ï n č a　　t i p　y (a) r ï q a d ï.
天たる　　佛陀は　　i n ç e　　d i p　y (a) r ı k a d ı.
t (e) n g r i s i　　b u r h a n　　ş ö y l e　　b u y u r d u :
T a n r ı s ı　　B u r k a n (Buda)　　次のように　宣ひたり、

n ö g č i g s e n　　b u r q a n　　a m i n　q a b i y − a　t u　a n a n d a
過ぎし　　佛陀は　　命　適ひし　アナンダ

d u r　e y i n　k e m e n　ϒ a r l ı γ　b o l u r − u n : . . .
に　この様に　とて　宣ひ　たるに　: . . .

A n a n t　a !　ö ŋ r ä　ä r t m i s　ö d t ä　　b u　č m a b u d i　v i p
アナンダよ！　先に　ありし　時に　チャンプディプなる
A n a n t a !　Ö n g r e　e r t m i ş　ö d t e　　Ç a m b u d i v i p
A n a n t a !　E s k i　z a m a n d a　　b u　ç a m b u d i v i p

A n a n d a　　e r t e　n ö g č i g s e n　č a γ t u r　m a　h a − a　r a t a − a
アナンダよ！　先に　過ぎし　時に　マハー・ラター

u l u s t a　　M (a) γ a r a d i　a t l (ï) γ　i l i k　q a n　b a r　ä r t i.
国に　マハラディ　なる　王　ある　なり。
ü l k e s i n d e　M a h a r a d i　a d l ı　h ü k ü m d a r　v a r d ı . . .
u l u ş t a　M (a) h a r a d i　a t l (ı) g　i l i g　h a n　b a r　e r t i.

n e r e t ü　　n e ŋ　o l a n　k ö l g e n　k ü č ü n　d ü r　t e g ü s ü g s e n
なる　大にして　多くの　車輪なる　力　に　極まりし

t ü r i d k e l　ü g e i　k ü č ü n　i y e r　č i n a d u s　i　d a r u γ č i
邪魔　なき　力　にて　相手ども　を　抑える
n i g e n　y e k e　q a γ a n　b ü l ü g e.
或る　大なる　汗　ありき。

以下、トルコ語現代語部分。

İ s t e　b u　d e r e c e　h a ş m e t l i,　g ü ç l ü　v e　k u d r e t l i　o l a n　h a n ı n　b ü y ü k　h a t u n u n d a n　d o ğ m u ş,　g ö r ü l m e y e　d e ğ e r,　s e v i m l i　v e　g ü z e l　y ü z l ü　ü ç　o ğ l u　v a r d ı.

İ l k　ö n c e　k i　b ü y ü k　o ğ l u n u n　a d ı　M a h a b a l ı　i d i.　İ k i n c i,　o r t a n c a　o ğ l u n u n　a d ı　M a h a d i v i　i d i.　U ç ü n c ü,　k ü ç ü k　o ğ l u n u n　a d ı　M a h a s a t v i　i d i.

B i r　g ü n　h ü k ü m d a r,　ü ç　o ğ l u　i l e　d ı ş a r d a,　d a ğ l a r d a

ve ormanlarda dolaşmağa çıktı.

Oraya ulaşıp gezme işini bitirdikten sonra
ᵠ Qačan anta tägip ilinčü mäŋi išin ärtürdüktä,

sonra üç şehzade çiçek ve meyve toplamak için
ötrü ol üč tigit lär qua čäčäk tüs yimiš idigäli

hükümdar babalarından müsade alarak kaldılar.
adalarï ilik bägkä ötünüp ayïtïp qaltïlar.

以下、モンゴル語部分

Tere yeke qaγan ača tŋri yin köbegüd tür
adali maha-a na-a da: maha-a diw-a: maha-a
saduwa nereten γurban köbegün bülüge:
Tendeče tere qaγan uyidγalčilan nigen čečeglig
tur oduγsan dur: tedeger köbegüd ber daγaldun
odču tere čečeglig ün sayin erdem üd tür
quričaǰu čečeg γayiqr-a inaγsi činaγsi yabuγad:
arban qoyar yeke oi dur orur un: tendeče qaγan u
köbegün daγaγsad tabiγčid nügüd iyen qariγulču
möd γurbaγulqan-a inaγsi činaγsi yabuγad: qamuγ
ača sakiqui neretü yeke čečeglig ün arban qoyar
yeke oi dur orubai: tendeče ma ha-a na-a da qoyar
degüü ner iyen ügüler-ün: ende bidan i araγatan
görügesün-e alaγdaqui metü minü ǰirüken dür
ayuqui sedkil törümüi inaγsi iredkün kemen
ügülebesü: ma ha-a diw-a ügüler ün: nadur ayuqui
sedkil ügei: amuraγ čiqula ba kümün eče
aŋgiǰaraqui metü qurusqui sedkil törümüi
kemegdeǰü: ma ha-a sadw-a ügüler-ün: čidaγčid un
sayisiyaγsan ene aγlaγ oi dur nadur ayul kiged
qurusqui ǰobalaŋ bar ügei: ülemǰi degedü yeke
udq-a tu olǰa olqui metü sed-kil dür asuru
bayasγulaŋ törübei: kemen ügüleldüǰü: tendeče
tedeger köbegüd tere arban qoyar yekeoi yin
dotur-a yabuǰu odbasu: tabun ǰolǰaγan tu ölügčin
bars ǰolǰaγalaǰu doluγan edür boluγsan...

（3）懺悔滅罪傳

資料　マーロフ　145－61：Легенда о правителе кю－тау（中国的）

資料　『大正大蔵經』

4（5行目より）

:: ötrü ol / oγur ta: inčiü ○ atl(ï)γ balïq
その後　その　時　に　治中　なる　町

昔温州治中張居道滄州景城縣人...

ta: / čaŋ baγ lïγ küü tau atl(ï)γ bir bäg /
にて　張　姓　持つ　居　道　なる　一人の　ベグぞ

balïq bägi ärti:: ol bäg balïq / bägi bolup
町の　ベグ　なりし。　かの　ベグ　町の　ベグと　なるに

ärtä käd ölütči / boltï. kin bir tus ta qïz
かつては　むごき　屠殺者　なりき。　その後　或る　時　に　娘の

aš ï / tïltaq ïnta ud, qoin, toŋuz, /qaz, ödiräk,
婚礼の　故を　以って　雌牛　羊　豚　鵝鳥 も. γalaγu 鴨

taγïqu ta ulatï / üküš tälim özlüg lärig ölürüp,
鵝 も. taki-a も　含め　多　々なる　生き物　どもを　殺し

/ uluγ aš ičkü qïltï. aš qïlu / tükätmiš tä kin
大なる酒宴（食物＋飲物）をなしたり。　食　事が　尽きる　に　その後

on kün ärtmäz / knä, ötrü ol bäg bälïŋdäk / aγïr
十　日　経たずして　正に　その後　かの　ベグぞ　ひどく　重く

iglädi:: ïnčïp ig läyü / birlä ög ○ sav söz
病みたり。　かく　病む　と　共に　思ひ・　言葉ぞ

qodup / tutar qapar ärkän, ölüp bartï:: / ölüp
失ひて　持ちて　摑みて　ありつつ　死にて　行きたり。　死にて

bütün ätöz i tumïlïp: tk / yalïŋuz yüräki
全ての　肉身ぞ　冷たくなりて　唯　僅かに　その心（心臓）ぞ

tašïnta bir tanču / ät i tumïlmatï. Anï / körüp
外にて 一 部分なる 肉ぞ 冷たくならざるなり。 それを 見て

äv intäki kiši lär uluγ
家の 内なる 人 々ぞ 大なる

5 yïγït sïγït qïlïp, ölügüg sämäklägäli... iltmäz
knä, üč kün ärd/tip ba... törtünč kün taŋda ärtä
ört... turur ärkän. Ol bäg tirilip kälip, örü
olurup aš ičkü qoltï. Anï körüp, qamaγ q a šï
qat/daš ï baslap, kim ol törü tä yïγïlmïš, näčä
kiši lär ärti ärsär, olar barča qorqup bäliŋläp,

哀哭 号泣 して 死者を 葬るべく... 連れ去らず 正に 三 日 過ぎて... 四日目なる
明け方に 早く 立つ 時に かの ベグぞ 気がつき 帰りて 上に 在りて 飲食を 求めしなり。
それを 見て すべての 親族を はじめとして 誰か かの 葬儀 にて 集まる、は 幾らかの
人々 ども あり あるに かの者ども 皆 恐れ おののきて

注 上の下線の個所は文法的に見てかなり珍しい、が回鶻以降には散見する構文である。

し　七星經　回. Yitikänsudur

回鶻　Yitikän sudur nom ärdini
解説　玄奘が将来したものを１３２８年に蒙古・回鶻語に訳したものらしい、前者はPrājñā-śrī、後者はAlïn temür taisiが翻訳、後者は一千部印刷されたと言う。
資料　RAHMATI. *Ergebnisse. II* : 310 - 5 （Nr. 14の資料. TⅢM190）

解説　七星とは次のものである。

〔t〕amlaŋ atlγ yultuz 貪狼　　kumunsi atlγ yultuz 巨門
liusun atlγ yultuz 禄存　　yunkiu atlγ yultuz 文曲
limčin atlγ yultuz 廉貞　　vukuu atlγ yultuz 武曲
〔pakunsi〕 atlγ yultuz 破軍

但し、八番目・九番目の星の名前もあるようだが、破損し不明。
その他　TⅢM123　TⅢM243　TⅢM244　TⅢM144

資料　RAHMATI. *Ergebnisse. II* : 335 - 9 （Nr. 40の資料. 9葉＋8葉）

し　シュタイン・オウレール（STEIN, Aurél. 1862－1943）
解説　ハンガリーの探検家。イギリスの協力で西域探検をおこなった。そのロンドン・コレクションは無視できない。日本でも東洋文庫と京都大学でマイクロ・フィルムを見ることができるし、『燉煌寶藏』中にもある。

し　勝軍王問經（Ārya－rājāvavādaka－sūtra. 未詳）

じ　慈悲道場懺法（Tövbe duaları）
回鶻 Kšanti qïlmaq nom bitig
トル Kşanti kılguluk nom（Günah çıkarma duası）
資料 ミューラー *Uigurica II. Ergebnisse. I* : 76 - 83（解説 +DA番号あり）, *id.* 84 - 89.

じ　十業道佛譬喩鬘經（Daśakarmapatha-avadānamālā）
解説 仏教故事
回鶻 Daśakrmapuda awadanamal
(1) N本系 MÜLLER+ & GABAIN. *Uigurica.* IV. *Ergenbisse. I* : 260 - 312.
(1. a) Caşţana *Ergebnisse. I* : 262 -84
解説 Častani王物語でAvidyarakša-sūtraと言う。 漢訳あり。
Kolophon aus Buch N（TⅢ 8 4 - 6 8）
waibaz-iki šastantri kryi drri saŋadas
/gu küsän tilintin toqrï tilinčä
äwirmiš toqrï tilintin šilaz-in praš
tinki yaŋïrtï türkčä äwirmiš
daśakrmapuda 'awtanamal nom bitigdä on
krmapt-larïγ ärtmäk-niŋ münin
Kolophon aus Buch S（TⅡq M-3）
waibaziki šastrantri. kryi drri
saŋadas ugu küsän tilintin toqrï
... tilinčä äwirmiš. toqrï tilintin
šilazin praśniki ŋïrtï türkčä
äwirmiš daśa-krma-pta 'awadanamal nom
bitigdä on krmapt ärtmiš-niŋ...
Kolophon aus Buch N（TⅢ 8 4 - 3 7）
daśakrmapta 'awtanamal nom bitigdä on
krmapt-larïγ ärtmäk-niŋ münin qadaγ?
-ïn aγaγïn körkitmäkdä äwrig sarsïγ
saw söz-lämäkig yirmäk atlγ...
ülüš tükädi. namo but namo drm
namo saŋ〔.〕
TⅢ 8 4 - 4 2（又、*Uigurica I. Ergebnisse.* 38 - 45）等他4葉
資料 BTK. I : 1 1 1 - 2（Çaştanı Beğ' in Şeytanlarla Çarpışması『チャシュタヌ・ベグの悪魔どもと戦ひしこと』）
(1. b) Geschichte vom großen Affen und Padmāvatī *Ergebnisse. I* : 285 -8.
解説 Mahākapijātaka（Pali-jātaka 4 0 7, Jātakamālā 2 7. 1葉）
(1. c) Dantipāla *Ergebnisse. I* : 289 -300（3葉）
資料 BTK. I : 1 1 0 - 1（Dantipali Beğ）

(1. d) Das Hasen-Jātaka *Ergebnisse. I* : 301 -12 (3葉)
解説 Pali-jātaka 316, Jātakamālā 27.
(2) S本系 MÜLLER. Uigurische Avadāna-Bruchstucke. *Uigurica. III. Ergenbisse. I* : 169 - 259.
(2. a) TⅡM7 MÜLLER* & GABAIN. *Uigurica. IV. Ergenbisse. I* : 260 - 312 中
(2. b) Haricandra王物語 *Ergebnisse. I* : 170 - 93 (19葉)
(2. c) Kāñcanasāra王物語 *Ergebnisse. I* : 193 - 200 (5葉)
(2. d) Mahendrasena王物語 *Ergebnisse. I* : 200 - 12 (8葉)
参考 ミューラー *Uigurica. II. Ergebnisse. I* : 78 - 85.
(2. e) Priyaṅkara王物語 *Ergebnisse. I* : 212 - 6 (3葉)
(2. f) Der standhafte Prinz *Ergebnisse. I* : 216 - 8 (3葉)
(2. g) Ṣaḍḍanta *Ergebnisse. I* : 218 - 27 (8葉)
解説 *Uigurica. IV. Ergebnsse. I* : 53 - 4は*Uigurica. II. Ergebnisse. I* : 78 - 85 にやや対応。上記、マヘンドラ王物語に入る。
(2. h) Kalmāṣapāda&Sutasoma *Ergebnisse. I* : 228 - 40 (11葉)
(2. i) Erzihlung von der Macht der Liebe *Ergebnisse. I* : 241 - 56 (10葉位)
(3) Z本系 (N本系に近い) MÜLLER* & GABAIN. *Uigurica. IV. Ergenbisse. I* : 260 - 312 中
TⅡY60-t (YはYār qōtō発見) TⅡY58 ともにカスタニ王物語
(4) 資料 GABAIN. Das Avadāna des Dämons Āṭavaka. Bearbeitet von Tadeusz KOWALSKI. *Türkische Turfan-Texte X.* 1959 (12葉)

じ 十方平安經
回鶻 Tisastvustik sudur ärdini
解説 52行程ある。 漢文よりと言うより梵語に近いと言われる。
資料 RADLOFF, W. Tisastvustik. Ein in Türkischer Sprache bearbeitetes buddhistisches Sūtra. *BB. XII.* St.-Petersb. 1910.

だ 大雲清雨經
維 Mahāmegha-sūtra

だ 大孔雀經 (未詳)

だ 大方便佛報恩經
維 Mahopāya utlīɳ yanturmïx sütur
解説 他の仏典類とかなりの重複・関わりがある。

だ　陀羅尼関係

(1) 佛頂尊勝陀羅尼經（梵 Sarva-durgati-pariśodhana--vijayā-dhāraṇī）

回鶻 Alqu ayïq yawïz yollarïγ artuqraq uz arït-dačï. . . uṣnisa wičai atlγ darnï

資料 回鶻文 Uigurica. II. *Ergebnisse. I* : 85 - 108（8葉）

言語表記上の注意.「十三」にはtooz「埃」やyiil「風」などの表記がある。

資料 モン 甘殊尔14 203（大谷198）付近

(2) 聖一切如来頂〇中出白傘蓋仏母餘無能敵總持＝佛説大白傘蓋總持陀羅尼 既述

文字注 〇の部分は、髪の下の部分を「吉」に変える

回鶻 Alqu ančulayu kälmis-lär-niη usnir-lar--ïntïn ünmis adï kütrülmis
sitatapadra atlγ utsuqmaqsïz darnï

資料 Uigurica. II. *Ergebnisse. I* : 108 - 33（ざっと数えても30葉以上ある）

資料 石濱純太郎.「回鶻文白傘蓋陀羅尼経の断片」.『龍谷大学仏教史学論集』. 1939.

資料 モン 甘殊尔14 208（大谷 203）付近

(3) その他

テキスト *SP. 244* : 187－234（蔵満蒙漢四體）.『金剛壽命陀羅尼經』. なお、蔵満蒙のものもある？ようである、金文字の写本、『目録』

テキスト *SP. 244* : 235－254（モン） Xutuγ tu yemege yeke ü-čüken neretü yeke külgen sudur

テキスト *SP. 248* : 809－923（満州）.『地蔵菩薩本願經』

テキスト *SP. 71 (1) - (22)* 御製満漢蒙古西番合璧大蔵全咒（乾隆年間）

て　（佛説）天地八陽神咒經

解説 漢語よりの偽書と言う. 羽田：64－141。龍谷大学の大谷探検隊将来のものもあり、これには405行あると言う。トルファンの交河城（ヤル・ホト）出土。10世紀頃のものか？

回鶻 Täηrili yirlidä säkiz yükmäk yarumïs yal-trïlmïs ïduq darnï täk vip atlïγ sudur nom bitig

モン Qutuγtu oγtarγui (γaγar un) naiman gegegen/gegen neretü (yeke külgen) sudur

資料 GABAIN, RACHMATI, G. R. & BANG. Das buddhistische Sūtra Säkiz yük-mäk. *Ergebnisse. II* : 190 - 289

資料. KAKUK編：130－6（KAKUK訳. Nyolc fényhalom. Dhárani-szutra. 部分）

ど　洞窟

（1）甘粛・炳霊寺

（2）甘粛・天水県の麥積山

（3）山西・大同の西北の雲崗（北魏）

（4）河南・龍門　北魏が洛陽へ移った際、大同を懐かしがりここに造った。　神禹廟経旨碑（元の至元！12年．1352年））があり、上は八思巴字漢語、下は漢文で記されている。

と　敦煌

解説　1897年にハンガリーのセーチェーニィ伯爵調査隊はこの地にて千佛洞（トル　Bin Buda maɣaraları）を発見。プレジュヴァリスキーも調査し、シュタインも二度目の調査でここに来た、1907年3月。ここでかの王道士が番をしていたわけで、いよいよ今なお続く、馬鹿げた金と名誉の競争がはじまったと言える。1908年にはペリオも来ている。

莫高窟（Mə γou Ku）に梵蔵維八思巴西夏漢の六体の六体真言がある。同じ六体でも北京の北、万里の長城の居庸関（Cabāiyal boγumta）には維ならぬ回鶻文の碑文がある。

資料　黄永武編．1989．『敦煌寶藏．一～一四〇』．Seoul．

解説　これ程期待し、失望した叢書もない。　内容は斯垣因本が「一～五五」、北平本が「五六～一一一」そして伯希和本が「一一二～一四〇」となっている。問題は碎片049、184－197が全く使いものにならないことである。ちょうど、インドのシャタ・ピタカ叢書と同じミスをしている。

と　トルコ共和国での研究

ヂャフェルオグル（CAFEROĞLU, Ahmet）

1968. Eski Uygur Türkçesi Sözlüğü. İstanbul（同じ著者のやや古いものとしては1934年に Uygur sözlüğü. A－K がある、1938年まで続く。

イズギ（İZGİ, Özkan）

1989 Çin elçisi Wang Yen-te' nin uygur seyahatnamesi. Ankara（これは北宋の太平興国6年981に王延徳が高昌に使節として行った漢文資料に就いての研究）

は　般若經関係（モン巻26－37より．関係部分参照）

金剛般若波羅蜜多經（Vajracchedikā prajñāpāramitā）

回鶻　Kim-oγ-ki atlγ nom ärdini

資料　テキン（シナシ）（TEKIN, Şinasi）

1980. *Buddhistische Uigurica aus der Yüan-Zeit. AS. 69.*

Hsin Tözin oqidtanči nom. Ein uigurisches Originalwerk über die Nur-Bewusstseinslehre des Mahāyāna. Verfaßt von Vapsi Baqsi: 15 - 150.

Die uigurische Bearbeitung der Geschichte von Sadāprarudita und Dharmodgata Bodhisattva. Ein Auszug aus der Mahā-prajńā-pāramitā-Literatur : 151 - 83.

は　パリ資料

解説　１９０６年にペリオ（Ｐａｕｌ　ＰＥＬＬＩＯＴ）が西域調査。『燉煌寶蔵』中にあり

資料　*Mission Paul Pelliot*. Paris. 1961 - 70（大阪外国語大学に９冊ほどある）

は　ハンガリー

解説　『ハンガリー語初期文献の研究』の１９００年前後の項目を参照せよ。　ハンガリーの調査隊はしかし金銭的な問題とか、今から見れば文献収集に没頭しなかった点もあり、失敗したと言えるかもしれない。　むしろリゲティのモンゴル中心の調査がしっかりしていたと言える。

ふ　フィンランド

解説　１８９８年にＯｔｔｏ　ＤＯＮＮＥＲが西域を調査

へ　スヴェン・ヘディン（ＨＥＤＩＮ，Ｓｖｅｎ．１８６５－１９５２）

資料　HEDIN, Sven. 1917 - 22. *Southern Tibet*. Stockholm（１９０６－８年に於ける調査の報告であり、京都産業大学に９巻及び地図集等がある）

資料　HEDIN, Sven. *The Sino-Swedish Expedition Publications*. Stockholm（大阪外国語大学にあるものを見たことがあるが、地理学・考古学的なものが多い。１９６６年の *Atlas* が４７冊目。）

ペ　ベルリン本資料

解説　１９０２－３・５－７年にＡｌｂｅｒｔ　ＧＲＵＮＷＥＤＥＬが西域調査。
１９０４－６年にＡｌｂｅｒｔ　Ａｕｇｕｓｔ　ｖｏｎ　Ｌｅ　ＣＯＱが西域調査。

資料　BANG & von GABAIN. *Türkische Turfan-Texte. V. Ergebnisse. II* : 116 - 32.

解説　興味ある著作のタイトルがある。

1行 wapquaki atlγ nom	法華經なる法の
čäčäki sudur-da	花の經典にて
söz-läyür•kirtgünč	. . .
on türlüg yörüglüg	. . .
5行 nomlayu yrlīqamīs•	. . .
žin waη pan ki atlγ	仁王（護国）般（若波羅蜜陀）經なる
sudurda söz-lä	經典にて
22行 yörügin wisikluän	唯識論
22行 wisikluän sastir	唯識論
64行 yogalun tigmä sap-	
ḍaṭasabumik yog sastr	瑜伽（師地）論
89行 taiči tigmä mqa	
prti-a pramita upadis	
atlγ / atlγ *(sic!)* sastar	大智度論
103行 tsuän-ni (?)	仲尼
104行 quη futsï	孔夫子
120行 čuän tsiu	春秋

ほ　方廣大荘厳經（普曜經）
回鶻　Ｌａｌｉｔａｖｉｓｔａｒａ
資料　MÜLLER. *Uigurica II. Ergebnisse. I*：62 - 5.
注意　＋ＤＡ奪格や、ｑａｎｙｕ－ｄａ "ｋａｎｄａ, whereever, worin" なる形式が見える。
モン　POPPE, N. 1967. *Twelve Deeds of Buddha. A Mongolian Version of the Lalitavistara. Mongolian Texts, Notes, and English Translation. AF. 3.*
モン　LIGETI, L. 1974. *Les douze actes du Bouddha. Arban qoyar jokiyang rui üiles des chos-kyi 'Od-zer. Traduction des Ses-rab Sen-ge. MLMC. V., IVLMMT. V.* Bp.

ほ　法句經（Ｄａｍｍａｐａｄａ『真理の辞（パーリ語）』．回鶻及び蒙文（蔵より）あり
解説　梵語でＤｈａｒｍａｐａｄａ．内陸アジアの写本多し

ほ　法華經（Ｓａｄｄｈａｒｍａｐｕṇḍａｒīｋａ）
（1）　觀世音菩薩普門品
トル　Ｓｅｓ　ｉşｉｔｅｎ　ｉｌâｈ（Ｋｕａｎşｉ　ｉｍ　ｐｕｓａｒ）
資料　ラドロフ　*BB. XIV.* 1911.
資料　ミューラー　*Uigurica. II. Ergebnisse. I*：72 - 8
資料　BTK. I：１０１－２.
資料　ＴＥＫＩＮ, Şinasi. １９６０. Ｋｕａｎşｉ　ｉｍ　ｐｕｓａｒ. Ｅｒｚｕｒｕｍ.
（2）　堤婆達多品？
（3）　モン　巻６６の８６８（大谷　７８１）

み　彌勒会見經
回鶻　Ｍａｉｔｒｉｓｉｍｉｔ　ｎｏｍ　ｂｉｔｉｇ
翻訳　吐火羅（亀茲－焉耆）語よりプラジナーラクシタ（Ｐｒａｊｉｎâｒａｋｓｉｔａ. ācārya　Ｐｒａｊñāｒａｋşｉｔａ. イル・バルク〔ｉｌ－ｂａｌık. 今日のクルヂャ付近〕出身）が翻訳。　２７品あり、１２品のタイトルが見えると言うから大したものである。
資料　GABAIN & HARTMANN. *Maitrisimit, Faksimile der atü. Version eines Werkes der buddh. Vaibhāşika-Schule.* Wiesbaden. 1957.
資料　MÜLLER. Die Entwickelung der　Ｎｉｄāｎａ－*reihe* aus dem Maitrisimit. *Uigurica.* II. *Ergebnisse. I.* 61 - 72. ＴⅡＳ２ｂ・ＴⅡＳ２ｂ－１
資料. MÜLLER & SIEG, E., Maitrisimit und ››Tocharisch‹‹. *Ergebnisse. III* : 415 - 37.
回鶻文の独訳とトカラ語の独訳とが対照されている：
（1）MÜLLER. Ｔｏｑｒï　ｕｎｄ　Ｋｕｉｓａｎ（Ｋüｓäｎ）. *Ergebnisse. III* : 438 - 58.
このⅢ. Ｋｕｉｓａｎ（Ｋüｓäｎ）の項に次の回鶻文のローマ・ナイズがある：
・Uigurischer Kolophon　ＴⅢＭ１２０（ＭはＭｕｒｔｕｑ発見）
・Uigurischer Kolophon　ＴⅡＳ３２　（ＳはＳäηｉｍ発見）

・回鶻文Maitrisimit と Uigurischer Kolophon TⅢM84－68との対照
下線部分に注意 下線部分に注意
Vaibaziki Vaibaziki
aryačintri bodisvt sastntri kavi drri
ksi ačari saŋadas ///ka
änätkäk tilintin kuisan (küsän) tilintin
インドの 言葉より 亀慈の 言葉より
toqri tilinčä toqri tilinčä
トカラの 言葉にて トカラの 言葉にて
yaratmïs ///mis
prtanyaraksit ačari silazin pras tinki
yaŋirti
toqrï tilintin toqrï tilintin
türk tilinčä türkčä
aγtarmis (ävirmis) ävirmis
maitrisimit dsakrmabuda' navtanamal
nom bitig nom biti

(3) 中国での資料
資料 馮家昇. 「一千九百五十九年哈密新発現的回鶻文佛経」. 『文物』. 1962. 7－8合期.
解説 1959年8月に発見、現在新疆維吾尔自治区博物館に所蔵。異本あり1
資料 李経緯. 「哈密本回鶻文〈〈弥勒三弥底経〉〉. 第二巻研究 『民族語文研究論集』. 西寧.
1982：673 - 704.
解説 この哈密本は一面30行あり、縦21センチ、拠り47，5センチ。
7－10行目には円形の空白部分があり紐を通す孔がある。
漢訳大蔵経にはなく、哈密本巻二「彌勒菩薩成僧」は賢愚經巻12「波婆離品」第50と類似。
(4) KAKUK編：104－10 (TANDORI訳。A himnusz Maitrejá- hoz)
KAKUK編：110－1 (TANDORI訳. Ó, Maitreja)

む 無量壽經関係
(1) 無量壽 (佛) 經 (聖無量光Amitāyus荘厳大乘經)
回鶻 Amita ayusi sudur
解説 日本の『浄土三部経』の一つ。 龍谷大学のものに『大乘無量壽經』なる13－4世紀の木版の
ものがあり、ベルリン所蔵の手写本もある。 ともにトルファン出土。
資料 RADLOFF, W. Uigurische Sprachdenkmäler. Herausgegeben von S. Malov. Leningrad. 1928
(これも木版である)
(2) 阿彌陀經 (聖樂有荘厳Sukhāvatīvyūha大乘經)
回鶻 Amita－ki或Amitaba－sutur
解説 日本で言う『浄土三部経』の一つで小無量壽經と言われる。 ベルリン所蔵の手写本もある。
参考 「是・如・我・聞」 (漢訳では『我・聞・是・如』の場合もある) 『佛説阿彌陀經 (心經)』
満州 Uttu seme mini donjiha

モン eyin kemen minu sonusuɣsan『佛説阿彌陀經〔心經〕』
なお、*SP.* 245 : 798 - 809を参照。
回 ančulayu ärür mäniŋ äsidmis im (*Ergebnisse. I.* : 84)-
(3) 觀無量壽經 (觀經と略称される)
解説 龍谷本とベルリン本とにある散文体のもの。 Abitakiとタイトルを打つものでpaq lin (si ki atlɣ yuŋrüŋ) linqua čäčäk tirgini ärdini『白蓮 (社經なる白き) 蓮華花の輪の經典なるタイトルもあると言われるもの。 第三に韻文体のものである。 問題に就いては百済康義氏に詳しい。
(4) 満洲仏典 (Manǰuの名前の為か或いは逆の影響か、文殊菩薩信仰が盛ん)
文献解説 WALRAVENS, Harmut. *Buddhist Literature of the Manchus. SP.* 274.
資料 *SP.* 244 : 79 - 99 (満州) ; 100 - 14 (モン)『長壽佛經』
資料 *SP.* 244 : 255 - 77 (満州) ; 278 - 92 (モン)『長壽佛經』
資料 *SP.* 244 : 344 - 64 (満州) ; 365 - 79 (モン)『無量壽佛經』
解説 モンゴル語のタイトルを示しておく。 Qutuɣ tu čaɣlasi ügei nasun kiged belge bilig tü ülemǰi teyin böged maqad ǰibaqulaŋ qaɣan kemegdekü yeke kölgen sudur『佛説大乘無量壽決定光明王如来陀羅尼』
トド Toyin ɣabǰu rabǰamba dzay-a bandida訳

も 文殊師利成就法 (Manjuśrī-sādhana)
解説 西藏語よりQoludï Saŋgasriに拠る訳であると言う。 龍谷大学蔵。 トルファン出土、14世紀のもの。

ゆ 瑜伽師地經 ゆがしじきょう (Yogācāra-bhūmi-śāstra)
解説 よくわからないが、幾つかの資料は *Ergebnisse* 中に見える。

ら ラウファー (LAUFER, Berthold)
解説 西域研究と言えばこれを凌ぐものはないと思う植物名称の研究である。
資料 LAUFER, Berthold. 1919. *Sino-Iranica. Chinese Contributions to the Histpry of Civilizations in Ancient Iran with Special Reference to the History of Cultivated Plants and Products.* Chicago.

ら ラマ教資料
(1) 資料 MÜLLER. Ein uigurisch-lamaistisches Zauberritual aus den Turfanfunden. *Ergebnisse. III* : 497 - 502.
解説 48葉で2部に分けられると言う。 Včir-a dari (Vajradhara) よりBaɣisba baɣsi (P 'ags-pa) まで22代の系譜あり、14代Naruba (Naropa) の名あり。
(2) 資料 ZIEME, P & KARA, G. 1978. *Ein uigurisches Totenbuch.* Nāropas Lehre in uigurischer Übersetzung von vier tibetischen Traktaten nach der Sammelhandschrift aus

Dunhuang British Museum Or. 8212 (109). *BOH. XXII*. Bp.

ロンドン本. *British Museum Or. 8212(109)* Z. 1－1430（63葉表裏. 草書体資料）

ベルリン本. *Berliner Turfansammlung* TI（現在のU 1419の写真）＋8葉

イスタンブル大学本 Nr. 1

（3）ラマ教の聖地

五台山 SerigÜn toŋγulaγ aγula＝清涼山 Ch'ing liang shan。 山西省は太原より東北230kmにある中国四大名山の一つで文殊菩薩の道場

塔尔（タール）寺 青海の省都西寧の西南（宗喀巴ツォンカパの生地でもある）

拉卜楞（ラブロン）寺 甘粛の蘭州より西南150km（甘粛の夏河）

西藏 ラサ（西藏）、カイラス山

り 龍樹勧王經（詩）

維 Nagarjuna iligig ətləgmə takxut（未詳）

れ レニングラード／サンクト・ペテルブルク資料

解説 1898年にクレメンツ（突厥の項を参照）が西域を調査。 或いは、プレジュヴァリスキー馬で名高いプレジュヴァリスキーも調査している。 1909－11年にはマーロフも調査。

（0）НАСИЛОВ, Д. М. Ю., Изучение памятников древне-уйгурского языка в отечественном востоковедении. ТС（1970）: 93－110.

（1） ТУГУШЕВА, Л. Ю. Два колофона из собрания древнеуйгурских рукописей ЛО ИВАН СССР. ТС. 1975: 252－61.

資料 ЛО ИВАН SI 2 Kr 86（27行. 左端は別に2行の太い字体で書かれ、下の方だけがそれぞれ（no）m bitig、（na）mo drmと見える）

資料 ЛО ИВАН SI Kr II 32／1（表裏、書く10行）

（2） ТУГУШЕВА, Л. Ю. Уйгурская рукопись из собрания ЛО ИВАН СССР. Письменные памятники востока. 1969.

資料 ЛО ИВАН SI Kr 2／51（22面で各六行）

9 49 öz－üm üz－ä ïnanur－män ontun

50 sïŋarqï burqan－larqa mn

51 ämti öritip uluγ qut qolunmaq－

52 lïγ kösüsüg tutar män bu u

なる 望みを 持つ 私は これ を

53 kimqoki sudur nuŋ idimäsin

金剛經 の

54 yoqaru tört türlüg oltï

11 125 larqa bu čambudivip jirtinčüdä
126 ... idi ün-mäz kälmäz ärdi-lär:
127 tükädi (wa) pquaki sudur ärdäni
終わりたり 法華經なる 經典なる 宝
128 ... i:
129 .... namo drm: namo sa(n):
南無 法 南無 僧

the Leningrad Section of the Institute of Oriental Studies. *AOH. XXIV. 2. 1971* : 173-87 (同一のものがTC(1971). 1972:244-60にもある。
MS SI Kr IV 256 MS SI 2 Kr 17

ろ ロンドン資料
解説. ハンガリー人Sir Aurel STEINが1900・6年に西域調査。 資料は各種収集された、と言うか、収奪されたと言って良い程凄い内容のものが多い。
資料. GILES, Lionel. 1957. *Descriptive Manuscripts from Tunhuang in the British Museum*. London.『燉煌叢刊行初集. 一. 英倫博物館漢文燉煌巻子収蔵目録』. 新文豊出版公司.

韻文 資料. KAKUK編:102-3 (Himnusz Buddhához)
韻文 資料. KAKUK編:103-4 (TANDORI訳. A himnusz mongol-kori kolofonjának befejező része)
韻文 資料. KAKUK編:112-4 (TANDORI訳. Ki-Ki. Látni kell)
韻文 資料. KAKUK編:115-7 (TANDORI訳. Pratja-Siri. A tudás dicsérete)
韻文 資料. KAKUK編:118 (TANDORI訳. Részletek az alfabétum rendjébe szedett okító versből)
韻文 資料. KAKUK編:119-20 (TANDORI訳. Ilyen helyeken)
韻文 資料. KAKUK編:122-3 (TANDORI訳. Kamala mester kolofonja)
韻文 資料. KAKUK編:123-4 (TANDORI訳. Kolofon. Töredékek)
散文及び韻文 資料. KAKUK編:124-5 (KAKUK及びTANDORI訳. Szilig Tigin papnő kolofonja a Jitiken szutrához)
韻文 資料. KAKUK編:126-8 (TANDORI訳. A szamszára hat útján)
散文 資料. KAKUK編:128-9 (KAKUK訳. Utret testvér gyónása)

2．マニ教テキスト
2．The Manichaean Literature

マニ教はペルシアのマニ（２１５－７３）が開祖の宗教。ゾロアスター教（拝火教）・仏教・キリスト教等を綜合してつくった宗教で、善悪・明暗の如き対立を以ってその教義とし、内陸アジアでもイスラム進出以前に於いて勢力を持っていた。中国へも７世紀頃に伝えられている。トルコ族は新疆地域に移る前に８世紀の６０年代にマニ教と関わりをもったようである、Bügü qaγanの頃（７６２）である。
資料 KAKUK編：７９－８０（KAKUK解説）

摩尼經徒懺悔詞（Xᵘ āstvānīft *"Confession of Sins"*）

解説 三つの写本があるQ
1 ベルリン本（マニ文字．トルファン．T．Ⅱ D．１７８の写真）、
2 ロンドン本（マニ文字．燉煌．クローゾンに拠れば almost complete だそうである）、
3 レニングラード本（回鶻文字．アスタナ）

資料 ル・コック（Le COQ） Chuastuanift, ein Sündenbekenntnis der manichäischen Auditores. Gefunden in Turfan. *Ergebnisse.* I：564－604.

資料 ドミトリイェヴァ（ДМИТРИЕВА, Л. В.）
１９６３ Хуастуанифт. Введение, текст, перевод. Тюркологические исследования. М/Л.：２１４－３２.

資料 マーロフ １０８－３０. Покаянная молитва манихейцев.

資料 カクック KAKUK編：９４－８（KAKUK訳. Huasztuanift manicheus bűnbánó ima. 部分）

1ド χurmuzta－h t（ä）ηri－i bis t（ä）ηri－i
ベルリン本 TⅡD１７８Ⅳ₁（１行）のみ
2ド birlä qam（a）γ t（ä）ηrilär süzinlüg（ü）n
ベルリン本 TⅡD１７８Ⅳ₁（２行）のみ
3ド yäkkä süηüskäli－i k〔ä〕lti－i－h
ベルリン本 TⅡD１７８Ⅳ₁（３行）のみ
4ド 'inti－i anïγ qïlïnčl（ï）γ smnuluγun

ベルリン本 TⅡD178Ⅳ1 (4行) のみ

マ ... Bis/sinč
第五に

32マ bis/s türlüg tïnl(y)γqa: bir y(ä)mä iki
五 種類なる 生き物に 一 (も) 二つの
ドミトリイェヴァは93とする ロンドン本:79−81 ベルリン本なし
adaql(ï)γ kis/si kä. Ikinti
足持つ 人 にも 二に

33マ tөrt butluγ tïnl(ï)γ qa. Učünčü učuγma
四つの 羽持つ 鳥 に 三に 飛ぶ
ドミトリイェヴァは94とする ロンドン本:81−2 ベルリン本なし
tïnl(ï)γqa.
生き物に

34マ Tөrtünč:suv ičräki tïnl(ï)γ qa. Bisinč:
四に 水の 内なる 生き物 に 五に
ドミトリイェヴァは95とする ロンドン本:83−4 ベルリン本なし
yirdäki baγrïn
大地なる 肝(baγïr)の

35マ yorïγma tïnl(ï)γ qa. Suida baru, t(ä)ηrim,
生き物 に
ドミトリイェヴァは96とする ロンドン本:84−6 ベルリン本なし
bu bis türlüg

36マ tïnl(ï)γ(ï)γ tural(ï)γ(ï)γ uluγqa kičigkä−
ドミトリイェヴァは97とする ロンドン本:86−7 ベルリン本なし
täki näčä qorγïtd/t(ï)m(ï)z

37マ ürkitd(ï)m(ï)z ärsär, näčä urtumuz, yontμmuz
ドミトリイェヴァは98とする ロンドン本:88−9 ベルリン本なし
ärsär, näčä ačïtd(ï)m(ï)z

48マ tural(ï)γ'(ï)γ өlürdümüz ärsär, y(ä)mä näčä
ドミトリイェヴァは109 ロンドン本:110−2 ベルリン本:TM303(M153)1
tävläd(i)m(i)z kürläd(i)m(i)z ärsär,

49マ näčä äviŋ (?) kisi uruntaqïn yidim(i)z ärsär,
ドミトリイェヴァは110 ロンドン本：112－4 ベルリン本：TM303 (M153)，
kün ai t(ä)ŋri

Az ujgurok áttérés 763 körül
資料 KAKUK編：81－3 (KAKUK訳)

韻文
トル Nazım／ハン Himnuszok
資料 BTK. I：89－93.
資料 KAKUK編：84－91 (TANDORI訳)

Hakana Arz	資料 BTK. I：89
Mint a szürke farkas...	資料 KAKUK：86
Tan Tanrı	資料 BTK. I：89－90
Hajnal－isten	資料 KAKUK：84
Sevgili (Aprinçur tigin)	資料 BTK. I：90
Aprincsur Tigin himnusza	資料 KAKUK：89－90
(但し、トルコ文と訳文と合致しない)	
ölüm	資料 BTK. I：90－1
A halál angyala	資料 KAKUK：89－90
Mani için ilâhi	資料 BTK. I：90－3
Himnusz a mánihoz	資料 KAKUK：86－89
原文未検討	資料 ――――――
A pokoli kínjai	資料 KAKUK：90－1

マニ教的散文
解説 原文未検討
資料 KAKUK編：92 (KAKUK訳. A szél－isten tulajdonságai. 部分)

マニ教的散文
解説 原文未検討
資料 KAKUK編：93 (KAKUK訳. Kolofon ehy manicheus elbeszélés végén)

BANG, W. Manichäische Hymnen. *Le Muzéon. 38.* Louvain. 1925 (未見)
BANG. Manichäische Erzähler. *Le Muzéon. XLIV.* Louvain. 1931 : 1 - 36.
BANG & RAHMATI. Lieder aus Alt-Turfan. *AM.* 1933. Leipzig (未見)
FOY, Karl. Die Sprache der türkischen Turfan-Fragmente in manichäischer Schrift. I. *Ergebnisse. III* : 503 - 17.
GABAIN & WINTER, W. Ein Hymnus an den Vater Mani auf "Tocharisch" B mit alttürkischer Übersetzung. *Türkische Turfan-Texte* IX. 1959. 約20点の資料あり

GABAIN. Ein uigurisches Fragment über den manichäischen Windgott. *UJb. VIII* : 247 ff.
Le COQ, A. von. Türkische Manichaica aus Chotscho. I - III. *ABAW*. 1911 - 1922. *Ergebnisse. I* : 391 - 511.
I（１０点の資料） II（５点） III（Ｎｒ．１－４０の４０点の資料）
Le COQ. Kurze Einführung in die uigurische Schriftkunde. *Ergebnisse. III* : 519 - 37.
Le COQ. Ein manichäisches Buch-fragment aus Chotscho. *Ergebnisse. III* : 539 - 48.
MÜLLER. Handschriften-Reste in Estrangelo-Schrift aus Turfan, Chinesisch-Turkestan. II. Teil. *Ergebnisse. III* : 1 - 39.
MÜLLER. Handschriften-Reste in Estrangelo-Schrift aus Turfan, Chinesisch-Turkestan. IV. Manichäische Kosmologie, Hymnologie, Polemik, Chronologie usw. *Ergebnisse. III* : 43 - 123(P. １１９にモンゴルの項目で紹介しているスパシディのブラーフミー文字・妙厳寶蔵論などの各言語タイトルの表が見える。
MÜLLER. Eine Hermes-Stelle in manichäischer Version. *Ergebnisse. III* : 124 - 30.
MÜLLER. Ein Doppelblatt aus einem manichäischen Hymnenbuch (Mahrnamag). *Ergebnisse. III* : 151 - 90（シリア文字資料）
耿世民。「回鶻文摩尼教寺院文書初釋」。『考古学報』。１９７８。４：４９７－５１６。

景教とキリスト教

景教はコンスタンティノープルのシリア人僧ネストリウスが旧約的な立場から指導した宗教で、５世紀に誕生した。マリアはキリストの身体を生んだのではないとし、両性分離を唱え、エフェソスの会議で４３１年に異端とされ迫害を受けた。その考えはペルシア・インド・アラビア・エジプトへと伝わったが、必ずしも良い待遇は受けなかった。そして中央アジアへと流浪し、回鶻へはペルシア及びシリア人より伝えられており、西域ではブライク（Ｂｕｌａｙïｑ．トルファンの北）で見つかっている、１３世紀のもの。中国へと唐の貞観９年６３５（太宗の時）阿羅本が伝えられた。しかし武宗の時仏教とともに禁ぜられた。明代（１６２０年代）に西安で景教流行碑が発見されている。そして南海へと去った。

テキスト Ｔ Ⅱ Ｂ２９（二葉）
解説 ベツレヘムで生まれたイエスを祝福した三王（三博士）とイエスに就いて
資料 MÜLLER. Die Anbetung der Magier, ein christliches Bruchstück. *Uigurica. I. Ergebnisse. I* : 5 - 10.
資料 マーロフ МАЛОВ：１３１－８．Поклонение волхвов.
資料 KAKUK編：１６５－６（KAKUK訳．A mágusok hódolata．部分）

ベツレヘムへ遣わされたエルサレムの三博士はその子がどんな宝を手にするかを見守った。すると、その子は：

üč türlüg közünčin ärtüdin yumqï
三 種なる 宝をば 忽ちに？ すべてを

alï y(a)rlïqadï:: inčä y(a)rlïqadï olar-qa
取りて 宣ひたり。 この様に 宣ひたり かの者どもに、

äi moγuč-lar-a siz-lär üč türlüg
あぁ 博識なる者たちよ 汝ら 三 通りなる

saqïnč üzä kirtiŋiz-lär tŋri oγlï
思慮 にて 来りしならむ。 天なる 子

y(ä)mä m(ä)n ök 〔ärür〕m(ä)n:: ilig χan y(ä)mä
とても 我 ぞ あるなり。 国 王 とても

m(ä)n ärür-m(ä)n:: otačï ämči y(ä)mä m(ä)n
我 あるなり。 医師・薬師 とても 我

ök ärür-m(ä)n tip y(a)rlïqadï:: sizig-
ぞ あるなり と 宣ひたり。

siz bolup barïŋlar tip yrlïqadï:: ol
moγuč-larqa taš bišik-niŋ buluŋïn-
-ta min üzmiš täg bir yumγaq tašïγ
üzüp birdi::

墓碑銘

資料 ДЖУМАГУЛОВ, Ч. 1971. Язык сиро-тюркских (несто-рианских) памятников киргизии. Фрунзе.

例 1589年／西暦1278年 1611年／西暦1300年 1612年／西暦1301年
1619年／西暦1307年 1621年／西暦1310年 1623年／西暦1312年
1624年／西暦1313年 1628年／西暦1316－7年（二点
1634年／西暦1323年 1641年／西暦1330年 1644年／西暦1333年
1647年／西暦1336年 1648年／西暦1336－7年（三点）
1651年／西暦1339年 1653年／西暦1342年 1679年／西暦1367－8年
1679年／西暦1368年 1689年／西暦1377年
不明（以下上記の頁. 101－2●118－9●119－20●128－9●129－30●
130－1●131●132●133－4.
注 1649〔1338〕●134－5

資料 KAKUK編（KAKUK訳）：167－8（Sírkövek a hétfolyó vidékéről〔バルハシ湖の南〕：Juntuz bég, Mümrig, Joan és Marja síremléke 1337●Teptemir síremléke 1341. 両者ともジュマグロフのものにはない）

テキスト 1648年／西暦1337年（上記ДЖУМАГУЛОВ：139－42）

ALKSNDROS KAN SAKYŠY （マケドニアのフィリップの息子）アレキサンドロス汗 計算
JYLY MIη ALTY JYZ KYRK YITINČ 年 千 六 百 四十 七番目
JYLYNDA KNUNBNDIMNIη AUN TIRTI
年に 六 百 四十 七番目
ARDI TUKČA IL AYITA

解説 興味あるのは「（マケドニアなるフィリップの息子たる）アレクサングロス汗計算年以下年号」で始まっている点である：MAKIDONIA IK PILIPOS AOГLY ALEK-SANDROS KAN SAKYŠY JYLY。従って「アレキサンドロス王1589年」は西暦1278年位に相当する。トルコの十二支で更に補っている。

AZZARBANIη
AIŠMIDNIη
TAη PAŠYNDA
SYČKAN JYLDA ČAηŠY KAN
AURUDA OLURUP
AIL PAŠLGNINDA
PU ALMA KATUN LUZINDA APTURDI?
JANGI KALIN ARIP AUZLNAUZARTI (AURARTI?)
PAIKA KAT

資料 TⅡB66 Le COQ, A. von. Türkische Manichaica aus Chotscho. I. *ABAW.* 1922. *Ergebnisse. I*：510－1（Nr. 1－40の資料がある内のNr. 40）

資料 TⅡBI Le COQ, A. von. Ein christliches und ein manichäisches Manuskriptfragment in türkischer Sprache aus Turfan (Chinesisch-Turkistan). *SPAW. 1908*：1202－18. *Ergebnisse. I*：547－63 中の550－3（1905年発見. 13, 5cm×9, 5cm. 表15行, 裏14行）
1928：248－56(未見)

資料 BANG & GABAIN. Ein uigurisches Fragment über den manichäischen Windgott. *UJb. 3/4.*

3．占い・テキスト
3．Astrological Texts

占い文書1

資料 BANG, W & GABAIN, A. von., Bruchstücke eines Wahrsagebuches. *Ergebnisse. II* : 3 - 30

解説 易。満蒙資料との翻訳の対照は重要であると思う。

資料. KAKUK編：69－74（TANDORI訳. 中途で訳を止めている）

一般的な卦の解説

—— 六爻 ┐
—— 五爻 ├ 外卦
—— 四爻 ┘

—— 三爻 ┐
—— 二爻 ├ 内卦
—— 一爻 ┘

西域或いは塞北に於ける易の方法はわからないし、これは筆者の興味をもつ点であるが、一応中国本来の簡単な卦の方法を示しておく。

まず、五十本の筮竹 ぜいちく を持ち、占いの内容を念じ拝み、一本を筮筒（革寶 とう ）に立て大極とし、残りを細い方を手にして扇状にして二つに分け、左を天、右を地の策とし、地の策より一本を抜き出し左手の小指と薬指に挟み、人策とする。 これは我々の関係する諸民族のシャーマニズムと同じ三分法と同じである。 次に、天の策を二本ずつ四度数え、八本を一単位として数えて（これを含め、これ以降、幾つか方法があり、以下はやや簡単な方法を示す）払い、残りを先の一本と合わせることにより爻卦 こうけ を作る。

一本残り	二本残り	三本残り	四本残り	五本残り	六本残り	七本残り	八本残り／なし
乾（天）	兌（沢）	離（火）	震（雷）	巽（風）	坎（水）	艮（山）	坤（沢）
老陽の爻	少陰	少陰	少陽	少陰	少陽	少陽	老陰
———	— —	———	— —	———	— —	———	— —
———	———	— —	— —	———	———	— —	— —
———	———	———	———	— —	— —	— —	— —

この場合、このやり方を6回繰り返し陰か陽で処理して行く方法と、そのまま全体で内卦とし、次に同様のやり方で外卦をつくる方法とがある。 以下に各卦を順番に示し、回鶻データで該当するものは示す。 掲載のローマ字転写をそのまま使用し、不都合の際は註記する。

けん	こん	ちゅん	もう	じゅ	しょう	し	Süü sülämäk	び
1乾	2坤	3屯	4蒙	5需	6訟	7師	軍を進める	8比
———	— —	— —	———	— —	———	— —	tört ygrmi 14	— —
———	— —	— —	— —	———	———	— —	TIIY36. 2	———
———	— —	— —	———	———	— —	— —		— —
———	— —	— —	— —	———	— —	———		— —
———	— —	———	— —	———	— —	— —		— —
1・2で万物生ず		満ちる	始まる	育てる	争いあり	人あり		故に親しむ

しょうちく　　り　　たい　　ひ　　どうじん

9小畜　Kičig igitmäk　10履　11泰　12否　13同人　Kisi birikmäk 人集まる

——— 小さく養う　— — — — ——— ——— yiti älig 47

——— altï qïrq 36　——— — — ——— ———

— — TⅡY36. 1　— — — — ——— ——— TⅡY36

———　— — ——— — — ———

———　— — ——— — — — —

———　— — ——— — — ——— RAHMATI. *TT VII. Ergebnisse.*

蓄える　要礼節　無停滞　しかし続かず　これも続かず　*II* : 290 - 370中の328 - 9 より

だいゆう　　けん　よ　ずい　こ　りん　かん　ぜい こう

14大有　Säwinmäk　15謙　16豫　17隨　18蠱　19臨　20觀　21口筮口盍

——— tört otuz 24　— — — — — — ——— — — ——— ———

— — TⅡY36. 14　— — — — ——— — — — — ——— — —

———　— — ——— ——— — — — — ——— ———

———　——— — — — — ——— — — — — — —

———　— — — — — — ——— ——— — — — —

———　— — — — ——— ——— ——— — — ———

皆集う　要謙虚　故有喜　従う者あり　盲従は事が生ず　努力で大となる　観るに値　他も合流する

ひ　はく　ふく　むぼう　たいちく　い　たいか

22賁　23剝　24復　25无妄　26大畜　27頤　Igitmäk　28大過　Uluγ münükmäk

— — ———　— — ———　———　———　iki otuz? 22　— — säkiz otuz? 28

— — — —　— — ———　— — — —　———

— — — —　— — ———　— — — —　TⅡ Y36. 16　——— TⅡ Y36. 4

———　— —　— — — —　———　— —　———

— — — —　— — — —　———　— —　———

———　— —　———　———　———　———　— —

洗練すべし　過度は慎　また戻る　無理なし　徳を積む　養い得る　故に大に過ぎる

しゅうかん　り

29習坎　30離　Kün. . .　以上が、上経である。　以下が、下経である。

— — ———　bis älig 45

——— — —　TⅡY36. 11

— — ———　大意. 柔順である

— — ———

———　— —

— — ———

が陥る　そこより他に付着して離べきである

かん	こう	とん	たいそう	しん	めいい	かじん	けい	けん	かい
31咸	32恒	33遯	34大壯	35晉	36明夷	37家人	38睽	39蹇	40解
夫婦	久しくあれ	が退く	盛んとなる	変化する	破綻する	が戻る	反目する	故に災難生ず	が緩む

そん	えき	かい	こう
41損	Qoramaq	42益	Qatqa? birmäk	43夬	44女后	Tusmaq
	TⅡY36. 3.		toquz ygrmi 19			iki「二」
	säkiz ygrmi 18		TⅡY36. 15.			TⅡY3612.

大意. 下に損し　　大意. 行くに良し

が損なう　上に益する　やがて徳をする　　が潰れる　故にぶつかりあう

内容を見てみよう。

boltuŋ. qamaγ il ulus－lar. tapīγī yŏ／ügärā klt(.)　üẓ／s－
汝なりたり。 全ての 地域・国 々の 奉仕（為）に 駆けて 来るなり。 汝の

－küŋdä. tŋridäm qut buyan utmaq y／øigädmäk kntün
存在にて 聖なる 幸運 御利益を 得ること 獲得することぞ 汝自らにて

ornantï. ŏdüŋdä. kün tŋri qaitsi－sī aČīltī.
あるなり。 汝の時にて 太陽ぞ 天なる 蓋子をば 開くなり。

yarudï. yaγïz yir yuẓi yasrdï. kŏrklädi. yürüŋ
明くるなり。 褐色の 大地の 表ぞ 緑になりたり、麗しくなりたり、 白き

bulït ŏnüp yaγmur yaγdī. toz topraq ŏzin
雲ぞ 昇りて 雨 降りたり。 埃の 大地ぞ 自らを

sŏndi. ŏŋdün kidin yir ŏz tapīŋČa (.) küntün
なくなりたり。 東より／に 西より／に 大地ぞ 自ら 見出すに、 南より（に）

taγ－tïn balïq ulus käntü kʊŋlüŋčä. asra atïŋ
北より（へ） 町 国ぞ 自ら 思うに、 下なる 汝の名ぞ

yigädṭïŋ. kičig atïŋ bädütüŋ. kim bolγai saŋa
汝獲得せむ。 小さき 汝の名を 汝大きくせむ。 誰ぞ ありしか 汝に
（＝誰もいないであろう）

裏面（写真あり）

äŋ／girmädäči. baγïŋ čuγuŋ yo／ulunti. t/////// yrlγïŋ
取り 囲まざらむ者は。 汝の紐 汝の結びは とき放たれたり。 . . . 汝の命令ぞ

yorïdï. ür oγul kʊ／üsäsär bultu (.) äd tawar tilsär
行くなり。 子孫ぞ 欲するなら 汝見出すなり。財産ぞ 願はば

bultuŋ. taptïŋ (.) ig aγrïγ kitdi. kʊnäk
汝見出すなり、汝見出すなり。 悪き 痛みぞ 去る（回復する）なり。 桶ぞ

yasγač b(a) sqardï
？回り板ぞ 良くなるなり。

kʊŋlüŋin ʊgrünčlüg qïlγïl. yir－kä tŋri－kä
汝の心の 喜びぞ 汝なさむ。 大地に 天に

säwinč tutγïl. birʊk bu tuʂuʂmaq atlγ
喜びぞ 汝取らむ。 ——— 一ついに この 合う なる
———
———
———
———
— —

d q
ïrq kälsär. sawïn inčä ayur. qadïr qatγï qaḍïγ
卦ぞ 来らば、 言葉を 次の様に 言ふなり。 危険なる 厳しき 固き

saw yʊgärü klti üskündä. yil üzä yil tikilär
言葉ぞ 駆けて 来るなり 汝の下に。 風の 上に 風ぞ 荒れ狂ひて

yiltirdi. äwiŋdä (.) ig aγrïγ oγrïnta kʊrsär sn
吹くなり。 汝の家にて 病・ 痛みぞ 密かに（盗人にて）見らば 汝

すい　　しょう　こん　せい

45萃 Utru kälmäk 逆に来る　46升　47困　48井　Tärin qudu γ 深き井戸　参考. RAHMATI. TT

toquz otuz 29　VII. Ergebnisse.

iki qïrq 32

TⅡY36. 5.　TⅡY36. 17　II：362にある

表写真

TⅡD523も？

故に集まる　故に登る が苦しむ　下に帰るが、井戸は常に新たにする必要あり、故に

かく　てい　しん　ごん　ぜん　きまい　ほう　りょ

49革　50鼎　51震　52艮　Ta γ 山　53渫　54歸妹　55豐　56旅

bis ygrmi 15

TⅡY36. 13

革である　鼎にて柔らかくする　動かすは長男　物事は時に停止する　が動く　帰着する　大になる　が居所を失う

そん		だ	かん	せつ	ちゅうふ	しょうか	きせい	びせい
57損	Inč käkmäk穏やかに来る	58兌	59渙	60節	61中孚	62小過	63既済	64未済
———	üč qïrq 33	— —	———	— —	———	— —	— —	———
———		———	———	———	———	— —	———	— —
— —	TⅡY36. 6.	———	— —	— —	— —	———	— —	———
———		— —	— —	— —	— —	———	———	— —
— —		———	———	———	———	— —	— —	———
— —		———	— —	———	———	— —	———	— —
大人に従い入る（卦53ではない）		故に喜ぶ ほっとする		要節度	信用される	実行する	なし遂げられるも、事未だ成らず	
TⅡY36. 8 裏面の写真あり		TⅡY36. 9			TⅡY36. 7			
tört qïrq 34		altï älig 46			toquz älig 49			

占いⅡ. BTK. Ⅰ：93－5（註. 突厥・燉煌文献の項参照）
資料 KAKUK編：62－8（KÖVES Margit及びTANDORI訳）

占いⅢ RAHMATI. *TT VII* 資料には先にも引用したのだが、占い・天文・医学文献で満ちている。
従って、すべて、写真を入手して検討するべきだと思うが、ハンガリー語訳があるものを中心にして幾つか資料を示しておきたい。番号は42ある資料の番号である。

30 TⅡY36（先の八卦資料に示した）
32 TⅡY29
（tïŋraq bïčγu kün ol）・
資料 KAKUK編：75. A körömvágás napjai（KÖVESI訳）

33 TⅡY29 （sač） soqun（γ）u kün ol・
資料 KAKUK編：75－6. A hajvágás napjai（KÖVESI訳）
37 TⅢM210 （. . .）
tul kisi alγuči bolur, yam（ï）z－
資料 KAKUK編：77－8. Az anyajegy（KÖVESI訳）
39 TⅡY49 küskü küntä körüm körsär, yaramaz・
資料 KAKUK編：76. Amit nem szabad（KAKUK訳）

EBERHARD, W. Sinologische Bemerkungen zu den türkischen Kalenderfragmenten. *Ergebnisse. II*：370 - 86.
解説 なお、387－411は索引。
MÜLLER. Die "persischen" Kalenderausdrücke im chinesischen Tripiṭaka. *Ergebnbisse. III*：131 - 8.
GABAIN. Texte in Brāhmīschrift. *Turkische Turfan-Texte* Ⅷ. 1954.
解説 宗教・医学・暦関係。

第三章 アラビア文字資料
Chapter Three
Turkic in the Arabic Scripts

1. 中期トルコ語
1. The Middle Turkic

アラビア文字（Arap yazısı）資料に関して論じる。

近代トルコ語の言語改革研究において なぜ文献研究は大事か？

近代トルコ語の言語改革や言語規範の研究にとってなぜ文献研究が必要か？ について疑問の向きもろう。そこで、この点について指摘しておきたい。

この時期までのトルコ語は＜ペルシア語＞や＜アラビア語＞的な色彩が認められないので、括弧つきではあるが、＜純トルコ語＞という。そして、これら古代あるいは中期トルコ語のトルコでの研究が２０世紀前半の文字改革期、言語改革期になされたことも手伝って、１９世紀から２０世紀の言語改革を考える重要な資料なのである。なお、方言研究については、むしろ、１９９９年初頭からみてここ２０年の研究成果が多く、その意味でも、文献研究は重要なのである。

２０世紀の３０年前後までのトルコ族を考えるのに最も重要であるのがアラビア文字資料である。最初のお断りであるが、アラビア文字資料はその音転写を主に共和国風に統一する。

アラビア文字での最初の資料は、カシュガル（Kaşgar）・コータン（Hotan）とかヤルカンド（Yarkent）等の内陸アジア地域へイスラム勢力が進出し現地の仏教徒勢力を駆逐した１０－１世紀から後の段階にあらわれ、言語的には、次の二つに分けることができる。

1 古代トルコ語（突厥・回鶻やカラハン朝の言語）
　トル Yesügei Bahadır oğlu Timuçin「イェスゲイ・バーチンギス」、即ち、Cengiz）及びモンゴル軍西征によるトルコ族の分断まで。古代トルの子、テムジン」、
　ウイグル（回鶻）文字は中国の時代で言えば、明清の頃くらいまで用いられていた。

2 今日のトルコ語の土台をなすもの
　それ以降のそれ以前よりもやや方言分化した地域言語（複数）。

後者がここでの議論の対照である。１０－１３世紀に、カラハン朝（トル　Ｋａｒａｈａｎｌｉｌａｒというか　Ｋａｒｌｕｋ）が内陸アジアを支配し、これは１１世紀中頃に東西に分裂した。東は１１３２年に西遼（Ｋａｒａｈｉｔａｙ。黒・契丹、カラ・キタイ）に（後にチャガタイ汗国）、西は１２１２年にホワーレズム（Ｈ̂ａｒｅｚｍ．１０９７－１２１８）に（後にキプチャク汗国）にそれぞれ滅ぼされた。

資料としてここでは最初にカラハン朝の資料を紹介する。

カーシュガル・ル・マフムード 著

トル　Ｋ̂ａ̂ｓ̂ｇａｒｌｉ　Ｍａｈｍｕｔ

アラ　Ｍａｈｍｕｄ　ａｌ－Ｋ̂ａ̂ｓ̂ｇａｒî

『トルコ詩華集』

Ｔüｒｋ　ｄｉｌｌｅｒｉｎｉｎ　ｄｉｖａｎｉ

Ｄｉｖａｎ－ü　Ｌｕｇａｔ－ｉｔ　Ｔüｒｋ

解説　最も偉大な韻文形式の百科事典で、純トルコ的であり、トルコ文学最高傑作。著者はバグダッドにて１０７３年頃（１０７２年？）に著作して当時のカリフに呈していると言う。著者は今日の新疆カシュガル（喀什）で１０２９－１０３８年の間に生まれ、中央アジアを流浪している。それ故、そこには、美しくも鮮明な遊牧民としての自然が、そしてトルコ社会が、まるで、実際に我々自身が、彼　Ｍａｈｍｕｔ　その人であるかのように迫ってくる。原本は失われ、１２６５年／回暦６６４年）にイラン出身のコピーライター（ｍüｓｔｅｎｓｉｈ）のムハムメド・イブン・エビ・ベクル（*Muhammed bin Ebi Bekr*）のものが残り、書込もある極彩色の写本であるらしい。２０世紀初頭によく分からない本だということで、古書店に持ち込まれたいわくつきの詩集である。

この１９１４年に発見された写本はイスタンブールにあるが、筆者未見。

資料　１９８０年代に写本を元にしてオリジナルの複製本が出版されたが未入手。

リファト本　RIFAT BILGE, Kilisli (1873-1953)
発行　1333-1335／1915-1917
書名　Kitāb Dīvān Lughāt al-Turk. İstanbul.
解説　京都産業大学にあり。

アタライ本　ATALAY, Besim (1882-1965. 遺品はアンカラにある)
書名　Divanü Lûgat-it-Türk. Tercümesi. I (1939)・II (1940)・III (1941)
id. Tıpkıbasımı (Faksimile. 写真. 1941)
id. Dizini (Endeks. 索引. 1943). Ankara.

タシケント本　Маҳмуд Кошғарий. Девону луғотит турк. Таржимон ванашарга тайёрловчи С. Х. Муталлибов. I—IV. Тошкенд. 1960-7 (未見)

ウルムチ本　『麻赫穆德・喀什口葛里. 突厥語大詞典』. 烏魯木齊. I (1981)-III (1984).
解説　Məhmut Kəxkəriと書く。

学術的な紹介　マーロフ　МАЛОВ: 305 - 15 (部分的だが、良い個所のみを紹介している)

韻文分析　ステプレエヴァ　СТЕБЛЕВА, И. В. (1931年生). 1971. Развитие тюркскик поэтическик форм в XI веке. M

現代語　BTK. I: 118-31.

ビルテク　BIRTEK, Ferit. 1944. Divan-ı Lugat-it-türk'ten derlemeler. I. En eski türk savları. Ankara.

ウルキュタシュル　ULKUTAŞIR, M. Şakir. 1972. Büyük türk dilcisi Kâşgarlı Mahmut. Ankara.

ブロッケルマン　BROCKELMANN, C. 1964 (1928). *Mitteltürkischer Wortschatz nach* Mahmud al-Kāsrarīs dīvān lurāt at-Turk. *BOH. 1.* Bp.

ディルチン　DILÇIN, Dehri. 1957. Arap alfabesine göre Divanü Divanü lugat-it-türk dizini. Ankara.

『ソヴィエト・トルコ学』(CT. *1972. 1*. 特集号)

MKテキスト

Us

(MK. I : 36)

Kerkes kuşu. Şu parçada dahi gelmiştir :

ラテン文字転写：

Keldi manğa Tat
Aydım emdi yat
Kuşka bolup et
Seni tiler us böri

小アジア訳：

Bana bir Tat geldi;
ona: yat, kuşlara et ol.
Kuşlar, kurtlar seni
bekler, dedim.

解説：Bana bir Uygur gâvuru geldi; onu öldürdüm. Kurda, kuşa yem olsun için (とて) parça parça ettim.

注1 与格の用法に注意 Yat, kuşlara et ol.「くたばれ鳥どもに餌になれ。」

注2 Tat「ペルシア語を喋る異教徒」、Tat tavgaç「漢人と回鶻人 (Çinli ve Uygur)」
Bana bir Tat (Uygur gâvuru) geldi.「私の方へ、所へ」

Alp

(MK. I : 41, 102-103)

Yiğit. "Alp yağıda alçak çoğıda = yiğit düşman karşısında, yumşak huylu adam savaşta belli olur."
Şu parçada dahi gelmiştir :

Alp Er Tonğa öldü mü
Alp Er Tonğa öldü mü?
Ödhlek üçin aldı mu
Felek ücünü aldı mı?
Isız ajun kaldı mu
Kötü dünya kaldı mı?
Emdi yürek yırtılur.
Şimdi yürek yırtılır.

Hakan Afrasyab
öldü mü?
Zaman ondan
ücünü aldı mı?
Kahpe dünya
ondan kurtuldu mu?
Şimdi onun mulki üzerine
-zamaneye kızarak-
yürek karçalanır.

注1 Alpはユーラシア一円に広がるbatır (: モ. baγatur)「勇者」に同じ。

注2 ここで、yürekを使用してトルコ・アラビア借用語・ペルシア借用語の対応を調べる。

トルコ本来の表現	意味	アラビア借用語	ペルシア借用語
yürek	心	kalb	dil
gönül	気持ち	fuâd	dil
iç	中		
ay	月	kamer	mâh・meh

ӧd (MK. I : 44)

Zaman. Şu savda dahi gelmiştir.
ӧd keçer kişi tymas, Yalnğuk oğlu menğgü kalmas. "Zaman geçer, insan duymaz, Ademoğlu bengikalmas". (Aはâのようにヤマをつける。)

Çiğil dilinde "ӧd = sığır" demektir. Türklerin tanınmış olan on iki yılından birisine de "ӧd yılı" denir. (下線は池田)

注　西アナトリアの言葉に就いて (これは本文とは関係ないアタライの注釈)

「西アナトリアには、今日、婦人の言葉では「時間」の意味にotなる表現を使用云々。」：

Batı Anadoluda, bugün, kadın dilinde "zaman" anlamına "ot" kelimesi kullanılmaktadır. "Çocuk akşam vakti bağırma!" derler ki "akşam vakti bağırma!" demektir. Orta Anadoluda, bu kelime, köylüler arasında "oht" şeklinde kullanılmaktadır.

Ulas (MK. I : 59－60)

Bunlar mini ulas köz	Bayğın göz, esmer beniz,
Kara mengiz kızıl yüz	pembe yüz beni tutsak eder.
Andın tamar tükel tüz	O çehreden bütün güzellikler damlar,
Bulnap yana ol kaçar	beni tutsak ettikten sonra kaçar.

Etil「ヴォルガ」 (MK. I: 73)

Kıpçak illerinde akan
bir ırmağın adıdır, Bulgar denizine dökülür;
bir kolu Rus diyarına gider.
Şu parçada da gelmiştir:

Etil suwı aka turur	İdil suyu akar durur,
Kaya tübi kaka turur	kayaların dibini döğer durur,
Balık telim baka turur	bol balıklar bakar durur,
Kölüg takı küşerür.	gölcük dahi taşar.

解説 İtil ırmağı katı dağın eteğini döğerek akmaktadır. Suyun coşması yüzünden dolan gölde balıklar ve kırbağalar çoğalmıştır.

ウルムチ版の文 (I: 100):	ハンガリー語 (BEDE Anna訳: 219)
ətil suvï akqa turur	Itil folyó folydogálva
qaya tüpi qaqa turur	paskol a sziklák lábára
balïq təlim baqa turur	nézi halak sokaságа
kəlüŋ taqï küxərür	holt medrek véle megtelnek

Ar (MK. I: 79-80)

"ar böri = sırtlan"

Körüp neçük kaçmadıng	Gördün, neden kaçmadın?
Yamar suwın keçmeding	Yamar suyunu geçmedin?
Tavarıngnı saçmadıng	Malını saçmadın?
Yésün seni ar böri	Seni sırtlan yesin".

解説 Altederek yakaldığı bir adamı anlatarak ona diyor ki: Beni gördün de neden kaçmadın? Niye Yamar suyunu geçmedin? Niçin malını saçarak başını kurtarmadın? Artık seni sırtlan yesin.

Uza (MK. I : 88-9)

"geçmiş zaman"

Erdi uza erenler	Geçmişte fazilet Beyi
Erdem begi bilig tağ	biligi dağı gibi adamlar vardı;
Aydı öküş ögütler	söz söyler öğüt verirlerdi.
Könğlüm bolur anğar sağ.	Onlara gönlüm açılır.

解説 Eski zamanlarda ilim, hikmet ve, enakıp sahibi adamlar vardı. Onlara çok öğütler söylerlerdi. Onlara anmakla kalbim açılır.

Endik (MK. I : 105-6)

"Endik er=budala adam"

Şu (次の. 未知) savda da gelmiştir: "endik uma ewlikni agırlar = şaşkın konuk ev sahibini ağırlar". Bu (この. 既知) savla, ağırlanmanın konuk için olduğu bildirilmek istenir. Şu parçada dahi gelmiştir :

Endik kişi ? (tétilsün)	Şaşkın kişi ayılsın,
él törü yétilsün	yurda düzen yayılsın,
toklı böri yétilsün	kurtla toklu güdülsün,
kadhgu yeme sawılsun	kaygı yine savulsun".

Erdem「知恵、徳」 (MK. I : 107)

Edep, terbiye. Şu savda gelmiştir:
Erdem başı til = edebin başı dil" demektir.
Çünkü güzel söz söylemesini bilen şerefe erişir.

Emgek "emek, mihnet" (MK. I. : 110)

Aydı seninğ udhu	Dedi: Senin tarafında
Emgek telim ıdhu	çok emek, zahmet vardı;
Yumşar katığ ödhü	Katı dağlar yumşadı,
Könğlüm sanğa yügrük	gönglüm sana doğru koşuyor.

下線 "Kalbim senin yanına
çabuk gelmek dileğiyle çarpıyor."

Tamga (MK. I : 424)
"denize, göle veya dereye dökülen suyun bir kolu"

Tamga suwi taşra çıkıp tagığ öter
Artuçları tegre önüp tizgin yeter
Bu suyun kolu dışarıya çıkarak dağı geçer;
çevresinde at dizgini gibi sıra sıra ardıç yetişir."

Bilgi "akıllı" (MK. I : 428)

Bilge erig edhgü tutup sözin işit
Erdhemini ögreniben ışka sura
Bilgin kimseyi hoş tutup
söznü dinle,
faziletini öğren,
öğrendiğini işte kullan.

Türütti (MK. II : 303)

Tenğri ajun türütti	Tanrı açını, âlemi yarattı,
çığrı udhu tezginür	felek durmadan döner.
yulduzları çergeşip	yıldızlar sıra sıra dizilip
tün kün üze yörgenür	gece, gündüz üzerine sarılır.

解説 ここではステルレエヴァСтеблеева：213に習い、二行を四行にした。

Yay "ilkbahar" (MK. III : 160－162)

Yay körkinğe inanma	Baharın güzelliğine inanma,
Suwlar üze tayanma	suya dayanma,
Esizligig anunma	kötülüğe hazırlanma,
Tılda çıkar edhgü söz	iyi söz dilden çıkar".

解説 Baharın renklerinin güzelliğine güvenme, ondan hayır bekleme, suya güvenme, dünya nimetlerinin tadına ve baharın serin esinine güvenen suya dayanmış ginidir. Şerre hazırlanma, halkı hoşnut edecek güzel sözleri dilinden eksik etme.

参考　韻文の形式について

用語	起源	意味
aruz	アラ	韻律
beyit	アラ	二行
divan	ペル	詩集
durak	トル	一区切り　音節の数で　yedi　yedi（7＋7）とか　altı beş（6＋5）とか数える
hece	アラ	音節　しかし実際の韻文では意味的な語のかたまりで把握するから次の如き複数の意味的なかたまりを複合した一行分のかたまりを想定したい。なお4は2＋2である場合もある。

二音節のもの	ikili	―――
三音節のもの	üçlü	1＋2
四音節のもの	dörtlü	1＋3
五音節のもの	beşli	3＋2，2＋3
六音節のもの	altılı	3＋3
七音節のもの	yedili	3＋4
八音節のもの	sekizli	4＋4、KT．2＋4＋3，3＋3，2＋2＋3，3＋2＋2〕やMKはこの計7音節が基本）
九音節のもの	dokuzlu	3＋2＋4の如き例が実際のKTには見える）
十音節のもの	onlu	5＋5，KT．5＋3＋2，3＋4＋3
十一音節	onbirli	6＋5．これもMK等では頻出。一般的
十二音節	onikili	4＋4＋4
十三音節	onüçlü	4＋4＋5，8＋5
十四音節のもの	ondörtlü	7＋7
十五音節のもの	onbeşli	4＋4＋4＋3，7＋8
十六音節のもの	onaltılı	4＋4＋4＋4，8＋8
十八音節のもの	ondsekizli	4＋4＋4＋4＋3

kalip	アラ	パターン　　また、kalıp
manzume	アラ	韻文
mensur	アラ	散文
mesnevi	アラ	対句　パターンとしては　aa　bb　cc　dd．．．となる。イランのものに多い。Rumiの著作がこの名前を持つ。
mısra	アラ	一行
muhammes	アラ	連　パターンとしては　aaaaa　bbbba　ccccaa
nazım	アラ	韻文
ses	――	音　Sesliが母音で、sessizが子音
şiir	アラ	詩
vezin	アラ	韻律

『幸福の知恵』

Kutadgu Bilig (Qutadγu Bilig)

著者　Yusuf Has Ḥâcib

経歴　彼はカシュガルより北のウシシュク湖から西にあるバラサグン出身である〕によって１０６９年頃（１０７０年。回暦４６２年）ｎｉ書かれた一種の修身治国の内容のもの。アラビア文字（これが原文らしい）とイスタンブールで１５世紀頃に書かれた回鶻文字で書かれたものが残っている。

版本　タシケント本（１２－３世紀。アラビア文字）　カイロ本（１４世紀前半。アラビア文字）
ウィーン本（アフガニスタンのヘラータ出土。回鶻文字。１４３９年）

解説　韻はムタカーリブ、⏑ ― ― ／⏑ ― ― ／⏑ ― ― ／⏑ ― 、で統一されている。

資料

アラト　ARAT, Reşit Rahmeti (1900－64). Kutadgu Bilig. I (1947. İstanbul)・II (1959. Ankara), III (1979. İstanbul)；BTK. I：133－57. アラトはベルギー出身のバング (Willy BANG-KAUP. 1869-1934)に学んでいる。

ディリャーチル　DILAÇAR, A. (1895－1979)
Kutadgu Bilig incelemesi. *TDK. 340.* Ankara.

エルジルスン　ERCILASUN, A. B. 1984. Kutadgu Bilig grameri－Fiil－. Gazi Universitesi：33. Ankara.

マーロフ　МАЛОВ：224－304.

ラドロフ　RADLOFF, W. 1890. *Kudatku Bilik. Faksimile der uigurischen Handschrift der K. K. H. Bibliothek in Wien.* St.-Petersburg.

ラドロフ　RADLOFF, W. 1891. *Das Kudatku Bilik des Jusuf Chass-Hadschib aus Balassaghun. I* (1891), *II* (1910). St.-Petersburg .

ヴァーンベーリィ　VÁMBÉRY, A. 1870. *Uigurische Sprachmonumente und das Kudatku Bilik.* Innsbruck.

KAKUK編：184－98（Brodszky Erzsébet訳）

テキスト　(BTK：I：143)

124 kitab atı urdum kutadgu bilig
kutadsu okıglıka tutsu elig
Kutadgu Bilig koydum kitabın adın
Kutlu olsun okuyana, tutsun elini.

125 sözüm sözledim men bitidim bitig
sunup iki ajunnı tutgu elig
Sözümü söyledim, yazdım kitabı
Tutacak eldir o, iki cihanı.

126 kişi iki ajunnı tutsa kutun
kutadmış bolur bu sözüm çin bütün

127 bu kün togdı ilig tidim söz başı
yörügün ayayın ay edgü kişi

『真理入門』

Atebetül-Hakaayık

解説　ユクネキー（Edib Ahmet Yüknekî）が12世紀末から13世紀初めにかけて著した宗教的韻文で、きれいなトルコ語との評あり。

写本　A（回鶻文字）　B（回鶻・アラビア文字対訳本）　C（アラビア文字本）

資料　ARAT, Reşid Rahmeti. 1951. Edib Ahmed B. Mahmud Yükneki. Atebetü'l-Hakayık. İstanbul（なお、1980年には北京より維語のものが出版されている）

BTK. I：158－164

МАЛОВ：316－22（Подарок истин）

TEKIN, Talat. Long Vowels in 'Atabatu'l-Haqa'iq. *JSFOu. 68. 5.* 1967：1－20.

テキスト冒頭部分（アラットより）

Tanrının　medhi　hakkında
天の　賞賛　に就いて

1 転写　ilahi　öküş　ḫamd ayur men sanga
現代　Ta Tanrım,（dâimâ）sana çok hamdederim;
訳　神（ア）　多くの　感謝を　言います　私は　貴方に

2 sening　raḥmeṭingdin　umar men onga
貴方の　慈悲（ア）より（を）　望みます　私は　それに
（dâimâ）senin rahmetinden hayır（良きこと）umarım.

3 ṣenamu　ayuġay　seẓa bu tilim
私の賛美を　言いたいのです　貴方に　この　私の言葉を
Dilim senâyı,（sana）lâyık bir şekilde,
söyleyebilir mi;

4 unarça　ayayın　yarı　bir manga
力の限り　言って下さい　助けを　一つの　私に
olanca kudretimle söyleyeyim;bana yardım et.

5 sening　barlıḳıngḳa　tanuḳluḳ　birür
貴方の　その存在に　証拠として　それは与えます
Canlı, cansız, uçan ve koşan（her）şey

6 ceṃad　canvaṛ　uçġan yügürgen nenge
死せる者　生きる者（ペ）は　飛びて　走る　ことに
senin varlığına tanıklık eder.

7 sening birlikingke delil arkağan
貴方と ともに 証明を 探す者は
Senin birliğine delîl arayan (kimse)

8 bulur bir neng içre delilller minge
見出します 一つの ことの 中に 証明(ア)たちを 私に
bir tek şeyde binlerce delîl bulur
9 Yok idim, yarattın; yine yok edip,
10 tekrâr var edersin; bunu ikrâe ederim.
11. Ey şüphe yolunda koşan, uyan:
12. gcl, ölmcdcn kcndini âtcştcn kurtar.
13. O kadir (Tanrı senin) geceni ve gündüzünü yarattı;
14. (bunlar) birbirine uyup, birbirinin ardı-sıra giderler.
15 Gününü giderip, geceni getirir;
16 geceni giderip, tekrâr tanı aydınlatır.
17 O dirileri öldürdüğü gibi, ölüleri de diriltir,
18 görürsün; bunu iyi bil.
19 o kudret sâhibi büyük bir Tanrıdır;
20 ölüleri diriltmek onun için kolay bir iştir.
以下、512行まで。

『箴言詩集』 Dîvân-i Hikmet

著者 Hoca Ahmet Yesevî (-1166)
資料 BTK. I: 165-79.
資料 KAKUK編 (BRODSZKY Erzsébet訳) : 231-5
研究 この時期に就いての概説・その他

БАСКАКОВ, Н. А., О периодизации истории литературного языка «тюрки». Лингвогеография, диалектология и история языка. Кишинев. 1973: 136-45.

БЛАГОВА, Г. Ф. 1982. Тюркское склонение в ареально-историческом освещении (Юговосточный регион). М.

ДАВИДОВИЧ, Е. А. ed. 1983. Киргизиз при карахани-дах. Фрунзе.

МОКРЫНИН, В. П. Сведения о тюркских народох в минералогическом трактате Ал-Бируни. Киргизия при карахапидах. 1983. Фрунзе: 203-20.

2．イスラム教とコーラン
2．The Islam and Kur'ân

イスラムの教えはアラーの神（Allah）に対する自我の絶対的な没入にある。ユダヤ・キリスト教に継ぐセム系の宗教運動で、ユダヤの旧約とキリストの新約を土台にしている。絶対的唯一神アラーはユダヤやキリスト教にとっても同一。その宗教的倫理・道徳感がイスラム世界の「混乱」の中に秩序をもたらしている。イスラム暦は陰暦で太陽暦よりも約十日短い。元年元日はモハメットがメッカからメディナへ迫害され逃れた西暦622年7月16日。

コーランの翻訳というか注釈も既に12世紀には既にあったようである。現在、分かっているだけで、5つから6つの写本が確認だれている。イスタンブールには1333－1334年（回暦734）のものや1363年（回暦764）のものがあり、他に、サンクト・ペテルブルク、タシケント、イギリスなどにある。綿密な調査をしていないので、若干の資料を紹介するにとどめる。

Cevâhir-ül Esdâf

著作 コーラン注釈書 1405年頃の作で、三写本あり。一つは1499年。

資料 ZAJĄCZKOWSKI. 1937. *Studia nad jezykiem staro-osmańskim (Etudes sur la langue vielle-osmanlie). II. Choisis de la traduction turque-anatolien du Qurì an).*

解説 メフメット二世のイスタンブール攻略より以前か14世紀のもの。

İZMİRLİ, İsmail Hakkı

1977. Kur'an-i kerim ve türkçe anlamı (Mu 'ani-i Kur'an)

解説 1990年代に一般に入手できるもの。

ECKMANN, Jänos. 1976. *Middle Turkic Glosses of the Raylands Interliner Koran Translation. BOH. XXI.* Bp.

БОРОВКОВ, А. К. 1963. Лексика среднеазиатского тефсира XII - XIII вв. М.

コーランのハンガリー語訳について

1832年 Szokolay訳 Kassaにて

コーランのトルコ語訳やイスラム表現がどのようにトルコ語に対して影響を与えたかについては、正直なところ、良い研究はないようである。また、アラブ世界に対するオスマン公式語の影響について、或るハンガリーのアラビア学者は深刻な影響を与えたとしているが、ハッキリしない。

テキスト冒頭部分

アラビア原典をあたった専門家も難しいと言っているのだから、必ずしも分かり易くないが、我々としてはその序文くらいは知っておくべきと思う。ただ、先にも示した通り、筆者の目的である古い版本との校合はできない。なお、あくまでも古典アラビア語で読むべきであり、さらに、神のマホメットに対する啓示であることに注意しておきたい。

1.

Fâtihâ	sûresi
序章の	スーラ（sure）
征服者（fâtih）の	

(Bismillâhirrahmânirrahîm)
慈悲深き神の名に於いて

Esirgeyen,	bağışlayan	Tanrı	adıyle
守り	許しを与える	天の	名に於いて

(Hamd-ü	senâ)	o	Allah'a	mahsustur	ki
賛美－称賛、		それ	アラーに	属しことは、	それ

âlemlerin	Rab'bidir,	esirgeyendir,	bağışlayandır,	ceza	günü-	
この世の	天なり、	守護なり、	許しを与ふることなり、	審判の	日	

nün	mâlikidir.	Kulluğu	yalnız	sana	ederiz,
の	所有（者）なり。	御仕えすることを	ただ	汝ﾏﾎﾒｯﾄ に	我々ｱﾗｰ は為さむ。

yardımı	da	ancak	senden	dileriz.	Bizleri	doğru
助けをも		ただ	汝より／に	我々は願はむ。	我々を	正しき

yola,	gazaba	uğrayanların,	sapıkların	yoluna	de-	
道に	怒りに	出会う者たちの、	常ならぬ者たちの	道に	非－	

ğil,	kendilerine	in'an	ettiklerinin	yoluna	gütür.
ず、	彼等自らに	信仰を	為せし者たちの	道に	導き給へ。

2. Bakara sûresi
雌牛の スーラ

(Bismillâhirrahmânirrahîm)
慈悲深き神の名に於いて

Esirgeyen, bağışlayan Tanrı adıyle
守り 許しを与ふる 天の 名に於いて

(1) Elif, lâm, mim
A L M. この個所、意味不明とされる。

(2) Bu, bir kitaptir ki onda şüphe gütürecek hiç
これが 唯一の 書たる は そこに 懐疑を 示さむ 決して

bir şey yoktur, müttekiler hakkında bir rehberdir.
一 ことも 無きなり。 何か学びしことども なる (一つの) 手引なり。

(3-4) O müttekiler ki gaybe inanır namazı
その学びしことども は 不可知の世界を 信ずる 礼拝を

dosdoğru kılar, kendilerine verdiğimiz rızıktan
真に正しく なすこと、 彼の者ども自らに 我等 (アラー) が与えし 日々の糧もて

harcederler, sana inzâl olunan (kitaba da),
戦うこと、 汝 (マホメット) に (天より) 下されし 書物を も

senden evvel inzal olunan (kitaplara da) inanır-
汝より かつて (天より) 下されし 書物ども (モーゼ十戒と新約) をも 信ずること-

lar, âhireti yakînen bilirler (ve inanırlar).
ども 来世を 近くに 知ること 且つ 信ずることどもなり。

inanırlar).
信ずることどもなり。

(5) İşte Rab' bileri tarafından doğru bir yolda bulunanlar bunlardır, umduklarına erenler yine bunlardır.

(6) Şurası muhakkak ki kâfir olanları Tanrı azabıyle korktutsan da, korkutmasan da onlar için birdir, onlar inanmazlar

(5－6) さて 天 により 正に (一つの) 道に 見出されることどもは これらどもなり、望みしことどもに 到りしことどもは 新たに これらどもなり。 その地が 疑ひなきこと とは 信じぬ者どもは 天が 病みで 恐れさするとも 恐れささずとも かの者ども にとりて一つなり、

(7) Allah onların kalplerini, kulaklarını mühürlemiş, gözlerinin üstüne bir de perde çekmiştir. Onların için büyük bir azap vardır.

(8) Nâs' ın bir takımı ‹‹－biz Allah' a ve âhiret gününe inandik›› derler, halbuki onları inanmamışlardır.

(9) Onlar Allah' ı da iman edenleri de gûya aldatıyorlar, halbuki ancak kendilerini aldatırlar da farkında olmazlar.

(10) Onların kalplerinde hastalık vardır. Allah da hastalığı artırmıştır, yalan söylediklerinden naşi onlar için acıklı bir azap vardır.

(11) Onlara ‹‹－yer yüzünde fesatta bulunmayın›› denildiği zaman onlar ‹‹－biz ancak muslik kimseleriz›› derler.

(12) Haberiniz olsun ki fesatta bulunanlar yalnız kendi lerider, fakat farkında değillerdir.

(13) Onlara ‹‹－nâs' ın iman ettikleri gibi siz de iman ederiz›› denildiği zaman onlar ‹‹－biz o avanaklar gibi iman mı edelim?›› derler. Haberiniz olsun ki avanaklar yalnız kendileridir, fakat bunu bilmezler.

３．チャガタイ・トルコ語
３．Ｔｈｅ　Ｃｈａｇｈａｔａｙ　Ｔｕｒｋｉｃ

さて、モンゴルの進出はトルコ族をチャガタイ（東トルコ、ウイグル）・キプチャク（北西トルコ）・オスマン（南西トルコ．トルクメン、オグズ）と言う地域に分断することになった、即ち、方言分化が従来にも増して激しくなってきたと言うことを意味する。そして、この内、チャガタイとオスマンでは、アラビア・ペルシア両語の影響を強く受けたＳｉｎｉｆ　ｄｉｌｉ（*Standes-sprache.*階級言語）が形成されはじめた。キプチャクではチャガタイ文語を使用していたのだが、ロシアの進出の為発達が中途半端になった。モンゴル支配下のチャガタイ・イル・キプチャク等の汗国においてはモンゴル語が現地の民族の言語とともに公用語として用いられていた。イル汗国ではバチカンやフランスへの書状が出され、、キプチャク汗国では１４世紀の２０年代まで住民の一部がモンゴル語を用いていた。なお、トルコ族も回鶻文字を教養として使用し続けていた。イスタンブールで発見されている文献もオスマン初期の宮廷の伝統によるものである。

ホワーレズム資料
Ｈ ̂ａｒｅｚｍ　Ｔｅｘｔｓ

ホワーレズムは１２１９年にチンギスの第二子チャガタイ（？～１２４２）によって滅ぼされた、これがチャガタイ汗国の起こり、１２２７－１３６９、で、東のオゴタイ汗国を後に吸収している。言語的にカラハン朝以降のトルコ語はホワーレズム・トルコ語とチャガタイ・トルコ語（古ウズベク語、これはソ連での名称）とに分けることができる。最初にホワーレズム・トルコ語資料を挙げることにする。

ラブグージー（Ｒａｂｇｕｚ ̂ｉ）
時期　１４世紀。
著作　Ｋｉｓａｓ　ü ｌ－Ｅｎｂｉｙ ̂ａ『先知的故事（預言者伝）』
解説　著作はモンゴル出身の王ナスレッディン・トク・ブガ（Ｎａｓｒｅｄｄｉｎ　Ｔｏｑ　Ｂｕ－ɣａ）汗に献呈されたもので、旧約以来の預言者につきペルシア語資料より独自に編集翻訳。
資料　ＢＴＫ．Ⅱ：４９－５１．
研究　グルュンベック　ＧＲ９ＮＢＥＣＫ，Ｋ．１９４８．Ｒａｂɣūｚī．*Narrationes de prophetis. Monumenta Linguarum Asiae Majoris. IV.*
研究　シンケヴィッチ　ＳＣＨＩＮＫＥＷＩＴＳＣＨ，Ｊａｋｏｂ．，Ｒａｂɣūｚīｓ　Ｓｙｎｔａｘ．*MSOS. 2. XXIX.*１９２６：１３０－７２，*XXX.*１９２７：１－５７．
研究　マーロフ　МАЛОВ：３２３－４１（История пророков）．
翻訳　ＫＡＫＵＫ編：２３６－４３（ＫＡＫＵＫ及びＢＲＯＤＳＺＫＹ訳）

イブン・ムハンナー（Ｉｂｎ　Ｍｕｈａｎｎā）
著作　ʿｉｋｙａｔａｔｕ' ｌ－ｉｎｓāｎ　ｗａ　ḥａｌｂａｔｕ' ｌ－ｌīｓāｎ
解説　同時期頃か１５世紀頃か？　アラビア・トルコ語彙で、ペルシア・モンゴル語のものもある。
資料　ЮСУФЗИЯ，Ширвани．Некоторые замечания относительно Ибн－Муханны и его соченения．СИИТЯ：２６９－３００．

クトブ（Kutub）

著作　『ホスローとシーリーン』（Hüsrev ü Şîrîn）

解説　これは1341年頃にキプチャクのティニ・ベク・ハン（Tini Bek Han）とその妃メリケ（Melike Hâtun）の所で書かれたロマンチックな甘く悲しい詩物語である。主人公は王子ホスローと王女シーリーン。好んで細密画に描かれているので注目すべきであろう。内容的にはペルシアのニザーミー（Nizâmî）のものに基づいている。16世紀のオスマンの詩人Shaykhi（Seyhi）も翻訳を行なっている。

韻文形式は ⏑ — — ／ ⏑ — — — ／ ⏑ — —（ハザジ）である。

資料　ZAJĄNCZKOWSZKI, Ananiasz（ザヤンチコフスキーと略す）*Studia nad stylilstyka i poetyka tureckiej wersji* ‹‹Ḫusrāv u Šīrīn›› *Qutba. I. Powtarzanie zwrotow stylistycznych. RO. XXV. 1*. 1961 : 31 - 82, *II. XXVII*. 1963 : 7 - 44.

資料　ZAJĄNCZKOWSZKI, Ananiasz（ザヤンチコフスキーと略す）1961 La plus ancienne version turque du "Ḫusrāv u Šīrīn" *de Qutb. III*ème *partie. Vocabulaire.* Warszawa .

資料　НАДЖИП, Э. Н. 1979. Историко-сравнительный словарь тюркских языков XIV. века на материале ‹Хосрау и ширин› Кутба. Книга I. М.

解説　筆者はこの第二巻以降をみていない。

資料　TIMURTAŞ, Faruk. (1949). Şeyhî' nin Husrev ü Şîrin' i. —— これは学位論文のようである。筆者、未見。

翻訳　KAKUK編：245－9（BRODSZKY訳）

テキスト（BTK. II：28－36）

621　Ördümçük ağı tig ming al birle
　　Örümcek ağı gibi bin hîle ile

　　Humây kuş avladı ol fâl birle
　　Hümâ kuş avladı fâl ile.

613　Bakın bu insana;nakşı ne etti,
　　Peri gibi onu divâne etti.

614　Şaşılan kişiymiş bu insanoğlu;
　　Periler bile o kişiden azzat olmaz.

615 Yüzünü görünce Şîrîn' in günlü düştü,
Sorar ki, bu nedir, özüm ne işe düştü?

616 Onun gibi kim oldu, hiç dese olmaz,
Onun dediğini de söylese olmaz.

617 Çiçek gibi soldu, gitti yanaktan alı.
Vücudunda kalmadı zerrece mecali.

618 Bunun halini bütün kızlar anladı,
Tuhaf işe rastladı diyerek şaşaladı.

ホレズミ
著作 ムハッバット・ナーメ（Muhabbetnâme『愛の書』）
解説 1353年に書かれ、1432年には回鶻文字でも書かれている。 書かれた場所はシル・ダリアの河畔のムハッメド・ホジャ・ベグ（Muhammed Hoca Beg）の宮廷。
研究 ЩЕРБАК, А. М. 1959. Огуз-наме. Мухаббат-наме. Памятники древнеуйгурской и староузбекской письменности. М
翻訳 KAKUK編：250－6（BRODSZKY訳）

テキスト（BTK. Ⅱ：44－6より）

Sikisinçi Nâme　　Sekizinci Nâme

42. Eyâ âhû nazarlar şehriyârı
Ey o ceylân bakışlılanı,

Hüsün meydânınıng çâpük-süvârı
Güzellik meydanının hızlı atlısı.

43. Latîf ü nâzik ü zîbâ sanemsin
Güzel, nâzik ve süslü bir put gibisin,

Zarâfet birle âlemde alemsin
Zarâfet ile âlemde bir bayraksın.

テキスト（シチェルバクのもの）
解説　回鶻本１６０ａ面より１７３ｂ面あるものの最後の部分。ただし、表記を変えてある。

Tamam boldï Muhabbat-nämë kitabï.

Kutluγ bolsun, tärïh sëkiz otuz bëštë,

čïčqan yïl raǰab ainïη altïsïnda yëzd

šahrïnda Mir alal-(ëd)-din buyurγan üčün

bu fakïf Mansur baqšï bit(i)di.

アリー・オグル・マフムット（Alî oğlu Mahmut）
著作　Nehc ül-Ferâdîs『天国への正道』
資料　BTK. Ⅱ：37－43.
資料　ECKMANN, János. 1956. Nehcu' l-feradis. I. Tıpkıbasım. Ankara.

フジャンディ（Hocandi）
著作　Latāfat-nāma『魅力（美）の書』
解説　フジャンディ出身の詩人。１４－５世紀にかけて著作される。ムハッバット・ナーメと並ぶと言われている。
研究　ФАЗЫЛОВ, Э., О рукописях и языке ‹‹Латафат-наме›› Ходжанда. ТС（1974）. М. 1978：125－45.
翻訳　KAKUK編：267－71（BRODSZKY訳）

著者不明（Anonymus）
著作　Muîn ül-Mürîd
解説　宗教書. １３１３年。ブルサのオルハン図書館にある。
資料　Ahmed Zeki Veledi〔Toğan〕の研究が１９２６年にある。
翻訳　BTK. Ⅱ：47－8

著者不明（Anonymus）
著作　Mirâçnâma（１５世紀前半）
資料　BTK. Ⅱ：52－5.

チャガタイ資料
The Chaghatay Texts

次にチャガタイ資料を列挙する、時期としては大体15世紀よりのもので、三つに別ける得る。

サッカク（Sakkaku）
解説　14－5世紀にサマルカンドにてハリル・サルタン（Halil sultan）やかのウルグ・ベグ（Ulug Beg. 天文台で有名）の宮廷に居た。
資料　KAKUK編：259－60（BRODSZKY訳）

ハイダル・フワーレズミ（Ḫaydar Hvarzmi）
解説　15世紀初めの詩人。

ルトフィー（Luṭfī）
解説　ネヴァーイーに継ぐ詩人でヘラート（Herat）出身。1366－1462か1463。
資料　KAKUK編：261－4（SZABÓ Lőrinc及びBRODSZKY訳）

アターィ（Atâi）
解説　14世紀後半に生まれ、ウルグ・ベグやその子の宮廷詩人
資料　KAKUK編：265－6（BRODSZKY訳）

古典期 The Classic Epoch

15世紀後半から16世紀前半。詩人ネヴァーイー以降の時期である。ヴァーイーはあらゆる方面に活躍した今で言うウズベクの詩人・作家・言語学者。そのDîvânはペルシア文学の模倣をはるかに越えており、トルコ世界で一・二の詩人である。

ネヴァーイー（Mir Ali Šîr Nevâî）
生没　1441—1501。
資料　НАВОИ А. Полное собрание сочинений. Ташкент. 1987－1992（20巻で刊行が待たれるが、個人的には1990年11月の時点で未見）
ECKMANN, János. 1971. The Dīvān of Gadā'ī. *UAS. 113*。
解説　この序文によると、ガダーイーはネヴァーイーのMacālisu'n-Nafā'is *"Assemblies of Distinguished Men"* の増補本にて知られている。年代は本人の著作としては896／1490－1年、増補版は903／1497－8だと確認されている。

その他の詩人　Sultan Huseyin Baykara（チムール朝のサルタンで詩人）
Ḫāmidī　Muhammad Salih
Sibani　Ubaidi

インドのムガール朝

バブル・シャー（Babur Šah, Zahirüddin Muhammed Babur）
チムール朝はインドに於いても存在し（Türk-Hindi İmparatorluğu）その建国者バブル（1483－1530）は詩人でも名声があった。著作に『バーブル・ナーメ（Bāburnāma）』即ち『バブルの思い出（Hatt-ı Baburi）』があり、チャガタイ期の最高傑作の一つと言われる。

研究 ステヴレイェヴァ СТЕБЛЕВА, И. В. 1972. Захир ад-дин мухаммад бабур. Трактат об 'аруже. М

15世紀後半？のチャガタイ・ペルシア語彙

書名 Bada' i' l-lughat（15世紀後半？ チャガタイ・ペルシア語彙）

アブシカ（Abuška）が16世紀前半に著したもの

資料 V. de VELIAMINOF-ZERNOF. *Dictionnaire djagatai-turc*. St. Petersburg

THÚRY, József. Az <Abuška lugati> czímű čagataj szótár>. KSz. V. 1904 : 1-21.

後期（16世紀後半から19世紀）

アブル・ガジ・バハードル（Abu' l-Gazi Bahâdur）

著作 『トルコ族の歴史』（18世紀）で有名なウズベクの歴史家である。

18世紀の有名なチャガタイ（トルコ）・ペルシア辞書

著者 ミールザー・マハディー汗（Mîrzâ Mahdî Khan）

著作 Sanglâkh "Stony Place"

解説 これ以降はキプチャクと同様にロシアの影響を受け、現在への道を辿ることになる。

概説（PhTF II に大体載っている）

BIRNBAUM, The Ottomans and Chagatay Literature. *CAJ. XX.* 1976 : 157 - 190.

ECKMANN, J. 1966. *Chagatay Manual. UAS. 60.* The Hague.

АХМЕТГАЛЕЕВА, Я. С. 1979. Исследование тюрко-язычного памятника <<Кисекбаш китабы>>. М.

НАСИЛОВ, В. М. 1974. Язык тюркских памятников уйгурского письма XI-XV вв. М.

ФАЗЫЛОВ, Э. Староузбекский язык. Хорезмские памятники XIV века. Ташкент. I (1966), II (1971)

ШЕРБАК, А. М. 1962. Грамматика староузбекского языка. М/Л.

４．キプチャク・トルコ語
４．Ｔｈｅ Ｋｉｐｃｈａｋ Ｔｕｒｋｉｃ

キプチャク（金帳）汗国（Ａｌｔɨｎ Ｏｒｄｕ Ｄｅｖｌｅｔｉ）はバトゥ（Ｂａｔｕ．チンギスの長子ジュチの子）がブルガール汗国の故地に建国した国家である、１２４１－１５０２。都はヴォルガ・デルタのサライ（Ｓａｒａｙ）。＜金帳＞の意味であるが、ａｋｔɨｎ＜金＞とｏｒｄｕ＜幕府、天幕＞のことで、トルコ語の＜キプチャク＞は古い漢語からのもののようである。

このユーラシアの境界地域は民族の出入りが激しい地域であるが、多くの部族がおり、１３－５世紀に独自の地域となる。ブルガール、カザール、ペチェニェグ（Ｐｅｃｈｅｎｅｇ，Ｂｅｓ ｅｎｙő）・クマン族（Ｋａｎｌｉ，Ｋｕｍａｎ，Ｃｕｍａｎ，Ｐｏｌｏｖｅｔｓ，ｋｕｎ）と数多い。ここでは言語資料を説明する。

これらのもののうちチャガタイ的でもある（ホワーレズムの都もサライ）ものもある。キプチャク系の言語は他のトルコ語とやや異なっている。母音は体系的に、英語の大音声推移の如く弱化気味でかなり異なっているし、伝聞の過去の形式も異なっている。ガザフ語にしてもこの系統のトルコ語に属している。さて、キプチャクの資料は次のように別けることができる。

クマン語資料 Ｔｈｅ Ｃｕｍａｎ Ｔｅｘｔｓ

彼等は１２－６世紀には南ロシアにおり、さらに、１５－８世紀には同化したアルメニア人もいた。

資料　１４世紀のラテン・ペルシア・クマン語彙、１５世紀のアラビア・クマン語彙・文法。
参考　ＢＴＫ．Ⅱ：６５－７．

Ｃｏｄｅｘ Ｃｕｍａｎｉｃｕｓ
解説　ラテン・ペルシア・クマン語彙でイタリアの宣教師のデータだが、１３３０－４０年の間に書き写された。第二の部分は１４世紀４０年代に南ロシアにいたドイツ系のフランシスコ派の僧が書いた宗教文献である。次第に様々な人の手により増補修正され、１４世紀後半にヴェレンツェに持って行かれ、同聖マルコ教会に保存されることとなった。

DRIMBA, V. Sur quelques glosses du <<Codex Cumanicus>>. ＢＴ: 63 - 8.

GABAIN, A. von. Die Sprache des Codex Cumanicus. *PhTF. I* : 46 - 73.

GABAIN, A. von. Komanische Literatur. *PhTF. II* : 243 - 51.

グルュンベク　GRϕNBECH, K. 1942. *Komanisches Wörterbuch. Turkischer Wortindex zu Codex Cumanicus.* Ｋøｂｅｎｈａｖｎ.

NÉMETH, J. Die Volknamen *quman* und *qūn*. *KCsA. III. 1*. 1940 : 95 - 109.

НЕМЕТ, Ю. Два кипчакских географических названия в венгрии. Исследования по тюркологии. Алма－－ата. 1969 : 26 - 33.

ГРУНИН, Т. И. １９６７. Документы на половецком языке XVI в. (Судебны акты каменец－подольской ар－

мянскойобщины). М.
ДОБРОДОМОВ, И. Г. О половецких этнонимах в древнерусской литературе. ТС. 1975 (1978): 102 - 29.
КУРЫШЖАНОВ, А., К изучению куманских загадок. ВИДКЯ. 2: 167 - 176.
КУРЫШЖАНОВ, А., Парадигмы склонения в языке письменного памятника XIII - XIV вв. <<Codex Cumanicus>>. ДИДКЯ. 1: 61－73.
КУРЫШЖАНОВ, А., Значение пространственных падежей в языке Codex Cumanicus. ВИДКЯ. 1: 74 - 82 (カザフ文)

マムルーク資料
The Mamluk Texts

次にマムルーク朝（Baḥrī家1250－1390、Burjī家1382－1517）である。<マムルーク>Mamlukとは「奴隷」を意味するアラビア語である。これは戦争で連れてこられたトルコやチェルケスの白人奴隷（「捕虜」？）の子孫がつくった王朝であり、エジプトとシリアに於いて13世紀半ばから16世紀初めまで戦争と暗殺の連続の中にあった。ただ、国家的にはかなりしっかりしていた。

開祖はアユーブ朝の王の寡婦女王シャヤル・アル・ドゥルル（*Shajar-al-durr*）。それ故、我々は対訳の語彙・文法やいくつかの文学作品をも見出す。ここに示すデータはしかし資料の制約で部分に留める。

トルコ・アラブ翻訳資料

解説　タイトルにモンゴルとあるのに注意。

資料　КУРЫШЖАНОВ, А. К. 1970. Исследование по лексике старокыпчакского письменного памятника XIII в. -<тюркско-арабского словаря>. (Китаб-и меджму-у терджуман тюрки ве 'аджеми ве моголи ве фарси〔Общая книга толкования тюркского, монгольского и персидского языков〕). Алма-ата.

参考　ЧАЙКОВСКАЯ, А. И. 1981. Тюркская грамматика в арабоязычных филологических трактатах XIII-XIV. вв. (Глагол). Ташкент.

対訳資料

解説　14世紀

資料　ザヤンチコフスキー　1938・54. *Manuel arabe de la langue des turcs et des kiptchaks.* Warszawa.

著者不明（Anonymus）
書名 Kitāb at-tuḥfa az-zakīya fī luġat at-turkīya
解説 シリア．１４世紀前半か１５世紀？ アラブ・キプチャク語彙及び形態論解説

著者不明（Anonymus）
著名 Tarjumān turkī wa-'arabī
解説 エジプトで１２４５年に書かれたトルコ・アラブ翻訳資料

著者 Jamal ad-Din Abu Muhammad Abdallah at-Turki
書名 Kitab bulġat al-muštaq fī luġat at-turk wa' l-qifjāq
解説 シリアにて１４世紀に書かれる。
資料 ザヤンチコフスキー １９５４・8. *Vocabulaire arabe-kiptchak de l'epoque de l'Etat Mamelouk.* Bulgat al-muštaq fī luġat at-turk wa--l-qifǯāq. I-ère partie. Le nom ; II-ème partie. Le verbe. Warszawa.
資料 ザヤンチコフスキー １９５９ Ms. Istanbul, Aya Sofya 1451について. *RO. XXIII. 1 : 73 - 99* ; １９５６ *RO. XX : 139 - 261.*

Gülistân「薔薇の園」
解説 ペルシア詩人サーディ著が原作で、翻訳者であるキプチャク出身のセイフ・イ・サラーイ（Seyf-i Sarâyî）がエジプトのマムルークの宮廷にて１３９１年に訳した。この写本は１４世紀にキプチャクの地に渡り、１４１０－５０年に増補されており、トルコの民謡も含まれることとなった。ホレズム的な特徴がある。
資料 BODROGLIGETI, A. １９６９. *A Fourteenth Century Turkic Translation of* Sa'-dī's Gulistān. (Sayf-i Sarāyī's Gulistan bi' t-tur-kī). Bp
資料 UZLUK, Feridun Nafiz. １９５４. Seyfi Serâyî Gülistan. TDK. Ankara.
BTK. II : ５８－６４.
KAKUK編：２５７－２５８（"Idegen lány" なる民謡訳あり）
KARAMANLIOĞLU, Ali Fehmi. １９７８. Seyf-i Sarâyî Gülistan tercümesi (Kitâb Gülistan bi' t-türkî). İstanbul.
Mamelucko-turecka wersja arabskiego traktatu o lucznictwie z XIV w. *RO. XX.* 1956 : 139 - 216（写真数葉あり）
НАДЖИП, Э. Н. Архаизмы в лексике тюркоязычного памятника XIV в. "Гулистан" Сейфа Сараи. Краткие сообщения Института Народов Азии. 83. Монголоведение и тюркология. M. １９６４：８０－９５.

Ettufet-üz-zekiyye fil-lûgat-it-türkiyye
解説　アタライの研究（1945. İstanbul）あり。15世紀。

アラブ・キプチャク語彙
時期　15世紀。
著者　Abū Ḥaiyān Muḥammad b. Yūsuf al-Garnāṭī
書名　Kitāb al-idrāk li-lisān 'l-atrāk
解説　スペイン（ベルベル出身）の哲学者・コーラン学者で、1298年にカイロで著作。　ヂャフェル・オグルが1931年にイスタンブルにて出版した版本あり。　内容はキプチャク・アラブ語彙・音声／形態に分かれる。
資料　ザヤンチコフスキー　Chapitres choisis du << *Vocabulaire arabe-kiptchak* ad-Durra' al-muḍī' a fī-l-lugat at-turkīya>>. *I. RO. XXIX. 1.* 1965：30-98, *II*：*id. 2*：67-116（写真あり）

モルラー・イブン・ムハムマド・サーリフ
著者　Molla Sâlih、Mollā Ibn Muḥammad Ṣāliḥ
書名　Eş-Şüzûr-üz-Zehebiyye vel-Kıtai' l-Ahmeddiye fil-Lûgat-it-Türkiyye。
解説　1619年頃の文法書。アタライが1949年にTDK. C. II. 30. İstanbul として出版。
解説　動詞・名詞・代名詞／数詞・アラブ／ペルシァ借用語・オスマン文の構成である。
資料　ザヤンチコフスキー　Mameluckо-kipczacki przeklad arabskiego traktatu Mukaddima Abū-l-Lait as-Samarkandī (Ms. İstanbul, Aya Sofia 1451). *RO. XXIII. 1.* 1959：73-99.
解説　オグズ的な要素もあるとされる資料の研究。

Muvassaḥāt li' l-Malik al-aṣraf Qānsūh al-Ġavri
資料　ザヤンチコフスキー　Poezje stroficzne <<muvassaḥ>> mameluckiego sułtana Qānṣūh Ġavrī. *RO. XXVII. 2.* 1964：63-89.
解説　サルタンKansu Gavriは1440？-1500-1516／？1517在位。王朝は1517年にオスマンセリム一世の支配下に入った。写真数葉あり。

アルメニア資料　Armenian Texts

これはトルコの各部族・ペルシア人等の紛争の的となっていアルメニア人の一部の数十万人が西へ或いは北へ逃れさすらいの日々を送っていた時期の資料。言語的には*Codex Cumanicus* 以降だと言われる。
資料　ГАРКАВЕЦ, А. Н. 1979. Конвергенция армяно-кыпчакского языка к славянским в XVI—XVII вв. Киев.

５．オスマン文語
５．Ｔｈｅ　Ｏｓｍａｎ　Ｔｕｒｋｉｃ

目を中央アジアから西方に向けよう。するとトルコ共和国があり、その言語をオグズ（トルクメン）系と言う。トルコ共和国やかつてのオスマン帝国影響の地域の言語、さらには、歴史的・文化的にやや分化してしまったアゼルバイジャンの言語などのカスピ海東部のトルクメン等の言語を総称して、オグズ系とかトルクメン系とか言う。トルクメン族はかつてはアナトリナの言語構成に重要な役割を果たしていた（トルコ国内の博物館等にもその遺品が見えることでもわかる）のであるが、オスマンとアゼルバイジャンとが自立して行く（１３世紀より共に個別の文語をもつ）中で取り残され、ついにはキプチャクの影響が入ってくることとなった。したがって、トルクメンには１８世紀よりの文語しかない。後で述べる言い方をすれば、「オルガ・ボルガ」特徴的な言語と言うか古風な特徴を持ち、トルコ語本来の長母音も保存されていることにも注目したい。

オグズの最初の記述はオルホン碑文に見え、８世紀より西南に向かい始め、どうも地域的にはウスック湖からシルダリア・アムダリア或いはアラルの地域付近に分布していたと推定される、これをＴｏｑｕｚ Ｏγｕｚと言う。この頃、キルギスは遙か北方に、オビ・エルセイの上流域におり、ペチェニェグも黒海の北、ブルガールはヴォルガ西岸に拠っていた。１０－１世紀にはカラ・ハン朝の北西に居た。１１世紀は更にホレズムや北イランに進出した。言語資料としてＭＫに既に若干見える。

その時代区分を示し、次に言語資料を示す。なお、１９８８年にカクック先生よりいただいた『オスマン・トルコ言語史』．１９８５（但しタイプ打ちの草稿に近いもの）を活用させて頂いた。

古オスマン語	Ｅｓｋｉ　Ｏｓｍａｎｌıｃａ	１３－４・５世紀
中期オスマン語	Ｏｒｔａ　Ｏｓｍａｎｌıｃａ	１５－８世紀
新オスマン語	Ｙｅｎｉ　Ｏｓｍａｎｌıｃａ	１９世紀
現代語	Ｔüｒｋｉｙｅ　ｔüｒｋçｅｓｉ	

関係資料

ドゥニィ　DENY, J. 1971. *Grammaire de la langue turque (dialecte osmanlie)*. Wiesbaden
　解説　初版はパリにて１９２１年に出版されている。アラビア文字トルコ語を使用している大書。
グゼフ　ГУЗЕВ, В. Г. 1979. Старооосманскнй язык. М.
カクック　KAKUK, Zs. 1985. *Oszmán-török nyelvtörténet*. Bp.
　解説　『オスマン・トルコ言語史』。原稿だが、詳しい。
ティムルタシュ　TIMURTAŞ, Faruk K. (1977). Eski türkiye türkçesi. XV. yüzyıl. İstanbul.
エルギン　ERGIN, Muharrem. (1982). Oslamlıca dersleri. İstanbul.
マンスルオウル　MANSUROĞLU, M. Turkish Literature Through the Ages. *CAJ*, *II* : 81 - 112.
文学事典　KARAALIOĞLU, Seyit Kemal. 1983. Ansiklopedik edebiyat sözlugu. İstanbul.

１３世紀　セルジュク期
13th Century　The Seljuk Turkic

初期オスマン資料の中に部分的にだが、bän「私」に対するmän、var「ある」やol－「なる」に対するbarやbol－、与格＋Aに対する＋ΓA、連体形＋Anに対する＋ΓANなどのオスマン的言語傾向が見える。これをその特徴からオルガ・ボルガ（Olğa－bolğa）資料と言い、古風なものでもなく、中央アジア出身の証拠とすべきと言う。

アリー（Alī）
著作　Kıssa－i　Yūsuf『ヨセフ物語』
解説　１４世紀の写本。中央アジアで１２３３年頃成立。
１９９４年のカラハン（KARAHAN, Leylâ）のErzurumlu　Darîr.
Kıssa－i　Yûsuf（Yûsuf　züleyiha）がTDK：５９７で出ている。
Darîrのdはzでもよい。これは１３８８年回暦７９０年のアラビア語からの翻訳らしい。

デッハーニー（Hoca　Dehhânî）
解説　ホラサン出身、１２２１／６１８か１２３０／６２８以降からコンヤ？　没年不詳。１３世紀末ころのセルジュークの宮廷でペルシア語の『シャー・ナーメ（Şâhnâme）』を書き、セルジュークについて記述。

ファキーフ（Hoca　Hoca　Ahmed　Fakîh）
解説　ホラサン生まれ？　ルーミーと同時代人、Çarhnâmeなる神秘主義的な詩作が残る、１５世紀写本あり。ファキーフの弟子にハムザ（Şeyyâd　Hamza）がいる。
資料　BTK. I：２６４－８.
資料　MAZIOĞLU, Hasibe. １９７４. Ahmed　Fakih. Kitābu evsāfi mesācidi' ş－şerîfe. *TDK. 399.* Ankara.

ルーミー（Mevlânâ　Celâleddin　Rûmî）
解説　ホレズムのベルフ（Belh）出身。１２０７－１２７３。「オルガ・ボルガ」的特徴の３５のトルコ語やペルシア・トルコの詩作あり。その子スルタン・ヴェレド（Sultân　Veled。１２２６／１２２７－１３１２）は三百以上の詩作を三巻にまとめているが、この特徴は無い。

１３－４世紀　ベグ諸国期
13th－14th Centuries　The Beg States

アーシュク・パシャ（Aşıkpaşa）
解説　クルシェヒル（Kırşehir）出身の詩人で大作　Garîname（１３３０）で有名だが、ルーミーやスルタン・ヴェレドをもとにしていると言われる。１２７２－１３３３。

グルシェフリー（Gülşehrî）

解説　スルタン・ヴェレドと同時代人。
著作　Mantıku 't-tayr『鳥たちのさえずり』はペルシア詩人をもとにした詩作。

ユーヌス・エムレ（Yûmus Emre）
生没　？1250－？1320／720。
解説　この時期に於いての代表はエムレであり、神秘主義詩人であった。この時期にはペルシア文学の影響もあるが、彼のものはトルコ的で、「最も古い且つ最も多様な我々の民衆詩人の名」（En eski ve en değerli halkşairimizin adı）である。その著作は後のものである故、言語学的にはそれ故重要ではない。最初の資料はハンガリーはエルデーィのミュールバッハー（Mühlbacher）がゴート文字で記している。
資料　ARIF, Hüseyin. Yunus Emre. Hayatı ve şiirleri. İstanbul.
資料　BTK. I：277－298.
資料　HALMAN, Talât Sait. *The Humanist Poetry of Yunus Emre.* İstanbul
資料　МАРТЫНЦЕВ, А. Е. Лексико-грамматические типы рифмы Юнуса Эмре. *TC (1973)*. 1975：204－8.

14世紀　オスマン期
14th Century　The Osman Epoch

多くのイスラム的著作がアラビア・ペルシア語より翻訳さる。

アフメデー（Ahmedî）
解説　シェイフ・オグルのライバルで詩作はより良いとされる。1334／5－1413。
著作　Iskendernâme
　解説　1390。8250の二行詩〔beyt〕より成る詩集。

ベフジェトュ・ル・ハダーイク（Beceti'l-hadâ'ik）
解説　宗教書で13世紀かそれ以前。14世紀写本多し。オルガ・ボルガ的。

フェラーイズ・キターブ（Ferâiz kitâbı）
解説　1343年のペルシア語より翻訳された法律書。オルガ・ボルガ的特徴あり。

カドゥン・ブルハーン・エッディーン（Kadın Burhâneddîn）
解説　カイセリ出身の詩人。1345－1398。

ネシーミー（Seyyid İmâdeddîn Nesîmî）
経歴　？－1404か1428。
著作　Divan
資料　BTK. I：335－8

ホジャ・メスード（Hoca Mesûd、Mesûd bin Ahmed）
解説　アイドゥンにて活躍。ペルシアよりの三つの翻訳あり。
資料　ザヤンチコフスキー　1934. *Studia nad jezykiem staro-osmańskim (Etudes sur la langue vielle-osmanlie). I. Morceax choises de la traduction turque-anatolienne de Galila et Dimma. Avec* résumé français et glossaire turc-polonais-français. Kraków.
解説　イスタンブール攻略以前か14世紀。

ファフリー（Fahrî）
解説　ホジャ・メスードと同時代の人。
著作　Mesnevī：Hüsrev ü Şîrîn（1367年）
資料　BTK. I：314－317.

シェイフ・オグル（Şeyhoğlu Mustafa、Sadru' d-dîn Seyhoğlu）
解説　1341－1401
著作　Marzubân-nâme（1445年写本あり）
著作　Kâbus-nâme。
解説　カイロ写本1458。先のものとともに14世紀末のスレイマン・シャーのために翻訳。
著作　Hursîd-nâme（1387年の7640の韻文）
著作　Kenz el-kuberâ『王者の鏡』（散文. 1400）

トゥトマジュ（Tutmacı）
解説　シェイフ・オグルと同時代の人。アゼルバイジャン地域で生まれ育ち、アナトリアに来た。
著作　Gül ü Husrev（写本. 15世紀）

シェイヒー（Şeyhî）
生没　1375－1431。

ユスフ・イ・メッダーフ（Yusuf－i Meddâh）
解説　シヴァス（Sivas）の人。
著作　Varaka ve Gülşâh。
解説　1369。アラブの恋愛英雄伝承をもとに作成。

カイグスズ・アブダル（Kaygusuz Abdal）
解説　詩人、1397－不明。

イブン・バトゥータ（Ibn Battuta）
生没　1304－1369。
解説　モロッコ生まれの14世紀の旅行家。北アフリカ・アラビア・小アジア・トルキスタン・インド、中国へも旅行。

イブン・ハルドゥーン（Ibn Haldun）
解説　歴史家・哲学者、チュニス生まれ、1332－1406. マムルーク朝やチムール朝に招かれ、カイロで死去。

１５世紀
１５ｔｈ　Ｃｅｎｔｕｒｙ

解説　韻文形式のオグズの歴史書で、「デデ・コルクト書には昔のトルコの習慣と信仰と関係する様々の記述が（複数）ある（単数）」（Ｄｅｄｅ　Ｋｏｒｋｕｔ　ｋｉｔａｂｉｎｄａ　ｅｓｋｉ　Ｔüｒｋ　âｄｅｔ　ｖｅ　ｉｎａｎｉşｌａｒｉ　ｉｌｅ　ａｌâｋａｌｉ　ｍｕｈｔｅｌｉｆ　ｋａｙｉｔｌａｒ　ｖａｒｄｉｒ．引用．Ｈ．ＥＲＥＮ：Ｄｅｄｅ　Ｋｏｒｋｕｔ　ｋｉｔａｂｉｎａ　ａｉｔ　ｎｏｔｌａｒ．Türｋ　ｄｉｌｉ　ｖｅ　ｔａｒｉｈｉ．Ａｎｋａｒａ．１９５０：３３－７．の冒頭部分）と言われる。
１４世紀末より１５世紀初頭に東アナトリアで書かれた。ドレスデンとバチカンに写本がある。

資料　ＢＴＫ．Ⅱ：３６４－７６

資料　ＥＲＧＩＮ，Ｍｕｈａｒｒｅｍ．１９５８・１９６３．Ｄｅｄｅ　ｋｏｒｋｕｔ　ｋｉｔａｂｉ．Ｉ．Ｇｉｒｉş，Ｍｅｔｉｎ，Ｆａｋｓｉｍｉｌｅ，Ⅱ．Ｉｎｄｅｋｓ，Ｇｒａｍｅｒ．Ａｎｋａｒａ．なお、Ⅱは未見。（翌年バクーからアセルバイジャン語で文法概説がでた。エルギンのものはもともと１９５３年の学位論文らしい。）

Ｂｉｓｍｉ’ｌｌāｈｉ’ｒ－ｒａḥｍāｎｉ’ｒ－ｒａḥīｍ　／ｖｅ　ｂｉｈｉ　ｎａｓｔａ‘īｎ
ｂｉｓｍｉ－ｌｌａｈｉｒｒａｈｍａｎｉｒｒａｈｉｍ　／且つ　中傷する人々を通して
慈悲を垂るる者たる　神性たる　アラーの名に於いて

Ｒｅｓūｌ　‘ａｌｅｙｈｉ’ｓ－ｓｅｌāｍ　ｚａｍａｎıｎａ　ｙａķın　Ｂａｙａｔ
予言者、　安穏さに対してなる者なる　その時に　近く　バヤット

ｂｏｙıｎｄａｎ　Ķｏｒķｕｔ　Ａｔａ　ｄｉｒｌｅｒ　ｂｉｒ　ｅｒ　ķｏｐｄı．
部族より　コルクト　アタ　と彼らが言う　或る　男　現れたり。

Ｏğｕｚｕñ　ｏｌ　ｋｉşｉ　ｔａｍａｍ　ｂｉｌｉçｉｓｉ－ｙ－ｄｉ．　Ｎｅ　ｄｉｒ－ｉ－
オグズの　その　人物は　いと　博識　なりき。　何か　言う　な

ｓｅ　ｏｌｕｒ－ｉｄｉ．　Ċａｙıｂｄａｎ　ｄüｒｌü　ḥａｂｅｒ　sğｙｌｅｒ－ｉｄｉ．
ら　有るのであった。　未知のことより　様々な　知識を　語るので　あった。

Ḥａķ　Ｔａ‘ａｌａ　ａｎｕñ　kğñｌｉｎｅ　ｉｌｈａｍ　ｉｄｅｒ－ｉｄｉ．
全能の神なる　その　心に　感応　するので　あった。

Ｋｏｒｋｕｔ　ａｔａ　ａｙıｔｄı：　Ａḥır　ｚａｍａｎｄａ　ḥａｎｌıķ　ｇｉｒü
コルクト　アタが　言ひたり　：　最後の　時に　支配者（は）　以来

Ｋａｙıｙａ　ｄｅｇｅ，ｋｉｍｓｅｎｅ　ｅｌｌｅｒｉｎｄｅｎ　ａｌｍａｙａ，ａḥır
心配に　至りて、　誰かに　彼らの手を　とるに、　最後の

z a m a n　o l u p　ḳ ı y a m a t　k o p ı n ç a .　　B u　d i d ü g i
時と　なりて　最後の審判が下されるのだ（下されるに）。　この　言ひしことは

O s m a n　n e s l i d ü r , i ş d e　s e r i l ü p　g i d e　y o r ı r .　V e
オスマン　族のことなり、　今　気づいて　行きて　いる。　そして

d a h i　n i ç e　b u ñ a　b e ñ z e r　s ö z　s ö y l e d i .　Ḳ o r ḳ u t
また　なぜか　これに　類する　言葉を　言うのだった。　コルクト

A t a　O ğ u z　k a v m ı n u ñ　m ü ş k i l i n i　ḥ a l l　i d e r − i d i .
アタは　オグズの　部族の　困難さを　解説　するのだった。

H e r　n e　i ş　o l s a　Ḳ o r k u t　A t a y a　t a n ı ş m a y ı n ç a
あらゆる　何か　事が　あるなら　コルクト　アタに　わからぬなど

i ş l e m e z l e r − i d i .　H e r　n e　k i　b u y u r s a　k a ḅ u l
なされぬのであった。　あらゆる　何か　誰か　命ずるなら　受け容れ

i d e r l e r − i d i .　S ö z i n　ṭ u t u p　t a m a m　i d e r l e r − i d i .
られるのであった。　言葉を　とりて　完全に　あるのであった。

KAKUK編：318−30（KÖVESI Margit訳）　ハンガリー語訳のテキスト

"Ez a fejezet beszéli el −Ó, nagyúr−,
hogyan ölte meg bászat tepegözt"
これはエルギン：206−15の Basaṭ depegözi öldürdügi boyı beyān ider ḥanum hey の個所に相当する。

Meger ḥanum bir gün Oğuz oturur−iken üstine
Egyszer −ó, Nagyúr− ellenség támadta meg a oguz−
yağı geldi. Dün içinde ürkdi köçdi. Ḳocanuñ
zok táborát.
oğlançuğı düşmiş. Bir aşlan bulup götürmiş
beslemiş.
Oğuz yine eyyām−ile gelüp yurdına ḳondı. Oğuz
Ḥanuñ ılḳıçısı gelüp ḥaber getürdi, aydur:
Ḥanum sazdan bir aşlan çıkar, at urur, apul yorı−
yışı adam kibi, at başuban ḳan sömürür.

スルタン・ジェム（Ｓｕｌｔａｎ　Ｃｅｍ）
解説．バヤジット２世の弟。１４５９－１４９５。

ハターイー（Ｈａｔâｙî）
解説　アゼリの神秘詩人。１４８６－１５２８。

フズリー（Ｆｕｚｕｌî）
生没　？１４９５／１４９８－１５５６。
解説　トルコ最大の詩人。アゼリの人。小アジアからみてもそうである。次のように言われる。
Ｆｕｚｕｌî　ｄｉｖａｎ　ｅｄｅｂｉｙａｔıｎıｎ　ｅｎ　ｂüｙüｋ　şａｉｒｄｉｒ.
「フズリは韻文文学の最も偉大な詩人である。」

アフメド・ダーイー（Ａｈｍｅｄ　Ｄâî）
解説　１５世紀前半。
資料　ＡＬＰＡＹ, Ｇünul. １９７５. Aḥmed－i Dā ‘ī ve Çengnāmesi. Eski Osmanlıca bir Mesnevi. *Sources of Oriental Languages and and Literatures. Turkic Sources* Ⅲ. Ankara.
解説　Çｅｎｇ「ハープ」の話。写本と索引。
資料　ＢＴＫ. Ⅱ：１０９－２４等.

アフメド・パシャ（Ａｈｍｅｄ／ｔ　ｐａşａ）
解説　イスタンブルに生まれた詩人で、恋愛詩で有名。？－９０２／１４９７。
資料　ＢＴＫ. Ⅱ：１９３－２０３.

アーシュク・パシャ・ザーデ（Ａşıｋｐａşａｚâｄｅ）
解説　歴史家、８０３／１４００・１４０１－８８６／１４８１か９０８／１５０２以降。時代でわかるようにバルカンへ従軍している。
資料　ＢＴＫ. Ⅱ：３０８－２２.

ダーニシュメンド・ナーメ
トル　Ｄâｎｉşｍｅｎｄｎâｍｅ、Ｑıｓｓａ－Ｍｅｌｉｋ　Ｄａｎişｍｅｎｄ
解説　１２世紀初めに死去したダーニシュメンド朝の創始者（トルクメン出身）に就いての書。多くの写本がある。パリやレニングラードの写本は１４世紀の話し言葉のもの。

エル・フェレジ　バド・エシ・シッデ（Ｅｌ－ｆｅｒｅｃ　ｂ’ｄ－ｅşｓｉｄｄｅ）
解説　談話集成。ヴァーンベーリィの研究（１９０１．ライデン）、この写本は１４５１のもの。

ハティブ・オグル（Ｈａｔｉｂｏğｌｕ、İｂｎ　Ｈａｔｉｂ）
著作　Ｆｅｒａｈｎâｍｅ　予言者史で、１４２５か6年。ブダペシュト本はネーメト以来研究あり。

クルク・ヴェジル（Ｋıｒｋ　ｖｅｚｉｒ）
解説　東方民衆譚。

オメレ・ビン・メジード（ʻÖｍｅｒｅ　Ｂｉｎ　Ｍｅｚīｄ）
資料　ＣＡＮＰＯＬＡＴ, Ｍｕｓｔａｆａ. １９８２. ʻÖｍｅｒｅ Ｂｉｎ Ｍｅｚīｄ. Ｍｅｃｍūʻａｔü' ｎ－ｎｅｚā' ｉｒ. *TDK. 500.* Ankara.

ネシュリー（Ｎｅşｒî）
生没　１５２０ころ死去。
著作　Ｃｉｈâｎｎâｍｅ『世界史』. Ｇｉｒişｌｅｒ, Ｍｅｔｉｎ, Ｆａｋｓｉｍｉｌｅ, Ⅱ. Ｉｎｄｅｋｓ, Ｇｒａｍｅｒ. Ａｎｋａｒａ.
著作　ＢＴＫ. Ⅱ：３２５－３３

シェイヒー（Ŝｅｙｈî）
解説　ゼルミヤーン（Ｇｅｒｍｉｙâｎ）出身。１３８９－１４３０。
著作　Ｈｏｓｒａｕ ｖｅ Ŝîｒîｎ. Ｄîｖâｎ
資料　ＢＴＫ. Ⅱ：２７０－４
資料　ザヤンチコフスキー　１９６３. *Poemat irański* Ｈｕｓｒｅｖ－ｕ－ŠＩｒＩｎ *w wersji osmańsko-tureckiej*　Ŝｅｙｈİ. Warszawa.

シナーン・パシャ（Ｓｉｎâｎ　ｐａşａ）
散文　Ｔａｚｕｒｒｕ' －ｎâｍｅ『祈りの書』　資料　ＢＴＫ. Ⅱ：２７０－４.

ウムル・ハシャ・デスタヌ
名前　Ｕｍｕｒ　ｐａşａ　ｄｅｓｔａｎı、Ｄüｓｔｕｒｎａｍｅ－ｉ　Ｅｎｖｅｒｉ
資料　ペルシアの歴史書でトルコ語の訳。

１６世紀　１６ｔｈ　Ｃｅｎｔｕｒｙ

１６世紀はもちろんオスマン帝国の最盛期であり、各地で文学の花が咲き誇っていた。

ベルガマ・ル　カドリ（Ｂｅｒｇａｍａ’ｌı　Ｋａｄrı）
資料　ＡＴＡＬＡＹ，Ｂｅｓｉｍ．１９４６．Ｂｅｒｇａｍａ’ｌı　Ｋａｄrı．
Ｍüｙｅｓｓｉｒｅｔ－üｌ－ｕｌûｍ（Ｍｕｙａｓｓｉｒａｔｕ－’ｌ－‘ｕｌūｍ）．*TDK. C. II. 28.* İｓｔａｎｂｕｌ（文法書）

ミフリ・ハートゥーン（Ｍｉｈrî　Ｈâｔûｎ）
生没　１４６０／８６５－１５０６／９１２
資料　ＢＴＫ．Ⅱ：２２７－３０
資料　МАШТАКОВА，Е．И．（１９１６年生）．１９６７．Михри－хатун．М.
資料　ｉｄ．，Об　одной　рукописи　стиховмихри－хатун．ППВ－ИФИ．１９６９：２０８－２１９。
解説　写真は３８２－９７に２３ａ－３０の部分。

ムスタフー・アリ（Ｍｕｓｔａｆâ　‘Ａｌî）
生没　１５４１－１５９９
著作　Ｋünｈ　ül－ａｈｂāｒ『知識の真実』（１５９３－１５９９）
資料　TIETZE, Andreas. 1979. Ｍｕｓｔａｆā　‘Ａｌī’ｓ *Counsel for Sultans of 1581. Edition. Translation, Notes. Part I.* Wien.

チャヴシ（Ｓｉｎａｎ　Çａｖｕｓ）
資料　Ministry of Culture and Tourism of the Turkish Republic. 1987. Ｔａｒｉｈ－ｉ　Ｆｅｔｈ－ｉ　Şｉｋｌｏş，Ｅｓｔｅｒｇｏｎ　ｖｅ　İｓｔｏｌ〔ｎ〕ｉ－Ｂｅｌｇｒａｄ
『シクローシュ、エステルゴムとイストルニ・ベルグラードの征服史』
or　Ｓüｌｅｙｍａｎ－ｎａｍｅ．İｓｔａｎｂｕｌ．
解説　極彩色図版の豪華本。従軍戦記。

カーティブ・チェレビ（Ｋâｔｉｂ　Çｅｌｅｂｉ）
解説　世界的な人文学者、書誌学者。１６０９－１６５７。

エヴリヤ・チェレビ（Ｅｖｌｉｙａ　Çｅｌｅｂｉ）
解説　世界旅行家。１６１１－１６８２。

６．近代トルコ語
６．Ｔｈｅ　Ｍｏｒｄｅｒｎ　Ｔｕｒｋｉｓｈ

オスマン国家がこのように強大であったのは海洋国家であったためでもあるが、ヨーロッパの世界の植民地政策による技術革新にはついて行けず、次第に勢力を弱め、１９世紀には西ヨーロッパやロシアの諸国により、散々叩かれ（ナポレオンのエジプト遠征、クリミア戦争等）、領土拡大政策や石油の利権争いに巻き込まれ、第一次世界大戦を契機にした帝国の崩壊により小アジアに領土が限定され、騒乱より現れた一人の英雄によるトルコ共和国の出現を迎えることになる。

トルコ共和国の言語は文字改革との絡みもあり、オスマンの言語に比べてアラビア・ペルシア的色彩が薄い、「西洋的近代化」政策の故である。フランス的色彩を借用語に見る。近年は下級労働者として西欧とりわけドイツに何百万人もいる。従って、我々が現代のトルコ共和国の文章を読んでゆく場合、本来の表現・アラビア・ペルシア的表現・そして西洋的表現の区別をしつつ読んでゆく必要があることになるし、周辺言語との相互関係を考える必要がある。

１９世紀半ばより前の文学を「技巧文学（試訳．Ｄｉｖａｎ　ｅｄｅｂｉｙａｔ ı）」と言う。そして、１９世紀の「改革文学（Ｔａｎｚ ı ｍａｔ　ｅｄｅｂｉｙａｔ ı）」は政治的な１８３９年よりの変革とともにはじまっている。ちょうど、清の王朝の変動と期を一にしている。満州語はこの時期すでに＜消滅＞に近い状態になっているが、トルコ語の地域は別であっ。そして２０世紀は激動の後に、「オスマン文学」の後継である「共和国文学（Ｃｕｍｈｕｒｉｙｅｔ　ｅｄｅｂｉｙａｔ ı）」が誕生することになる。

ハンガリーに関するデータでもわかるが、近世から現代への時期は個別分野以外の処理は不可能である。すなわち、＜オスマン文学＞の研究が必要である。残念なことに、筆者の関係者でオスマン文学の専門家はいなかったので、読む価値をみいださなかった。それは、２０世紀のトルコ学が１９世紀のオスマン文学指向からトルコ世界指向に変わったため、筆者の基礎もここにあるからである。

この点については、末尾の節と『情報伝達を通して見た１９世紀北方ユーラシアの言語改革』の第一章を参照されたい。

次の１９世紀に関する一般向けの記述をみよう。

Emperyalizmde, kapitalistleşmemiş ülkelerde üretim Avrupa pazarına göre belirlenmiş ve ülke, kapitalist ülkeler için satma sorununun çözüleceği, hammadde deposu ve yatırım alanı olarak biçimlenmiştir. İnglitere İmparatorluğu, Çin'de 'haşhaş savaşı' verirken, İrlanda'da 'patates dönem - büyük kıtlık' yaşanmaktadır. Çin, İngilizlerin Çin'e sattıkları malların başında gelen afyonun yayılışını ve halk tarafından tehlikeli şekilde kullanılmaya başlanılmasını önlemek istemiş, 1839'da başlayan savaş 1842'de Çin'in yenilgisi ile sonuçlanmış, yok edilen afyon tazmin edildiği gibi, beş liman İngiliz ticaretine açılmış ve Hong Kong İnglitere'ye bırakılmıştır.

「帝国主義においては、資本主義化されなかった地域での生産はヨーロッパ市場によって決定され、さらに、地域は、地域は資本主義諸国のために販売問題解決、原材料の倉庫と保存場所として定められたのです。イギリス帝国は、中国で「けし戦争」をやっている時に、アイルランドで「ジャガイモ時代=大飢饉」を経験していました。中国は、イギリス人たちが中国に売った物資の真先にくるアヘンが広がることを、そして、人民によって危険な形で使われることを、くい止めようとしていました。1939に始まった戦争は1842年に中国が敗北することで終わったし、なくされたアヘンが損害をうけたとして、五つの港がイギリスの商売に対して開かれたし、そして、香港はイギリスに譲渡されたのです。。。。」

Aynı dönemde İrlanda'da papates tüketimine mahkûm olan halk, nüfusunun yarısını kısa zamanda göç ettirecek geçin zoruna düşmüştür. Altı yılda, ikimilyon kişi açlıktan ölmüş veya göç etmiştir. 1840'da 8 milyon olan İrlanda'nın nüfusu bugün halen 4 milyondur. (1840'da 18,5 milyon olan İngilitere'nin nüfusu bugün 50 milyon.

資料 Tarih ve Toplum. 9. 1984：179. 文化植物に関する論文の一部
注1 kiş：カザフ. kisi：キルギス・ウイグル. kiʃi：撒拉尔. kiʃ：裕固. kəsi
注2 原材料 ham 〔ペル〕
貯蔵 depo 〔フラ「倉庫」〕
芥子・けし haşhaş 〔アラ〕
物資 mal トルコでは「財産」、モンゴルでは家畜の群れを指す。

こういう考えは、クリミア戦争以来の考え方だろう。そして、第一次大戦でオスマン王朝がしくじったことから、<亡国>の問題が生まれ、一人の軍人が偉大なる政治家、思想家としてでてくる。ケマル・アタチュルクである。

Gazi Mustafa Kemal Paşa Atatürk (1881-1938)
(英雄) (選良) (完全な) (総督) (トルコの父)

Türk ulusunun kurtarıcısı ve Cumhuriyet'in kurucusu. Mustafa Kemal, gümrük memuru Ali Rıza Efendi'nin oğludur. Annesinin adı Zübeyde'dir. 1881'de Selânik'te doğdu. Daha ilkokul çağında iken babasını kaybetti.

Mustafa, askerî okulda iken, matematik öğretmeni tarafından Kemal adı, ‹‹Senin adın da Mustafa, benimki de. Birbirine karşmaması için sana Musafa Kemal diyelim››, diye verildi. Sakarya zaferi üzerine Büyük Millet Meclisince ‹‹Gazi›› unvanını alan Mustafa Kemal'e Soyadı Kanunu çıkınca yine Büyük Millet Meclisi tarafından ‹‹Atatürk›› soyadı verildi.

「トルコ国家の救世主であり、共和国の建国者。ムスタファ・ケマルは、税関吏アリ・リザ・エフェンディの息子である。彼の母の名はズュベイデである。1881年にセリャーニクにて生まれた。さらに初等学校の時に彼の父を失った。ムスタファは、軍学校の時に、数学の教官よりケマルと言う名前を、「君の名前もムスタファ、私のもだ。互いに間違わない為に君に対してはムスタファ・ケマルと呼ぼう」、と与えられた。サカルヤの勝利で大国民議会としては「ガジ」と言う位を得るムスタファ・ケマルに対して権威ある姓名をも出して、また、大国民議会より「アタ・チュルク」と言う姓が与えられた。」

資料 M. Çağatay ULUÇAY. 1979. Tarih Ansiklopedisi: 41
注 後置詞tarafından「の側より」は実際の動作主を示す。

1998年10月29日の共和国成立75周年記念日の際には、新聞もアタ・チュルク礼賛であったと同時に、これほど神格化されてすぎている人物はいない、とか、ブルガリア人の愛人、などという記事もあった。スターリン以上だというわけである。しかし、同時に、この地域がオスマン帝国の負の部分を切りすてることができたのも事実であり、だから、明治以来の日本に友好的であった。今は昔の「昭和天皇」についての記事である。

Geçmiş şölenler

17 Kasım 1928'da Japonya'nın eski başkenti Kyoto'da İmparator Hirohito'nun hükümdar 3'üncü senesinde, yabancı elçiler onuruna verilmiş bir akşam yemeğinin menüsünü bu ay okur+lar+ımız+a sunuyoruz.

「1928年11月17日に日本の古都京都に於いて皇帝裕仁の支配の3番目の年に、外国の大使たちがその名誉に与えられた一つの夕方の食事のメニューを今月は読者諸氏に送りましょう...」

Bu şölende o tarihe Tokyo'da görevli merhum Hulusi Fuat Tugay ve eşi Emine Deniz Tugay memleketimizi temzel etmiştir. Görüleceği gibi, yemekler alafranga mutfağından olup, Japonlara has yemeklerini ecnebi konuklarına zorla ikram etmemişler.

資料 Tarih ve Toplum. 9. 1984：162. 雑誌『歴史と社会』

さて、19世紀のオスマン・トルコ語を攻める手掛かりがなかったが、今回、科学研究費の成果として、具体的な方法をみつけることができた。

知らない人は、『千夜一夜物語（Bin bir gece）』をすすめてくれる。トルコ語自体についてのデータは今の所筆者は未確認だが、ヨーロッパへの最初の紹介者はAntoine Galland（1646－1715。フランス）である。筆者の手持ちのものはフランス語からの翻訳である。日本の版本とくらべると、訳がほぼ同じであるから（トルコ語訳の方がよりおもしろい）、フランス語の版本は定評があるのだろう。オスマン時代にはこの種の話は評判が良くなかったらしい。ハーレム資料では英語で出され一躍話題になった本のトルコ語訳がある（際物（きわもの）的な日本語訳もある）。千一夜物語の翻訳などもおもしろい。トルコ共和国で入手できる翻訳はフランス語からの翻訳である。最近では、オスマン時代のトルコの女性を描い研究も多いので注意しておきたい。それでも、おとぎ話にはもってこいである。

参考 CROUTIER, Alev Lytle. (1990). Harem. Peçeli Dünya. Yılmaz Yayınları, İstanbul.

Evvel zaman içinde
bir memlekette bir karı koca varmış.
Bunlar çok fakir oldukları için
kendi memleketlerini bırakıp
Bağdada gitmişler.
むかしむかし ある国にある夫婦がおったそうな。
これら（この連中は）とても貧しくあったので 自分の彼らの国を離れて バクダッドへ行ったそうな。

ここから、奇想天外な話になる。このような話は、ハンガリーのクーノシの１９世紀末の採取した民話にもある。

p. 32 81.

Bir varmış. bir yokmuş dünyanın işi
或事が あったそうじゃ 或事が なかったそうじゃ この世の 仕事が

çokmuş, vaktın birinde Ahmedâ isminde bir adam
多かったそうじゃ、 その時代の ある時に アフメダー なる 一人の 男が

varmış, bu herif epeyce zengin olup bir
いたそうじゃ、 この 者は とても 金持ち で 一人の

karısından başka kimsesi yokmuş, hiç bir
嫁さんより 他に 誰も いなかったそうじゃ、 どんな

şeyden yana sıkılmayup yalnız çocû olmadî içün
ことに対しても 厭くことなく ただ一人の 子供も いなかった ので

gece gündüz rahat edemez, Allah bana bu kadar
夜 昼なく 安らぎことは出来なかった。アラーよ 私に これ 程

mal verdi, şöhret kazandırdı, bir evlad verseydi
物を 与えになった、名誉を 得させになった、 一人の 女の子を 与えになったなら

hiç ganın kederim olmayacaktı, hem öldüm vakit
決して 家系の 私の憂いも なかったでしょうに、 私が死んだ 時に

bütün malım ona kalır adımda daima söylenirdi,
全ての 私の財産は 彼女に 残り 私の名にて いつも つぶやくことになるし、

hem-de belki çocûm beni xatırına getirerek
もし 私の息子なら 私を その記憶に いれて

dua edüp bir raxmet okurdu deye düşünüp
お祈り して 何かの 憐れみを 与えることもあるはずだ と 思って

dururmuş.
いたそうじゃ。

p. 183

Aya bak yıldıza bak,
damda duran kıza bak;
ay benim yıkdız benim,
damda duran kız benim.

Ayağında yemeni,
zalim öldürdün beni;
eski yarım duyarsa,
ne seni kor ne beni.

参考 KÚNOS, Ignácz. 1889. Oszmán-török népköltési gyűjtemény. II. Bp。
クーノシ・イグナーツ。『オスマン・トルコ民謡民話集成2』。ブダペシュト。

クーノシュのややあとに、ネーメト（Németh, Gyula）がでて、20世紀のトルコ学を引っ張ってきた。彼のトルコ語概説にはナスレディン・ホジャ（Nasreddin／Nasrettin Hoca. 1208－1284）の頓智話が引用されている。

Hocayá: "Bir káz gidíyor" demişlér. "Baná né?" demíş. "Sizé gidíyor" demişlér. "Saná né?" demíş.
ホヂャに『一羽の鵞鳥が行っているよ』と誰かが言ったそうな。『ワシに何だい？』と彼は言ったそうな。『あなたの所へ行っているんですよ』と言ったそうな。『貴方に何だい？』と彼は言ったそうな。」

Deveye "Boynun eğri" demişler. "Nerem doğru ki..." diye cevap vermiş.
駱駝に『お前の背中（首）は曲がっている』と言ったそうな。『私のどこが真っ直ぐなのか...』と返事をしたそうな。』（注　ラクダは中東では一瘤、内陸アジアでは二瘤。）

頓智も良く考えれば、言葉の特徴をうまく処理した例である。「もし山が予言者のもとに行かないのであれば、予言者が山に行く」のように意表をつく所がおもしろいわけである。ハンガリーではクーノシュが最初に、1899年、1930年に紹介している。こういうものは原文との対訳においてはじめて面白さがでてくるように思う。こういったものの中に、トルコ民衆のものの考え方がみえる。
参考　東京・平凡社の『東洋文庫シリーズ』に護雅夫（MORI, Masao. もりまさお）訳がある。

この延長で、トルコ語についてのいくつかの書物を読んでいると、フォークロア的な色彩も混じっている文学に出会う。ゲクアルプというかゴカルプ（Ziya GÖKALP。1875－1924）の韻文のに上のようなフォークロア的な色彩も混じっているように思う。なお、彼の名前だが、gök<青>とalp<勇士>の意味である。

Lisan『言葉』

1 Güzel dil Türkçe bize,	美しき言葉かな 我が言葉ぞ 我等に、
Başka dil gece bize。	他の言葉ぞ 日没なるかな 我等には。
İstanbul konuşması	古都の 言葉ぞ
En saf, en ince bize.	潔くして 微なり 我等には。
2 Lisanda sayılır öz	言葉にて 思わるる 真実は
Herkesin bildiği söz;	皆の 知りたる 言葉なり；
Mânâsı anlaşılan	その意味ぞ 見出さるる
Lûgate atmadan göz.	辞書に 投げ掛けずに 目は。
3 Uydurma söz yapmayız,	でっちあげるな。言葉を 我々は作らず
Yapma yola sapmayız,	作るな 道に 我々は落ちず
Türkçeleşmiş Türkçedir;	トルコ化されしは トルコ語なり；
Eski köke tapmayız.	古い 根本に 我々拝まず。
7 Arapçaya meyletme,	アラビアに 傾くな、
İran'a da hiç gitme;	イランにも 決して 行くな；
Tecvîdi halktan öğren,	読むことを 人々より 学べ、
Fasihlerden işitme.	弁士たちに（／より） 聞くな。
8 Gaynlı sözler emmeyiz,	ガイン（ğ）ある 言葉を 我々は吸わぬ
Çocuk değil, memeyiz!	子供 では無い、我々の乳房は！
Birkaç dil yok Tûran'da,	複数の 言葉は 無し ツラーンの地には
Tek dilli bir kümeyiz.	単一の 言葉ある 一つの 我が同胞なり
9 Tûran'ın bir ili var	ツーランの 一つの 国ぞ あるなり
Ve yalnız bir dili var.	かつ ただ 一つの 言葉ぞ あるなり。
Başka dil var diyenin,	他の 言葉が ある とお前たちは言われる
Başka bir emeli var.	他の 一つの 希望ぞ あると。

引用 ÇAĞATAY. Ⅱ：3。

筆者が引用したのは十ある節の四つだけであるが、ここにあるツラーンと言う表現はハンガリー民族主義

の象徴でもある。１９９７年と１９９８年の１０月にイスタンブールでT．テキン教授（イスタンブール近郊のゲブゼ出身で、自宅はアンカラとイスタンブールにある）からレヴューを受けたが、話題になったことは、トルコ共和国の代表的な学者が本国人ではないという事実、極端な言い方をすれば、アゼルバイジャン出身が多いという事実についてであった。トルコ共和国のもとにあるイスタンブール方言や標準語の記述にもそういう色彩があるということであった。

後者については、たった五回しかいっていないイスタンブールという町が気に入ったので、２１世紀には調査してみたいと思っている。

前者については思い当たる点がある。まず、トルコ共和国の学者には、意外にもトルコ共和国出身以外の人々が多いわけであって、『トルコ語の歴史』を書いたヂャフェルオウルはアゼルバイジャンのゲンジェ生まれ（１８９９－１９７５）。ゲンジェやキエフなどで学び、１９１７年にバクー大学で講義し、１９２０年にイスタンブールへ来た。『トルコ語の知識』を書いたエルギンもアゼルバイジャン出身の学者である。ドイツやアメリカで勉強した学者も多い。また、トルコ共和国の学者がオスマン帝国。トルコ共和国からものを見ているという事実である。つまり、１９世紀の半ばというか後半より盛んになったタンジマット文学もあくまでオスマン文学の範囲にあるということだろう。次に示す作家たちも、フランスなどの影響は受けているが、＜アラビア＞＜ペルシア＞を捨てて＜ヨーロッパ＞＜近代＞へ乗り換えたが、その実、土台は＜オスマン帝国＞の範囲あるいは＜トルコ共和国＞の範囲にあるということである。モンゴル高原の古代トルコ語も中央アジアのカーシュガリーの詩歌も別世界のことかもしれない。もちろん、１９世紀末から２０世紀初頭にかけてやっと分かったことが根拠になるはずもない。２０世紀を震撼させた＜ソ連＞。その＜ソ連＞が崩壊する以前に＜ソ連＞を夢見た人々も少なくはなかったようである。１９９０年にトルコに行った際にもそう感じた。それが崩壊しても、根元は＜トルコ共和国＞であるから、視点を＜中央アジア＞、＜ヴォルガ＝イディル＞、＜シベリア＞の同胞に移せば、ちょうど＜ソ連＞であった、しかも、同じ言葉を話す人々という対象をみているのだから、そういう人々にもそれほどの違和感はないのではないか。それとも、昔のことはスッカリ忘れることが出来る地のためだろうか？

フランス・古典主義

Şinasi
解説　１８２６－１８７１。最初の新聞家。

Ahmet Vefik Paşa
解説　１８２３－１８９１。

フランス・ロマン主義

Namık Kemal
解説　１８４０－１８８８。"Vatan şairle rimizin en büyüğü"と言われるよりに大詩人であったようだ。

Ahmet Mithat Efendi
解説　１８４４－１９１２。

Manastırlı Rifat
解説　１８５１－１９０７。劇作家

7．ヨーロッパのトルコ学
7．The European Turkology

筆者自身は<古代トルコ語>および<ハンガリー・トルコ接触>を基準にして考察してきたためか、オスマン文学は（アラビア語やペルシア語が分からないのだから）分からないが、上のような視点からは19世紀も案外接近できる。もう一点は、筆者にとっては、マルコ・ポーロ時代の東方交易から、また、16世紀からのヨーロッパとの接触問題である。ここには、ハンガリーとの関わりが問題となる。主に語彙問題が中心にしかなっていないのだが、文法や文体の問題に係わりたいと思っている。この分野は、まとまった記述がないから、絶好の対象だと確信している。そこで、最後にヨーロッパ人から見たオスマン世界に関する人名・書名を、カクック先生の資料に頼り示す。下線部分は池田の注で、この他のハンガリー側の記述については、池田の『ハンガリー語初期文献の研究』にある。

Hans Schiltberger

解説　トルコ・モンゴルにて捕虜となり旅行記あり。トルコ語とクリミア・タタール語での『主の祈り』があるり、かつてカクック先生からその話を聞いたことがある。1381－1440。

資料　ハンガリー語の資料に就いては該当個所を参照。

Gennadios Skolarios

生没　不明－1468

解説　コンスタンティノープルのギリシア司教。メフメド二世のためにキリスト教の資料を作成。Halasi Kun Tibor（KCsA. I. Erginzungsband. 1936）の研究がある。

Mühlbacher、Geogius de Hungaria

解説　既に述べた。1437年にトルコの捕虜となっている。1422頃－1502。

Arnold von Harff

解説　ドイツ騎士で、15世紀末にエルサレムに居た。

Bartholomaeus Georgievits

解説　クロアチア系ハンガリー人で、モハーチの戦いで捕虜となる。？1505－1566頃。

研究　ハザイの研究（*St. Slav. 20.* 1974）あり。

Murad tolmács

解説　通訳．？1509－1584頃。モハーチの戦de捕虜となる。。トルコ・アラビア・ペルシア・ラテン・クロアチアにも通じていたハンガリー人。ハンガリー語の初期文献の発掘で有名なFr. Babingerが1927年に著した *Literaturdenkmäler aus Ungarns Türkenzeit.* Berlin / Leipzigに見える。なお、バビンガーは、スレイマン大帝の研究等、オスマン史でも有名な学者で、近年アンカラより、その著作が出ている。

Hans Dernschwan

解説　ハンガリー商人。1550年代にコンスタンティノープルに行く。1494－1568。

研究　カクック女史の研究あり（AOH. 32. 1978）。

Ibrahim dragoman

解説　ポーランドの人。通訳として活躍。？－1571。

資料　BOMBACI, A. Una lettera turca in caratteri latini del dragomanno ottomano Ibrahim al veneziano Michele Membre (1567). *RO. XV (1939-1949).* 1949 : 129 - 44.

Balassa Bálint

解説　ハンガリーの詩人。ネーメトの研究あり（AOH. 2. 1952）。1554－1594。

参考　池田の『初期文献の研究』を参照。

Canto turco

解説　バチカンにあるギリシア文字での歌。今日のトルコの民謡にも見える。

ハンガリーの恋愛詩のイタリア語訳があり、がハンガリー語のテキストがないことと対照的。

Guillaume Postal

解説　フランスの学者で、ヨーロッパのトルコ学の開祖とでも言える人物。1520－1581。

Filippo Argenti

著作　*Regola del parlare turcho et vocabolario de nomi et verbi.* 1533.

解説　著者はフィレンツェ国のコンスタンティノープル大使の秘書。

Padre Pietro Ferraguto

著作　*Grammatica Turchesca*

解説　ナポリ写本。著者はチュニスにて投獄されていたイエスズ会士。1580－1656。

Hieronymus Megister

解説　トルコ語初の辞書を書いたドイツの人文主義者。1554－1619。

著作　*Institutiones linguae turcicae libri quator.* Leipzig, 1612.

M. Paszkowski

著作　*Dictionarz jezyka tureckiego.* Kraków. 1615.

Pietro della Valle

解説　イタリアの貴族、旅行家。1620年にトルコ文法を書く、写本あり。1586－1652。

André Du Ryer

解説　フランスの人で、トルコ・アラビア・ペルシアが非常に良く出来た。

Frangu i Bardhë（Franciscus Blanchus）

著作　*Dictionarium latino-epiroticum.* Roma. 1635.

解説　ラテン・アルバニア辞典だが、トルコの文例あり。

Giovanni Molino

著書　*Dictionario della Lingua Italiana-Turchesca sive Lexikon Italico-Turcicum et Turcico-Italicum cum brevi grammatica...latonis characteribus expressa.* Roma. 1641.

Francesco－Maria Maggio（Magius）

解説　グルジア・トルコ語に堪能。17世紀の半ばにローマからトルコ文法を出している。1612－1686。

研究　Kenessey Máriaの研究あり（1975）。

Bernardo da Parigi（Vernard de Paris）

著作　*Vocabularium Italico-Turcicum ex Gallico versum.* Romae. 1665.

Johann－Baptist Podesta（Giabattista Podesta）

解説　オートリア生まれで、ローマで勉強した。ウィーンよりの著作多し。

Nicolai Illésházy

著作　*Dictionarium turcico-latinum.* Viennae. 1668（写本）

研究　ネーメトの研究（BOH. 1979）あり。

Jakab Nagy de Harsány

解説　ブランデンブルク家の外交官でハンガリー系。ハンガリーの正書法でイスタンブルの言葉を記述している。1615－1677。

解説　ハザイの研究（BOH. XVII. 1973）あり。

Antonio Mascis

著作　*Vocaboraio toscano, e turchesco...* Florence. 1677.

Meninski（François de Mesgnien）

解説　ロタリングの人でローマで学び、ポーランドへ移る。ウィーンより多くの多くの対訳辞典を作成している良き外官であり、言語研究家であった。1623－1698。

17世紀以降

Silmeon Lehaci

解説　ポーランドのアルメニア作家。
Ö. Schützの研究あり。

Juraj Križanić

解説　クロアチアの詩人。
Hazaiの研究あり。

Jan Herbinius

解説　ストックホルムの人。

Adam Olearius

解説　アゼルバイジャンの資料を収集。

M. Martelini

解説　サラエボに写本あり。

Giuseppe Miselli

解説　ボローニャの人。

Jeremia Čelebi Kömürdžian

解説　アルメニアの著名作家。17世紀のイスタンブルの話し言葉の記述があり、当時の首都での諸民族の係わりを知ることができる。1637－1695。

資料　Ö. Schützの研究あり
SANJIAN, Avedis K. & TIETZE, Andreas. 1981. *Eremya Chelebi Kömürjian's Armeno-Turkish Poem "The Jewish Bride"*. Bp.

レッドハウス（Sir J. W. Redhouse）

解説　トルコ語の定番の辞典にはレッドハウス（1811－1892）の辞典である。独特のアラビア文字でも表記し、改良に改良を重ねてきて100年以上にもなる。語源（言語名のみ）も表示し定評がある。これも20世紀のおわりにはアラビア文字を使わない新版本がでている。

ピエール・ロティ（Pierre Loti）

解説　フランスの文豪、海軍士官、1850－1923。

作品　Aziyade（1879）。（各種訳本あり）。参考。作品　『お菊さん』。

この出版には平成10年度文部省科学研究費補助金を利用しました。
This monograph is published by the help of the Grant-in-Aid for Scientific Research (The Ministry of Education, Sciences, Sports and Culture, Japan).

研究種目　一般研究　基盤研究 (C) (2)
課題番号　08610531 (平成８・９・10年度)
課　　題　情報伝達の流れから見た19世紀北方ユーラシアにおける言語改革

トルコ語文献の研究　　A Study in the Turkic Philology
池田哲郎　平成11年　　T. IKEDA 1999

印　　刷　平成11年３月11日　　Printed : March 11th, 1999
発　　行　平成11年３月31日　　Published : March 31st, 1999

著者／住所：　　Author / Address :
池田哲郎　京都産業大学　教授　　Prof. Tetsuro IKEDA
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山　　845, Kyoto Sangyo University
京都産業大学845号　　Kamigamo, Kyoto-Kita
☎075−705−1796　　Japan 〒603-8555